



Japan. Endless Discovery.

令和3年度

「訪日外国人旅行者の関東周遊促進に係る移動特性分析事業」

報 告 書

令和4年3月

国土交通省 関東運輸局

[目 次]

1. 事業概要	1
1-1 事業の目的	1
1-2 事業対象地域	1
1-3 業務内容	2
2. 集計・分析	4
2-1 都県別における近隣都県からの訪日外国人流動数	4
2-2 都県間における年間流動量ランキング	35
2-3 各都県への国籍別・性別・年代別流動数及び総流動数	49
2-4 各都県への四半期別入込客数	62
2-5 その他（コロナ流行前後移動手段、消費動向、宿泊者数）	121
3. まとめ	143
4. 資料編	144
4-1 FF-DATA の集計について	144

1. 事業概要

1-1 事業の目的

新型コロナウイルス感染症収束後における訪日旅行の回復に向けた各施策を地域が効率的に取り組んでいくにあたって、各地域における訪日外国人旅行者の移動特性を正確に捉えることが重要となることから、（別表1）に掲げる登録観光地域づくり法人（広域連携 DMO、地域連携 DMO、地域 DMO 以下、「登録 DMO」という。）及び観光地域づくり候補法人（以下、「候補 DMO」という。）について既存統計データ分析を行うことにより、登録 DMO 及び候補 DMO が管轄している地域（都県単位）への移動手段・近隣県からの流動状況の情報をとりまとめた基礎データを作成し、「登録 DMO」及び「候補 DMO」の誘客・周遊促進に繋げることを目的とした。

1-2 事業対象地域

関東広域（1 都 10 県）を対象とした。具体的なエリアは下図の通りである。



1-3 業務内容

業務内容を以下に示す。

地域資源に関する調査・基礎データの収集及び整理

既存統計データを基に、DMO 法人等が管轄している地域（都県単位）における近隣県からの訪日外国人旅行者の移動特性等のデータを収集及び整理した。

（１） 既存統計データ

①国土交通省が実施している下記調査のエクセルデータ

- ・ 訪日外国人流動データ

(https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/sogoseisaku_soukou_fr_000023.html)

②JNTO が公表しているデータ

- ・ 月別・年別統計データ

(https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/index.html)

③観光庁が公表しているデータ

- ・ 訪日外国人消費動向調査

(<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/syouthityousa.html>)

- ・ 旅行・観光消費動向調査

(<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shouhidoukou.html>)

（２） 分析項目

①都県別における近隣都県からの訪日外国人流動数

- (i) 移動手段別
- (ii) 国籍別
- (iii) 総流動数

②都県間における年間流動量ランキング

- (i) 総流動量
- (ii) 国籍別

③各都県への国籍別・性別・年代別流動数及び総流動数

④各都県への四半期別入込客数

- (i) 総入込客数
- (ii) 国籍別

⑤その他

- (i) 新型コロナウイルス流行前後における国内旅行の移動手段についての変化
- (ii) 都県別の消費動向
- (iii) 都県別の宿泊客数

（３） 収集及び集計の対象期間

- ・ 平成31年1月～12月を基本期間とした。

- ただし、（２）④四半期別入込客数および⑤その他（ii）、（iii）については、経年変化を把握するため、平成２７年１月～令和元年１２月とした。
- （２）⑤（i）については、平成３１年１月～可能な限り最新のデータを反映することとした。

2. 集計・分析

2-1 都県別における近隣都県からの訪日外国人流動数

取得した既存データを用いて、集計分析を行った。出典・算出方法および集計結果について、以下に示す。

2-1-1 移動手段別

(1) 対象データ

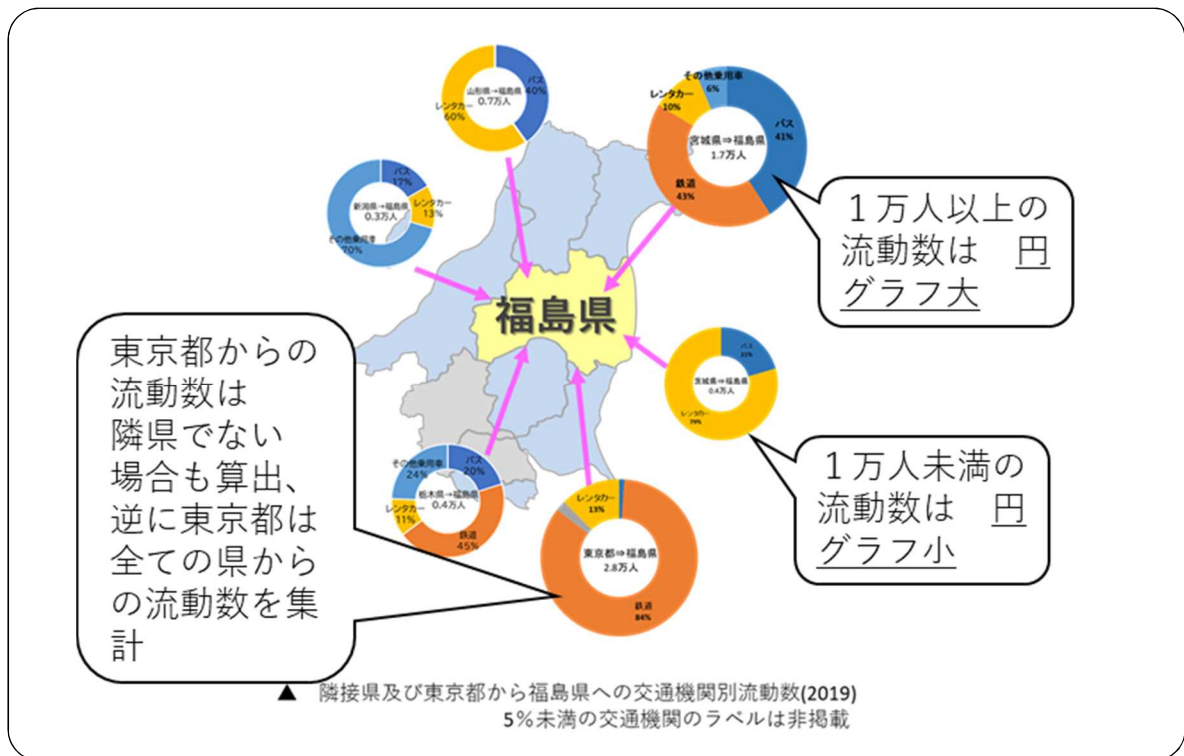
①出典

『FF-data』 都道府県間流動表（交通機関別）2019 年

②算出方法

- 都道府県間流動表（交通機関別）から、都県毎に隣接都県からの移動を抽出して交通手段毎の割合を集計した。
- 東京都は、関東広域の中でも重要な箇所であることから、隣接していない県においても東京からの流入数（交通機関別）も集計対象とした。
- 逆に東京都への流入数については、隣接していない県も含めた 10 県毎の流入数（交通機関別）を集計対象とした。

③集計結果の図について



▲図の読み方について

(2) 集計結果

関東広域 1 都 10 県毎の結果は次の通り。

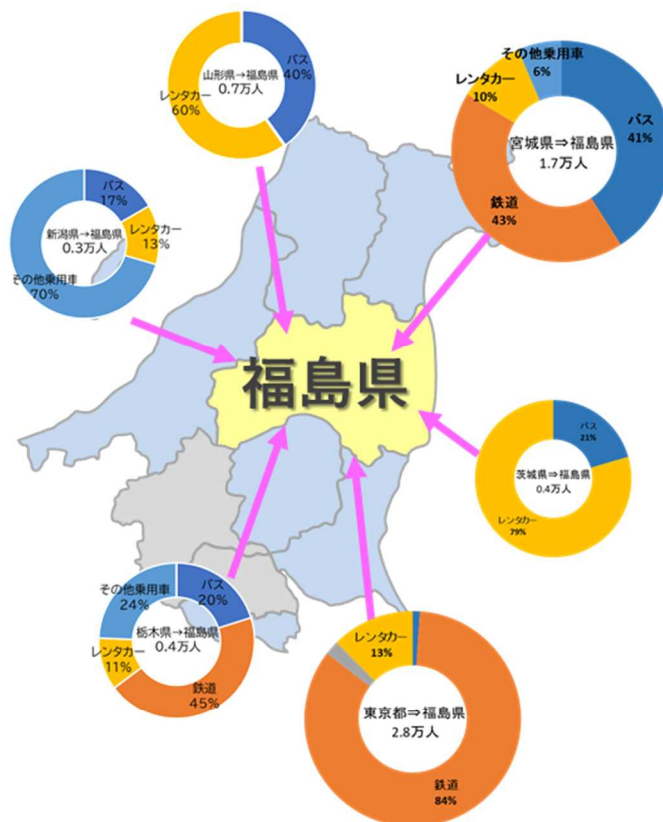
①福島県

【隣接県からの流動数】

- ・ 隣接県からの流動数のうち、最も多い県は宮城県(1.7 万人)であり、交通手段では鉄道(43%)とバス(41%)で全体の 8 割超を占める。次いで流動数の多い隣接県は山形県(0.7 万人)で、レンタカー(60%)とバス(40%)となった。

【東京都からの流動数】

- ・ 東京都からの流動数は、2.8 万人であり、利用交通手段別では鉄道が 84%と大きな割合を占めている。



▲ 隣接県及び東京都から福島県への交通機関別流動数(2019)

5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼ 隣接県及び東京都から福島県への交通機関別流動数(2019)

単位: 千人

	宮城県	山形県	茨城県	栃木県	東京都	新潟県	計
バス	7.0(6.5)	2.7	0.8(0.4)	0.8	0.3(0.2)	0.4	12.0(11.0)
鉄道	7.3(6.3)			1.8	23.8(18.3)		32.9(26.4)
タクシー・ハイヤー					0.6(0.3)		0.6(0.3)
レンタカー	1.7(1.5)	4.0	3.1(1.6)	0.4	3.5(2.7)	0.3	13.0(10.5)
その他乗用車	1.1(1)			1.0		1.8	3.9(3.8)
国内線飛行機							
その他不明							
計(行)	17.0(15.2)	6.7	3.9(2)	4.0	28.1(21.4)	2.5	62.4(41.5)

()内は空港からの流動数を除いた値

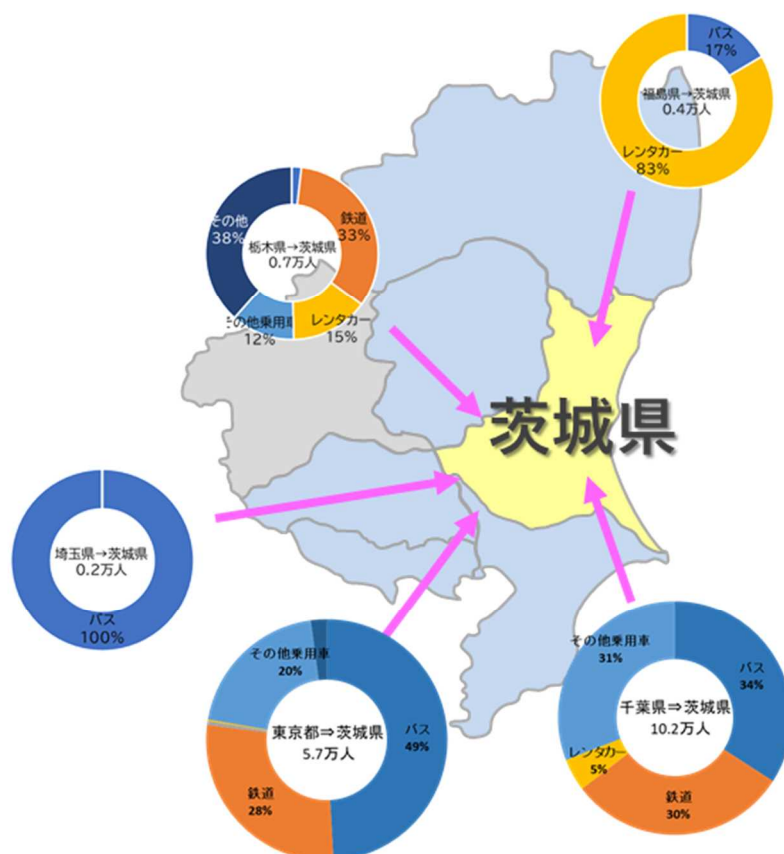
②茨城県

【隣接県からの流動数】

- ・隣接県からの流動数のうち、最も多い県は千葉県(10.2 万人)で、交通手段ではバス(34%)・鉄道(30%)・その他乗用車(31%)と各交通手段が均衡している。次いで多い隣接県は栃木県(0.7 万人)で、その他(38%)について鉄道が(33%)が多い。

【東京都からの流動数】

- ・東京都からの流動数は、5.7 万人であり、利用交通手段別ではバスが 49%と半数を占める。



▲ 隣接県及び東京都から茨城県への交通機関別流動数(2019)

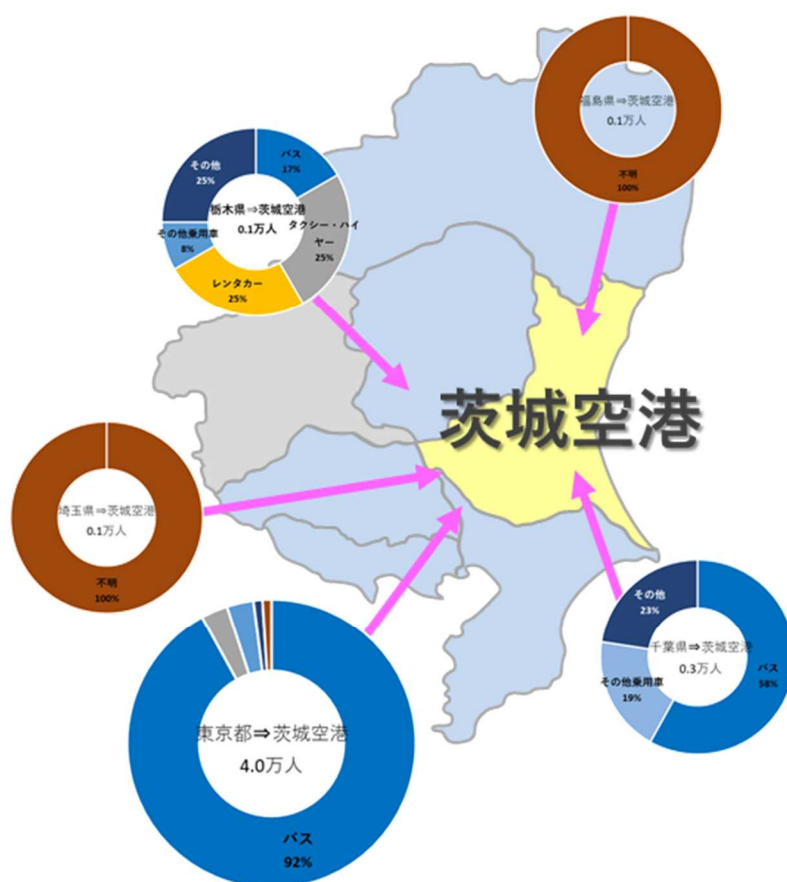
5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼ 隣接県及び東京都から茨城県への交通機関別流動数(2019)

	福島県	栃木県	埼玉県	千葉県	東京都	計
バス	0.7	0.1	2.0	34.8(3.4)	28.0(20.6)	65.6(26.8)
鉄道		2.3		31.1(3.2)	15.9(11.9)	49.3(17.4)
タクシー・ハイヤー				4.6(0.4)	0.3(0.2)	4.9(0.6)
レンタカー	3.6	1.0		31.5(3.2)	0.1(0.1)	36.2(7.9)
その他乗用車		0.8			11.5(8.6)	12.3(9.4)
国内線飛行機						
その他		2.7			1.2(0.9)	3.9(3.6)
不明						
計(行)	4.4	7.1	2.0	102(10.2)	56.9(42.3)	172.2(65.7)

()内は空港からの流動数を除いた値

【茨城空港への隣県からの流動数】



▲ 隣接県及び東京都から茨城県への交通機関別流動数(2019)
5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼隣接県及び東京都から茨城空港への交通機関別流動数(2019)

単位:千人

	福島県	栃木県	埼玉県	千葉県	東京都	計
バス		0.2		1.8	36.8	38.8
鉄道						
タクシー・ハイヤー		0.3			1.2	1.5
レンタカー		0.3				0.3
その他乗用車		0.1		0.6	1.2	1.9
国内線飛行機						
その他		0.3		0.7	0.4	1.4
不明	1.2		1.2		0.4	2.8
計(行)	1.2	1.3	1.2	3.1	40.1	46.9

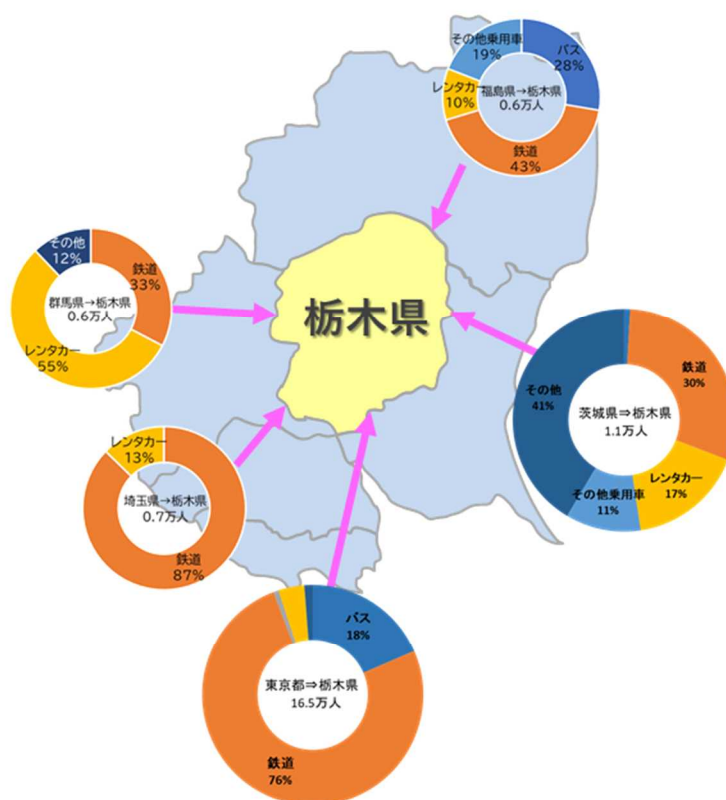
③栃木県

【隣接県からの流動数】

- ・ 隣接県からの流動数のうち、最も多い県は茨城県(1.1 万人) で、交通手段別では、その他(41%)に次いで鉄道(30%)が大きな割合を占める。次いで流動数が多い隣接県は、埼玉県(0.7 万人)で、交通手段では鉄道(87%)が大きな割合を占めている。

【東京都からの流動数】

- ・ 東京都からの流動数は、16.5 万人であり、利用交通手段別では鉄道が 76%と大きな割合を占める。



▲ 隣接県及び東京都から栃木県への交通機関別流動数(2019)

5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼ 隣接県及び東京都から栃木県への交通機関別流動数(2019)

単位:千人

	福島県	茨城県	群馬県	埼玉県	東京都	計
バス	1.7	0.1(0.1)			30.6(26.8)	32.4(28.6)
鉄道	2.6	3.4(3.3)	1.8	6.2	125(110.2)	139.0(124.1)
タクシー・ハイヤー					1.3(1.1)	1.3(1.1)
レンタカー	0.7	1.9(1.8)	3.0	0.9	6.3(5.5)	12.8(11.9)
その他乗用車	1.2	1.2(1.2)				2.4(2.4)
国内線飛行機						
その他		4.7(4.5)	0.7		2.0(1.8)	7.4(7)
不明						
計(行)	6.2	11.4(10.9)	5.5	7.1	165.3(145.4)	195.3(175.1)

()内は空港からの流動数を除いた値

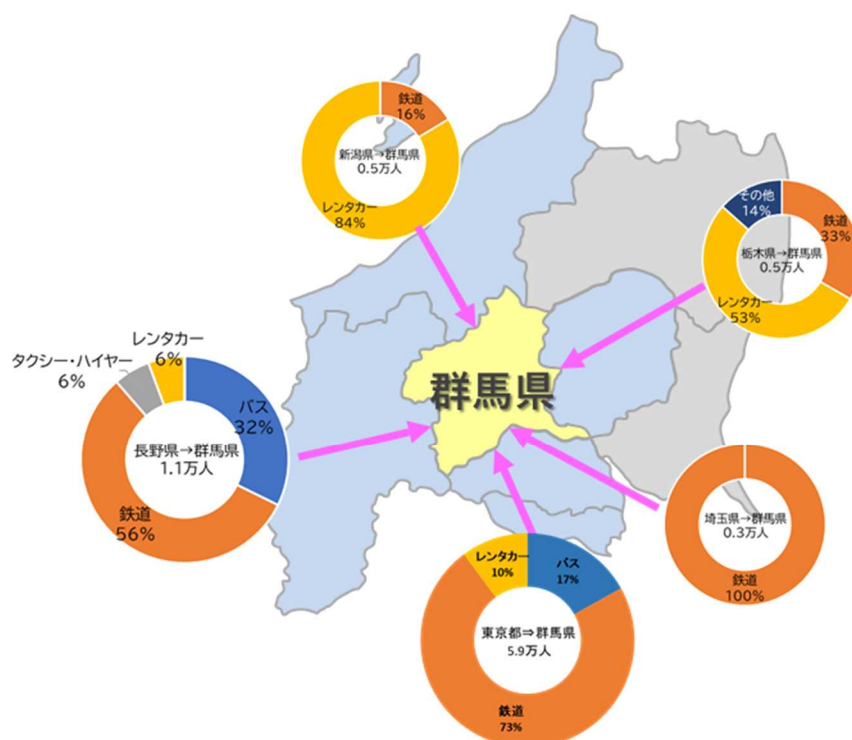
④群馬県

【隣接県からの流動数】

- ・ 隣接県からの流動数のうち、最も多い県は長野県（1.1 万人）で、交通手段は鉄道（56%）が最も多く、次いでバス(32%)となり、全体の 9 割弱を占める。次いで流動数が多い隣接県は、栃木県と新潟県で、ともに 0.5 万人となった。

【東京都からの流動数】

- ・ 東京都からの流動数は、5.9 万人であり、利用交通手段別では鉄道が 73%と大きな割合を占める。



▲ 隣接県及び東京都から群馬県への交通機関別流動数(2019)

5 %未満の交通機関のラベルは非掲載

▼ 隣接県及び東京都から群馬県への交通機関別流動数(2019)

単位:千人

	栃木県	埼玉県	東京都	新潟県	長野県	計
バス			10.0(8.1)		3.7	13.7(11.8)
鉄道	1.8	2.8	43.1(35)	0.7	6.4	48.4(46.7)
タクシー・ハイヤー					0.7	0.7
レンタカー	2.8		6.0(4.9)	3.7	0.6	13.1(12.1)
その他乗用車						
国内線飛行機						
その他						
不明						
計(行)	5.3	2.8	59.1(48)	4.5	11.4	75.9(71.9)

()内は空港からの流動数を除いた値

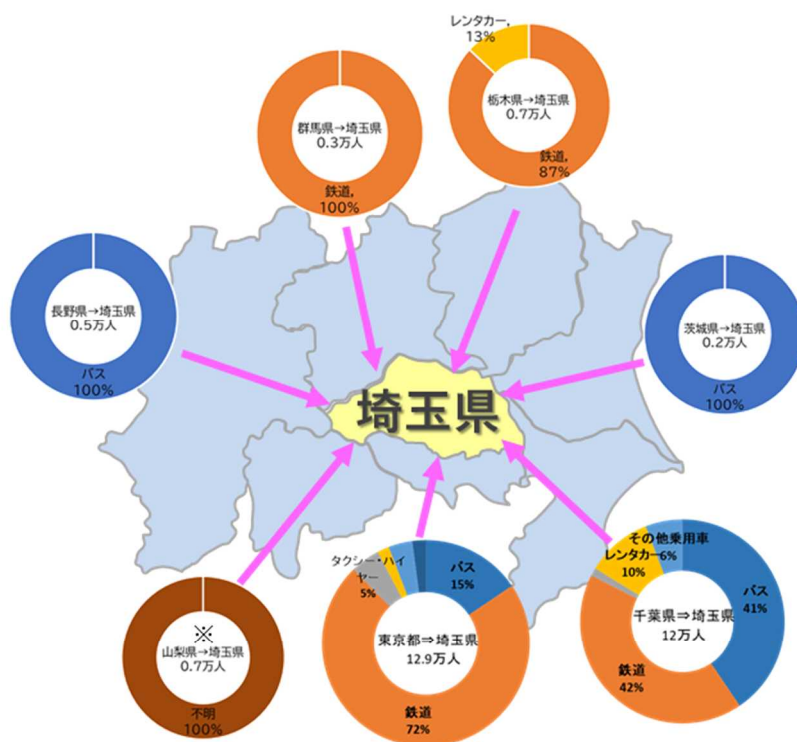
⑤埼玉県

【隣接県からの流動数】

- ・東京都を除く隣接県からの流動数のうち、最も多い県は千葉県（12万人）、交通手段では鉄道(42%)とバス(41%)が全体の8割超を占める。次いで流動数が多い隣接県は栃木県（0.7万人）で、鉄道(87%)が大きな割合を占める。

【東京都からの流動数】

- ・東京都からの流動数は、12.9万人であり、利用交通手段別では鉄道が72%と大きな割合を占める。



▲ 隣接県（都）から埼玉県への交通機関別流動数(2019)

5%未満の交通機関のラベルは非掲載

※山梨県からの流動数の交通機関別は過年度調査でも「不明」の割合が100%を占めている

▼ 隣接県（都）から埼玉県への交通機関別流動数(2019)

	茨城県	栃木県	群馬県	千葉県	東京都	山梨県	長野県	単位: 千人 計
バス	1.6			48.6(4.5)	20.1(12.9)		5.4	75.7(24.3)
鉄道		5.8	2.9	50.3(4.8)	93.2(61.7)			152.2(75.2)
タクシー・ハイヤー				1.5(0.4)	5.9(3.9)			7.4(4.3)
レンタカー		0.9		12.5(1.1)	2.4(1.5)			15.8(3.5)
その他乗用車				7.0(0.6)	4.8(3.2)			11.8(3.8)
国内線飛行機								
その他					2.7(1.9)			2.7(1.9)
不明						6.7		6.7
計(行)	1.6	6.6	2.9	119.8(11.4)	129.2(85.1)	6.7	5.4	272.3(119.6)

()内は空港からの流動数を除いた値

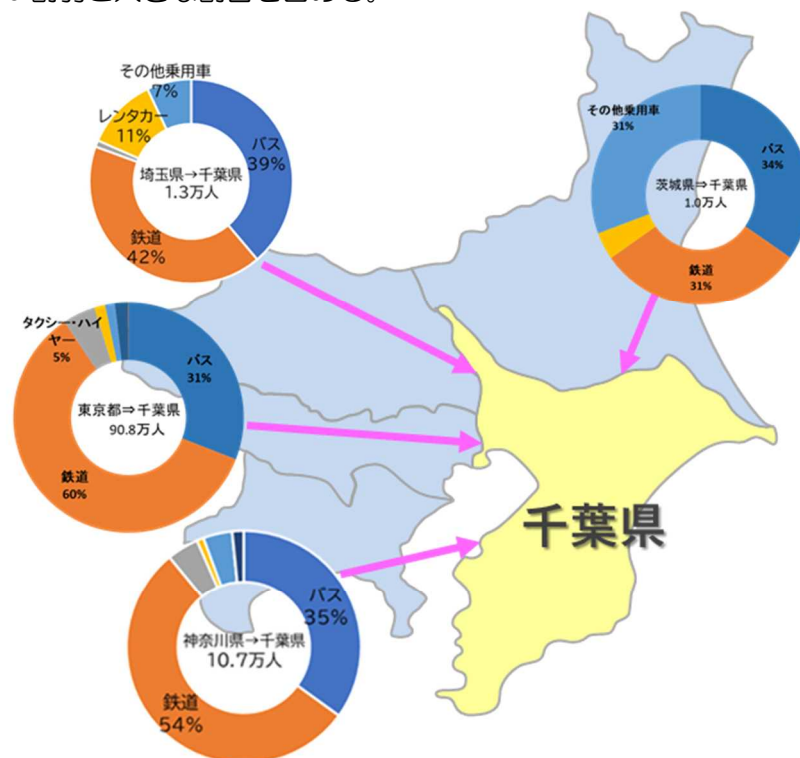
⑥千葉県

【隣接県からの流動数】

- ・東京都を除く隣接県からの流動数のうち、最も多い県は神奈川県（10.7 万人）、交通手段では鉄道(54%)とバス(35%)が全体の 9 割弱を占める。次いで流動数が多い隣接県は埼玉県（1.3 万人）で、鉄道(42%)とバス(39%)が大きな割合を占める。

【東京都からの流動数】

- ・東京都からの流動数は、90.8 万人であり、利用交通手段別では鉄道(60%)とバス(31%)が全体の 9 割弱と大きな割合を占める。



▲ 隣接県（都）から千葉県への交通機関別流動数(2019)

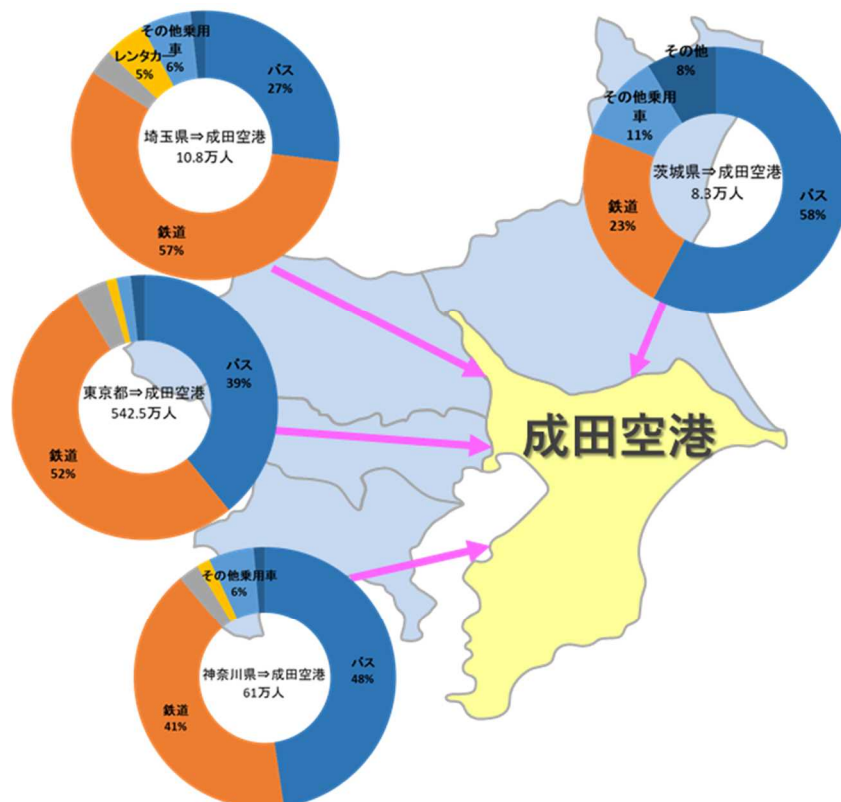
5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼ 隣接県（都）から千葉県への交通機関別流動数(2019)

	茨城県	埼玉県	東京都	神奈川県	計
バス	3.5(3.3)	4.9	280.7(260.7)	37.5	326.6(306.4)
鉄道	3.1(3)	5.3	542(502.6)	58.0	608.4(568.9)
タクシー・ハイヤー		0.1	41.6(38.1)	4.7	46.4(42.9)
レンタカー	0.4(0.4)	1.4	14.1(13.1)	1	16.9(16)
その他乗用車	3.1(3)	0.9	12.4(11.5)	4.3	20.7(19.7)
国内線飛行機					
その他			16.6(15.2)	1.7	18.3(16.9)
不明			0.7(0)		
計(行)	10.1(9.8)	12.7	908.1(841.2)	107.1	1037.3(970.8)

()内は空港からの流動数を除いた値

【成田空港への隣県からの流動数】



▲ 隣接県（都）から成田空港への交通機関別流動数(2019)

5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼隣接県及び東京都から成田空港への交通機関別流動数(2019)

単位:千人

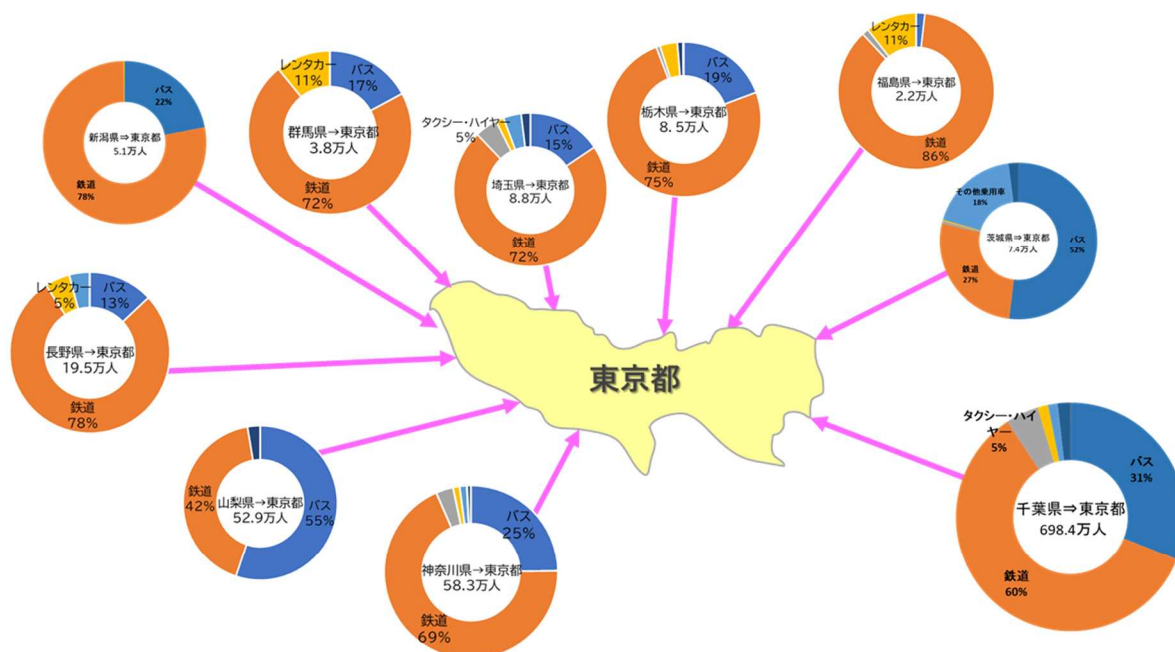
	茨城県	埼玉県	東京都	神奈川県	計
バス	48.1	29.0	2121.8	290.9	2489.8
鉄道	19.1	61.4	2837.1	250.9	3168.5
タクシー・ハイヤー		3.3	210.5	15.6	229.4
レンタカー		5.4	68.3	10.4	84.1
その他乗用車	8.9	6.5	94.4	34	143.8
国内線飛行機					
その他	7.1	1.9	93.2	8.4	110.6
不明					
計(行)	83.3	107.5	5425.3	610.3	6226.4

()内は空港からの流動数を除いた値

⑦東京都

【10 県からの流動数】

- 東京都へ流動数が最も多い県は、千葉県(698.4 万人)で、交通手段では鉄道(60%)とバス(31%)が全体の 9 割超を占める。次いで流動数が多い県は神奈川県 (58.3 万人) で、鉄道(69%)とバス(25%)が大きな割合を占める。



▲ 隣接県から東京都への交通機関別流動数(2019)

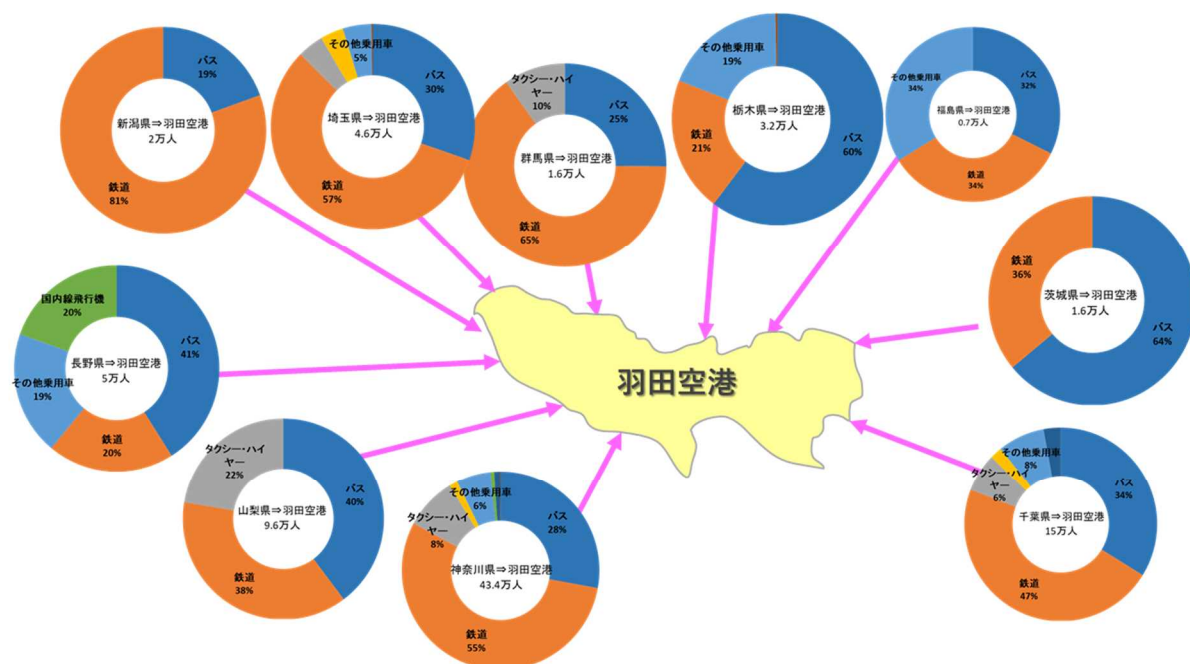
5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼ 関東広域10県から東京都への交通機関別流動数(2019)

	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	計
バス	0.4	38.4(23.5)	16.5	6.5	13.7	2166.3(171.3)	144.7	11.3(11)	291.3	25.4	2714.5(704.3)
鉄道	18.6	19.8(14.3)	64.0	27.4	63.4	4168.8(319.6)	400.0	40.1(39.1)	223.2	151.2	5176.5(1320.8)
タクシー・ハイヤー	0.3	0.4(0.2)	0.7		4.2	323.5(24.7)	18.8				385.7(48.8)
レンタカー	2.3	0.2(0.1)	3.1	4.1	1.5	105.5(8.5)	7.2	0.1(0.1)		9.9	133.9(36.7)
その他乗用車		13.7(9.9)			3.3	94.6(7.2)	7.8			7.9	127.3(36.1)
国内線飛行機							0.3				0.3(0.3)
その他		1.5(0.9)	1.0		1.7	123.7(9.2)	4		14.0		145.9(30.7)
不明			0.1				0.1			0.1	0.4(0.4)
計(行)	21.6	74.0(48.9)	85.4	38.1	87.8	6984.2(540.4)	582.9	51.4(50.1)	528.5	194.5	8684.5(2178.1)

()内は空港からの流動数を除いた値

【羽田空港への1都10県からの流動数】



▲ 隣接県から羽田空港への交通機関別流動数(2019)

▼ 関東広域10県から羽田空港への交通機関別流動数(2019)

▼隣接県及び東京都から羽田空港への交通機関別流動数(2019)

単位:千人

	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	神奈川県	新潟県	山梨県	長野県	計
バス	2.2	10.3	19.3	4.1	14	50.8	120.9	3.8	38	20.5	283.9
鉄道	2.3	5.8	6.6	10.6	26.4	70.5	238.5	15.7	36.2	10.0	422.6
タクシー・ハイヤー				1.6	1.9	9.7	37.1		21.4		71.7
レンタカー					1.7	3.1	5.9				10.7
その他乗用車	2.3		6.0		2.1	11.8	24.3			9.7	56.2
国内線飛行機							2.7			9.8	12.5
その他						4.3	4.1				8.4
不明			0.1		0.1		0.4				0.6
計(行)	6.8	16.1	32.0	16.3	46.3	150.2	433.8	19.5	95.6	50.0	866.6

※ 国内線飛行機に関しては、アンケート調査の拡大推計による影響が考えられる

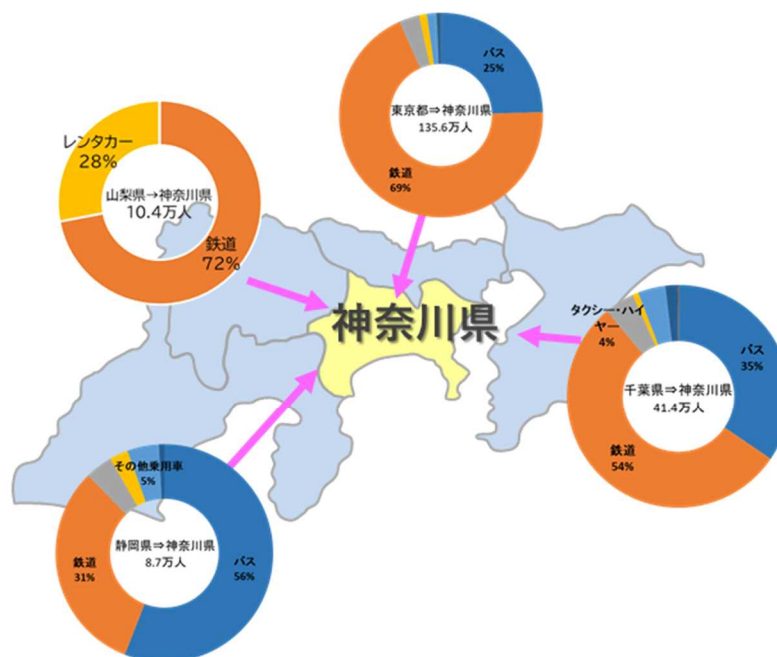
⑧神奈川県

【隣接県からの流動数】

- 東京都を除く隣接県からの流動数のうち、最も多い県は千葉県（41.4 万人）、交通手段では鉄道(54%)が大きな割合を占める。次いで流動数が多い隣接県は山梨県（10.4 万人）で、鉄道(72%)が大きな割合を占める。

【東京都からの流動数】

- 東京都からの流動数は、135.6 万人であり、利用交通手段別では鉄道(69%)とバス(25%)が全体の 9 割超と大きな割合を占める。



▲ 隣接県（都）から神奈川県への交通機関別流動数(2019)

5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼ 隣接県（都）から神奈川県への交通機関別流動数(2019)

単位:千人

	千葉県	東京都	山梨県	静岡県	計
バス	143.0(27.4)	332.7(251.5)		48.0	523.7(326.8)
鉄道	225.5(42.8)	932.5(707.7)	74.6	27.2	1259.8(852.3)
タクシー・ハイヤー	18.0(4.0)	43.2(32.0)		3.5	64.7(39.5)
レンタカー	3.5(0.8)	17.3(13.0)	29.0	2.4	52.2(45.1)
その他乗用車	16.6(3.1)	19.7(14.2)		4	40.3(21.2)
国内線飛行機		0.5(0.4)			0.5(0.4)
その他	7.3(1.3)	9.1(6.7)		0.7	17.1(8.7)
不明	0.5(0.2)	0.5(0.4)			1.0(0.6)
計(行)	414.3(79.5)	1355.6(1025.9)	103.6	85.8	1959.3(1294.4)

()内は空港からの流動数を除いた値

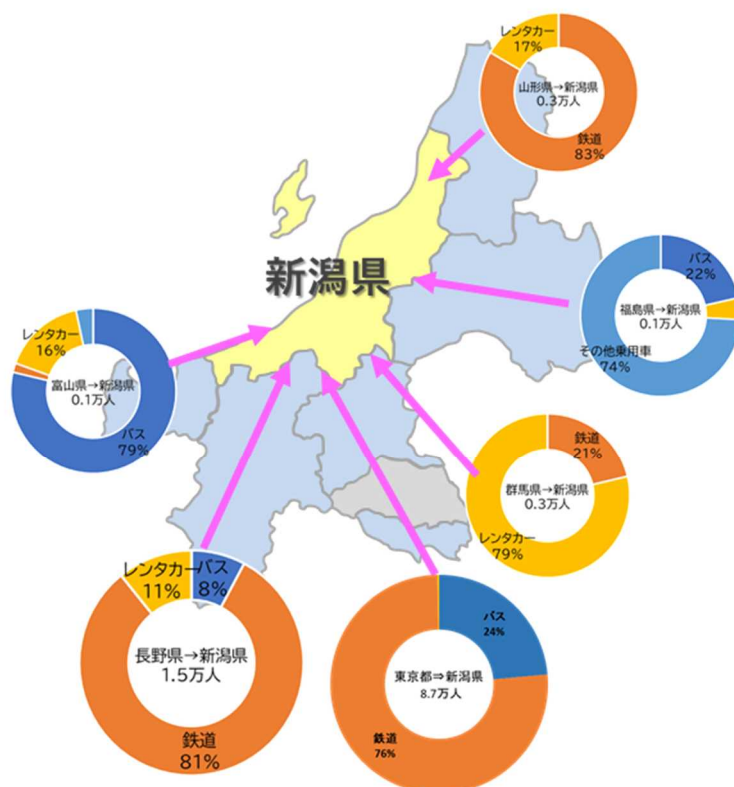
⑨新潟県

【隣接県からの流動数】

- ・隣接県からの流動数のうち、最も多い県は長野県（1.5 万人）で、交通手段別では鉄道（81%）が大きな割合を占める。次いで流動数が多い隣接県では山形県（0.3 万人）と群馬県（0.3 万人）が続く。

【東京都からの流動数】

- ・東京都からの流動数は、8.7 万人であり、交通手段別では鉄道が 76%と大きな割合を占める。



▲ 隣接県及び東京都から新潟県への交通機関別流動数(2019)

5%未満の交通機関のラベルは非掲載

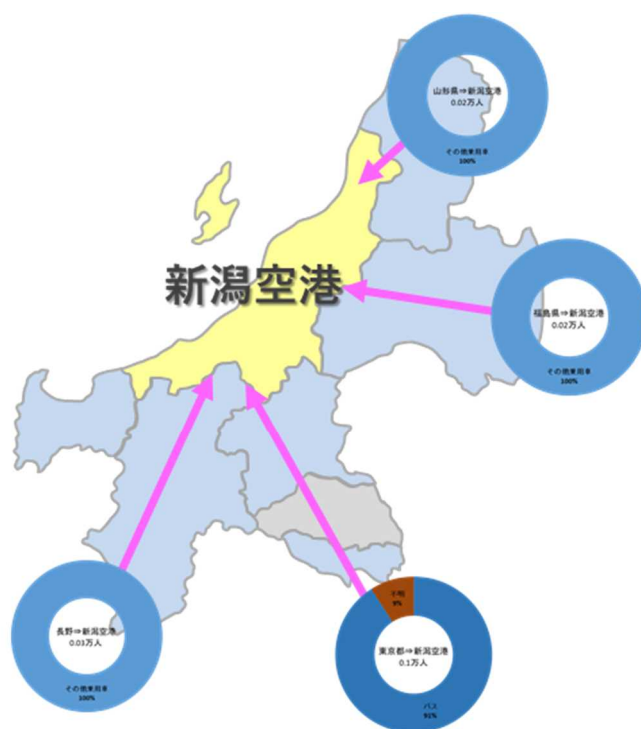
▼ 隣接県及び東京都から新潟県への交通機関別流動数(2019)

単位：千人

	山形県	福島県	群馬県	東京都	富山県	長野県	計
バス		0.3		20.4(17.6)	0.7	1.1	22.5(19.7)
鉄道	2.5		0.7	65.9(55.5)		11.8	80.9(70.6)
タクシー・ハイヤー							
レンタカー	0.5	0.1	2.7	0.2(0.2)	0.2	1.6	5.2(5.2)
その他乗用車		0.9					0.9(0.9)
国内線飛行機							
その他							
不明							
計(行)	3	1.2	3.4	86.6(73.3)	0.9	14.5	109.5(96.4)

()内は空港からの流動数を除いた値

【新潟空港への1都10県からの流動数】



▲ 隣接県及び東京都から新潟空港への交通機関別流動数(2019)
5%未満の交通機関のラベルは非掲載

▼隣接県及び東京都から新潟空港への交通機関別流動数(2019)

単位:千人

	山形県	福島県	東京都	長野県	計
バス			1.0		1.0
鉄道					0
タクシー・ハイヤー					0
レンタカー					0
その他乗用車	0.2	0.2		0.3	0.7
国内線飛行機					
その他					
不明			0.1		0.1
計(行)	0.2	0.2	1.2	0.3	1.9

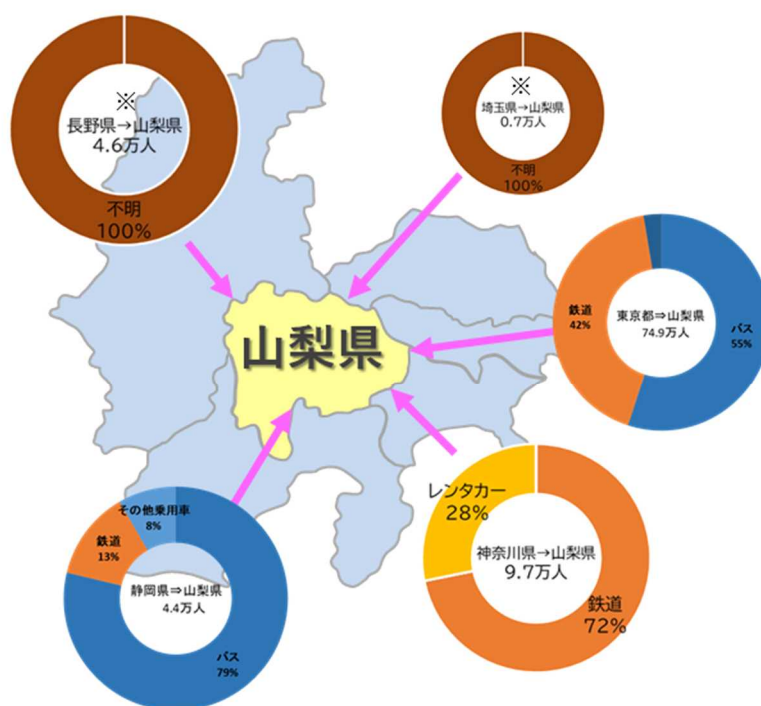
⑩山梨県

【隣接県からの流動数】

- 東京都を除く隣接県からの流動数のうち、最も多い県は神奈川県（9.7万人）、交通手段では鉄道(72%)が大きな割合を占める。次いで流動数が多い隣接県は長野県（4.6万人）※交通手段の調査結果は不明。

【東京都からの流動数】

- 東京都からの流動数は、74.9万人であり、利用交通手段別ではバス(55%)と鉄道(42%)が全体の9割超と大きな割合を占める。



▲ 隣接県（都）から山梨県への交通機関別流動数(2019)

5%未満の交通機関のラベルは非掲載

※長野県→山梨県は推計の元となった調査サンプルの影響で、異常値となっていると推測される。参考として2018年の値では、鉄道3.22万人となっている（鉄道以外の交通手段は値なし）。

※山梨県からの流動数の交通機関別は過年度調査でも「不明」の割合が100%を占めている

▼ 隣接県（都）から山梨県への交通機関別流動数(2019)

単位:千人

	埼玉県	東京都	神奈川県	長野県	静岡県	計
バス		411.6(396.4)			34.8(34.2)	446.4(430.6)
鉄道		317.3(305.6)	69.5		5.7(5.6)	392.5(380.8)
タクシー・ハイヤー						
レンタカー			27.3			27.3(27.3)
その他乗用車					3.7(3.6)	3.7(3.6)
国内線飛行機						
その他		19.8(19.1)				19.8(19.1)
不明	7.0			45.8		52.7(52.7)
計(行)	7.0	748.7(721.2)	96.8	45.8	44.1(43.4)	942.4(914.1)

()内は空港からの流動数を除いた値

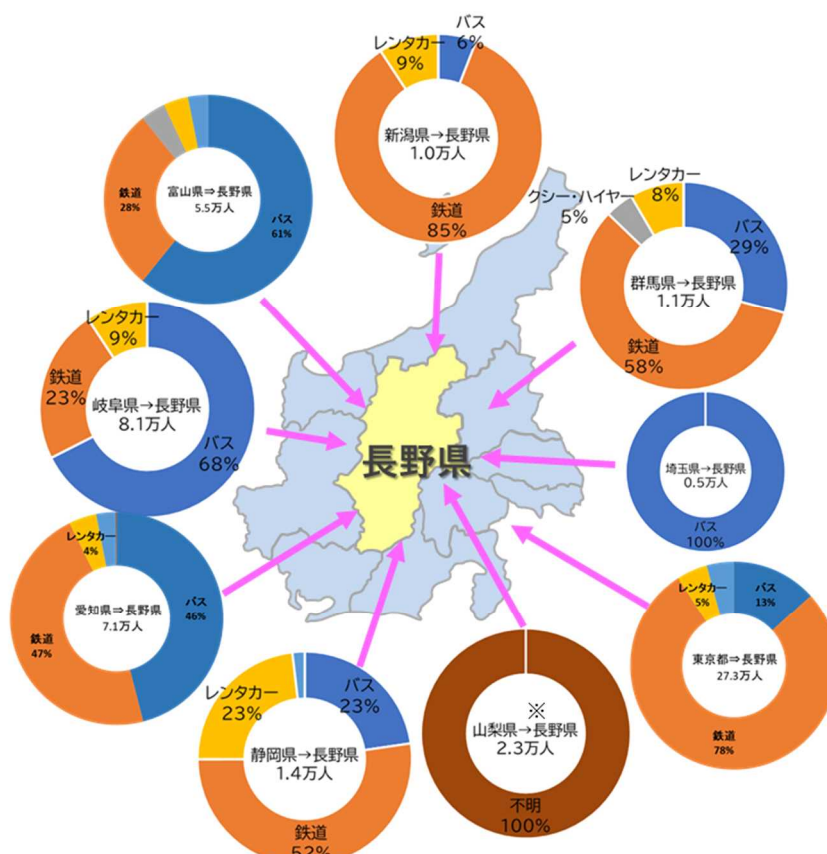
⑪長野県

【隣接県からの流動数】

- ・隣接県からの流動数のうち、最も多い県は岐阜県（8.1万人）、交通手段ではバス（68%）が大きな割合を占める。次いで流動数が多い隣接県は富山県（5.5万人）で、バス（61%）と鉄道（28%）が大きな割合を占める。

【東京都からの流動数】

- ・東京都からの流動数は、27.3万人であり、利用交通手段別では鉄道（78%）が大きな割合を占める。



▲ 隣接県及び東京都から長野県への交通機関別流動数(2019)
5%未満の交通機関のラベルは非掲載

※山梨県→長野県は推計の元となった調査サンプルの影響で、異常値となっていると推測される。参考として2018年の値では、鉄道2.53万人となっている（鉄道以外の交通手段は値なし）。

▼ 隣接県及び東京都から長野県への交通機関別流動数(2019)

	群馬県	埼玉県	東京都	新潟県	富山県	山梨県	岐阜県	静岡県	愛知県	計
バス	3.1	5.1	36.2(30.7)	0.6	33.5(33.2)		54.9	3.3	32.7(16.1)	169.4(146.8)
鉄道	6.2		211.9(177.4)	8	15.6(15.3)		18.8	7.5	33.2(16.1)	301.2(249.3)
タクシー・ハイヤー	0.5				2.1					2.6
レンタカー	0.9		13.1(11)	0.9	2.1		7.6	3.3	3(1.6)	30.9(27.3)
その他乗用車			11.6(9.7)		1.7			0.3	2.1(0.9)	15.7(12.6)
国内線飛行機										
その他										
不明						23.0			0.1(0)	23.1(23.0)
計(行)	10.7	5.1	272.8(228.8)	9.5	55(54.4)	23.0	81.2	14.3	71.1(34.6)	542.9(461.6)

()内は空港からの流動数を除いた値

2-1-2 国籍別

(1) 対象データ

①出典

『FF-data』 都道府県間流動表（国籍別） 2019 年

【参考】

【2019 年の訪日外国人旅行者数トピックス】

日韓関係の冷え込みを背景に韓国からの訪日客数が 18 年に比べ 25.9%減の 558 万 4600 人と大幅に減少した。

韓国以外の国・地域からの訪日客数は堅調だった。

（出典：日経新聞 2020 年 1 月 17 日より）

②算出方法

- FF-data の出発空港および目的地間の発空港を所在の県に置き換えた。
- 分析対象都県毎に隣接都県からの移動とその交通手段を集計した。
- 東京都は、関東広域の中でも重要な箇所であることから、隣接していない県においても東京からの流入数（国籍別）も集計対象とした。
- 逆に東京都への流入数については、隣接していない県も含めた 10 県毎の流入数（国籍別）を集計対象とした。

【複数国籍について】

ASEAN：タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、
ベトナム

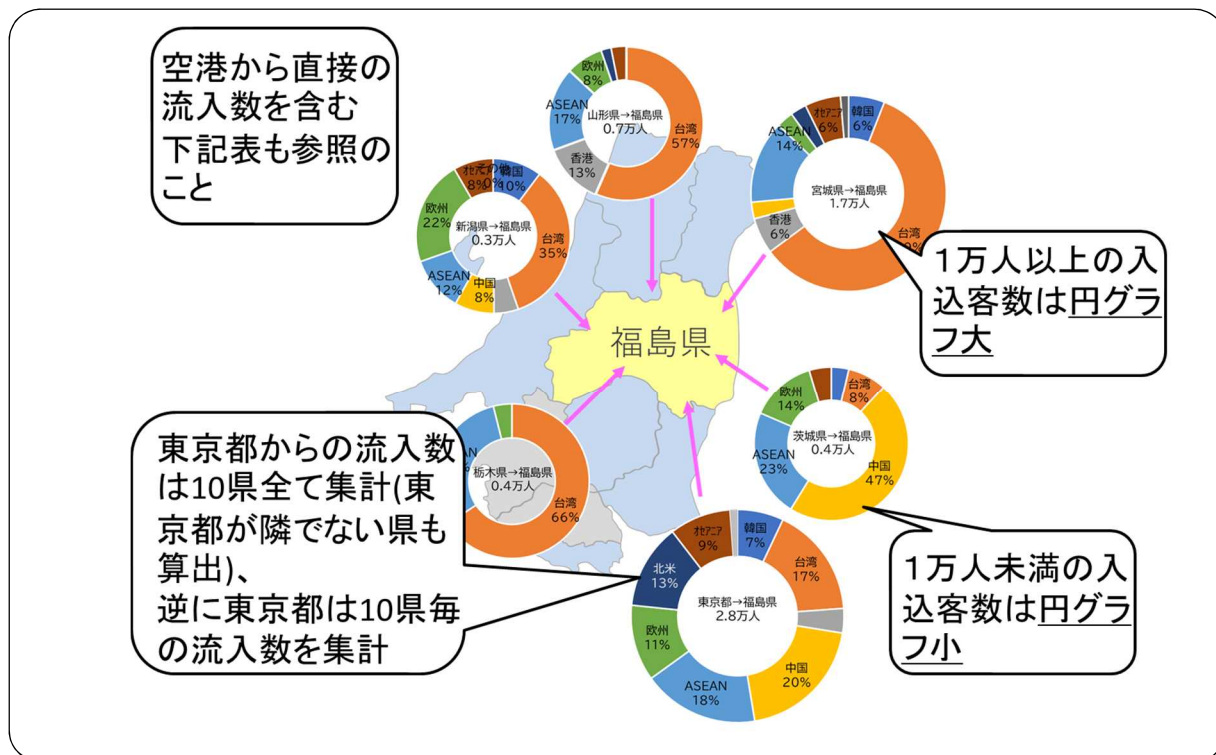
欧 州：英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、ロシア、その他欧州

北 米：米国、カナダ、その他北アメリカ

オセアニア：オーストラリア、その他オセアニア

その他：南米、西南アジア等

③集計結果の図について



▲図の読み方について

隣県（隣都県）からの流入数として集計した値は以下のケースです。※例は茨城県

- ①隣県（隣都県）から当該都県への流入
例 福島県・栃木県・埼玉県・千葉県・東京都⇒茨城県
- ②隣県（隣都県）の空港から当該都県への流入
例 成田空港（千葉県）、羽田空港（東京都）⇒茨城県
- ③※国際路線を持つ空港がある都県のみ
隣県（隣都県）から当該都県にある空港への流入
例 福島県・栃木県・埼玉県・千葉県・東京都⇒茨城空港

空港がないまたは国際路線が就航していない空港のみの場合（上記①+②）

福島県

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	オセアニア	その他	合計(行)
宮城県	1.0	10.0	1.0	0.5	2.3	0.5	0.5	1.0	0.2	17.0
山形県	0.0	3.8	0.9	0.0	1.2	0.5	0.1	0.2	0.0	6.7
茨城県	0.1	0.3	0.0	1.8	0.9	0.5	0.0	0.2	0.0	3.9
栃木県	0.0	2.6	0.0	0.0	1.2	0.5	0.0	0.0	0.0	4.0
東京都	2.0	4.7	1.0	5.6	5.0	0.3	0.3	0.3	0.3	28.1
新潟県	0.3	0.9	0.1	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5
計(列)	3.4	22.3	3.0	8.1	10.8	5.5	4.2	4.2	0.5	62.2

単位：千人

表内の数値の単位は千人

1万人以上のセルは赤塗りつぶし

国際路線が就航している空港がある場合（上記①+②+③）

茨城県

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	オセアニア	その他	合計(行)
	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着
福島県	0.1	(0.0)	1.7	(0.0)	0.9	(0.0)	0.5	(0.0)	0.1	(0.0)
栃木県	0.3	(0.0)	3.6	(0.0)	1.2	(0.0)	0.5	(0.0)	0.9	(0.0)
埼玉県	0.4	(0.0)	0.2	(0.0)	0.9	(0.0)	0.5	(0.0)	0.0	(0.0)
千葉県	11.5	(0.4)	13.5	(0.2)	6.5	(0.0)	17.7	(2.5)	32.6	(0.0)
東京都	9.6	(5.2)	9.2	(3.2)	4.2	(0.0)	41.6	(31.7)	15.1	(0.0)
計(列)	21.9	(5.9)	28.3	(3.7)	11.3	(0.0)	64.2	(37.3)	50.7	(0.0)

単位：千人

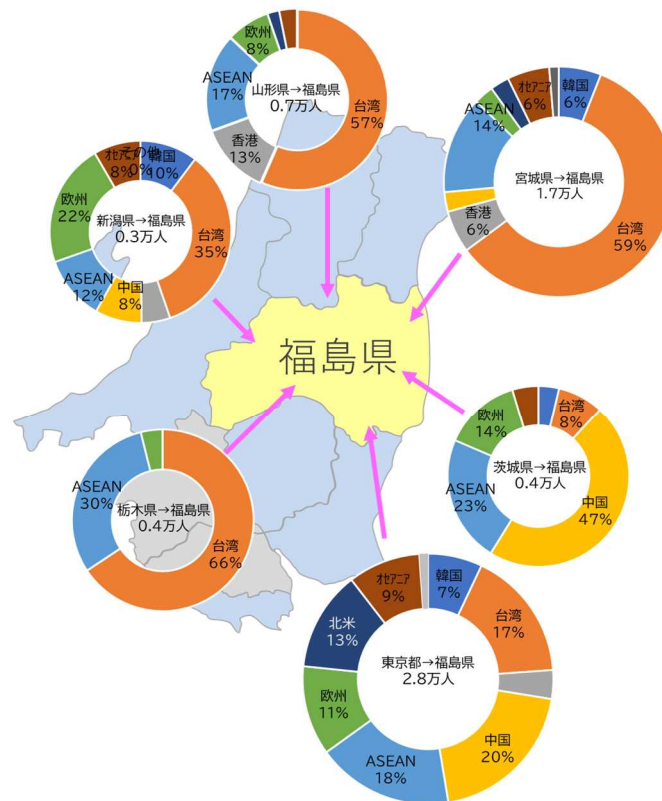
国際線空港を持つ県の表は空港目的での流入と区別ができるよう、
空港が着地の移動であったケースを内訳として各国籍毎に表示

▲表の読み方について

(2) 集計結果

①福島県

- ・隣接県からの福島県訪問者は、台湾、ASEAN 国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、宮城県。
- ・東京都からの福島県訪問者は、中国、ASEAN、台湾国籍の旅行者が多い。

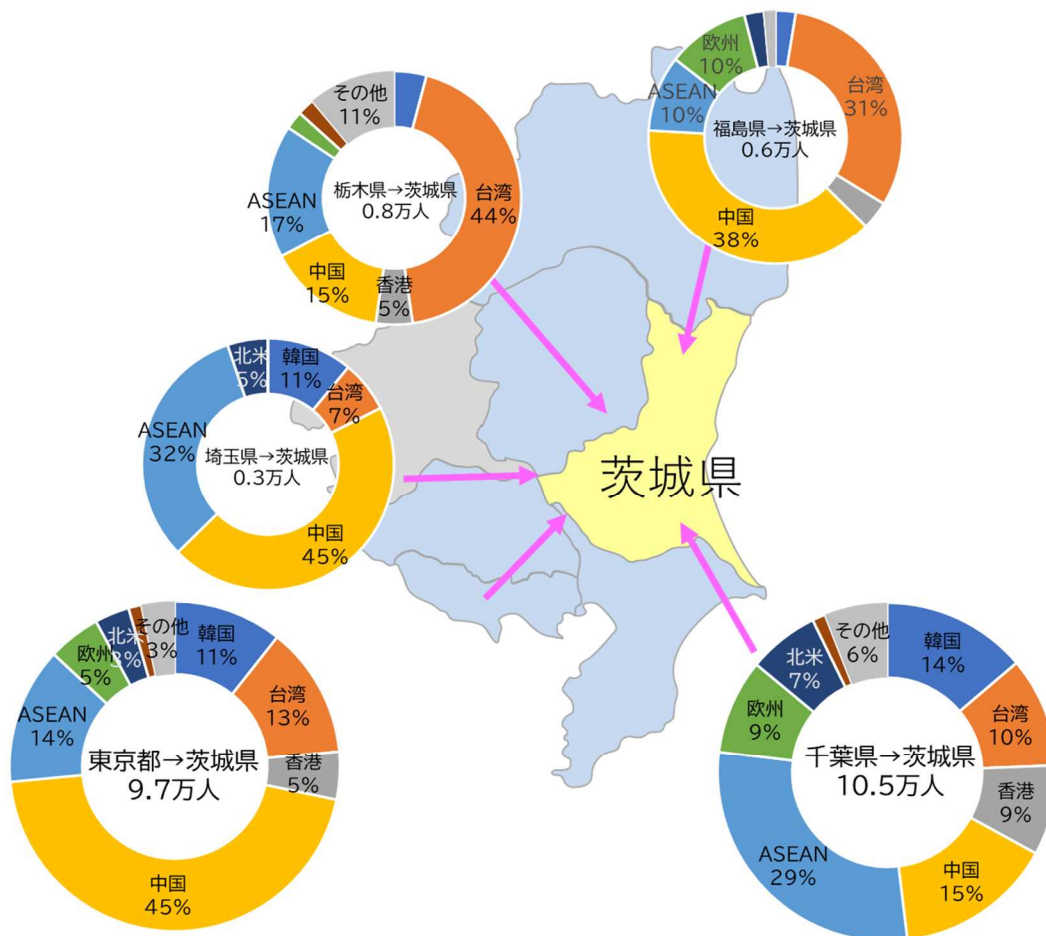


単位：千人

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	オセアニア	その他	合計(行)
宮城県	1.0	10.0	1.0	0.5	2.3	0.5	0.5	1.0	0.2	17.0
山形県	0.0	3.8	0.9	0.0	1.2	0.5	0.1	0.2	0.0	6.7
茨城県	0.1	0.3	0.0	1.8	0.9	0.5	0.0	0.2	0.0	3.9
栃木県	0.0	2.6	0.0	0.0	1.2	0.2	0.0	0.0	0.0	4.0
東京都	2.0	4.7	1.0	5.6	5.0	3.2	3.6	2.6	0.3	28.1
新潟県	0.3	0.9	0.1	0.2	0.3	0.6	0.0	0.2	0.0	2.5
計(列)	3.4	22.3	3.0	8.1	10.8	5.5	4.2	4.2	0.5	62.2

②茨城県

- ・隣接県からの茨城県訪問者は、ASEAN、中国、台湾国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、千葉県。
- ・東京都からの茨城県訪問者は、ASEAN、中国国籍の旅行者が多い。

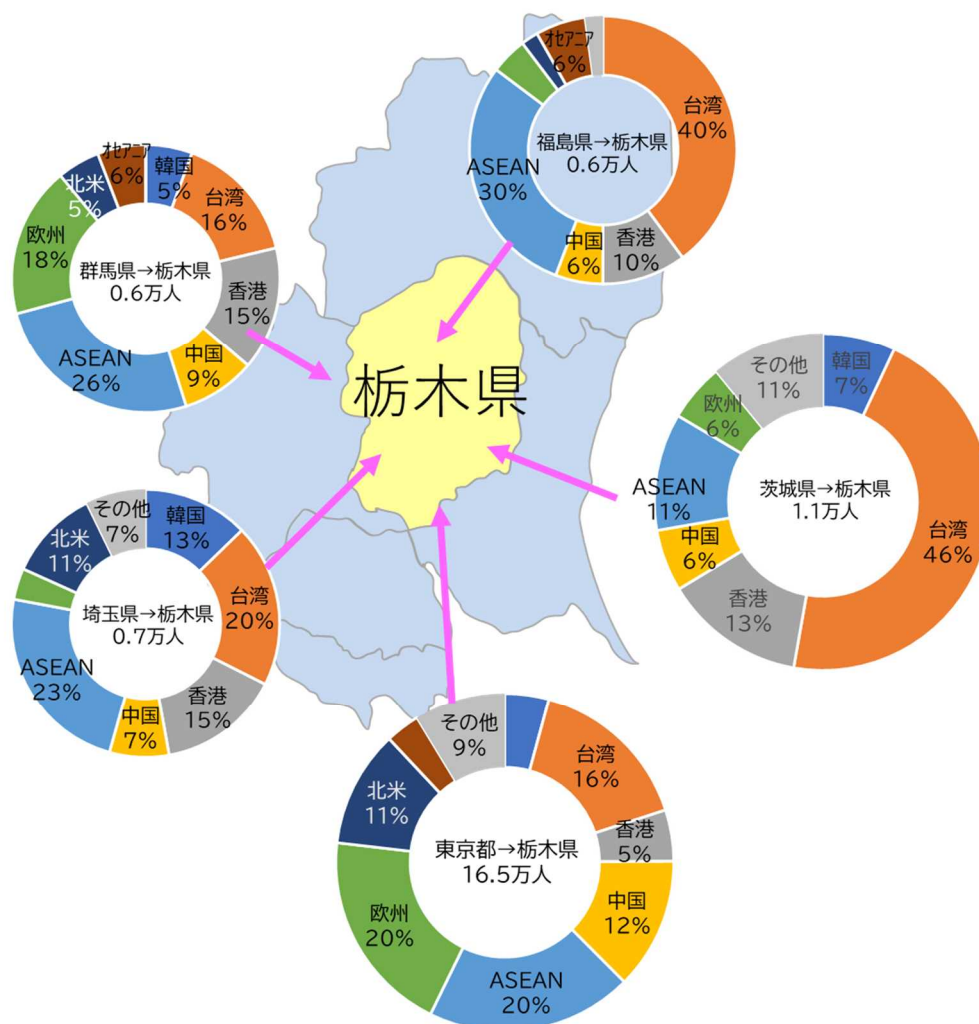


	韓国		台湾		香港		中国		ASEAN		欧州		北米		オセアニア		その他		合計(行)	
	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着
福島県	0.1	(0.0)	1.7	(0.0)	0.2	(0.0)	2.2	(1.2)	0.5	(0.0)	0.6	(0.0)	0.1	(0.0)	0.0	(0.0)	0.1	(0.0)	5.6	(1.2)
栃木県	0.3	(0.3)	3.6	(0.3)	0.4	(0.0)	1.3	(0.6)	1.4	(0.0)	0.2	(0.0)	0.0	(0.0)	0.2	(0.0)	0.9	(0.0)	8.3	(1.3)
埼玉県	0.4	(0.0)	0.2	(0.0)	0.0	(0.0)	1.5	(1.2)	1.0	(0.0)	0.0	(0.0)	0.2	(0.0)	0.0	(0.0)	0.0	(0.0)	3.2	(1.2)
千葉県	11.5	(0.4)	13.5	(0.2)	6.5	(0.0)	17.7	(2.5)	32.6	(0.0)	9.3	(0.0)	6.8	(0.0)	0.9	(0.0)	6.3	(0.0)	105.1	(3.1)
東京都	9.6	(5.2)	9.2	(3.2)	4.2	(0.0)	41.6	(31.7)	15.1	(0.0)	8.1	(0.0)	4.3	(0.1)	1.1	(0.0)	3.8	(0.0)	97.1	(40.1)
計(列)	21.9	(5.9)	28.3	(3.7)	11.3	(0.0)	64.2	(37.3)	50.7	(0.0)	18.2	(0.0)	11.4	(0.1)	2.2	(0.0)	11.1	(0.0)	219.3	(47.0)

単位: 千人

③栃木県

- ・隣接県からの栃木県訪問者は、ASEAN、欧州、台湾国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、茨城県。
- ・東京都からの栃木県訪問者は、ASEAN 国籍の旅行者が多い。

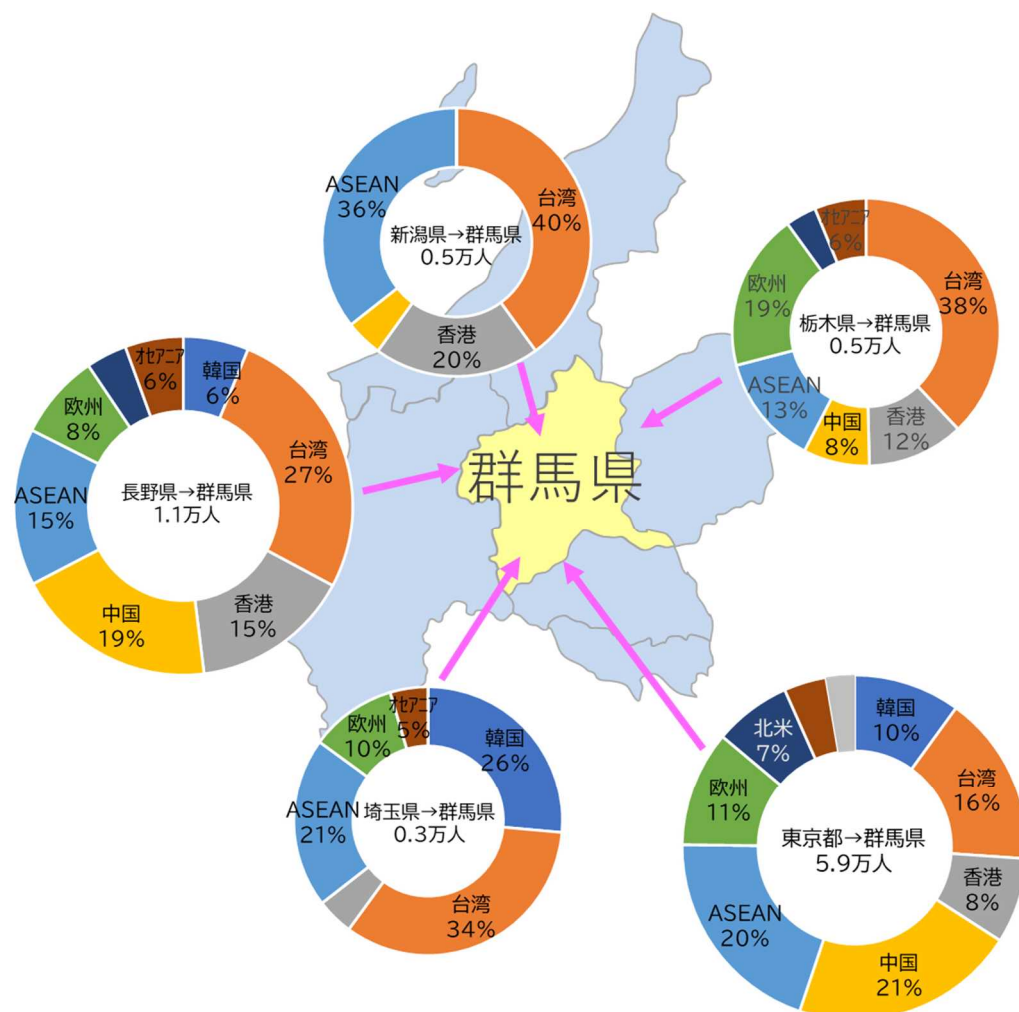


単位：千人

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	オセアニア	その他	合計(行)
福島県	0.0	2.5	0.6	0.4	1.8	0.3	0.1	0.4	0.1	6.2
茨城県	0.8	5.2	1.5	0.7	1.3	0.6	0.0	0.0	1.2	11.4
群馬県	0.3	0.9	0.8	0.5	1.4	1.0	0.3	0.3	0.0	5.5
埼玉県	0.9	1.4	1.0	0.5	1.7	0.3	0.8	0.0	0.5	7.1
東京都	7.0	26.1	8.1	20.8	32.7	32.4	18.4	5.4	14.4	165.3
計(列)	9.0	36.1	12.1	22.8	38.8	34.5	19.6	6.1	16.3	195.4

④群馬県

- ・隣接県からの群馬県訪問者は、台湾、ASEAN、中国国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、長野県。
- ・東京都からの群馬県訪問者は、中国国籍の旅行者が多い。

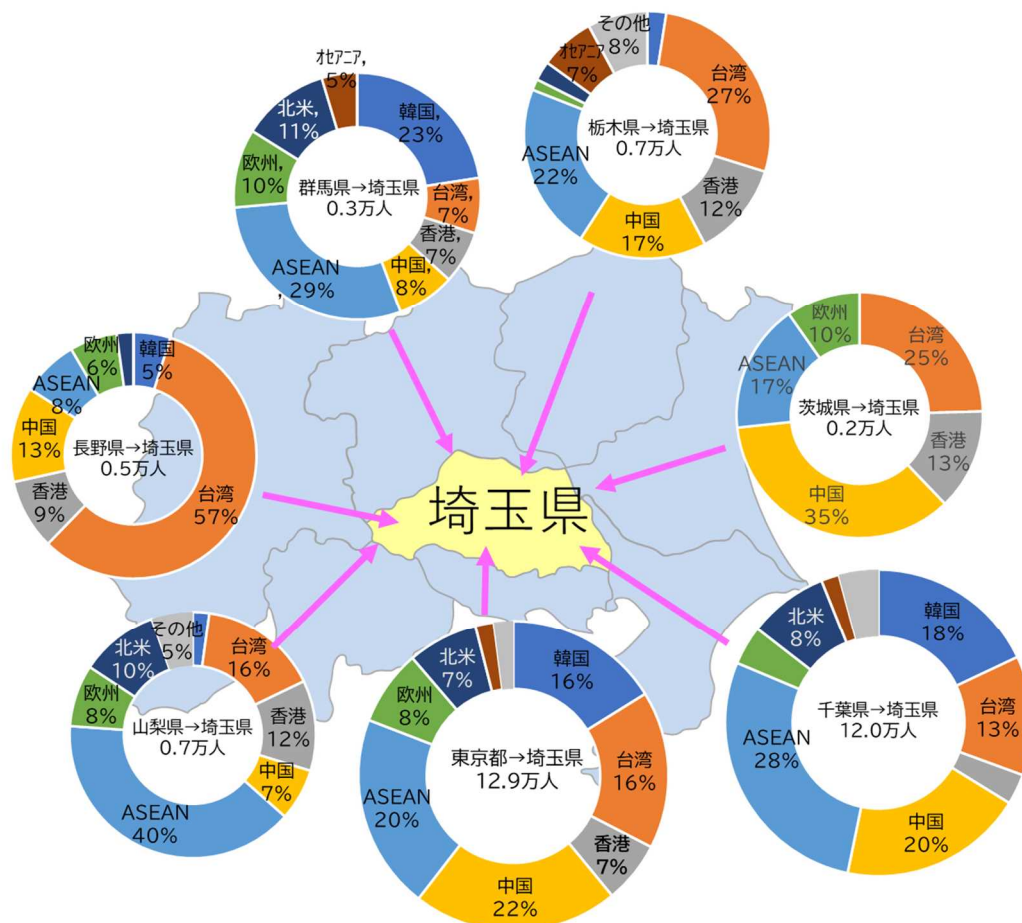


単位：千人

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	オセアニア	その他	合計(行)
栃木県	0.0	2.0	0.6	0.4	0.7	1.0	0.2	0.3	0.0	5.3
埼玉県	0.7	0.9	0.1	0.0	0.6	0.3	0.0	0.1	0.0	2.8
東京都	5.9	9.5	4.7	12.5	11.8	6.4	4.3	2.3	1.6	59.1
新潟県	0.0	1.8	0.9	0.2	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5
長野県	0.7	3.0	1.7	2.2	1.7	0.9	0.4	0.6	0.0	11.4
計(列)	7.3	17.3	8.1	15.3	16.4	8.7	4.9	3.4	1.6	83.0

⑤埼玉県

- ・隣接県からの埼玉県訪問者は、ASEAN、中国、韓国国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、千葉県。
- ・東京都からの埼玉県訪問者は、中国国籍の旅行者が多い。

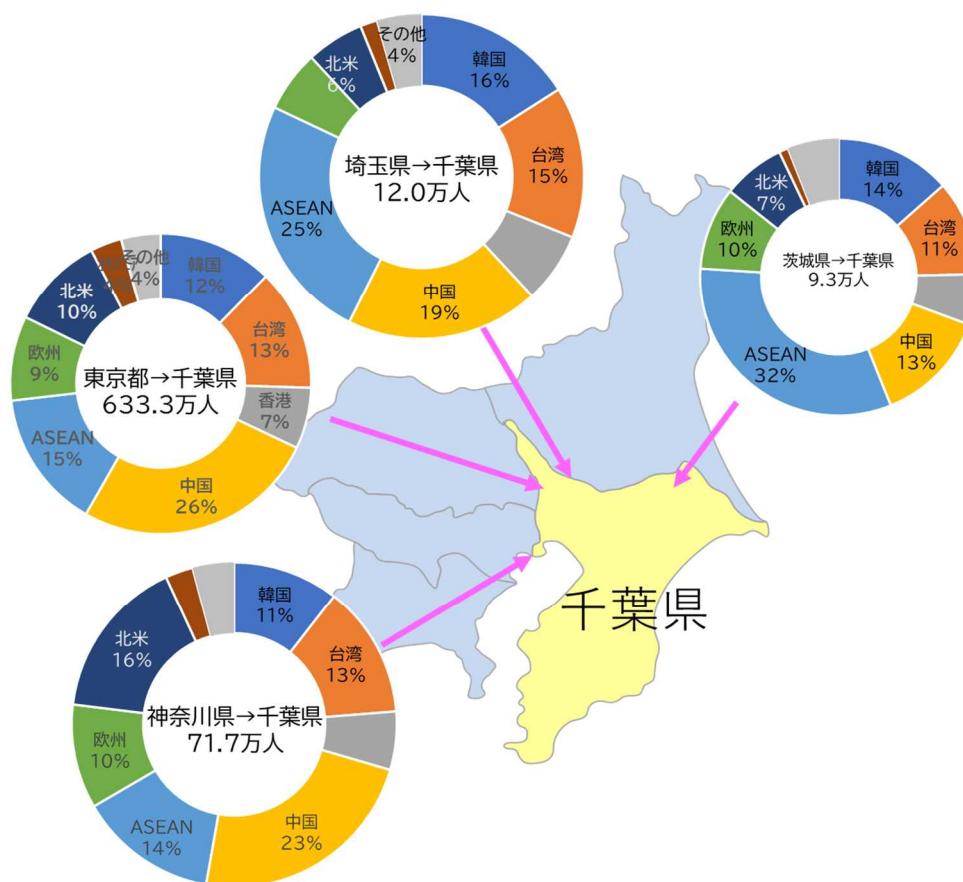


単位：千人

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	オセアニア	その他	合計(行)
茨城県	0.0	0.4	0.2	0.6	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	1.6
栃木県	0.2	1.8	0.8	1.1	1.4	0.1	0.2	0.5	0.5	6.6
群馬県	0.7	0.2	0.2	0.2	0.9	0.3	0.3	0.1	0.0	2.9
千葉県	21.6	15.0	3.9	23.3	33.6	5.0	10.1	2.3	5.0	119.8
東京都	20.9	21.2	8.3	27.7	26.3	10.2	9.5	2.5	2.6	129.2
山梨県	0.1	1.0	0.8	0.5	2.6	0.5	0.7	0.0	0.4	6.7
長野県	0.3	3.1	0.5	0.7	0.4	0.3	0.1	0.0	0.0	5.4
計(列)	43.7	42.8	14.7	54.1	65.6	16.6	20.9	5.4	8.5	272.1

⑥千葉県

- ・隣接県からの千葉県訪問者は、中国、ASEAN、台湾国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、神奈川県。
- ・東京都からの千葉県訪問者は、中国国籍の旅行者が多い。

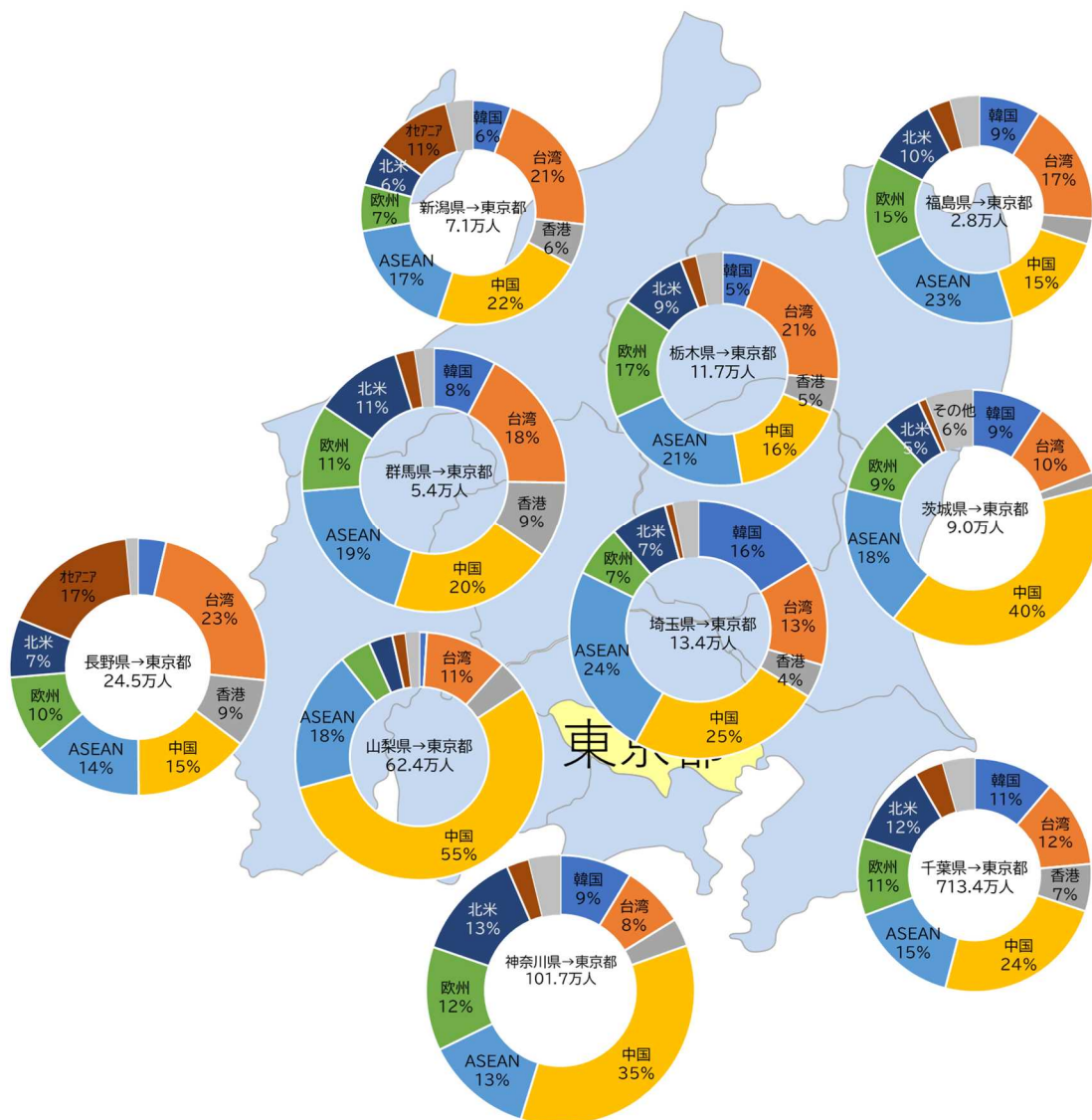


単位: 千人

	韓国		台湾		香港		中国		ASEAN		欧州		北米		オセアニア		その他		合計(行)	
	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着
茨城県	12.6	12.0	10.4	8.9	5.6	5.2	12.4	11.1	30.0	25.8	9.0	8.0	6.8	6.0	1.0	0.8	5.6	5.5	93.4	83.3
埼玉県	19.2	18.4	18.1	14.9	8.5	8.2	23.1	19.9	29.7	26.8	7.4	6.8	6.9	5.9	2.0	2.0	5.3	4.6	120.3	107.5
東京都	785.6	702.2	829.8	698.5	412.7	375.4	1,666.2	1,336.8	941.4	767.2	574.1	538.0	641.1	585.8	213.2	178.8	269.3	242.6	6333.4	5425.3
神奈川県	75.6	70.3	94.7	77.5	41.5	37.4	166.8	124.0	99.1	83.0	74.3	66.6	115.9	107.3	19.8	16.4	29.6	27.7	717.4	610.3
計(列)	892.9	803.0	953.0	799.8	468.4	426.1	1,868.6	1,491.9	1,100.2	902.9	664.8	619.5	770.8	705.0	236.0	198.0	309.9	280.4	7264.5	6226.5

⑦東京都

- ・ 関東広域 10 県からの東京都訪問者は、中国、ASEAN、台湾国籍の旅行者が多い。
- ・ 関東広域 10 県からの流入数は、 千葉県、神奈川県、山梨県が多い。

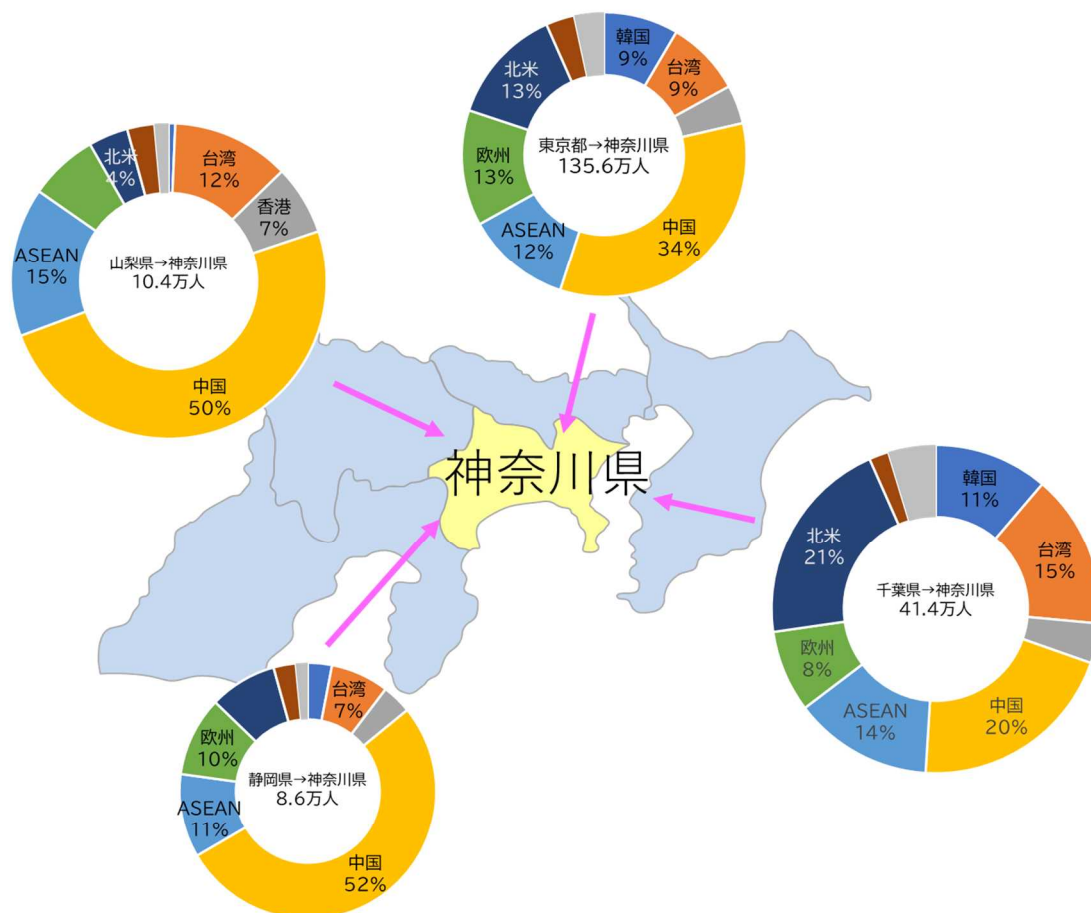


単位：千人

	韓国		台湾		香港		中国		ASEAN		欧州		北米		オセアニア		その他		合計(行)	
	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着	全体値	うち空港 着
福島県	2.5	(1.2)	5.0	(1.0)	1.0	(0.1)	4.4	(1.5)	6.5	(1.2)	4.1	(0.9)	2.8	(0.7)	0.9	(0.1)	1.2	(0.1)	28.4	(6.8)
茨城県	8.2	(1.5)	9.0	(0.6)	1.6	(0.4)	35.7	(5.3)	16.3	(3.1)	8.4	(2.9)	4.5	(1.0)	0.9	(0.3)	5.3	(0.9)	90.0	(16.1)
栃木県	6.5	(3.2)	24.6	(3.9)	5.5	(0.5)	19.0	(6.3)	24.6	(6.4)	19.4	(6.5)	10.9	(3.6)	2.7	(0.6)	4.3	(0.9)	117.4	(32.0)
群馬県	4.2	(1.1)	9.6	(2.5)	5.1	(0.7)	11.0	(4.4)	10.3	(3.0)	5.8	(1.8)	5.9	(2.2)	1.3	(0.5)	1.3	(0.1)	54.4	(16.3)
埼玉県	22.0	(7.7)	17.6	(3.0)	5.7	(1.0)	32.7	(15.4)	32.4	(10.7)	8.6	(4.0)	9.6	(2.4)	1.4	(0.6)	4.2	(1.4)	134.1	(46.3)
千葉県	799.7	(13.5)	880.5	(18.5)	466.8	(2.1)	1,708.2	(52.3)	1,091.8	(31.1)	763.2	(6.4)	825.4	(12.9)	284.9	(10.8)	313.9	(2.6)	7134.3	(150.2)
神奈川県	88.1	(48.7)	76.8	(29.1)	34.3	(107.1)	357.5	(134.1)	132.2	(72.7)	126.6	(54.9)	135.0	(60.5)	27.8	(7.5)	38.4	(16.4)	1016.7	(423.7)
新潟県	4.0	(1.9)	15.0	(2.4)	4.3	(10.1)	15.8	(4.6)	12.2	(5.2)	4.8	(1.0)	4.2	(1.4)	7.9	(2.1)	2.7	(0.0)	70.9	(28.7)
山梨県	6.2	(2.8)	66.9	(9.0)	25.3	(0.9)	344.2	(29.7)	114.7	(32.4)	25.4	(7.1)	19.2	(6.3)	10.9	(2.6)	11.2	(3.0)	624.1	(93.9)
長野県	8.8	(3.5)	56.4	(7.5)	20.9	(2.6)	35.9	(9.8)	34.3	(7.9)	23.9	(5.3)	18.1	(3.5)	42.7	(10.3)	3.5	(0.0)	244.5	(50.6)
計(列)	950.1	(85.2)	1,161.4	(77.6)	570.6	(18.4)	2,564.2	(263.4)	1,475.3	(173.8)	990.4	(90.7)	1,035.6	(94.7)	381.4	(35.3)	385.9	(25.4)	9,514.8	(864.5)

⑧神奈川県

- ・隣接県からの神奈川県訪問者は、中国、北米国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、千葉県。
- ・東京都からの神奈川県訪問者は、中国国籍の旅行者が多い。

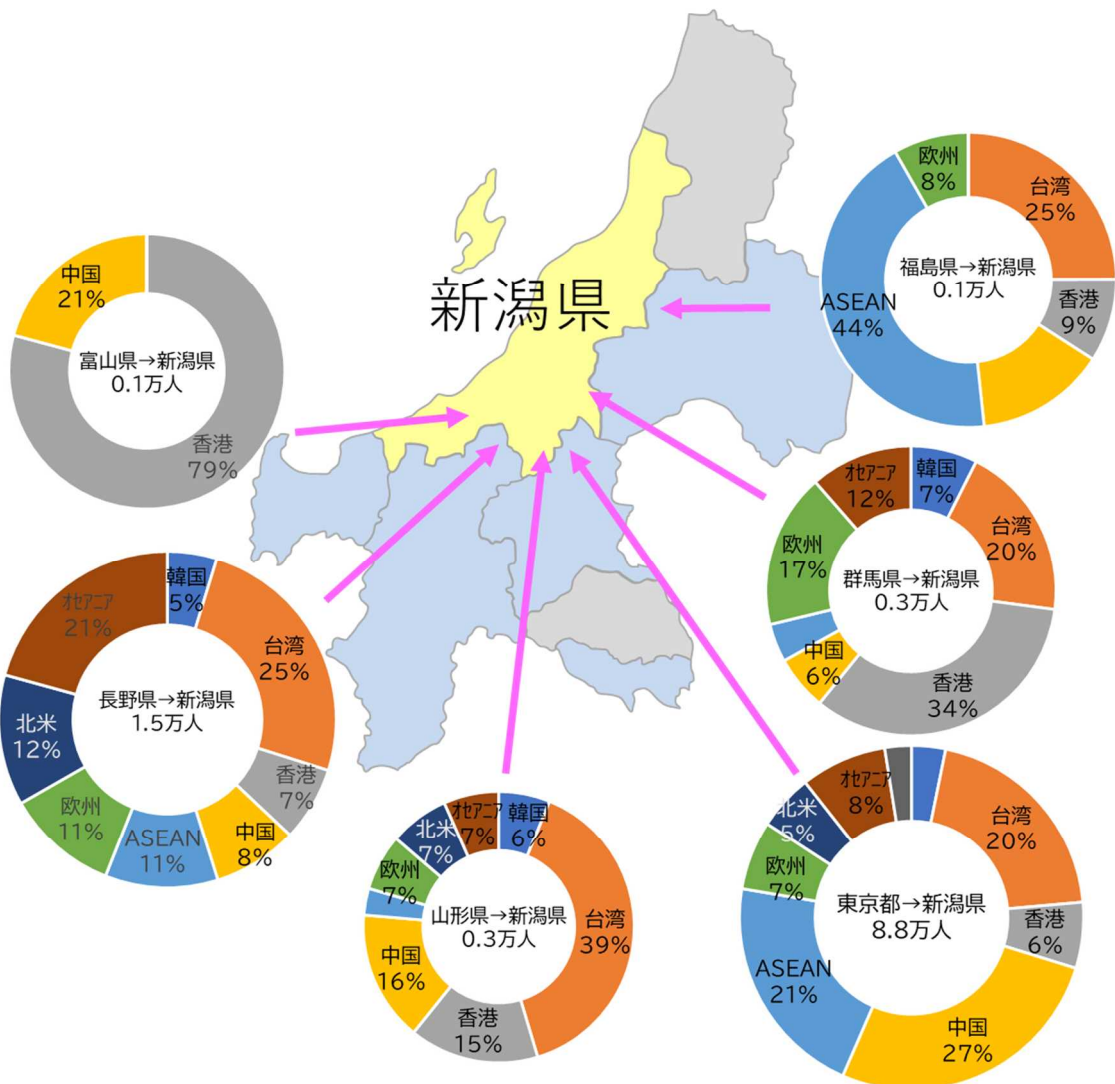


単位：千人

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	オセアニア	その他	合計(行)
千葉県	46.5	63.1	16.2	85.5	56.7	33.3	85.6	8.0	19.4	414.3
東京都	114.9	115.8	59.4	455.6	162.0	177.8	180.0	44.0	46.0	1355.5
山梨県	0.7	12.5	7.4	51.3	15.9	7.3	4.2	2.9	1.5	103.7
静岡県	2.6	6.3	3.2	45.1	9.1	8.6	7.3	2.4	1.3	85.9
計(列)	164.7	197.6	86.1	637.6	243.8	226.9	277.1	57.2	68.3	1959.3

⑨新潟県

- ・隣接県からの新潟県訪問者は、中国、台湾、ASEAN 国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、長野県。
- ・東京都からの新潟県訪問者は、中国国籍の旅行者が多い。

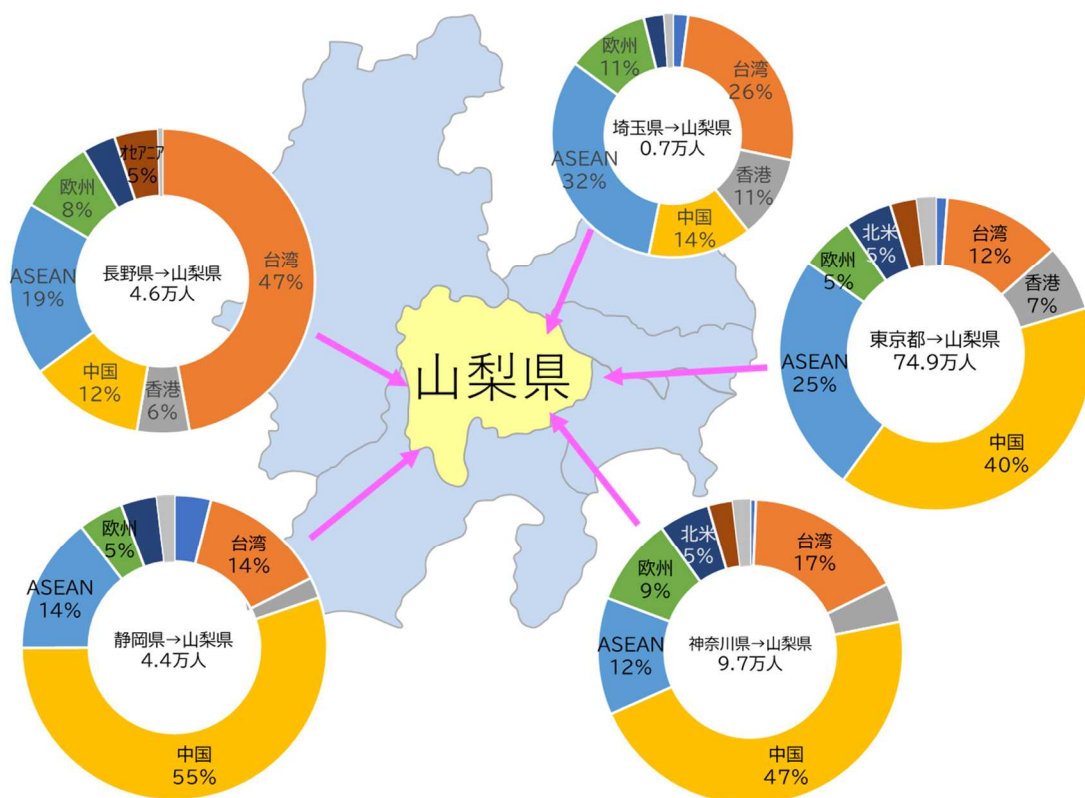


	韓国		台湾		香港		中国		ASEAN		欧州		北米		オセアニア		その他		合計(行)	
	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着	全体値	うち空港着
山形県	0.2	0.0	1.3	0.0	0.5	0.0	0.5	0.2	0.1	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	3.2	0.2
福島県	0.0	0.0	0.4	0.0	0.1	0.0	0.2	0.2	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.2
群馬県	0.3	0.0	0.7	0.0	1.2	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0
東京都	2.8	0.0	17.9	0.0	5.4	0.0	23.5	1.2	18.5	0.0	5.7	0.0	4.6	0.0	7.1	0.0	2.2	0.0	87.7	1.2
富山県	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
長野県	0.7	0.0	3.7	0.0	1.1	0.0	1.2	0.3	1.6	0.0	1.6	0.0	1.9	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	14.8	0.3
計(列)	4.0	0.0	23.9	0.0	9.0	0.0	25.8	1.9	21.0	0.0	8.2	0.0	6.7	0.0	10.8	0.0	2.2	0.0	111.5	1.9

単位:千人

⑩山梨県

- ・隣接県からの山梨県訪問者は、中国、ASEAN、台湾国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、神奈川県。
- ・東京都からの山梨県訪問者は、中国国籍の旅行者が多い。

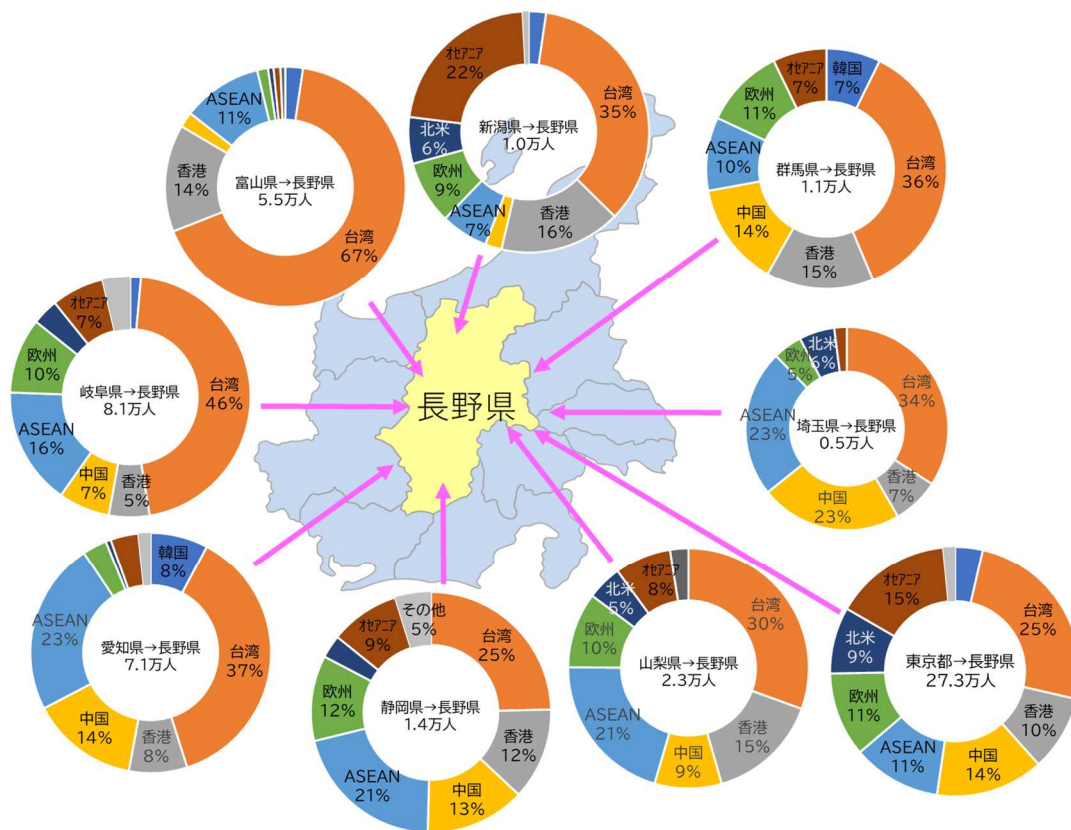


単位：千人

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	オセアニア	その他	合計(行)
埼玉県	0.1	1.8	0.8	1.0	2.2	0.8	0.2	0.0	0.1	7.0
東京都	9.0	91.5	51.8	297.4	185.5	42.1	36.0	20.8	14.6	748.7
神奈川県	0.6	16.6	4.0	45.0	12.0	9.1	5.2	2.5	1.8	96.8
長野県	0.0	21.6	2.5	5.6	8.5	3.6	1.6	2.1	0.2	45.8
静岡県	1.7	6.0	1.0	24.4	6.4	2.1	1.7	0.0	0.8	44.1
計(列)	11.4	137.5	60.1	373.3	214.7	57.7	44.7	25.4	17.4	942.4

⑪長野県

- ・隣接県からの長野県訪問者は、台湾、ASEAN、中国国籍の旅行者が多い。
- ・東京都を除く隣接県で最も多い流入数は、岐阜県。
- ・東京都からの長野県訪問者は、台湾国籍の旅行者が多い。



単位：千人

	韓国	台湾	香港	中国	ASEAN	欧州	北米	北アフリカ	その他	合計(行)
群馬県	0.8	3.9	1.5	1.5	1.1	1.2	0.0	0.8	0.0	10.7
埼玉県	0.0	1.7	0.4	1.2	1.2	0.2	0.3	0.1	0.0	5.1
東京都	9.8	68.2	26.6	38.1	31.3	29.8	23.5	41.3	4.1	272.8
新潟県	0.2	3.3	1.5	0.2	0.6	0.8	0.6	2.1	0.1	9.5
富山県	1.3	36.7	7.9	1.1	5.9	0.8	0.4	0.5	0.4	55.0
山梨県	0.0	7.0	3.5	2.1	4.7	2.3	1.1	1.7	0.6	23.0
岐阜県	1.2	37.3	4.4	5.6	12.8	8.2	2.9	5.7	3.0	81.2
静岡県	0.0	3.5	1.8	1.9	3.0	1.6	0.4	1.3	0.7	14.3
愛知県	5.5	26.6	5.6	10.3	16.6	2.3	0.5	2.7	1.2	71.1
計(列)	18.7	188.3	53.3	62.0	77.1	47.3	29.7	56.3	10.0	542.8

2-2 都県間における年間流動量ランキング

2-2-1 総流動量

(1) 対象データ

①出典

『FF-data』 公表用データベース（国籍別）2019 年

②算出方法

- ・ 流動の大きい都道府県間の組み合わせを算出した。
- ・ 本項は 1 都 10 県に限らず、全都道府県間の流動数からランキング化した。

③集計結果の表について

順位	都道府県間	年間流動量	順位	都道府県間	年間流動量
1	東京都 千葉県	13,467,713	31	京都府 静岡県	302,221
2	大阪府 京都府	9,822,790	32	大分県 熊本県	300,865
3	奈良県 大阪府	2,711,271	33	和歌山県 大阪府	290,513
4	神奈川県 大阪府	2,256,256	34	佐賀県 福岡県	288,377
5	奈良県 大阪府	1,771,771	35	東京都 栃木県	282,732
6	兵庫県 大阪府	1,834,024	36	岐阜県 石川県	275,839
7	京都府 東京都	1,783,038	37	京都府 神奈川県	273,769
8	大阪府 東京都	1,701,949	38	東京都 埼玉県	263,281
9	大分県 福岡県	1,442,776	39	京都府 山梨県	261,734
10	山梨県 東京都	1,372,826	40	千葉県 埼玉県	240,069
11	静岡県 東京都	1,258,082	41	大阪府 静岡県	239,382
12	神奈川県 千葉県	1,131,728	42	福岡県 山口県	233,770
13	大阪府 愛知県	708,395	43	広島県 東京都	222,222
14	兵庫県 京都府	696,026	44	三重県 愛知県	211,111
15	愛知県 東京都	646,824	45	奈良県 愛知県	200,000
16	愛知県 岐阜県	624,585	46	愛知県 東京都	199,999
17	山梨県 千葉県	600,205	47	千葉県 栃木県	204,808
18	京都府 愛知県	577,585	48	山梨県 神奈川県	200,428
19	熊本県 福岡県	564,856	49	奈良県 東京都	199,757
20	長野県 東京都	517,240	50	千葉県 茨城県	199,664
21	東京都 北海道	460,991	51	静岡県 神奈川県	198,989
22	大阪府 千葉県	434,194	52	千葉県 北海道	195,631
23	奈良県 兵庫県	415,994	53	東京都 東京都	189,530
24	長崎県 福岡県	385,466	54	東京都 東京都	172,025
25	愛知県 静岡県	370,606	55	東京都 東京都	157,716
26	広島県 大阪府	366,038	56	新潟県 東京都	156,193
27	京都府 千葉県	363,164	57	石川県 富山県	152,286
28	広島県 京都府	320,358	58	岐阜県 富山県	150,354
29	静岡県 千葉県	315,181	59	京都府 岐阜県	148,129
30	長野県 千葉県	302,734	60	大阪府 北海道	147,700

- ・値は流入・流出の合計
- ・同一都道府県間集計は除外

左列は 1～30 位
右列は 31～60 位

関東広域(1 都 10 県)を
含む流動は色付け

空港着の値も含む

(2) 集計結果

①全体

都道府県間の年間流動量は、千葉県-東京都間、京都府-大阪府間、大阪府-奈良県間の順で多く、国際空港と隣接する観光地間を結ぶ流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	13,467,713	31	京都府	静岡県	302,221
2	大阪府	京都府	8,823,790	32	大分県	熊本県	300,865
3	奈良県	大阪府	3,101,271	33	和歌山県	大阪府	290,513
4	神奈川県	東京都	2,372,256	34	佐賀県	福岡県	288,377
5	奈良県	京都府	2,248,471	35	東京都	栃木県	282,732
6	兵庫県	大阪府	1,834,024	36	岐阜県	石川県	275,839
7	京都府	東京都	1,783,038	37	京都府	神奈川県	273,769
8	大阪府	東京都	1,701,949	38	東京都	埼玉県	263,281
9	大分県	福岡県	1,442,776	39	京都府	山梨県	261,734
10	山梨県	東京都	1,372,826	40	千葉県	埼玉県	240,069
11	静岡県	東京都	1,258,082	41	大阪府	静岡県	239,382
12	神奈川県	千葉県	1,131,728	42	福岡県	山口県	233,770
13	大阪府	愛知県	708,395	43	広島県	東京都	231,054
14	兵庫県	京都府	696,026	44	三重県	愛知県	217,332
15	愛知県	東京都	646,824	45	奈良県	愛知県	216,628
16	愛知県	岐阜県	624,585	46	愛知県	山梨県	212,938
17	山梨県	千葉県	600,205	47	千葉県	栃木県	204,808
18	京都府	愛知県	577,585	48	山梨県	神奈川県	200,428
19	熊本県	福岡県	564,856	49	奈良県	東京都	199,757
20	長野県	東京都	517,240	50	千葉県	茨城県	199,664
21	東京都	北海道	460,991	51	静岡県	神奈川県	198,989
22	大阪府	千葉県	434,194	52	千葉県	北海道	195,631
23	奈良県	兵庫県	415,994	53	東京都	茨城県	189,530
24	長崎県	福岡県	385,466	54	大阪府	滋賀県	172,025
25	愛知県	静岡県	370,606	55	愛知県	長野県	157,716
26	広島県	大阪府	366,038	56	新潟県	東京都	156,193
27	京都府	千葉県	363,164	57	石川県	富山県	152,286
28	広島県	京都府	320,358	58	岐阜県	富山県	150,354
29	静岡県	千葉県	315,181	59	京都府	岐阜県	148,129
30	長野県	千葉県	302,734	60	大阪府	北海道	147,700

2-2-2 国籍別流動量

(1) 対象データ

①出典

『FF-data』 公表用データベース（国籍別）2019 年

②算出方法

- ・ 国籍毎に流動の大きい都道府県間の組み合わせを算出した。
- ・ 対象とした国籍は、韓国・中国・台湾・香港・ASEAN・欧州・北米・オセアニア・その他

【複数国籍について】

ASEAN：タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム

欧 州：英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、ロシア、その他欧州

北 米：米国、カナダ、その他北アメリカ

オセアニア：オーストラリア、その他オセアニア

その他：南米、西南アジア等

- ・ 本項は 1 都 10 県に限らず、全都道府県間の流動数からランキング化した。

③集計結果の表について

- ・ 値は流入・流出の合計
- ・ 同一都道府県間集計は除外

順位	都道府県間	年間流動量	順位	都道府県間	年間流動量
1	東京都 千葉県	13,467,713	31	京都府 静岡県	302,221
2	大阪府 京都府	8,823,790	32	大分県 熊本県	300,865
3	奈良県 大阪府	2,711,271	33	和歌山県 大阪府	290,513
4	神奈川県 東京都	2,756,256	34	佐賀県 福岡県	288,377
5	奈良県 大阪府	2,711,271	35	東京都 栃木県	282,732
6	兵庫県 大阪府	1,834,024	36	岐阜県 石川県	275,839
7	京都府 東京都	1,783,038	37	京都府 神奈川県	273,769
8	大阪府 東京都	1,701,949	38	東京都 埼玉県	263,281
9	大分県 福岡県	1,442,776	39	京都府 山梨県	261,734
10	山梨県 東京都	1,372,826	40	千葉県 埼玉県	240,069
11	静岡県 東京都	1,258,082	41	大阪府 静岡県	239,382
12	神奈川県 千葉県	1,131,728	42	福岡県 山口県	233,770
13	大阪府 愛知県	708,395	43	広島県 東京都	204,808
14	兵庫県 京都府	696,026	44	三重県 愛知県	200,428
15	愛知県 東京都	646,824	45	奈良県 愛知県	199,757
16	愛知県 岐阜県	624,585	46	愛知県 東京都	199,664
17	山梨県 千葉県	600,205	47	千葉県 栃木県	199,989
18	京都府 愛知県	577,585	48	山梨県 神奈川県	195,631
19	熊本県 福岡県	564,856	49	奈良県 茨城県	189,530
20	長野県 東京都	517,240	50	千葉県 茨城県	189,530
21	東京都 北海道	460,991	51	静岡県 神奈川県	172,025
22	大阪府 千葉県	434,194	52	千葉県 北海道	152,286
23	奈良県 兵庫県	415,994	53	東京都 茨城県	150,354
24	長崎県 福岡県	385,466	54	大阪府 滋賀県	148,129
25	愛知県 静岡県	370,606	55	愛知県 長野県	147,700
26	広島県 大阪府	366,038	56	新潟県 東京都	
27	京都府 千葉県	363,164	57	石川県 富山県	
28	広島県 京都府	320,358	58	岐阜県 富山県	
29	静岡県 千葉県	315,181	59	京都府 岐阜県	
30	長野県 千葉県	302,734	60	大阪府 北海道	

左列は 1～30 位
右列は 31～60 位

関東広域(1 都 10 県)を
含む流動は色付け

空港着の値も含む

(2) 集計結果

① 韓国

韓国の都道府県間の年間流動量は、東京都-千葉県間、京都府-大阪府間、大阪府-奈良県間の順で多く、国際空海港と隣接する観光地間を結ぶ流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	1,585,306	31	東京都	茨城県	17,760
2	大阪府	京都府	1,247,550	32	静岡県	千葉県	17,260
3	大分県	福岡県	826,270	33	岐阜県	富山県	15,858
4	兵庫県	大阪府	324,102	34	山梨県	東京都	15,148
5	神奈川県	東京都	203,002	35	大阪府	滋賀県	14,829
6	奈良県	大阪府	172,801	36	和歌山県	大阪府	14,496
7	福岡県	山口県	140,741	37	愛知県	東京都	14,490
8	熊本県	福岡県	130,941	38	不明空海港	東京都	14,364
9	兵庫県	京都府	122,434	39	大分県	長崎県	14,169
10	神奈川県	千葉県	122,105	40	東京都	栃木県	13,431
11	長崎県	福岡県	116,797	41	大阪府	愛知県	13,171
12	佐賀県	福岡県	110,663	42	千葉県	栃木県	12,554
13	奈良県	京都府	98,833	43	京都府	東京都	11,513
14	大分県	熊本県	65,178	44	新潟県	茨城県	11,200
15	愛知県	岐阜県	58,664	45	東京都	北海道	10,920
16	奈良県	兵庫県	44,342	46	山梨県	千葉県	10,917
17	福岡県	広島県	43,186	47	東京都	群馬県	10,058
18	東京都	埼玉県	42,835	48	千葉県	群馬県	10,030
19	千葉県	埼玉県	40,775	49	山形県	宮城県	9,961
20	静岡県	東京都	39,397	50	愛知県	長野県	9,820
21	大阪府	東京都	35,532	51	熊本県	長崎県	9,758
22	三重県	愛知県	33,910	52	鹿児島県	福岡県	9,613
23	島根県	鳥取県	28,331	53	鹿児島県	宮崎県	9,359
24	長崎県	佐賀県	28,069	54	静岡県	神奈川県	8,839
25	大分県	佐賀県	25,540	55	その他空海	長崎県	8,746
26	千葉県	茨城県	24,667	56	不明空海港	大分県	8,676
27	愛知県	静岡県	19,704	57	大分県	山口県	8,363
28	長野県	東京都	18,532	58	長野県	千葉県	8,307
29	不明空海港	長崎県	18,491	59	福岡県	大阪府	8,199
30	愛知県	富山県	18,040	60	香川県	岡山県	7,511

② 中国

中国の都道府県間の年間流動量は、大阪府-京都府、東京都-千葉県間、奈良県-大阪府間の順で多く、国際空港と隣接する観光地間を結ぶ流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	大阪府	京都府	3,694,624	31	大阪府	山梨県	97,473
2	東京都	千葉県	3,374,420	32	山梨県	神奈川県	96,307
3	奈良県	大阪府	1,861,530	33	京都府	神奈川県	94,355
4	奈良県	京都府	1,354,616	34	熊本県	福岡県	85,874
5	神奈川県	東京都	813,146	35	静岡県	千葉県	85,551
6	静岡県	東京都	799,380	36	奈良県	静岡県	80,214
7	大阪府	東京都	663,944	37	大阪府	北海道	79,985
8	山梨県	東京都	641,622	38	東京都	茨城県	78,716
9	大阪府	愛知県	515,056	39	長野県	東京都	73,993
10	兵庫県	大阪府	486,537	40	和歌山県	大阪府	68,135
11	京都府	東京都	477,618	41	愛知県	神奈川県	67,919
12	京都府	愛知県	419,622	42	三重県	愛知県	66,116
13	愛知県	東京都	396,128	43	静岡県	山梨県	65,492
14	愛知県	静岡県	268,652	44	大阪府	神奈川県	63,144
15	神奈川県	千葉県	252,354	45	東京都	埼玉県	60,442
16	京都府	静岡県	237,662	46	千葉県	北海道	56,881
17	奈良県	愛知県	191,143	47	佐賀県	福岡県	52,073
18	大阪府	静岡県	190,543	48	千葉県	埼玉県	46,455
19	京都府	山梨県	183,746	49	大分県	熊本県	46,091
20	愛知県	山梨県	183,178	50	京都府	千葉県	43,456
21	兵庫県	京都府	170,525	51	愛知県	千葉県	42,131
22	東京都	北海道	161,443	52	不明空港	東京都	41,649
23	奈良県	兵庫県	159,651	53	東京都	栃木県	39,780
24	山梨県	千葉県	151,312	54	大阪府	滋賀県	38,818
25	愛知県	岐阜県	121,748	55	新潟県	東京都	37,850
26	奈良県	東京都	117,791	56	長崎県	福岡県	36,762
27	大阪府	千葉県	117,698	57	新潟県	茨城県	32,717
28	大分県	福岡県	112,177	58	奈良県	神奈川県	32,135
29	静岡県	神奈川県	111,031	59	京都府	岐阜県	30,218
30	奈良県	山梨県	100,310	60	千葉県	茨城県	30,212

③ 台湾

台湾の都道府県間の年間流動量は、東京都-千葉県間、大阪府-京都府間、奈良県-大阪府間の順で多く、出入国の国際空港と大阪府、京都府、奈良県の隣接する観光地間の流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	1,710,254	31	東京都	栃木県	50,695
2	大阪府	京都府	1,123,415	32	山形県	宮城県	47,787
3	奈良県	大阪府	383,786	33	福岡県	山口県	47,173
4	兵庫県	大阪府	373,138	34	大阪府	東京都	44,667
5	奈良県	京都府	269,180	35	千葉県	栃木県	43,309
6	大分県	福岡県	241,824	36	宮城県	青森県	41,885
7	神奈川県	東京都	192,536	37	静岡県	千葉県	41,679
8	熊本県	福岡県	189,612	38	和歌山県	大阪府	39,310
9	愛知県	岐阜県	185,348	39	長野県	石川県	39,178
10	山梨県	東京都	158,442	40	東京都	埼玉県	38,766
11	神奈川県	千葉県	157,799	41	熊本県	長崎県	37,628
12	兵庫県	京都府	151,620	42	京都府	滋賀県	36,302
13	長野県	東京都	124,649	43	岩手県	青森県	36,262
14	山梨県	千葉県	123,276	44	鹿児島県	宮崎県	35,478
15	大分県	熊本県	104,874	45	秋田県	青森県	34,633
16	長崎県	福岡県	100,977	46	千葉県	埼玉県	33,170
17	長野県	千葉県	97,133	47	岡山県	大阪府	33,017
18	岐阜県	石川県	97,082	48	新潟県	東京都	32,887
19	石川県	富山県	91,915	49	大分県	長崎県	31,576
20	奈良県	兵庫県	87,430	50	三重県	愛知県	31,171
21	岐阜県	富山県	82,826	51	広島県	岡山県	30,726
22	長野県	富山県	70,834	52	愛媛県	香川県	30,144
23	愛知県	長野県	67,689	53	香川県	岡山県	29,497
24	静岡県	東京都	63,507	54	山梨県	神奈川県	29,041
25	宮城県	岩手県	63,394	55	長野県	山梨県	28,594
26	佐賀県	福岡県	61,271	56	鹿児島県	熊本県	27,606
27	愛知県	石川県	61,263	57	大阪府	愛知県	25,904
28	岐阜県	長野県	61,043	58	秋田県	岩手県	23,973
29	大阪府	滋賀県	55,662	59	千葉県	茨城県	23,952
30	愛知県	富山県	54,890	60	香川県	徳島県	23,202

④ 香港

香港の都道府県間の年間流動量は、東京都-千葉県間、大阪府-京都府間、奈良県-大阪府間の順で多く、出入国の国際空港と大阪府、京都府、奈良県の隣接する観光地間の流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	879,505	31	石川県	富山県	21,742
2	大阪府	京都府	561,731	32	愛知県	石川県	21,534
3	奈良県	大阪府	171,426	33	香川県	徳島県	21,525
4	大分県	福岡県	168,240	34	宮崎県	熊本県	18,387
5	兵庫県	大阪府	162,415	35	大阪府	滋賀県	18,319
6	愛知県	岐阜県	107,743	36	東京都	北海道	17,138
7	奈良県	京都府	103,362	37	愛知県	富山県	17,054
8	熊本県	福岡県	94,797	38	京都府	東京都	16,445
9	神奈川県	東京都	93,710	39	福岡県	山口県	15,963
10	山梨県	東京都	77,126	40	岡山県	大阪府	15,276
11	和歌山県	大阪府	62,921	41	岡山県	鳥取県	15,211
12	兵庫県	京都府	60,015	42	島根県	鳥取県	15,017
13	神奈川県	千葉県	57,727	43	大分県	長崎県	14,718
14	大分県	熊本県	56,854	44	香川県	岡山県	14,312
15	鹿児島県	宮崎県	56,060	45	愛媛県	香川県	14,030
16	長崎県	福岡県	55,791	46	東京都	埼玉県	14,017
17	山梨県	千葉県	47,718	47	長野県	富山県	13,691
18	長野県	東京都	47,526	48	東京都	栃木県	13,620
19	佐賀県	福岡県	41,831	49	愛知県	長野県	13,347
20	静岡県	東京都	38,799	50	千葉県	栃木県	12,954
21	大阪府	東京都	34,211	51	長崎県	佐賀県	12,894
22	長野県	千葉県	33,172	52	千葉県	茨城県	12,522
23	岐阜県	石川県	33,139	53	和歌山県	京都府	12,484
24	三重県	愛知県	33,046	54	広島県	岡山県	12,439
25	奈良県	兵庫県	30,508	55	千葉県	埼玉県	12,352
26	鹿児島県	熊本県	26,656	56	鹿児島県	福岡県	11,600
27	岐阜県	富山県	26,091	57	山梨県	神奈川県	11,361
28	静岡県	千葉県	24,762	58	大阪府	石川県	11,012
29	大阪府	愛知県	21,914	59	大阪府	北海道	10,412
30	熊本県	長崎県	21,847	60	京都府	愛知県	10,294

⑤ オセアニア

オセアニアの都道府県間の年間流動量は、東京都-千葉県間、大阪府-京都府間、京都府-東京都間の順で多く、 出入国の国際空港とゴールデンルートに沿った流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	498,045	31	京都府	愛知県	11,426
2	大阪府	京都府	191,362	32	石川県	東京都	11,284
3	京都府	東京都	137,231	33	山梨県	千葉県	10,438
4	大阪府	東京都	110,352	34	京都府	山梨県	10,047
5	長野県	東京都	84,006	35	広島県	千葉県	9,949
6	神奈川県	東京都	71,831	36	岐阜県	長野県	9,418
7	広島県	京都府	63,422	37	大阪府	北海道	9,409
8	広島県	大阪府	59,150	38	静岡県	千葉県	9,154
9	東京都	北海道	43,724	39	和歌山県	京都府	8,490
10	長野県	千葉県	42,655	40	奈良県	東京都	8,475
11	大阪府	千葉県	40,165	41	大阪府	愛知県	8,400
12	奈良県	大阪府	35,741	42	広島県	岐阜県	8,128
13	広島県	東京都	33,276	43	東京都	栃木県	8,100
14	京都府	千葉県	32,858	44	香川県	徳島県	7,921
15	山梨県	東京都	31,688	45	大阪府	長野県	7,905
16	神奈川県	千葉県	27,778	46	新潟県	千葉県	7,354
17	千葉県	北海道	27,076	47	沖縄県	東京都	7,210
18	奈良県	京都府	26,618	48	京都府	静岡県	6,722
19	静岡県	東京都	25,470	49	不明県	北海道	6,696
20	兵庫県	大阪府	25,070	50	大阪府	神奈川県	6,616
21	京都府	石川県	18,462	51	長野県	石川県	6,450
22	京都府	神奈川県	17,284	52	岐阜県	神奈川県	6,113
23	京都府	長野県	16,158	53	奈良県	兵庫県	6,056
24	愛知県	東京都	15,354	54	広島県	奈良県	5,978
25	新潟県	東京都	14,722	55	東京都	宮城県	5,806
26	岐阜県	東京都	14,468	56	奈良県	千葉県	5,647
27	兵庫県	京都府	14,078	57	広島県	兵庫県	5,504
28	和歌山県	大阪府	12,367	58	山梨県	神奈川県	5,398
29	岐阜県	石川県	11,945	59	大阪府	静岡県	5,375
30	京都府	岐阜県	11,838	60	長野県	神奈川県	5,208

⑥ ASEAN

ASEAN の都道府県間の年間流動量は、東京都-千葉県間、大阪府-京都府間、大阪府-東京都間の順で多く、出入国の国際空港とゴールデンルートに沿った流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	2,033,188	31	広島県	大阪府	43,824
2	大阪府	京都府	990,724	32	大阪府	岐阜県	41,335
3	大阪府	東京都	302,306	33	京都府	千葉県	39,219
4	山梨県	東京都	300,295	34	愛知県	静岡県	38,367
5	神奈川県	東京都	294,203	35	長崎県	福岡県	37,822
6	兵庫県	大阪府	265,054	36	三重県	愛知県	37,240
7	奈良県	大阪府	252,934	37	千葉県	北海道	36,602
8	山梨県	千葉県	197,332	38	和歌山県	大阪府	35,026
9	京都府	東京都	172,626	39	愛知県	長野県	34,530
10	奈良県	京都府	170,405	40	東京都	茨城県	32,017
11	神奈川県	千葉県	155,844	41	千葉県	群馬県	30,580
12	静岡県	東京都	136,570	42	新潟県	東京都	30,116
13	愛知県	岐阜県	114,837	43	京都府	岐阜県	30,045
14	兵庫県	京都府	97,780	44	岐阜県	東京都	29,711
15	大阪府	千葉県	82,166	45	福岡県	広島県	29,581
16	東京都	北海道	80,176	46	山梨県	神奈川県	27,910
17	静岡県	千葉県	77,663	47	大阪府	滋賀県	25,085
18	愛知県	東京都	76,629	48	岐阜県	石川県	24,781
19	大阪府	愛知県	75,508	49	大阪府	北海道	22,742
20	大分県	福岡県	67,504	50	岐阜県	長野県	22,335
21	長野県	東京都	65,546	51	東京都	群馬県	22,134
22	千葉県	埼玉県	63,332	52	大阪府	石川県	21,670
23	千葉県	茨城県	62,541	53	大分県	熊本県	20,393
24	東京都	埼玉県	58,687	54	岡山県	大阪府	20,340
25	千葉県	栃木県	58,526	55	東京都	宮城県	20,189
26	東京都	栃木県	57,264	56	京都府	山梨県	19,610
27	奈良県	兵庫県	51,978	57	新潟県	千葉県	19,345
28	京都府	愛知県	51,354	58	愛知県	千葉県	19,327
29	熊本県	福岡県	46,286	59	静岡県	神奈川県	18,643
30	長野県	千葉県	45,430	60	静岡県	山梨県	18,512

⑦ 北米

北米の都道府県間の年間流動量は、東京都-千葉県間、大阪府-京都府間、京都府-東京都間の順で多く、出入国の国際空港とゴールデンルートに沿った流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	1,337,294	31	兵庫県	東京都	28,378
2	大阪府	京都府	450,287	32	奈良県	東京都	28,064
3	京都府	東京都	430,042	33	広島県	千葉県	27,961
4	神奈川県	東京都	304,407	34	沖縄県	東京都	26,804
5	大阪府	東京都	199,246	35	広島県	奈良県	26,093
6	広島県	京都府	134,148	36	和歌山県	京都府	25,639
7	広島県	大阪府	121,323	37	大阪府	神奈川県	24,274
8	奈良県	京都府	119,725	38	千葉県	北海道	24,208
9	奈良県	大阪府	109,919	39	福岡県	東京都	23,722
10	神奈川県	千葉県	107,576	40	千葉県	栃木県	23,492
11	兵庫県	大阪府	92,798	41	京都府	山梨県	22,869
12	京都府	千葉県	91,880	42	長野県	千葉県	22,839
13	広島県	東京都	85,559	43	大阪府	愛知県	22,610
14	京都府	神奈川県	73,315	44	山梨県	千葉県	22,568
15	静岡県	東京都	69,390	45	福岡県	広島県	21,888
16	山梨県	東京都	67,489	46	静岡県	千葉県	20,315
17	東京都	北海道	60,787	47	奈良県	兵庫県	19,843
18	大阪府	千葉県	56,694	48	東京都	埼玉県	18,763
19	岐阜県	石川県	55,027	49	広島県	神奈川県	18,754
20	長野県	東京都	53,699	50	千葉県	茨城県	18,302
21	愛知県	東京都	51,821	51	神奈川県	栃木県	18,243
22	東京都	栃木県	51,809	52	東京都	宮城県	18,067
23	京都府	石川県	49,606	53	岐阜県	長野県	17,876
24	岐阜県	東京都	46,639	54	京都府	静岡県	16,926
25	石川県	東京都	44,848	55	茨城県	東京都	16,641
26	京都府	岐阜県	41,020	56	長野県	京都府	16,641
27	兵庫県	京都府	38,905	57	山梨県	神奈川県	16,395
28	和歌山県	大阪府	35,676	58	愛知県	千葉県	16,340
29	広島県	兵庫県	31,935	59	大阪府	石川県	15,860
30	京都府	愛知県	31,118	60	静岡県	神奈川県	15,412

⑧ 欧州

欧州の都道府県間の年間流動量は、東京都-千葉県間、大阪府-京都府間、京都府-東京都間の順で多く、出入国の国際空港とゴールデンルートに沿った流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	1,337,294	31	兵庫県	東京都	28,378
2	大阪府	京都府	450,287	32	奈良県	東京都	28,064
3	京都府	東京都	430,042	33	広島県	千葉県	27,961
4	神奈川県	東京都	304,407	34	沖縄県	東京都	26,804
5	大阪府	東京都	199,246	35	広島県	奈良県	26,093
6	広島県	京都府	134,148	36	和歌山県	京都府	25,639
7	広島県	大阪府	121,323	37	大阪府	神奈川県	24,274
8	奈良県	京都府	119,725	38	千葉県	北海道	24,208
9	奈良県	大阪府	109,919	39	福岡県	東京都	23,722
10	神奈川県	千葉県	107,576	40	千葉県	栃木県	23,492
11	兵庫県	大阪府	92,798	41	京都府	山梨県	22,869
12	京都府	千葉県	91,880	42	長野県	千葉県	22,839
13	広島県	東京都	85,559	43	大阪府	愛知県	22,610
14	京都府	神奈川県	73,315	44	山梨県	千葉県	22,568
15	静岡県	東京都	69,390	45	福岡県	広島県	21,888
16	山梨県	東京都	67,489	46	静岡県	千葉県	20,315
17	東京都	北海道	60,787	47	奈良県	兵庫県	19,843
18	大阪府	千葉県	56,694	48	東京都	埼玉県	18,763
19	岐阜県	石川県	55,027	49	広島県	神奈川県	18,754
20	長野県	東京都	53,699	50	千葉県	茨城県	18,302
21	愛知県	東京都	51,821	51	神奈川県	栃木県	18,243
22	東京都	栃木県	51,809	52	東京都	宮城県	18,067
23	京都府	石川県	49,606	53	岐阜県	長野県	17,876
24	岐阜県	東京都	46,639	54	京都府	静岡県	16,926
25	石川県	東京都	44,848	55	茨城県	東京都	16,641
26	京都府	岐阜県	41,020	56	長野県	京都府	16,641
27	兵庫県	京都府	38,905	57	山梨県	神奈川県	16,395
28	和歌山県	大阪府	35,676	58	愛知県	千葉県	16,340
29	広島県	兵庫県	31,935	59	大阪府	石川県	15,860
30	京都府	愛知県	31,118	60	静岡県	神奈川県	15,412

⑨ その他

その他の都道府県間の年間流動量は、東京都-千葉県間、大阪府-京都府間、京都府-東京都間の順で多く、出入国の国際空港とゴールデンルートに沿った流動が多いことがわかる。

(単位:人)

順位	都道府県間		年間流動量	順位	都道府県間		年間流動量
1	東京都	千葉県	583,177	31	東京都	茨城県	9,077
2	大阪府	京都府	128,026	32	京都府	岐阜県	8,872
3	京都府	東京都	108,130	33	広島県	千葉県	8,759
4	神奈川県	東京都	84,434	34	愛知県	岐阜県	8,287
5	大阪府	東京都	77,854	35	京都府	石川県	7,994
6	神奈川県	千葉県	49,025	36	長野県	東京都	7,660
7	大阪府	千葉県	41,835	37	広島県	奈良県	7,644
8	広島県	大阪府	31,833	38	石川県	東京都	7,503
9	奈良県	大阪府	31,344	39	岐阜県	石川県	7,320
10	奈良県	京都府	31,120	40	東京都	埼玉県	6,807
11	京都府	千葉県	28,984	41	千葉県	北海道	6,609
12	兵庫県	大阪府	28,102	42	京都府	長野県	6,601
13	広島県	京都府	25,953	43	福岡県	東京都	6,447
14	山梨県	東京都	25,767	44	愛知県	静岡県	6,362
15	静岡県	東京都	23,347	45	兵庫県	京都府	6,080
16	愛知県	東京都	20,272	46	不明空港	愛知県	6,058
17	広島県	東京都	19,677	47	香川県	大阪府	6,032
18	東京都	栃木県	18,674	48	奈良県	東京都	5,688
19	静岡県	千葉県	15,996	49	新潟県	千葉県	5,625
20	東京都	北海道	14,837	50	広島県	神奈川県	5,417
21	千葉県	栃木県	13,247	51	兵庫県	東京都	5,309
22	京都府	神奈川県	12,986	52	京都府	静岡県	5,260
23	山梨県	千葉県	11,990	53	千葉県	群馬県	5,221
24	千葉県	茨城県	11,910	54	京都府	山梨県	5,201
25	千葉県	埼玉県	10,338	55	千葉県	宮城県	5,147
26	大阪府	愛知県	10,034	56	長野県	栃木県	5,066
27	愛知県	千葉県	9,924	57	長野県	千葉県	4,984
28	不明空港	東京都	9,791	58	三重県	愛知県	4,960
29	岐阜県	東京都	9,760	59	新潟県	東京都	4,943
30	京都府	愛知県	9,644	60	岐阜県	長野県	4,937

2-3 各都県への国籍別・性別・年代別流動数及び総流動数

(1) 対象データ

①出典

『FF-data』 都道府県間流動表 2019 年

②算出方法

- ・各都県への流入数は1都10県に限らず、全都道府県からの流入数を算出した。
- ・対象とした国籍は、韓国・中国・台湾・香港・ASEAN・欧州・北米・オセアニア・その他

【複数国籍について】

ASEAN：タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム

欧 州：英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、ロシア、その他欧州

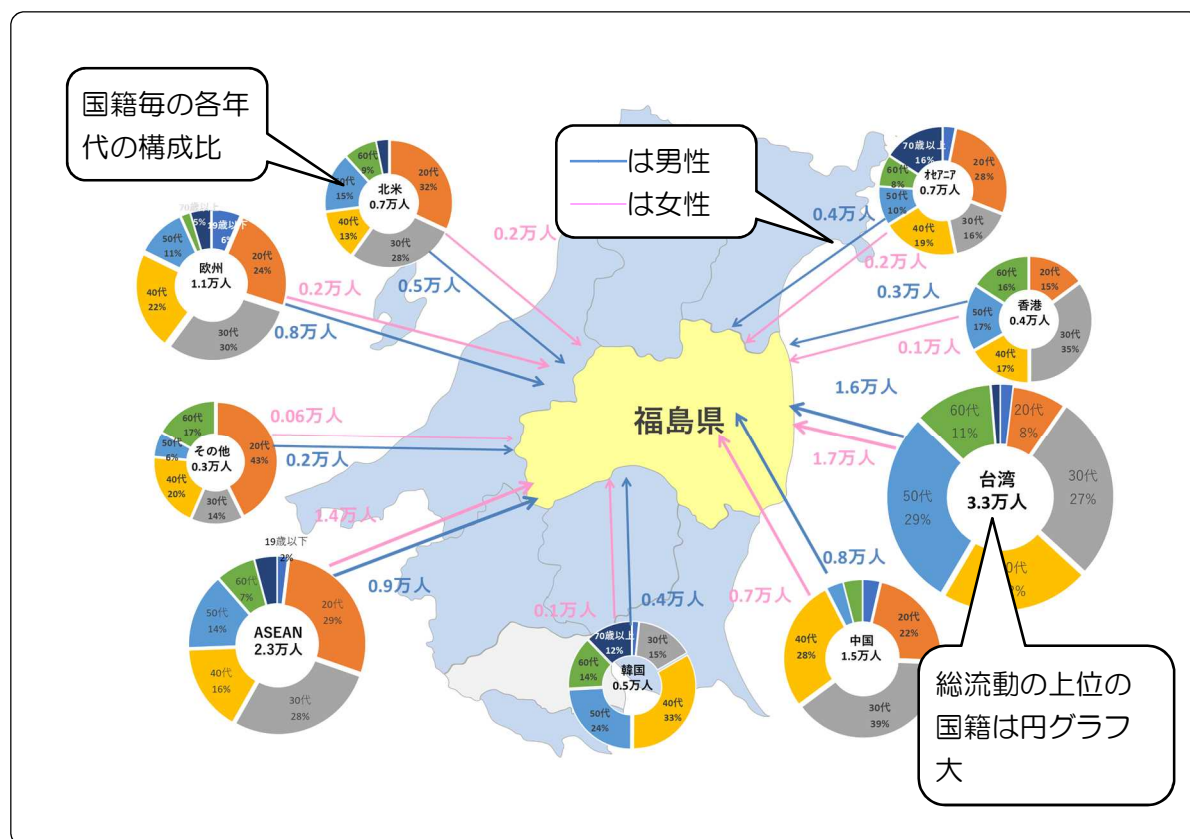
北 米：米国、カナダ、その他北アメリカ

オセアニア：オーストラリア、その他オセアニア

その他：南米、西南アジア等

- ・1都10県毎に値を集計した。

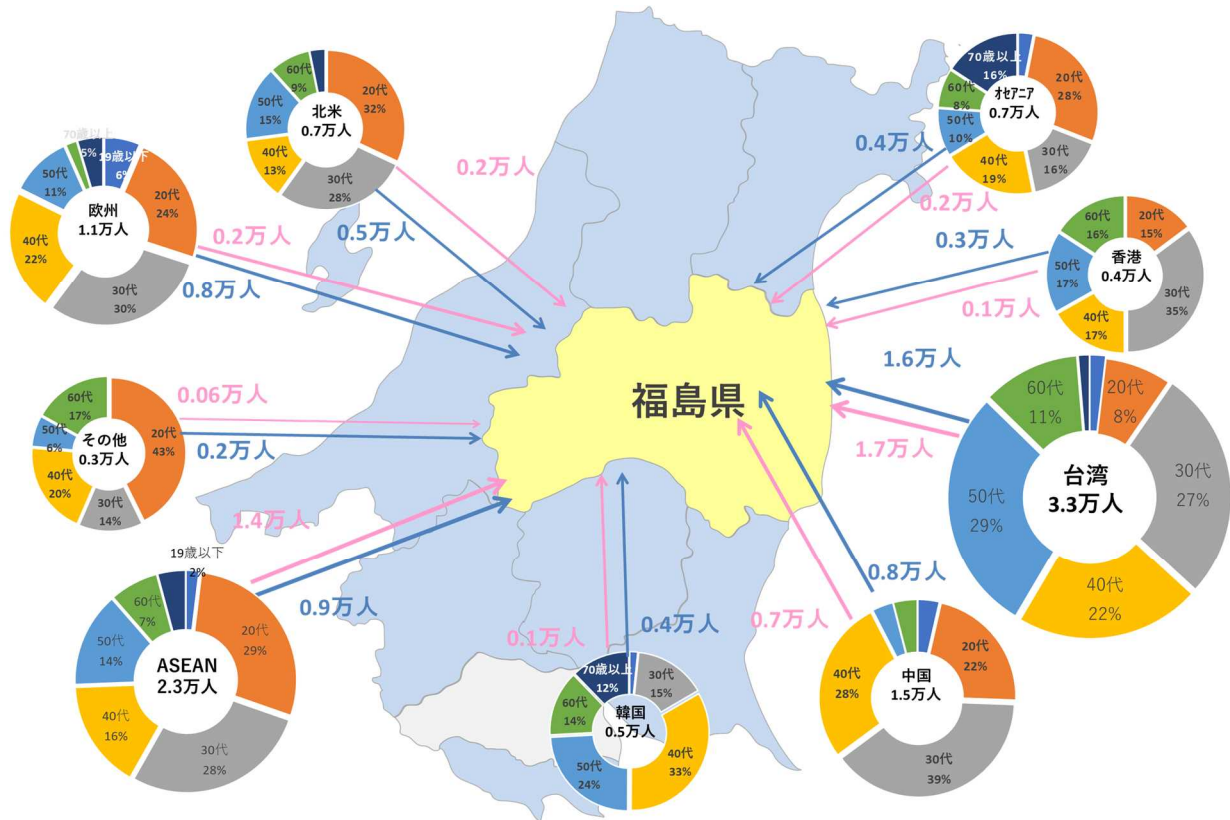
③集計結果の図について



(2) 集計結果

① 福島県

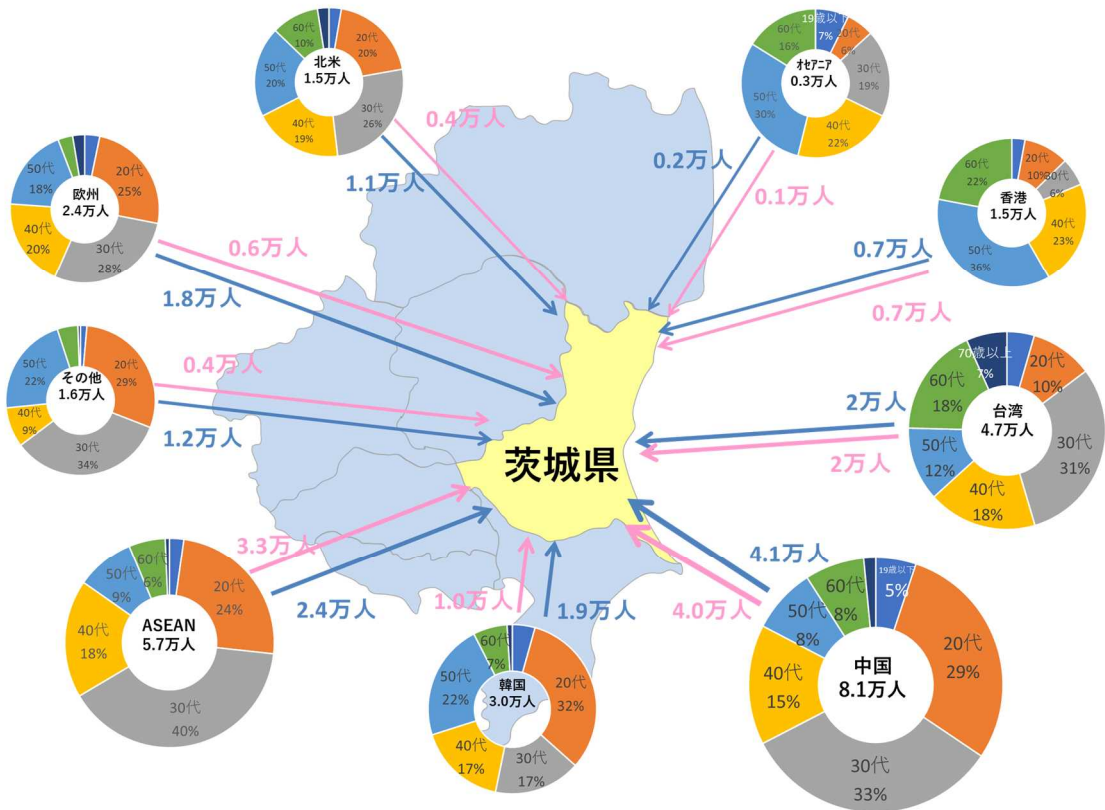
- ・台湾からの訪問が約3.3万人と最も多く、次いで ASEAN、中国の順になっている。
- ・そのうち、台湾を除き ASEAN、中国では30代以下の若年層の訪問数が過半数を占めている。



福島県への総流入数：109,081 人

② 茨城県

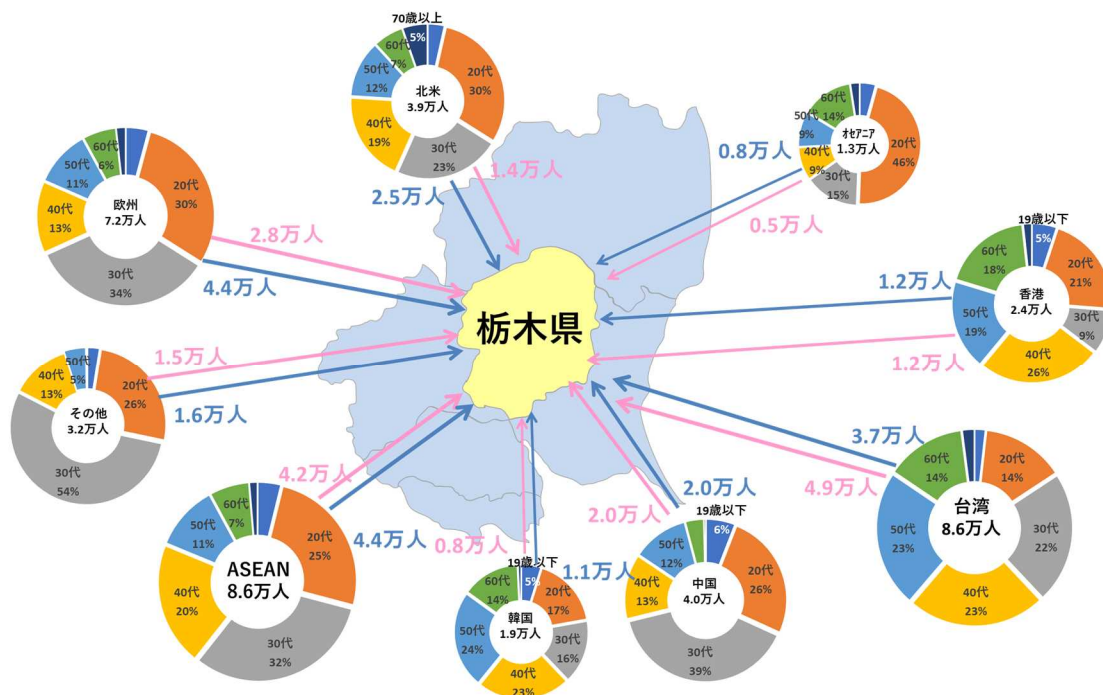
- ・ 中国からの訪問数が約8.1万人と最も多く、次いでASEAN、台湾の順になっている。
- ・ そのうち、台湾を除き、中国、ASEANでは30代以下の若年層の訪問数が過半数を占めている。



茨城県への総流入数(2019)：217,337 人
 茨城空港への総流入数(2019)：65,729 人

③ 栃木県

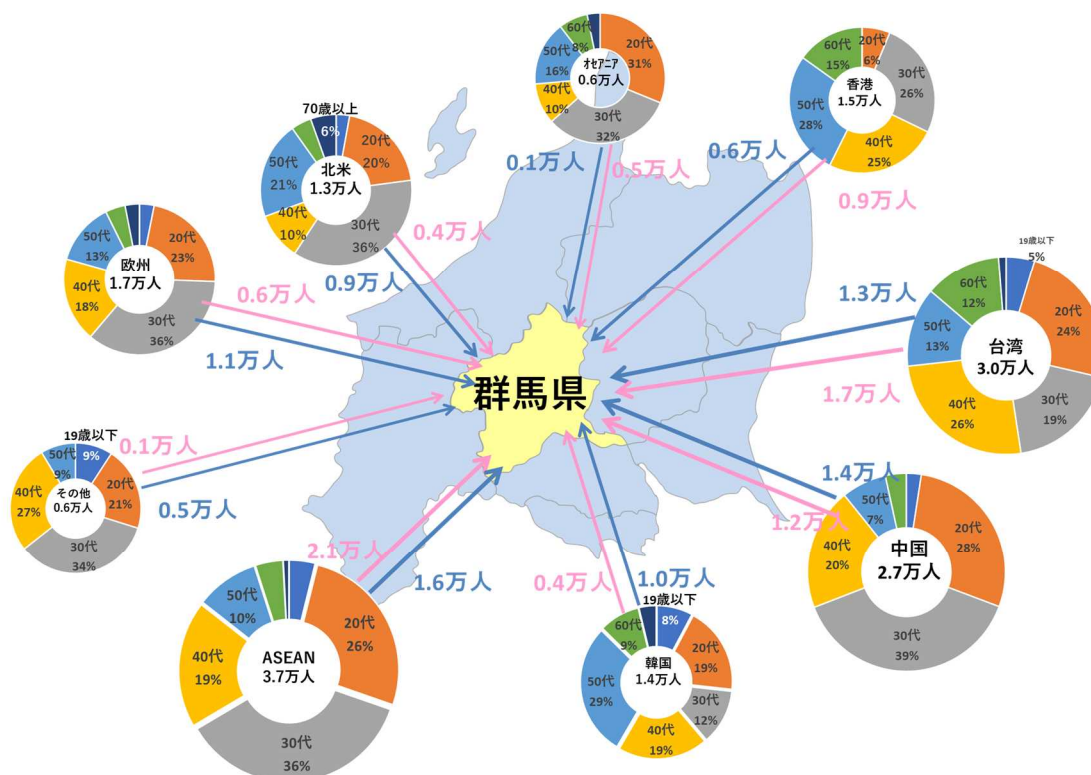
- ・台湾とASEANからの訪問数が約8.6万人と最も多く、次いで欧州の順になっている。
- ・そのうち、台湾を除きASEAN、欧州では30代以下の若年層の訪問数が過半数を占めている。



栃木県への総流入数(2019)：412,147 人

④ 群馬県

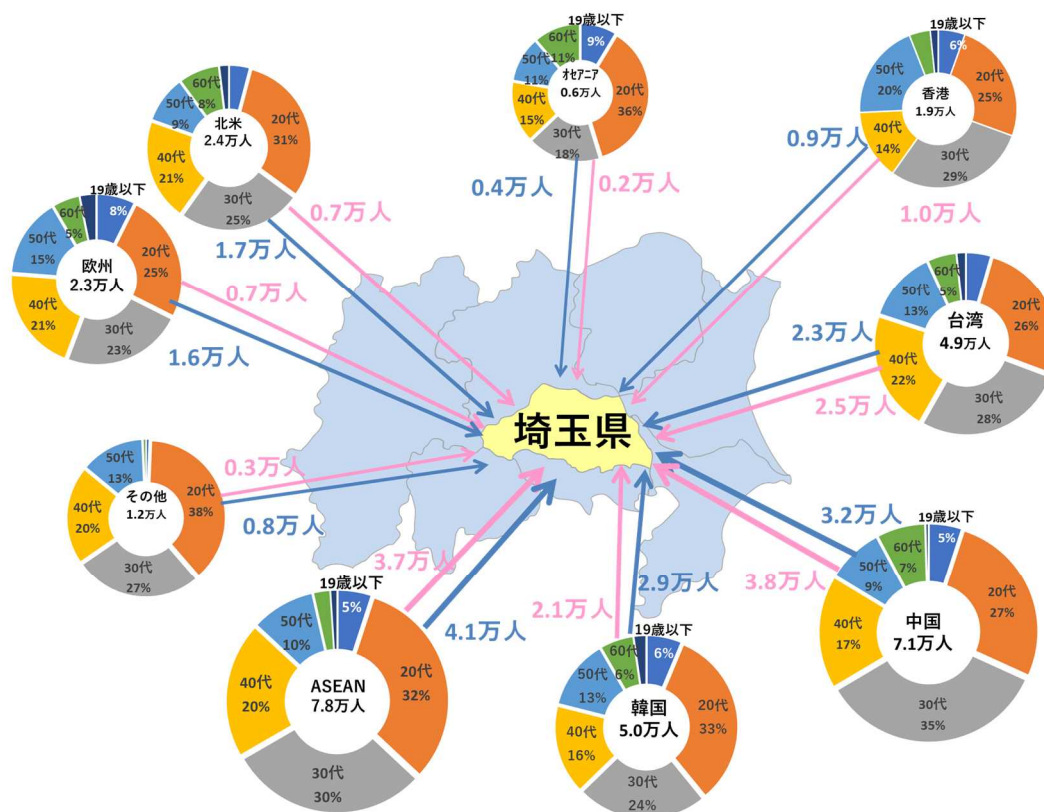
- ASEAN からの訪問数が約3.7万人と最も多く、次いで台湾、中国の順になっている。
- そのうち、台湾を除き ASEAN、中国では30代以下の若年層の訪問数が過半数を占めている。



群馬県への総流入数(2019)：165,213 人

⑤ 埼玉県

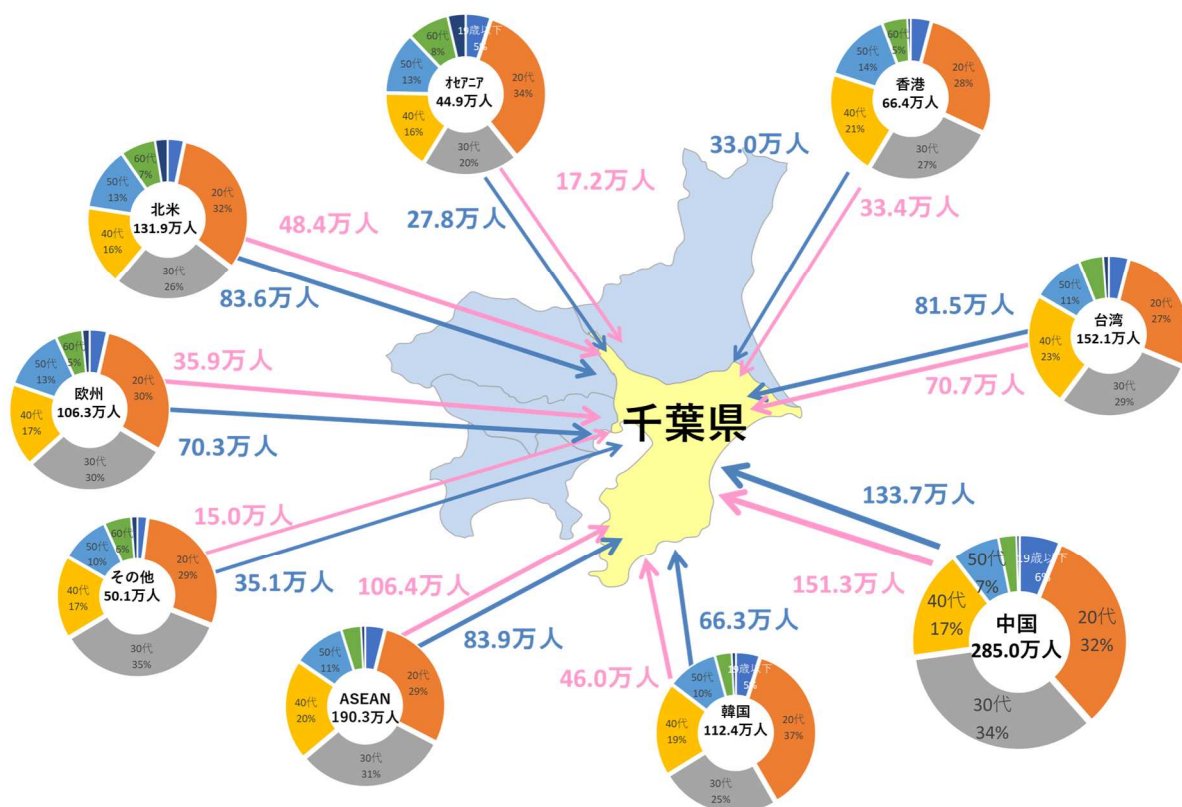
- ASEAN からの訪問数が約7.8万人と最も多く、次いで中国、韓国の順になっている。
- そのうち、いずれの国においても、30代以下の若年層の訪問数が過半数を占めている。



埼玉県への総流入数(2019)：332,635 人

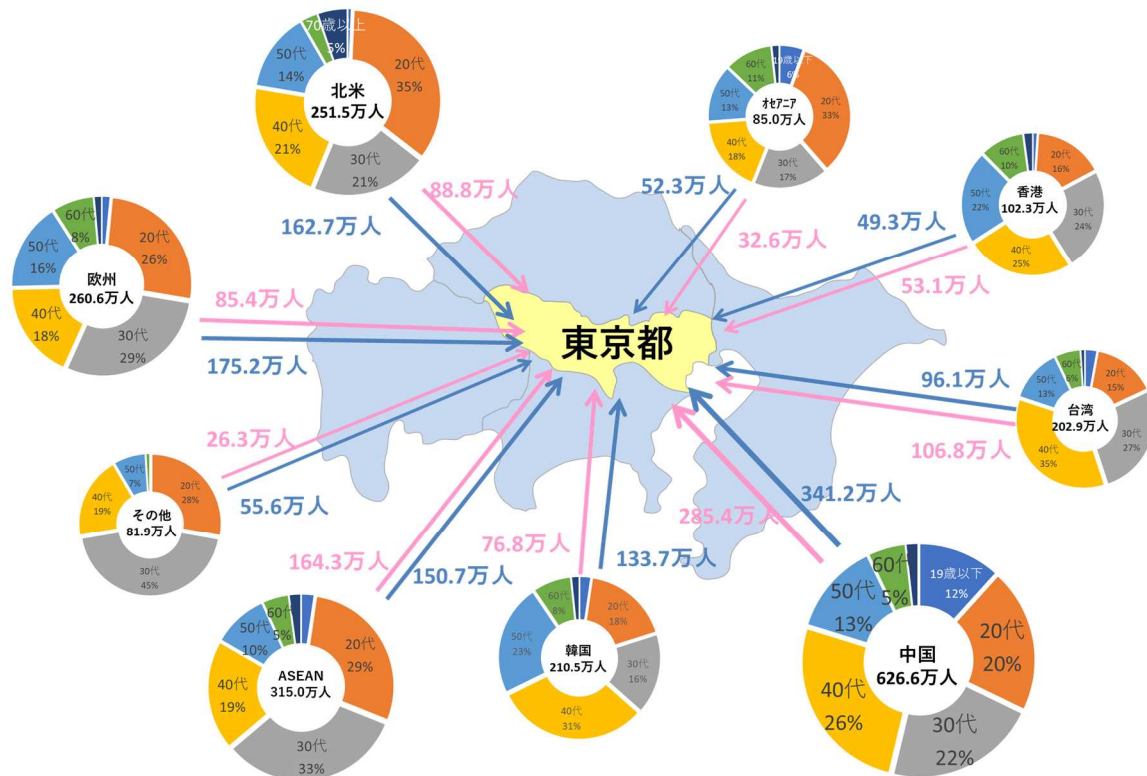
⑥ 千葉県

- 中国からの訪問数が約 285.0 万人と最も多く、次いで ASEAN、台湾の順になっている。
- そのうち、いずれの国においても、30代以下の若年層の訪問数が過半数を占めている。



⑦ 東京都

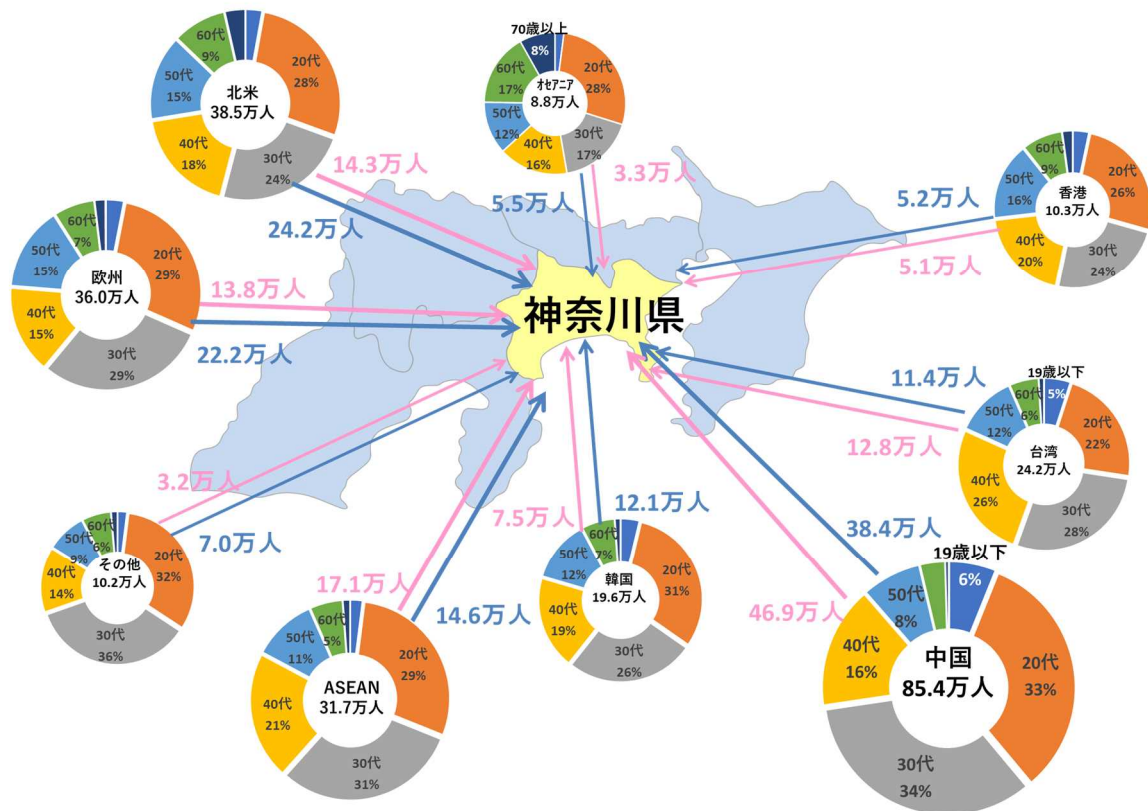
- 中国からの訪問数が約 626.6 万人と最も多く、次いで ASEAN、欧州の順になっている。
- そのうち、いずれの地域においても、30代以下の若年層が過半数を占めている。



東京都への総流入数(2019)：17,149,626 人
羽田空港への総流入数(2019)：4,222,185 人

⑧ 神奈川県

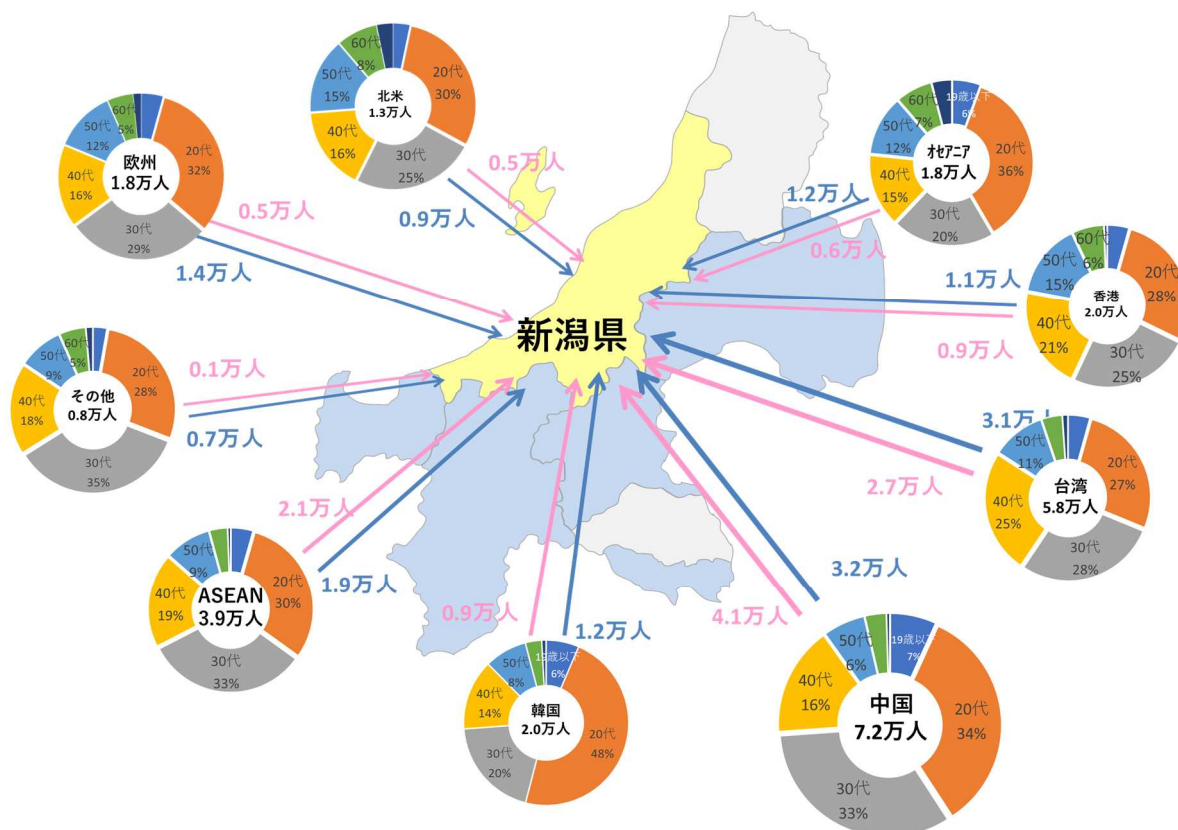
- ・中国からの訪問数が約85.4万人と最も多く、次いで北米、欧州の順になっている。
- ・そのうち、いずれの地域においても、30代以下の若年層が過半数を占めている。



神奈川県への総流入数(2019)：2,646,263 人

⑨ 新潟県

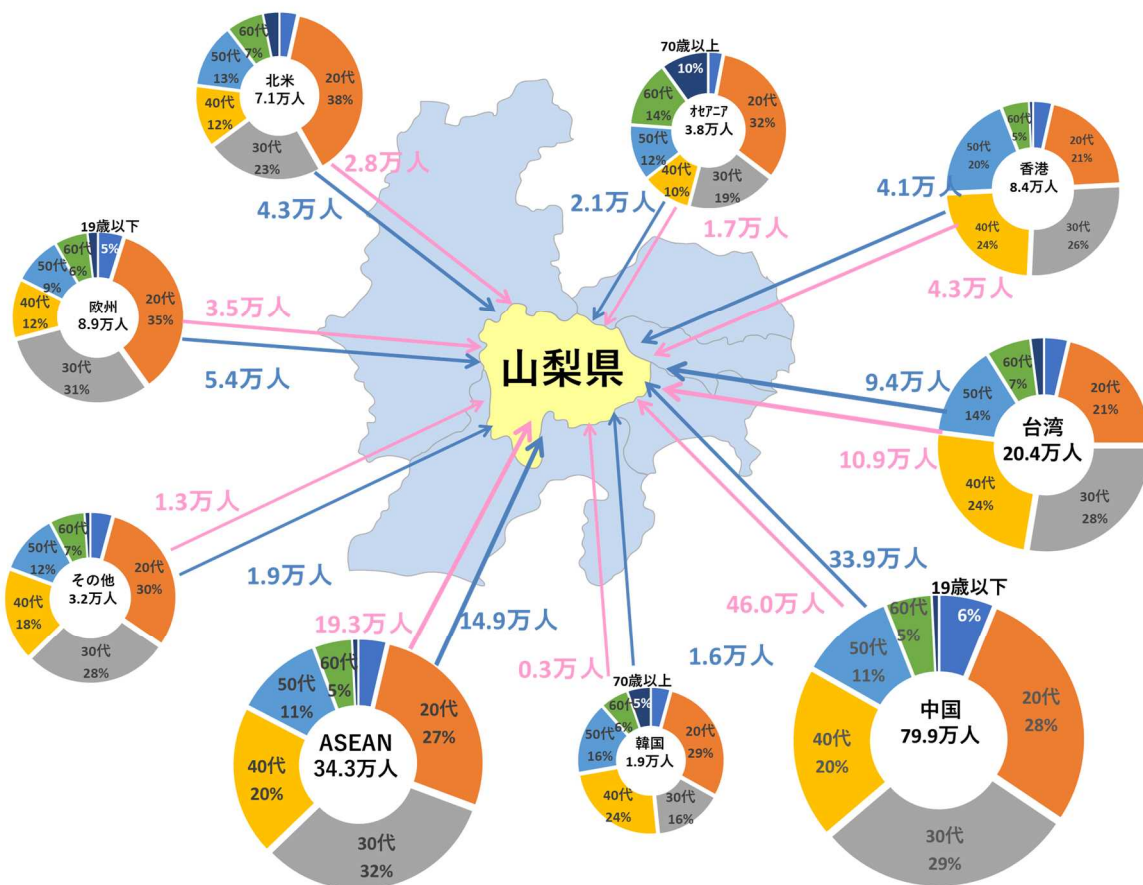
- ・中国からの訪問数が約7.2万人と最も多く、次いで台湾、ASEAN となっている。
- ・そのうち、いずれの国においても、30代以下の若年層の訪問数が過半数を占めている。



新潟県への総流入数(2019)：225,807 人
新潟空港への総流入数(2019)：43,404 人

⑩ 山梨県

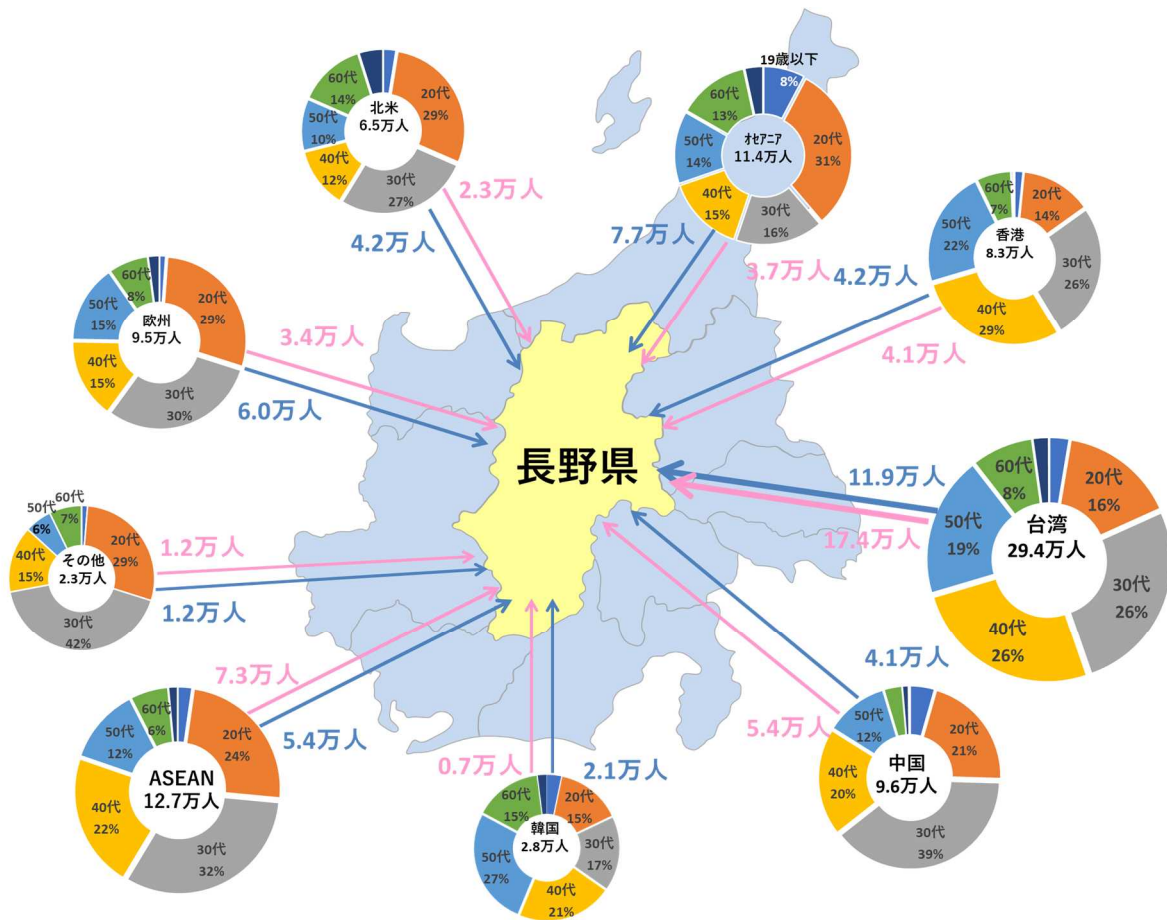
- ・中国からの訪問数が約79.9万人と最も多く、次いでASEAN、台湾の順になっている。
- ・そのうち、いずれの地域においても、30代以下の若年層が過半数を占めている。



山梨県への総流入数(2019)：1,678,946 人

⑪ 長野県

- 台湾からの訪問数が約29.4万人と最も多く、次いでASEAN、オセアニアの順になっている。
- そのうち、台湾を除きASEAN、オセアニアでは30代以下の若年層の訪問数が過半数を占めている。



長野県への総流入数(2019)：924,844 人

2-4 各都県への四半期別入込客数

2-4-1 総入込客数

(1) 対象データ

①出典

『FF-data』 公表用データベース 2015 年～2019 年

②算出方法

- ・ 入込空港を最初の訪問地都県および目的地間の都県に置き換えた
- ・ 対象とした国籍は、韓国・中国・台湾・香港・ASEAN・欧州・北米・オセアニア・その他

【複数国籍について】

ASEAN：タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、
ベトナム

欧 州：英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、ロシア、その他欧州

北 米：米国、カナダ、その他北アメリカ

オセアニア：オーストラリア、その他オセアニア

その他：南米、西南アジア等

- ・ 四半期別に 1 都 10 県毎の流動量を算出し、さらに国籍別の集計を行った。

(2) 集計結果

① 年間総入込客数

関東広域(1都10県)各都県ごとの2015年～2019年の年間入込客数は下表の通り。空港を除いた値では、東京都が最も多く、次いで神奈川県、千葉県と続く。

(単位:千人)

	2,015	2,016	2,017	2,018	2,019
福島県	63	74	67	94	109
茨城県	137	186	164	199	217
(茨城空港)	58	67	41	58	66
栃木県	262	323	362	394	412
群馬県	111	161	133	161	165
埼玉県	264	298	278	304	333
千葉県	1,893	1,942	2,042	2,077	2,404
(成田空港)	6,099	6,815	7,616	8,544	8,990
東京都	14,277	16,046	16,071	15,259	17,150
(羽田空港)	2,482	3,272	3,732	4,036	4,222
神奈川県	2,159	2,149	2,346	2,492	2,646
新潟県	119	131	181	189	226
(新潟空港)	32	27	31	41	43
山梨県	885	839	1,016	1,350	1,679
長野県	583	647	775	843	925

2-4-2 各都県への四半期別入込客数、国籍別・四半期別入込客数

(1) 対象データ

①出典

『FF-data』 公表用データベース 2015 年～2019 年

②算出方法

- ・入込空港を最初の訪問地都県および目的地間の都県に置き換えた
- ・対象とした国籍は、韓国・中国・台湾・香港・ASEAN・欧州・北米・オセアニア・その他

【複数国籍について】

ASEAN：タイ、シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム

欧 州：英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、ロシア、その他欧州

北 米：米国、カナダ、その他北アメリカ

オセアニア：オーストラリア、その他オセアニア

その他：南米、西南アジア等

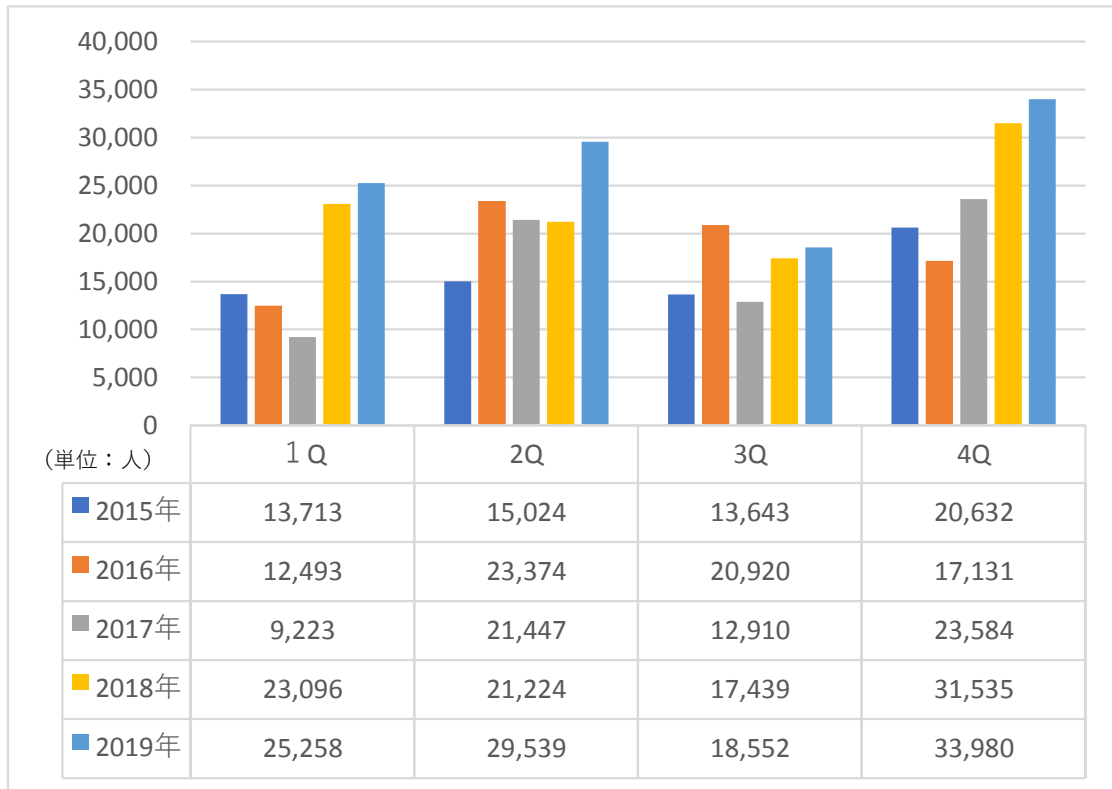
- ・四半期別に 1 都 10 県毎の流動量を算出し、さらに国籍別の集計を行った。

(2) 集計結果

① 福島県

(i) 四半期別入込客数：福島県

- ・福島県における四半期別流動数では、2016 年を除き 10-12 月が最も多くなっている。
- ・2019 年の流動数は、年間を通して前年より増加傾向にある。
- ・1 月-3 月の流動数では、2018 年に大きく増加している。



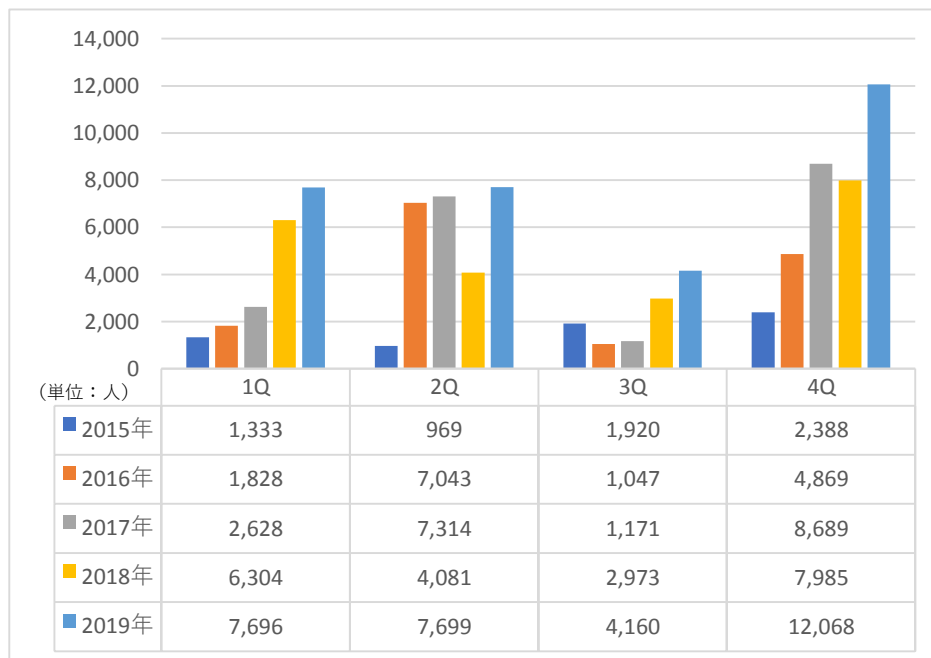
※ 1 Q(1 月-3 月)、2Q(4 月-6 月)、3Q (7-9 月)、4Q (10 月-12 月)

(ii) 国籍別・四半期別入込客数：福島県

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

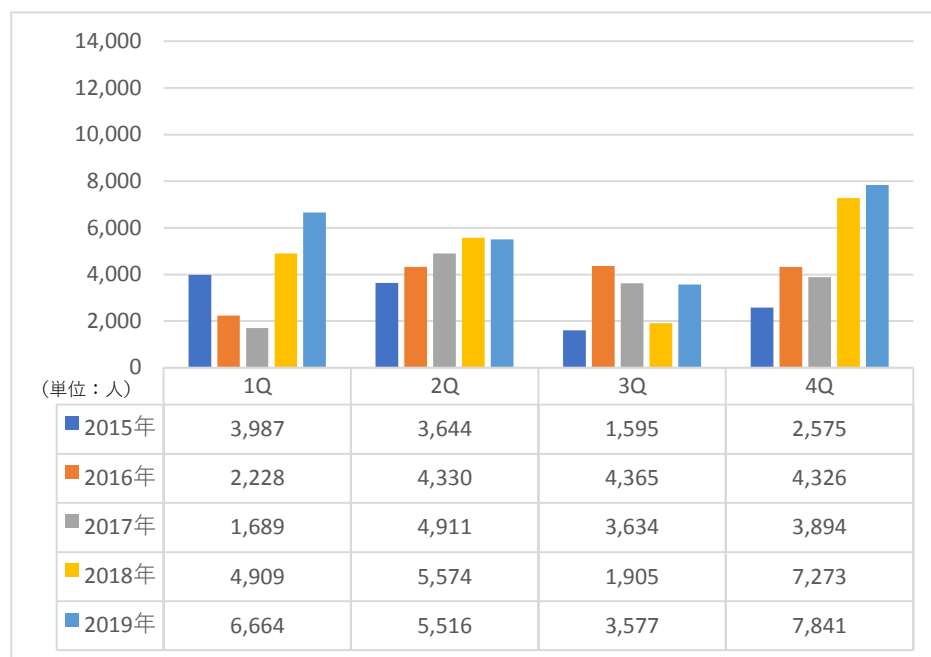
台湾

- 福島県への総流動量が最も多い台湾の流動数では、2017 年以降 10 月-12 月が多く、特に 2019 年には 1 万人を超えている。
- 7 月-9 月の流動数は、2015 年を除き最も少なくなっている。



ASEAN

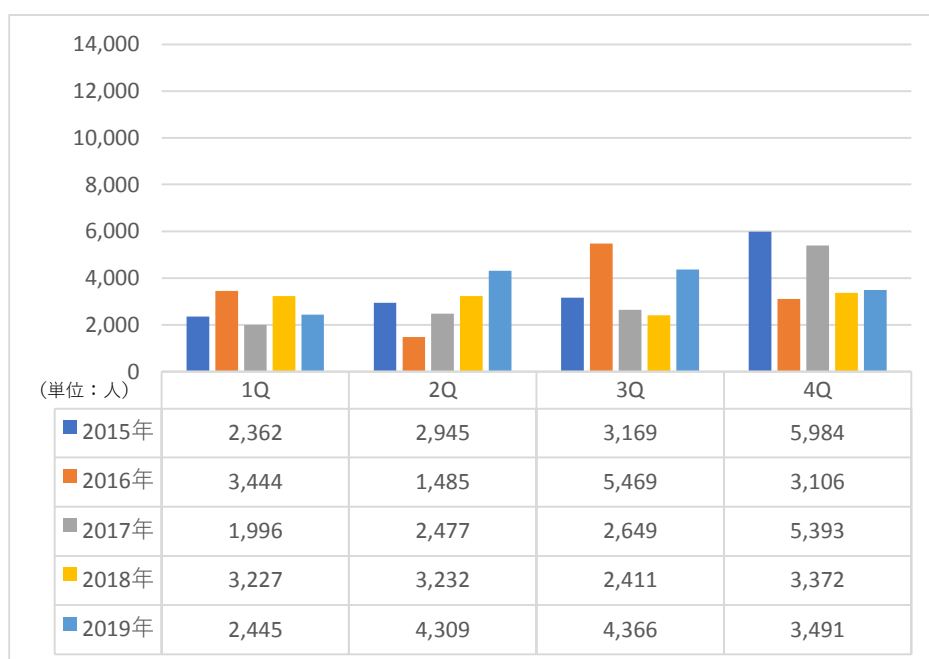
- ASEAN からの流動数では、1 月-3 月と 10-12 月が 2018 年に大きく増加している。
- 10-12 月の流動数では、2017 年を除き増加傾向である。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

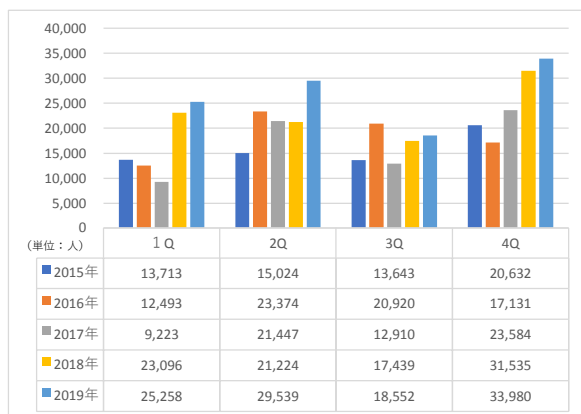
中国

- 中国からの流動数では、4月-6月がやや増加傾向となっている。
- 2019年の流動数では、1月-3月を除き前年より多くなっている。

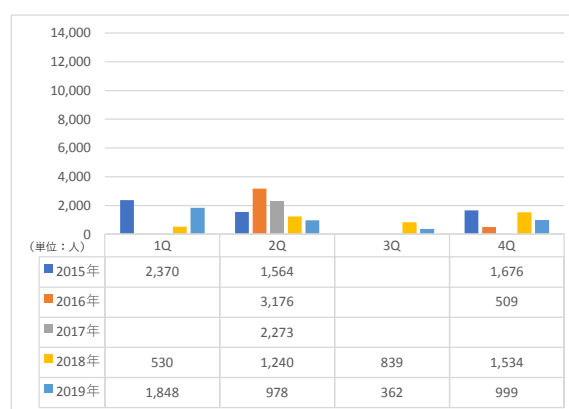


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

韓国

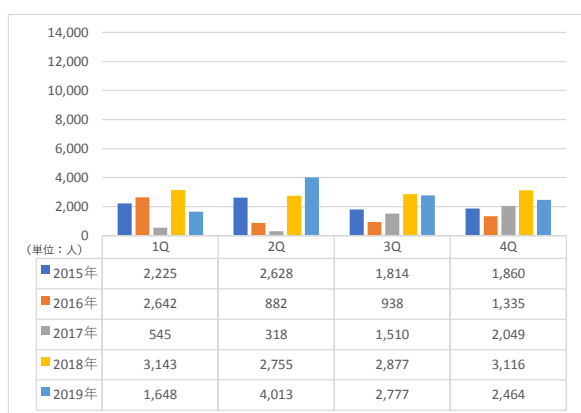


香港

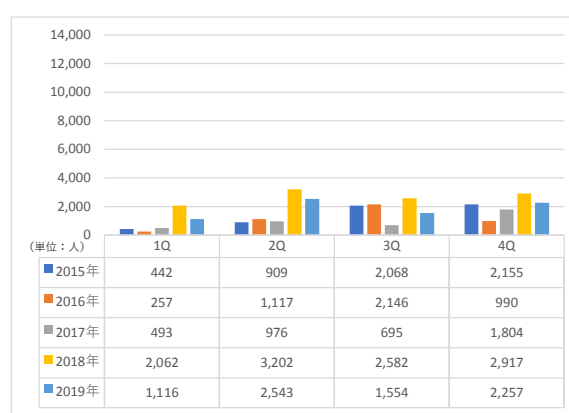


※空白の箇所はサンプル回収なし

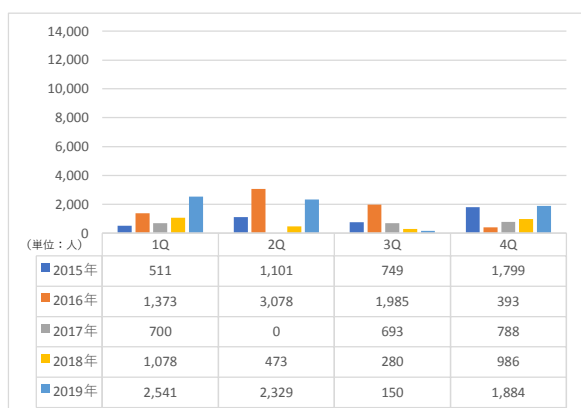
欧州



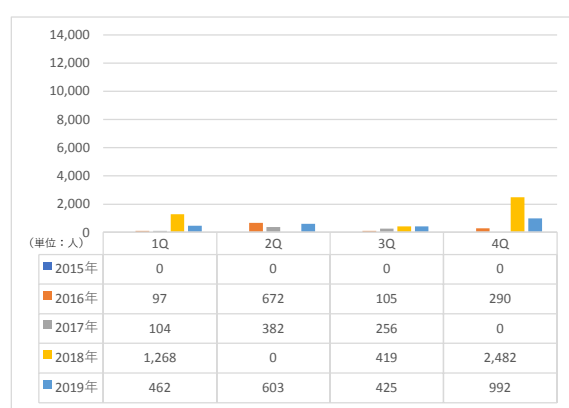
北米



オセアニア



その他



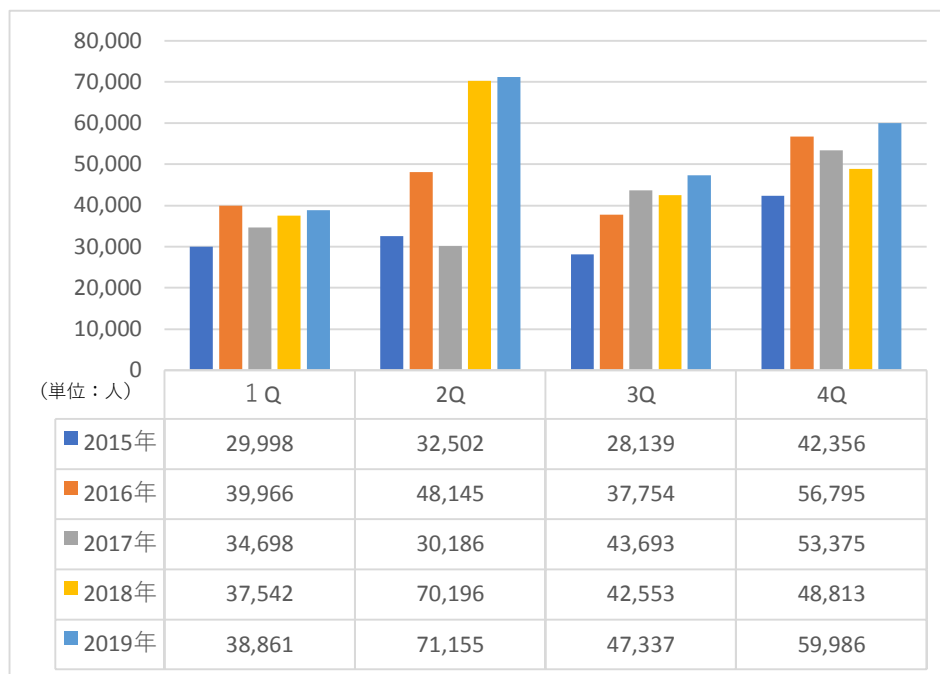
※1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

② 茨城県

(i) 四半期別入込客数：茨城県

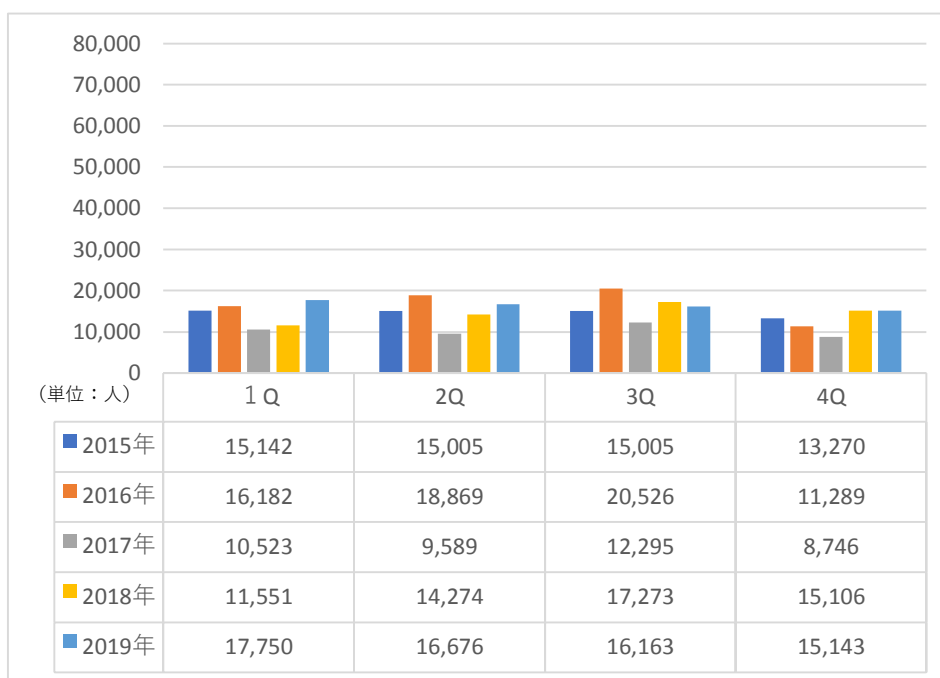
茨城県への入込客数（空港除く）

- ・茨城県における四半期別流動数では、2017 年までは 10-12 月に最も多くなっていたが、2018 年以降は 4 月-6 月が最も多くなっている。
- ・2019 年の流動数は、年間を通して前年より増加傾向にある。



茨城空港への入込客数

- ・茨城空港における 2019 年の流動数は、ほぼ横ばいとなっている。
- ・四半期別の大きな変化は見られない。



※ 1 Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q (7-9月)、4Q (10月-12月)

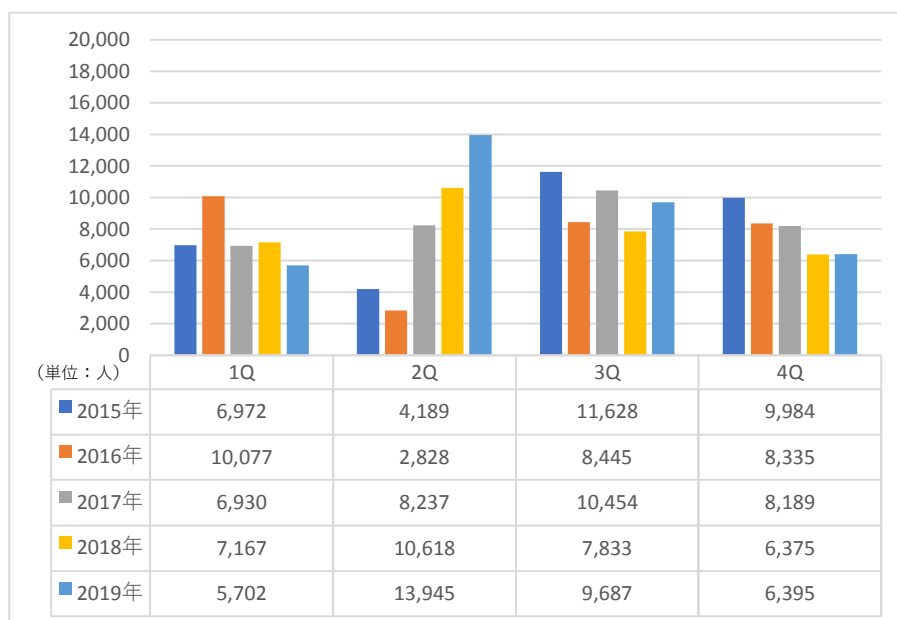
(ii) 国籍別・四半期別入込客数：茨城県

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

茨城県への入込客数（空港除く）

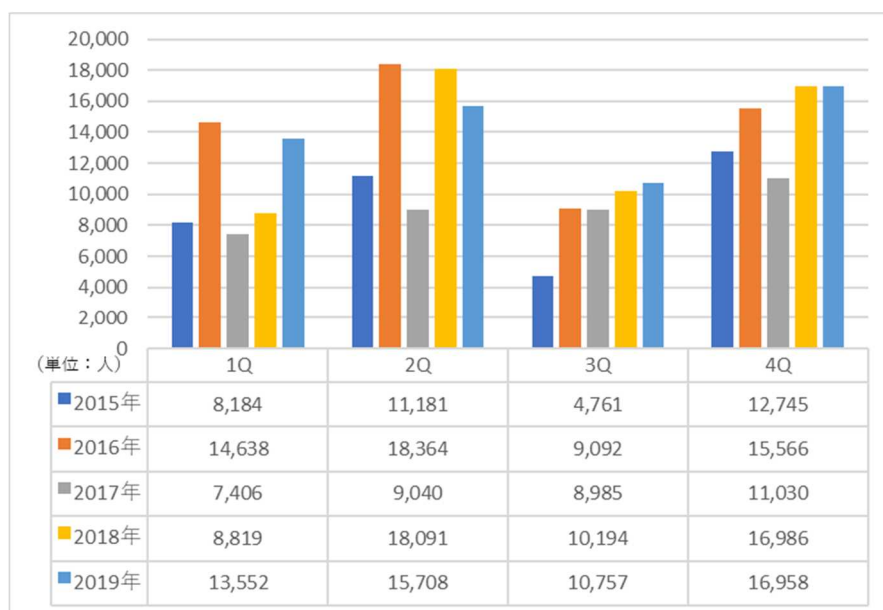
中国

- 総流動量において茨城県への入込客数が最も多かった中国は、茨城空港への入込客数を除いた茨城県への入込客数では ASEAN や台湾を下回った。
- 2017 年の 1 月-3 月の流動数は特に多くなっている。



ASEAN

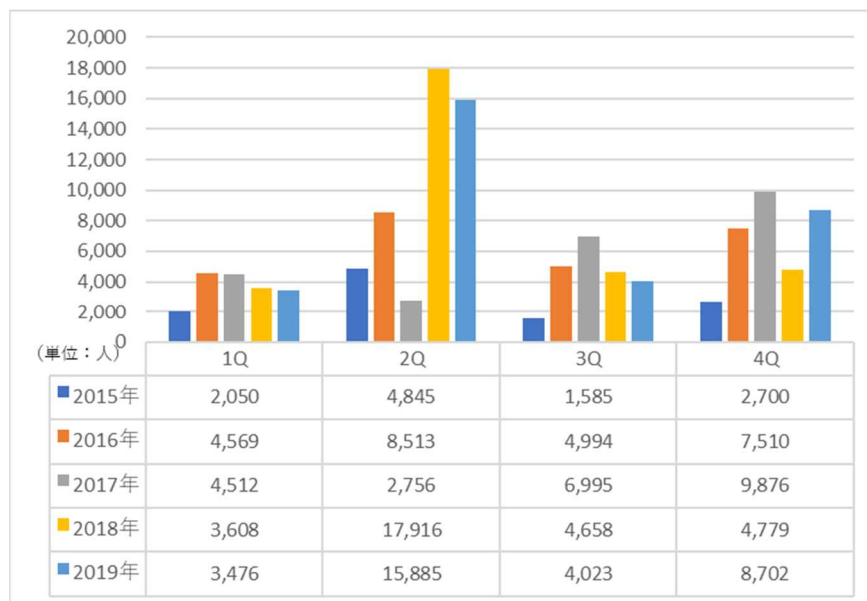
- ASEAN からの流動数は、いずれの年においても 10-12 月が多くなっている。
- 2019 年の訪問者が特に多く、1 月-3 月と 10-12 月では 1 万人を超えている。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

台湾

- 台湾からの 2019 年の流動数は、前年よりも減少傾向にある。
- 2016 年の 4 月-6 月の流動数は特に多く、1 万 8 千人を超えている。

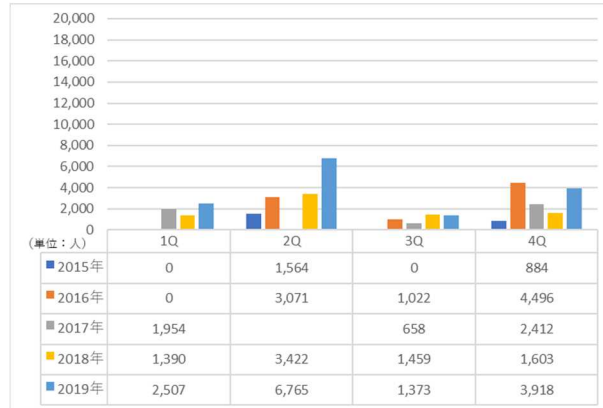


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

韓国

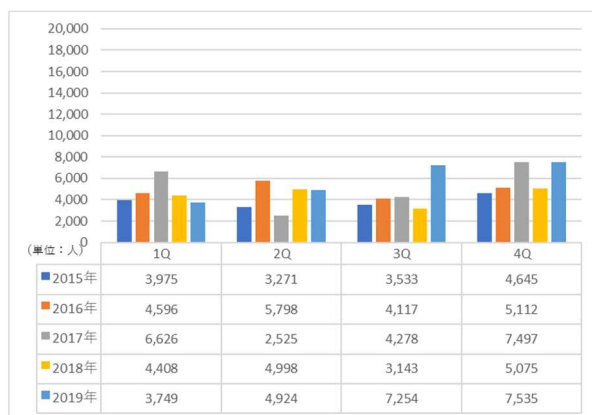


香港

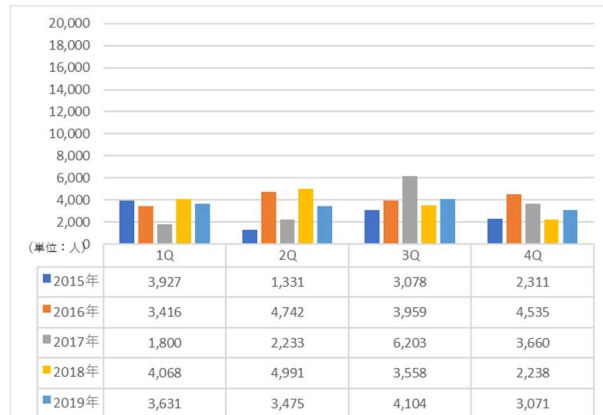


※空白の箇所はサンプル回収なし

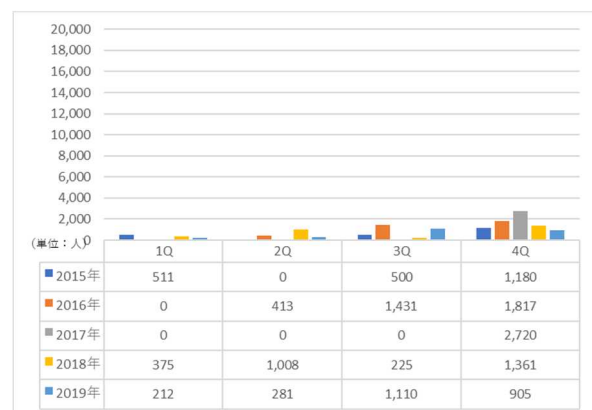
欧州



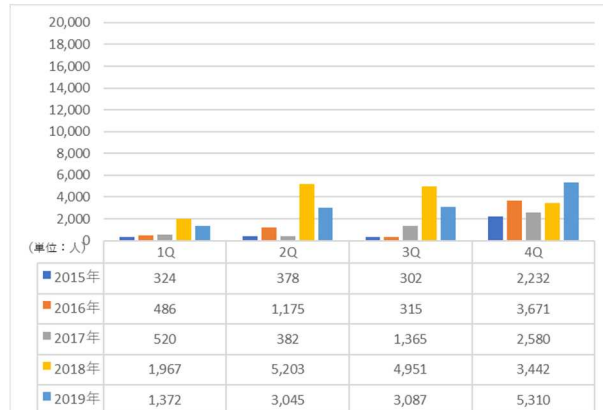
北米



オセアニア



その他



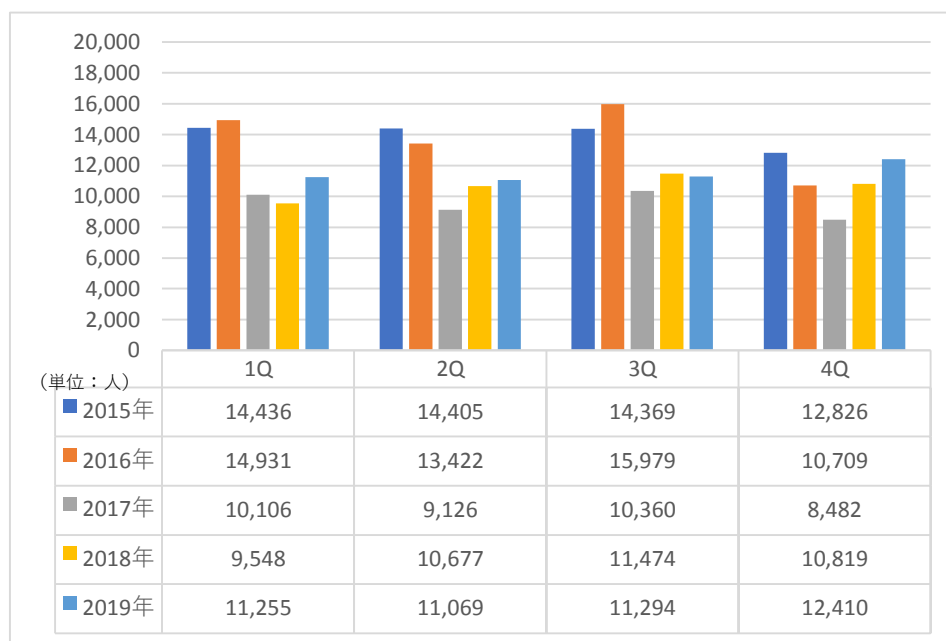
※1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

茨城空港への入込客数

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

中国

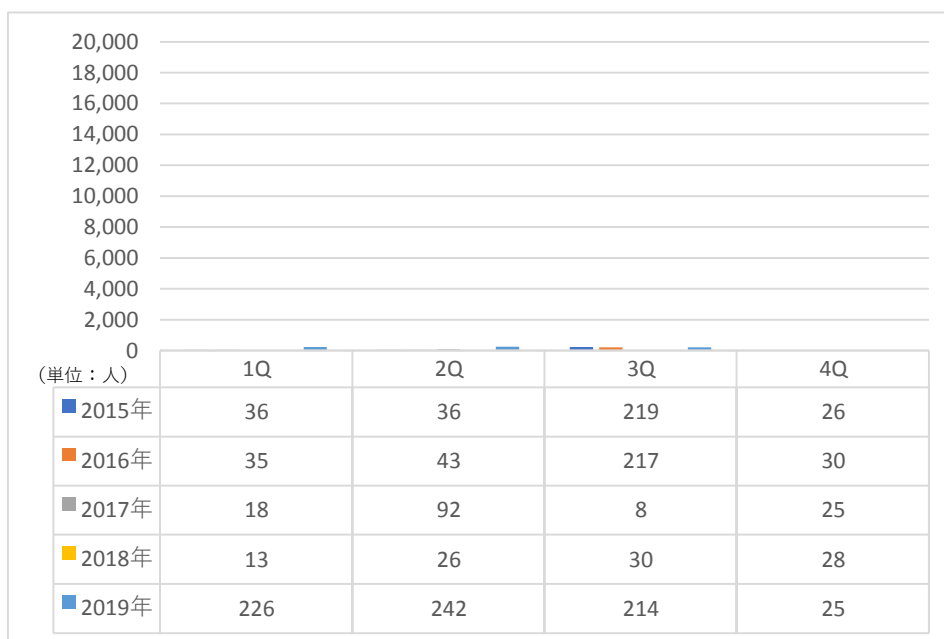
- 総流動量において茨城県への訪問数が最も多かった中国では、各四半期で茨城空港の利用者数は10,000人近い流動数となっており、年間を通じて大きな変動は見られない。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

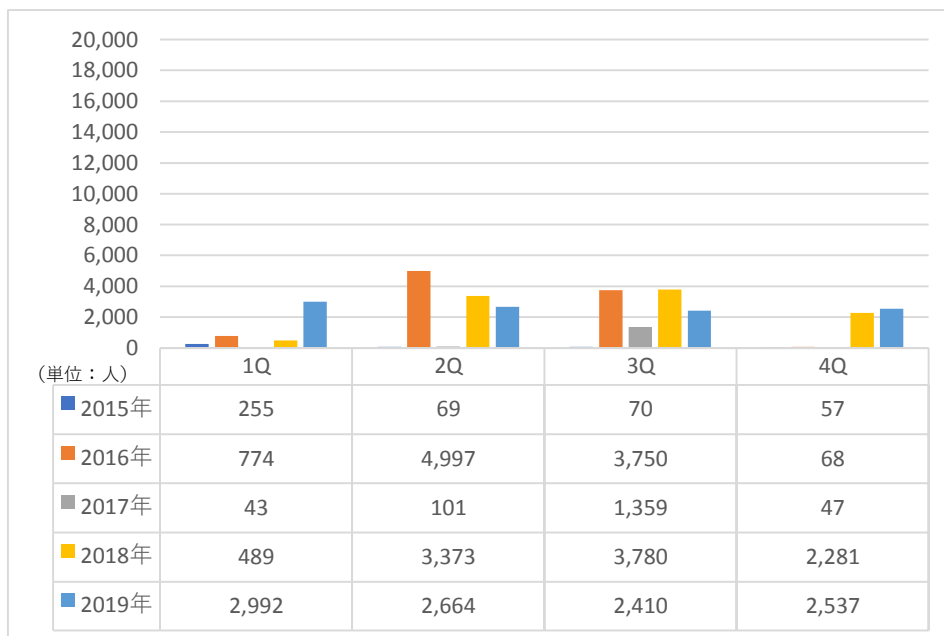
ASEAN

- ASEAN から茨城空港への流動数は、中国や台湾と比べ少なくなっている。
- ASEAN から茨城県への流動は中国に次ぐ総流動数であるが、中国とは対照的に茨城県内への流動数が多い。



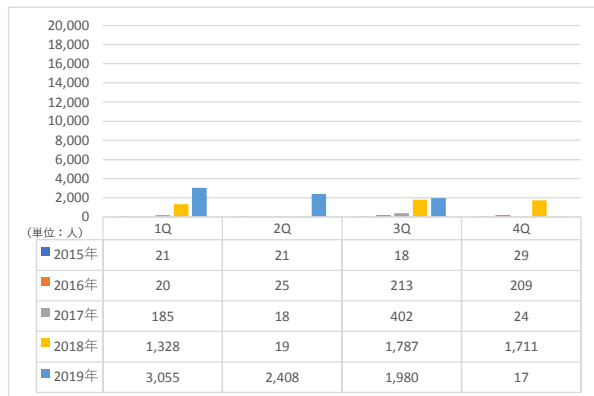
台湾

- 台湾から茨城空港への2019年の流動数は、年間を通してほぼ横ばいとなっている。
- 2018年4月-6月以降流動数が大きく増えており、2,000人以上となっている。

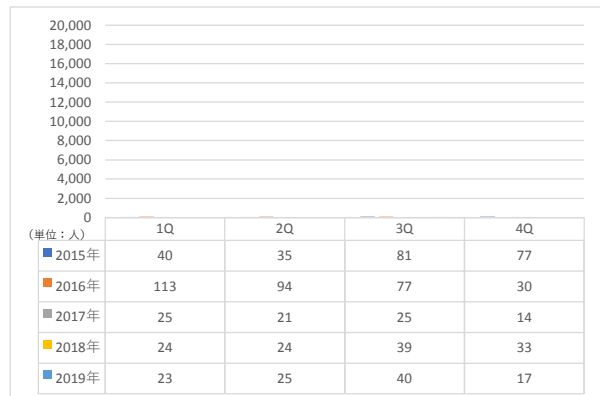


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

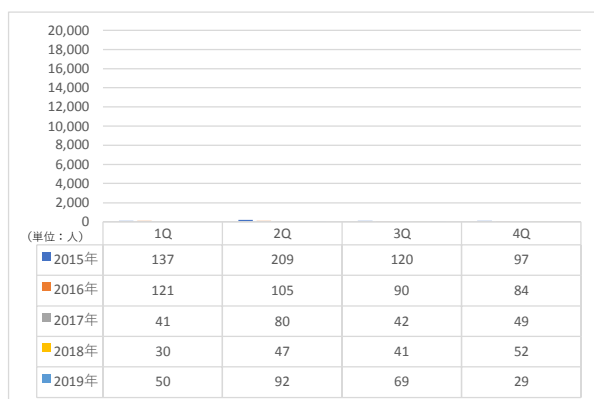
韓国



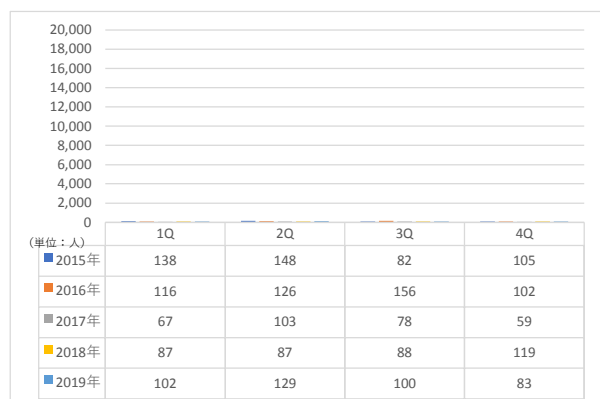
香港



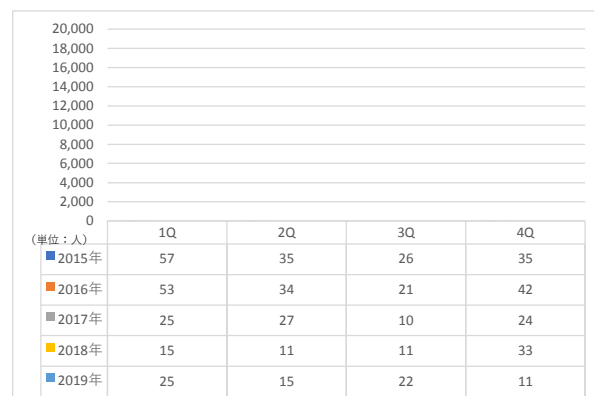
欧州



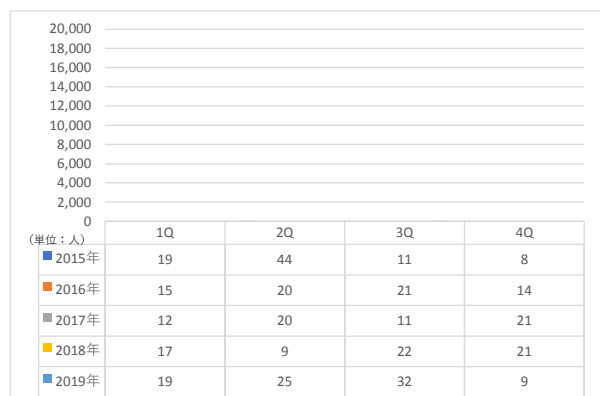
北米



オセアニア



その他

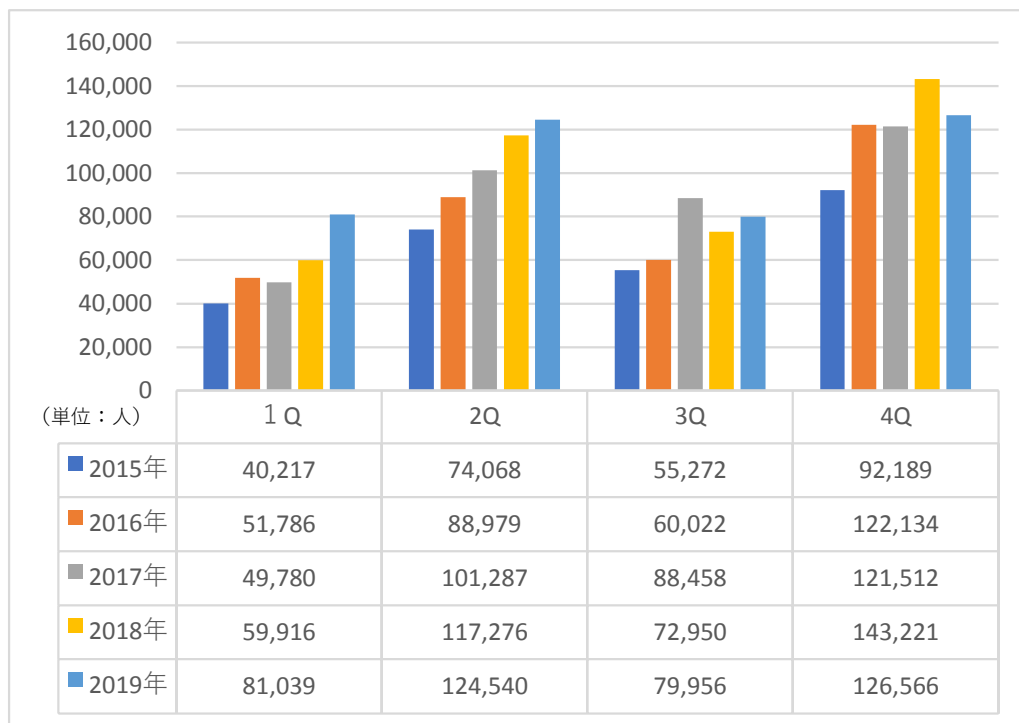


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

③ 栃木県

(i) 四半期別：栃木県

- ・ 栃木県における四半期別流動数では、全体的に増加傾向である。
- ・ いずれの年においても 10-12 月が最も多くなっている。
- ・ 2019 年の流動数では、10-12 月のみ前年より減少している。



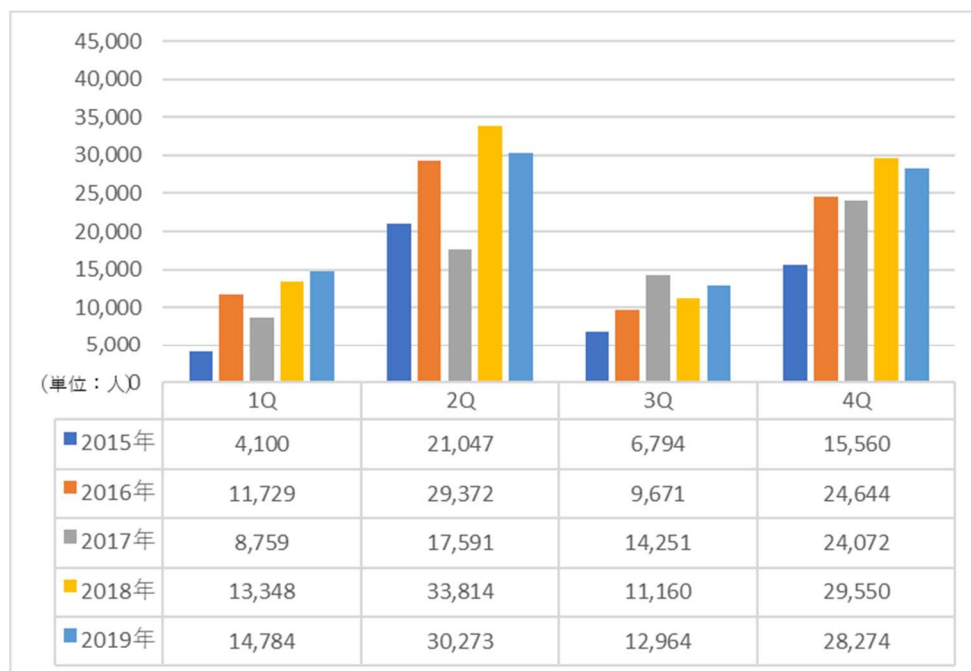
※ 1 Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q (7-9月)、4Q (10月-12月)

(ii) 国籍別・四半期別入込客数：栃木県

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

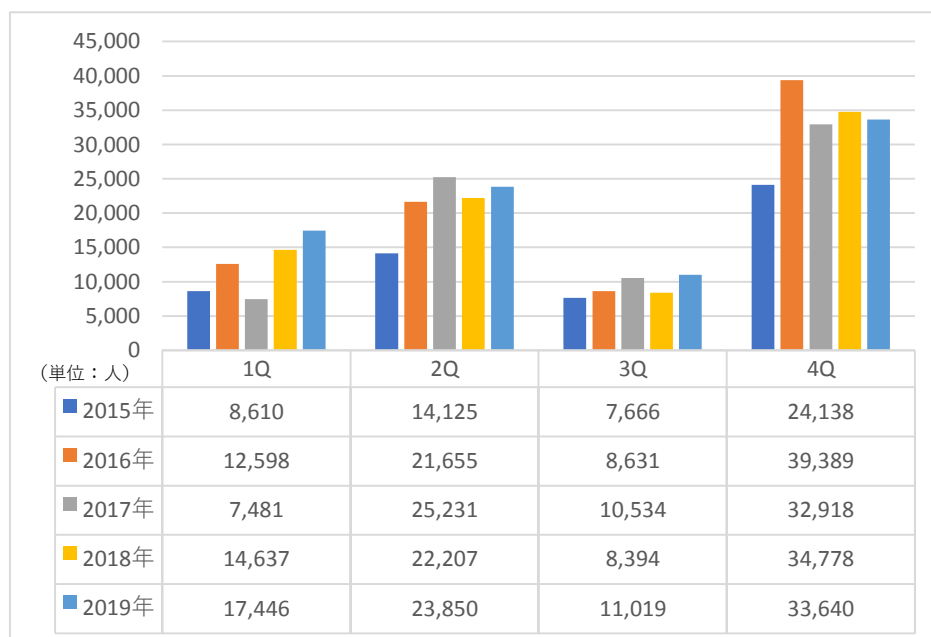
台湾

- ・ 栃木県への総流動量が多い台湾の流動数は、四半期別では 2017 年を除き 4 月-6 月が最も多くなっている。
- ・ 次いで 10-12 月の流動数が多く、2017 年では最も多くなっている。



ASEAN

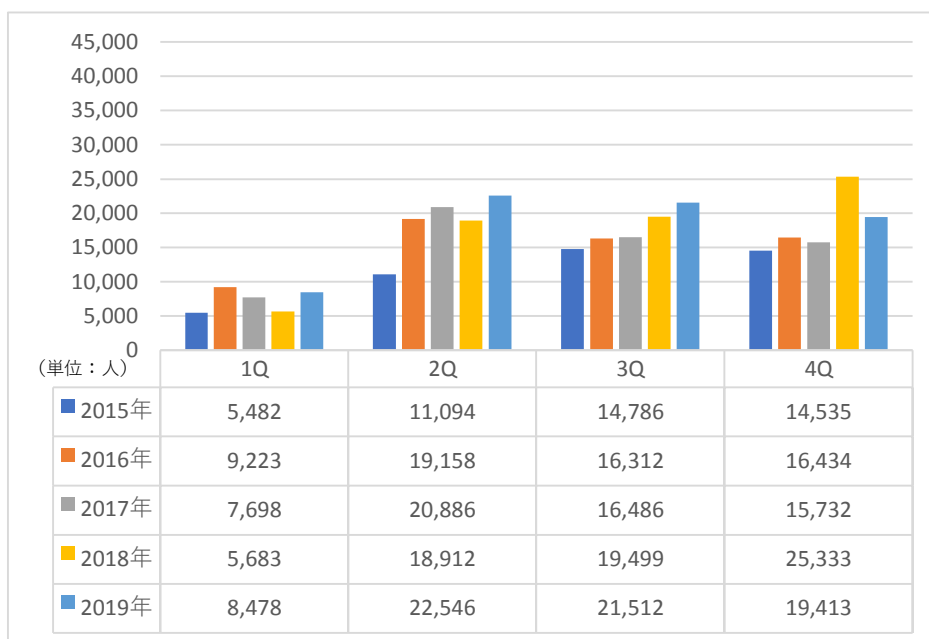
- ・ 台湾と同じく栃木県への総流動量が多い ASEAN からの流動数では、10-12 月の流動数が最も多く、7 月-9 月の倍以上となっている。
- ・ 1 月-3 月の流動数は増加傾向だが、10-12 月の流動数はやや減少傾向である。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

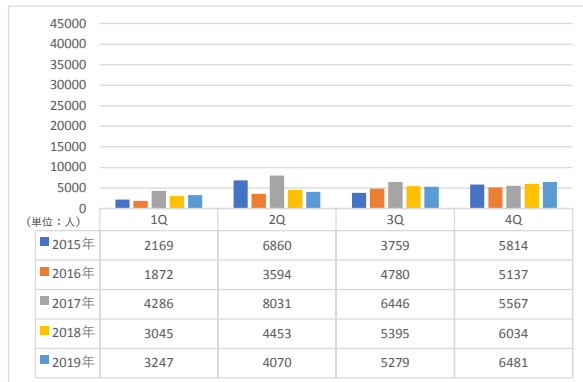
欧州

- 欧州から栃木県への流動数では、1月-3月が少なくなっている。
- 年間を通しての流動数はやや増加傾向にある。

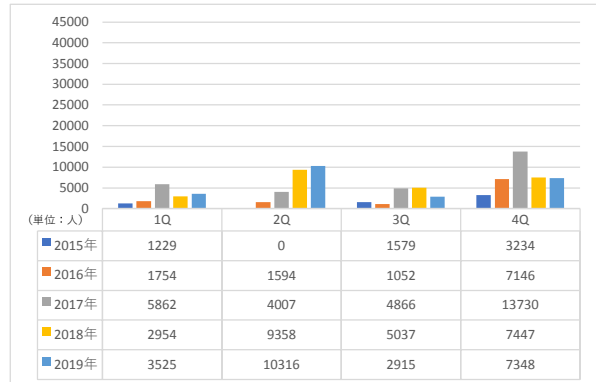


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

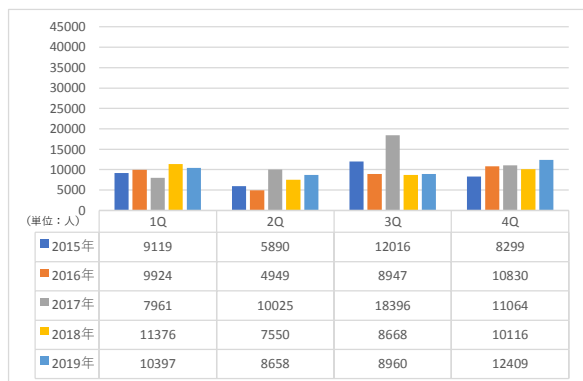
韓国



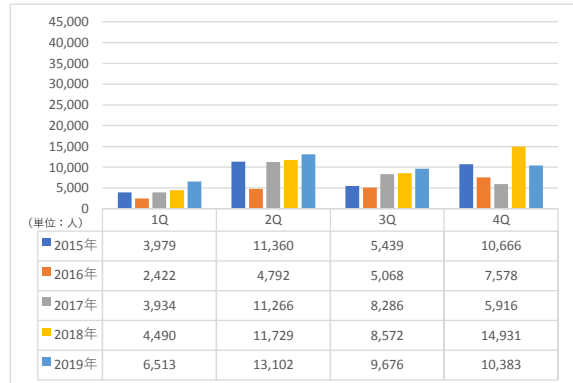
香港



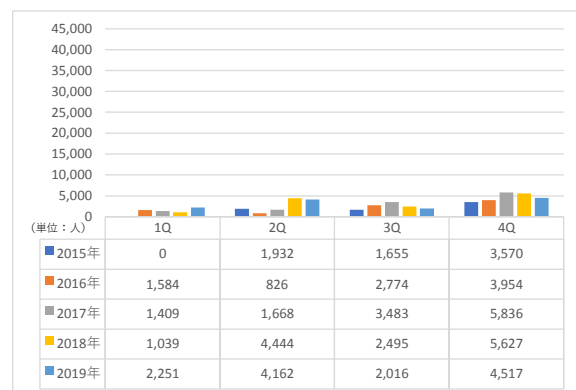
中国



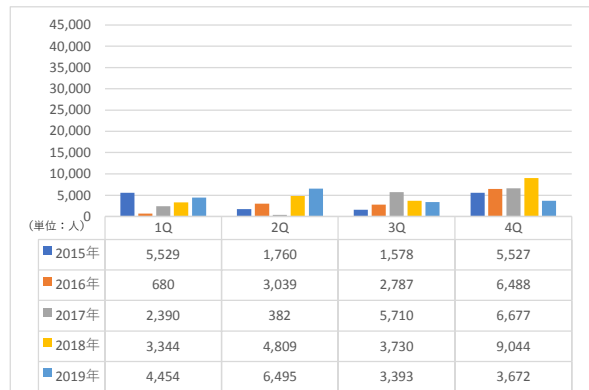
北米



オセアニア



その他



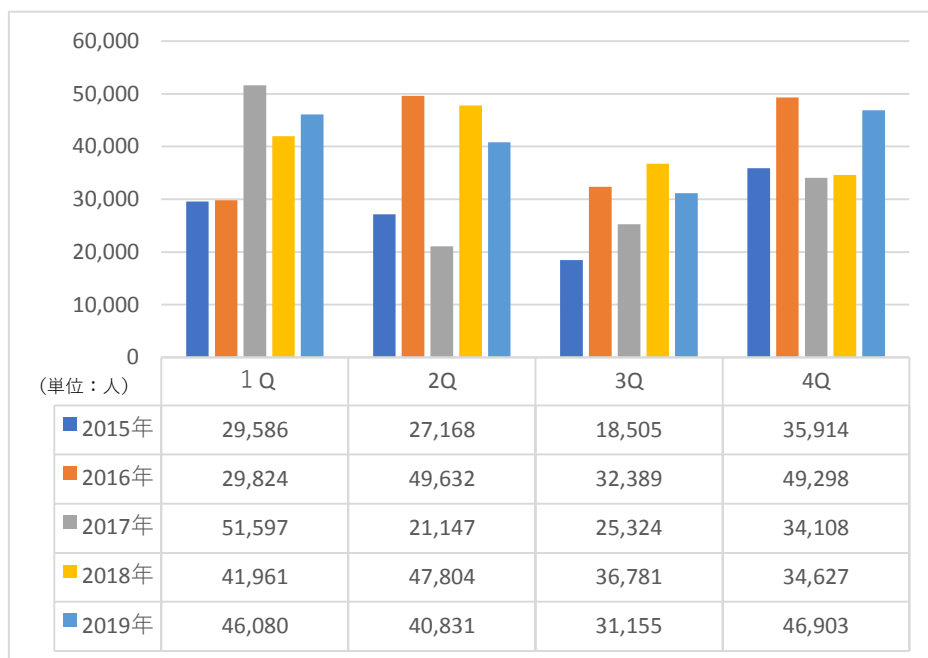
※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

④ 群馬県

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

(i) 四半期別入込客数：群馬県

- ・群馬県における四半期別流動数では、2018年を除き7月-9月が最も少なくなっている。
- ・1月-3月の流動数では、2017年に大きく増加している。
- ・2017年の1月-3月の流動数が最も多く、5万人を超えている。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

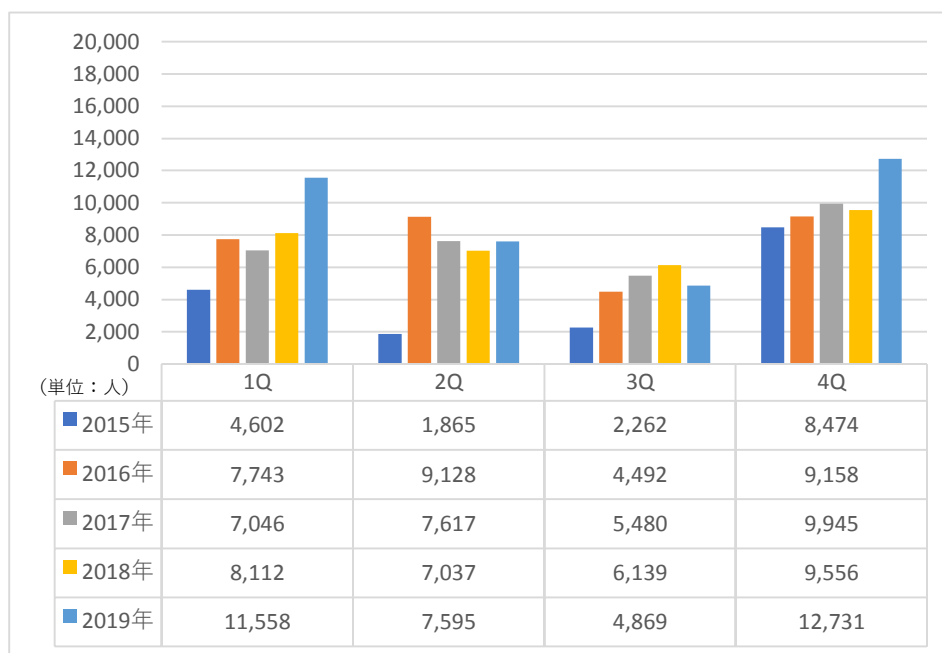
(ii) 国籍別・四半期別入込客数：群馬県

※1 Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

※2 国籍別総流動の上位3位を記載

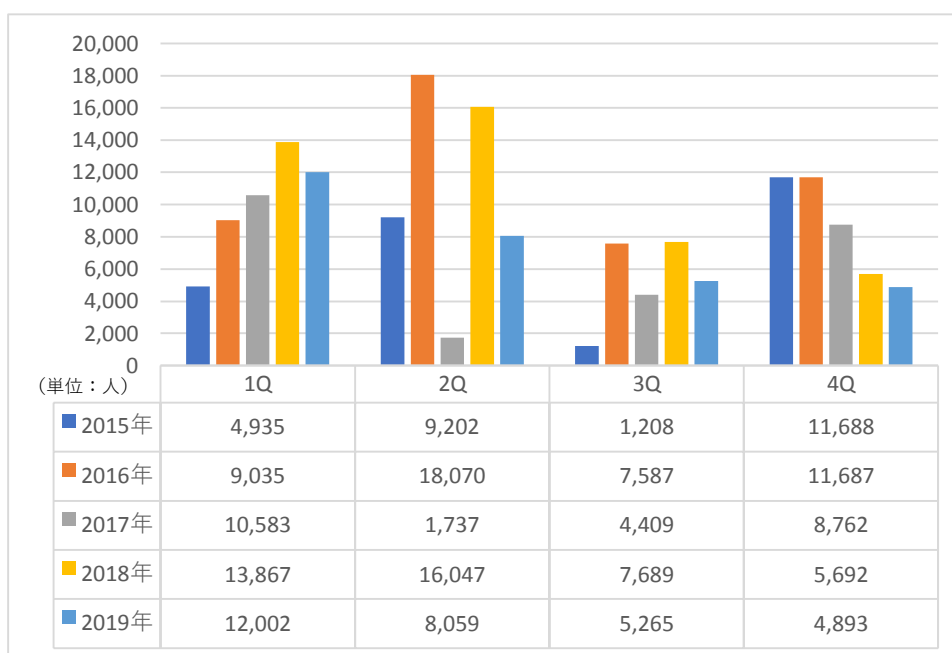
ASEAN

- ・群馬県への総流動量が最も多いASEANの流動数では、10-12月が最も多くなっている。
- ・1月-3月と10-12月の流動数は増加傾向にあるが、4月-6月はやや減少傾向である。



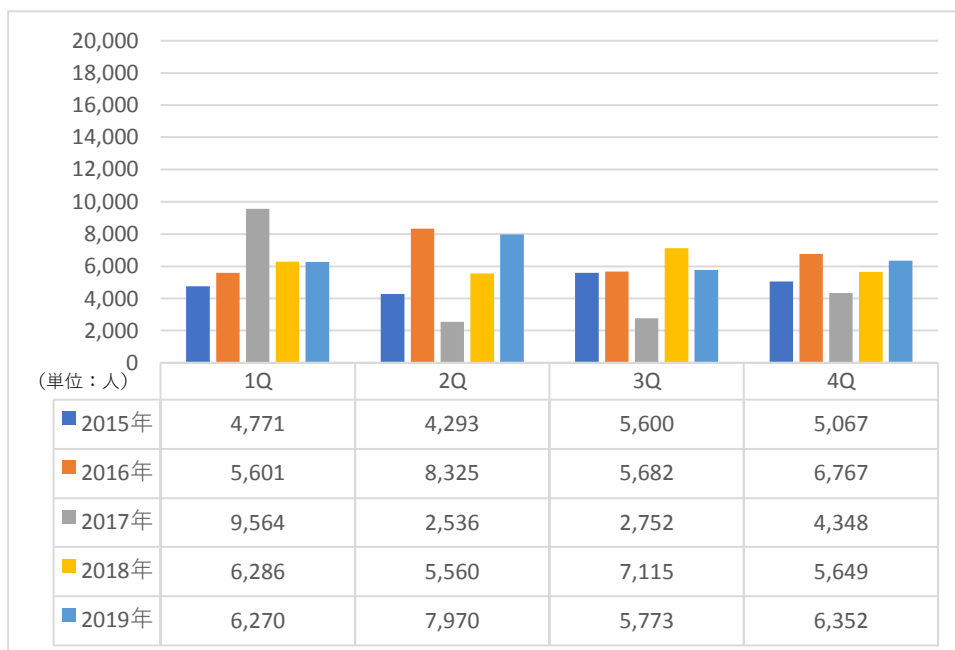
台湾

- ・台湾からの流動数では、全体的に減少傾向である。
- ・4月-6月の流動数では、2016年と2018年が特に多く、1万5千人を超えている。



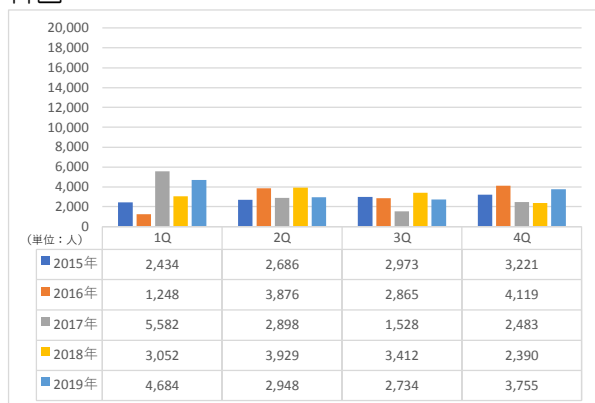
中国

- 中国からの 2019 年の流動数では、4 月-6 月が最も多くなっている。
- 2017 年 1 月-3 月の流動数が特に多く、9 千人を超えている。

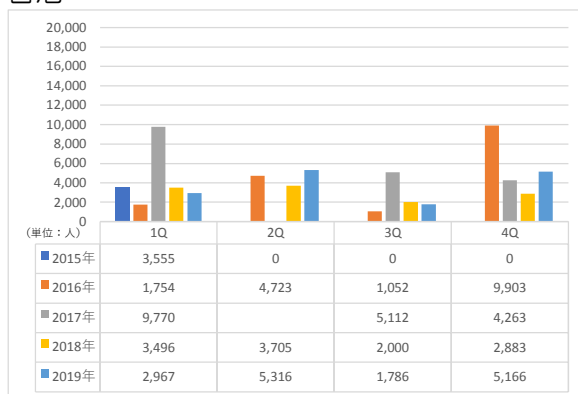


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

韓国

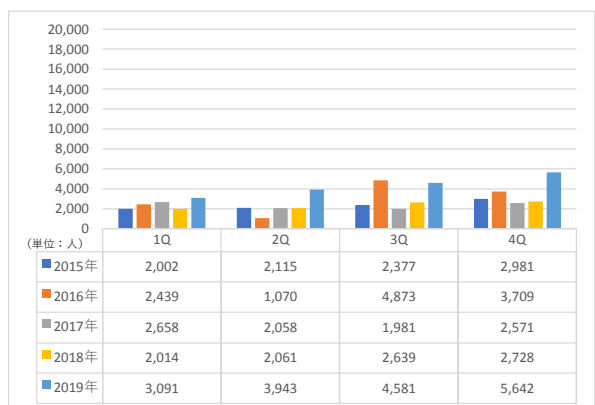


香港

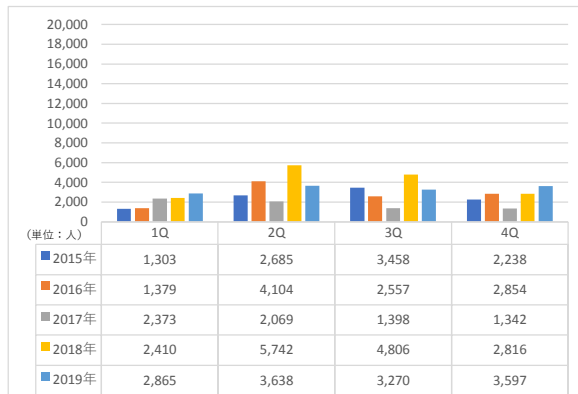


※空白の箇所はサンプル回収なし

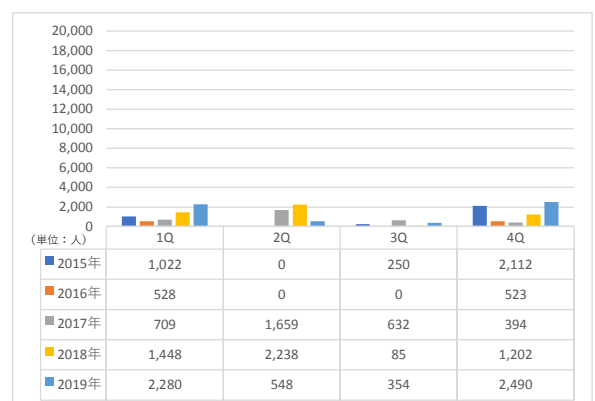
欧州



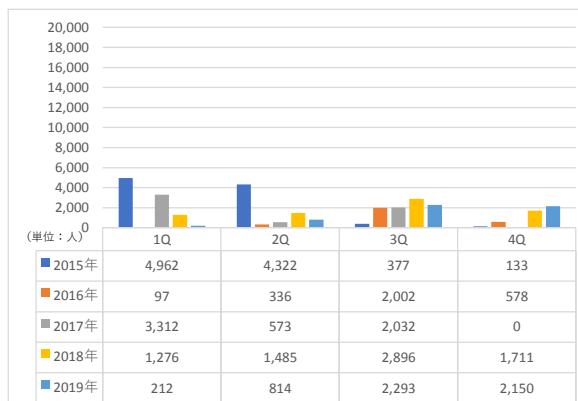
北米



オセアニア



その他

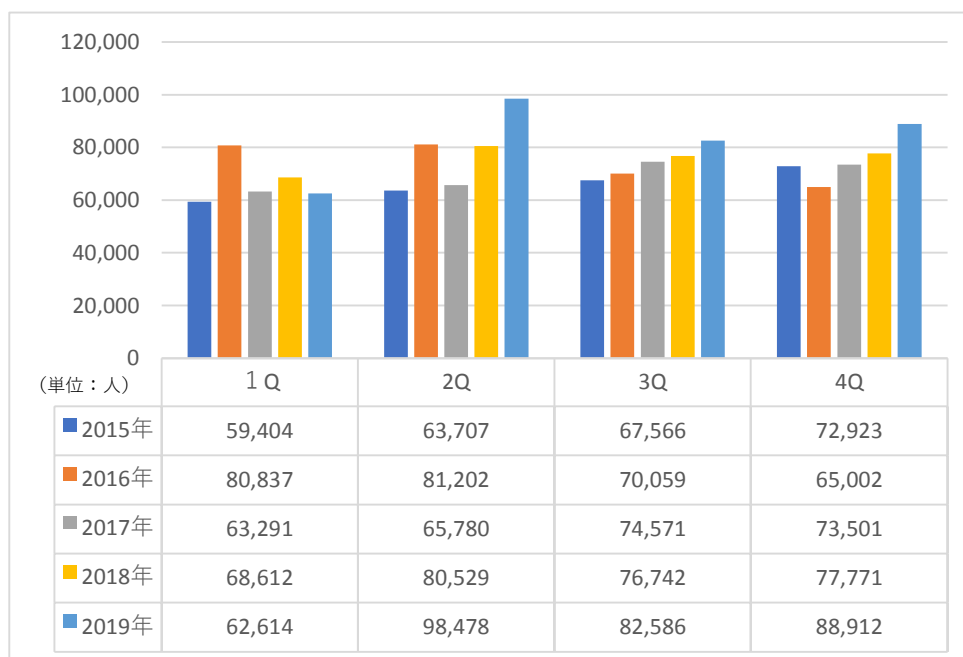


※1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

⑤ 埼玉県

(i) 第四半期別入込客数：埼玉県

- 埼玉県における四半期別流動数では、1月-3月を除きやや増加傾向である。
- 4月-6月の流動数では2019年に大きく増加し、9万人を超えてている。



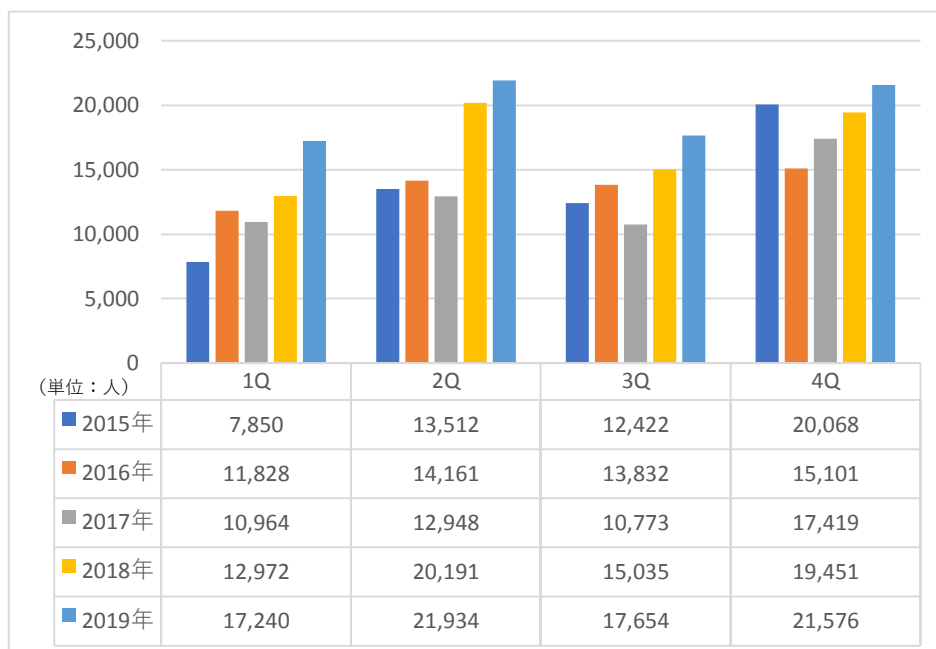
※ 1 Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

(ii) 国籍別 四半期別

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

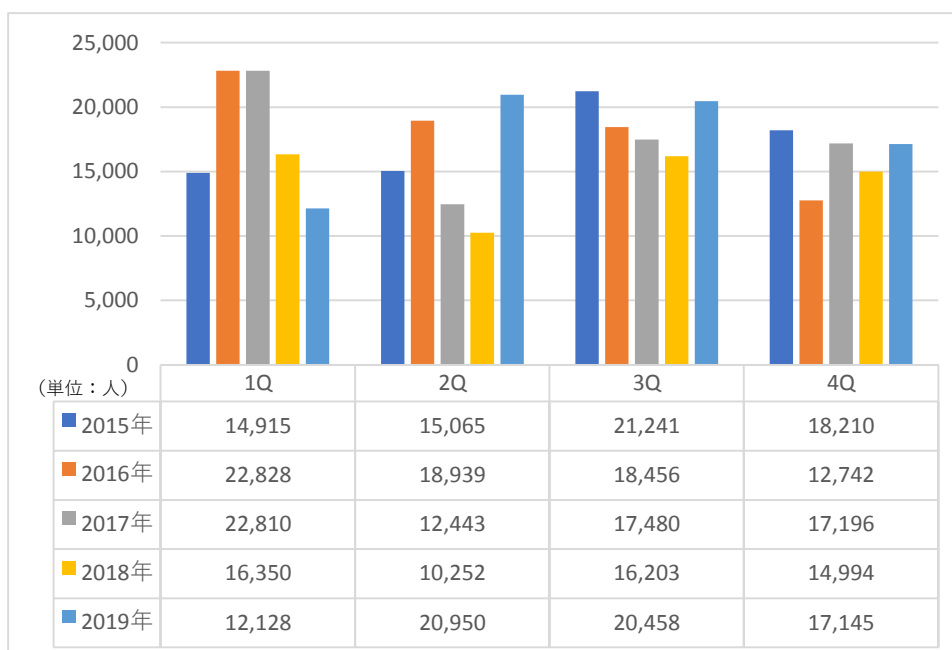
ASEAN

- 埼玉県への総流動量が最も多いASEANからの流動数は、年間を通して増加傾向である。
- 4月-6月の流動数は2018年に大きく増加している。



中国

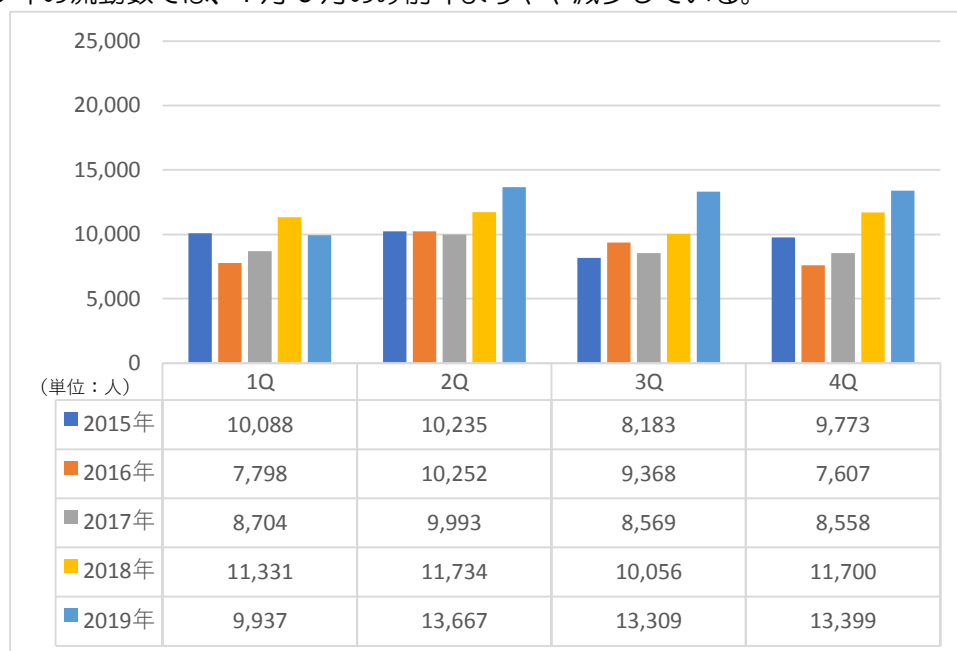
- 中国からの1月-3月の流動数は、減少傾向である。
- 4月-6月の流動数では、2019年に大きく増加している。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

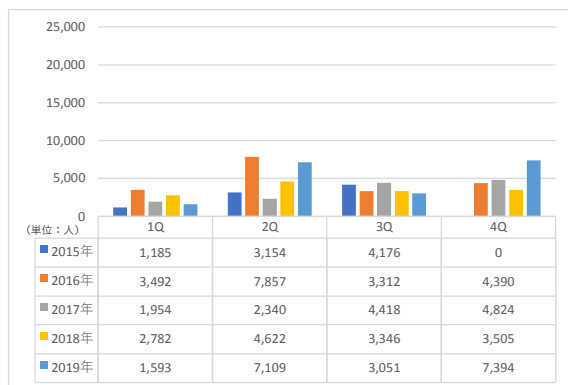
韓国

- 韓国からの流動数では、年間を通してやや増加傾向である。
- 2019 年の流動数では、1 月-3 月のみ前年よりやや減少している。

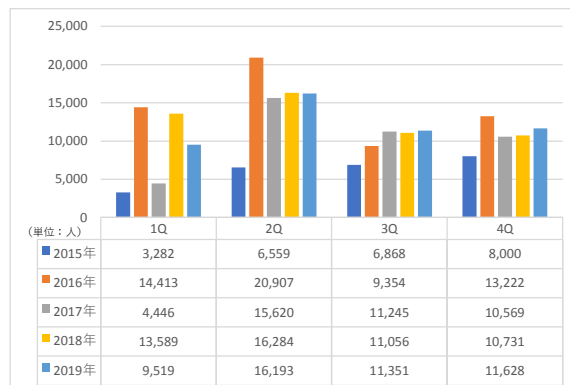


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

香港



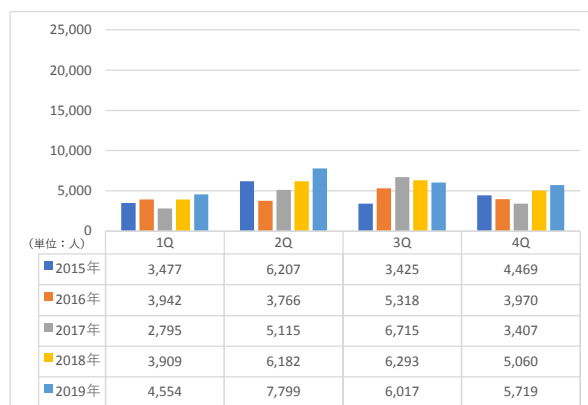
台湾



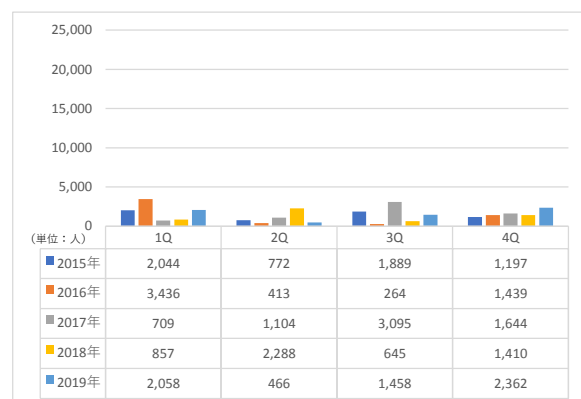
欧州



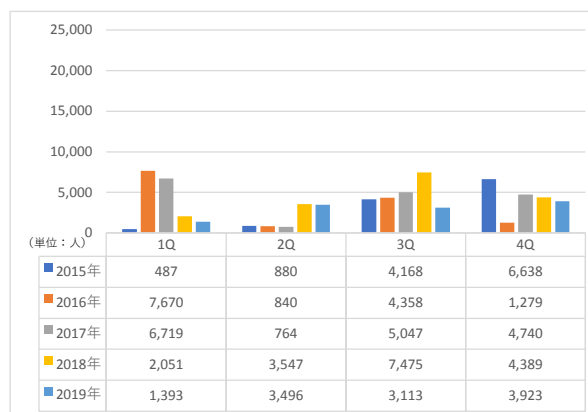
北米



オセアニア



その他



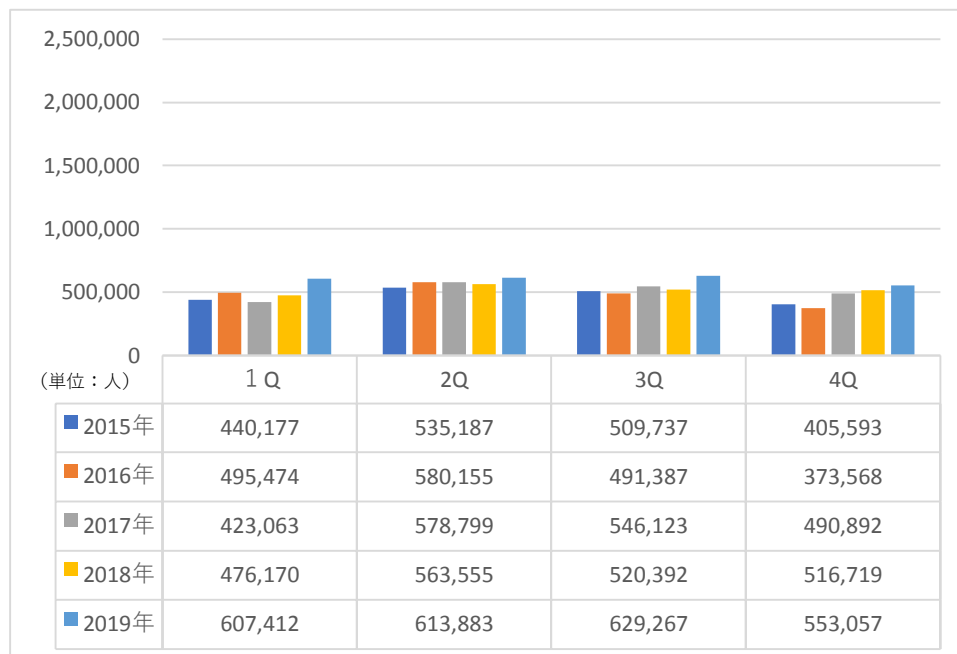
※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

⑥ 千葉県

(i) 四半期別入込客数：千葉県

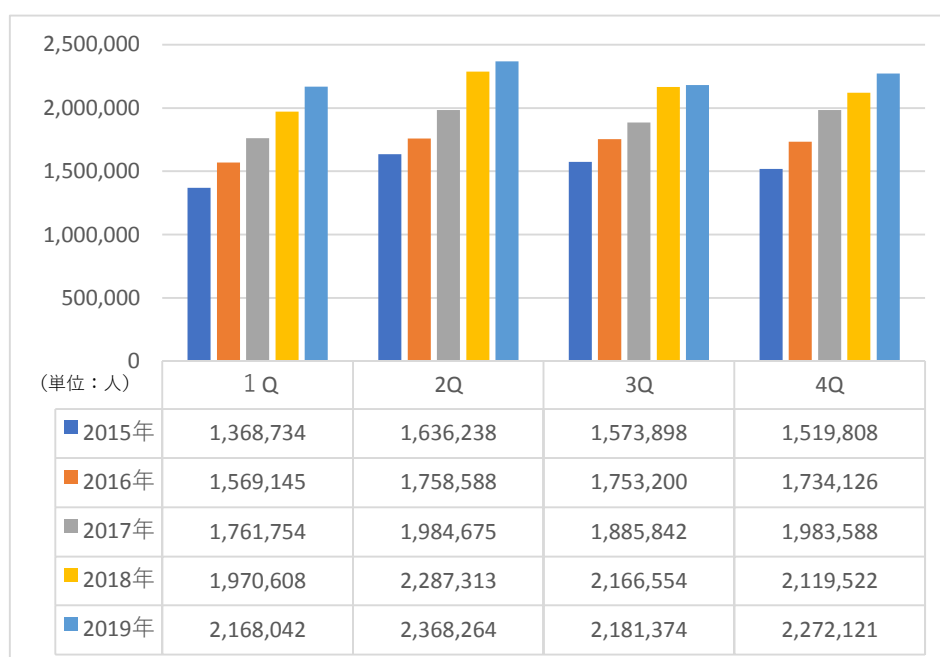
千葉県への入込客数（空港除く）

- ・千葉県における四半期別流動数では、年間を通してほぼ横ばいとなっている。
- ・千葉県の流動数は、成田空港の流動数の半数以下となっている。



成田空港への入込客数

- ・成田空港の流動数は、年間を通して増加傾向である。
- ・2019年の流動数では、年間を通して200万人を超えている。



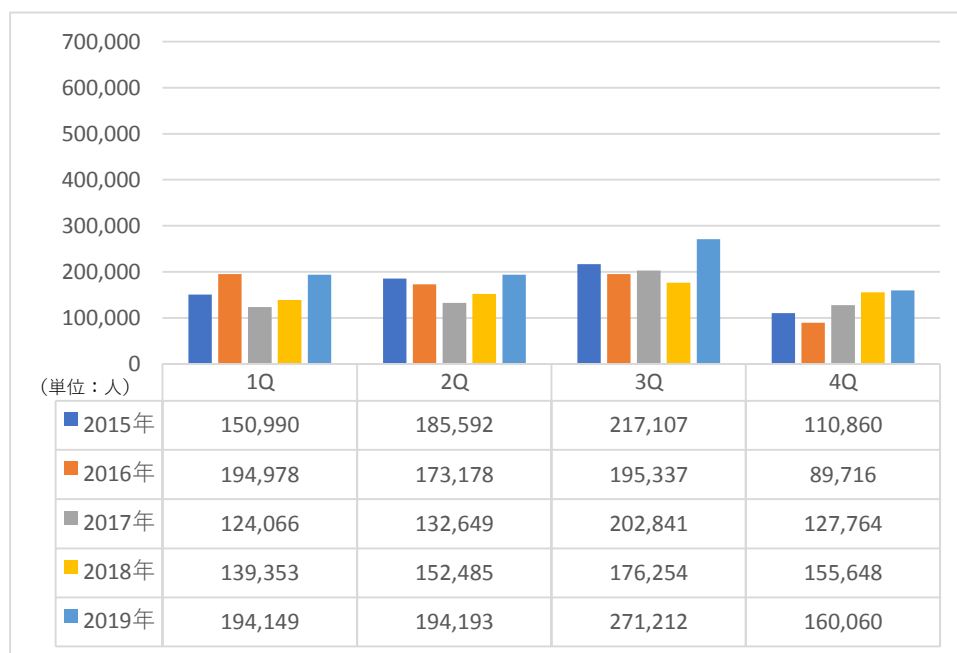
※ 1 Q(1月-3月)、2 Q(4月-6月)、3 Q(7-9月)、4 Q(10月-12月)

(ii) 国籍別・四半期別入込客数：千葉県
千葉県への入込客数（空港への流動を除く）

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

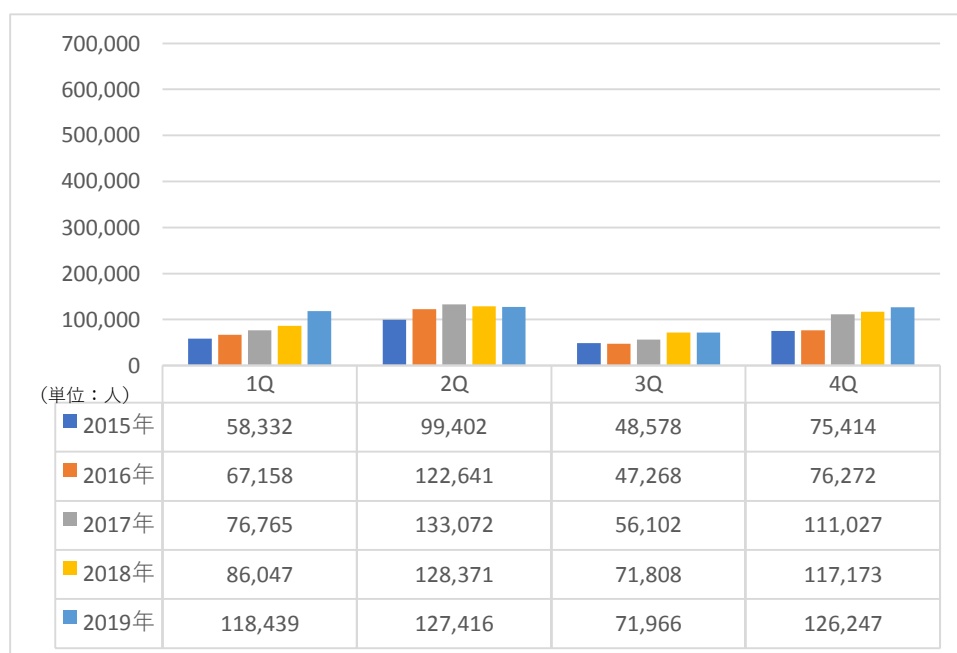
中国

- ・千葉県への総流動量が最も多い中国からの流動数は、年間を通してやや増加傾向である。
- ・7月-9月の流動数は2019年に大きく増加している。



ASEAN

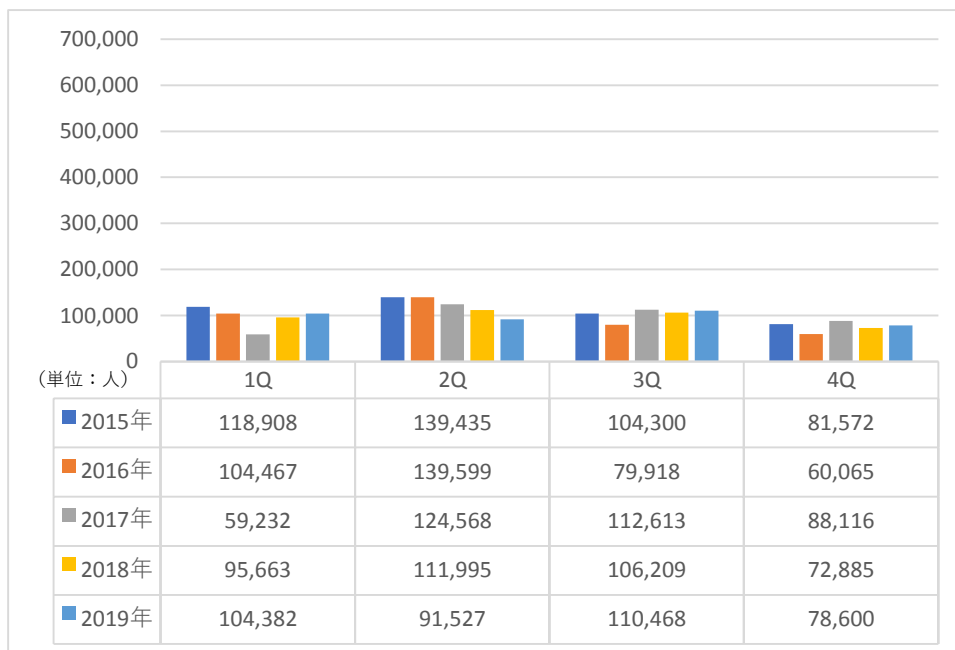
- ・ASEANからの流動数は、年間を通してやや増加傾向である。
- ・いずれの年においても、4月-6月が最も多く、7月-9月が最も少なくなっている。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

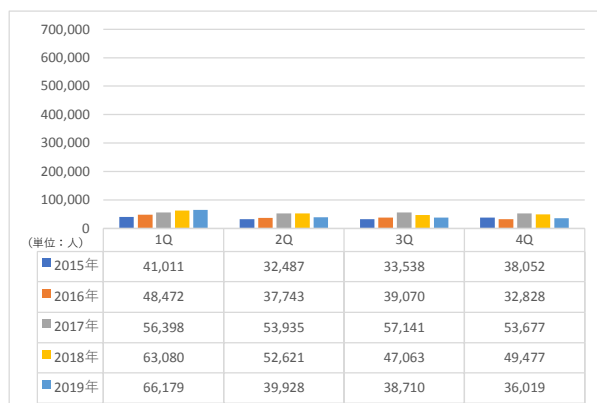
台湾

- 台湾からの流動数は、ほぼ横ばいとなっているが、4月-6月では減少傾向である。

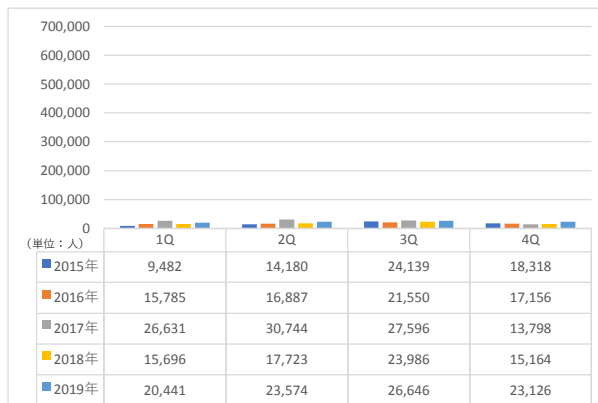


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

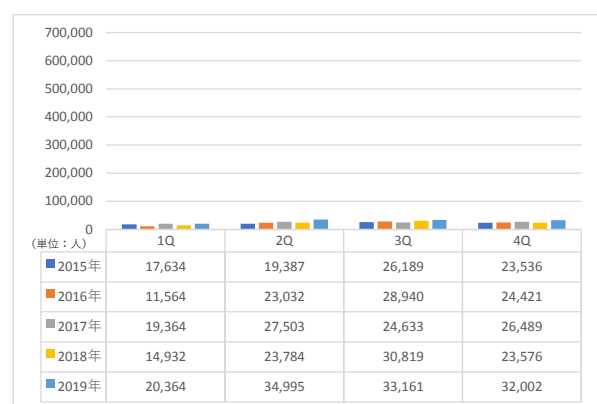
韓国



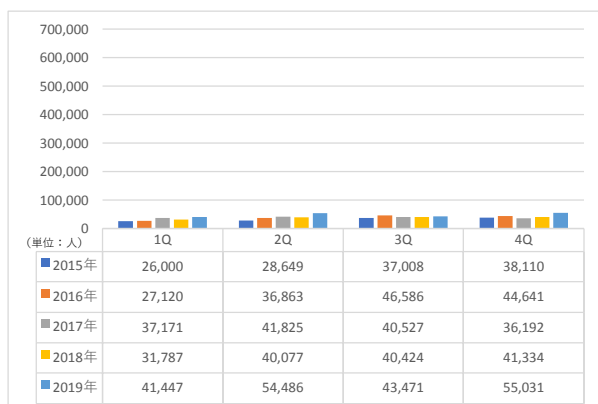
香港



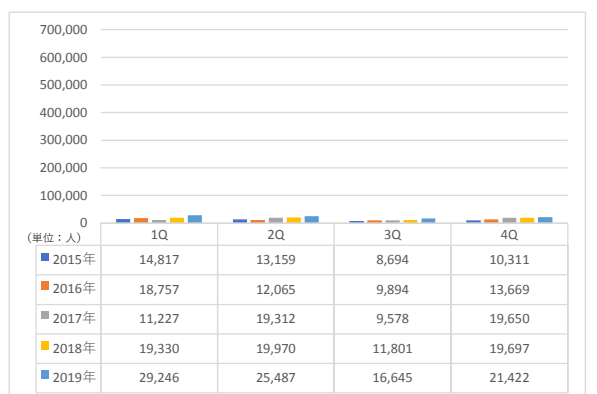
欧州



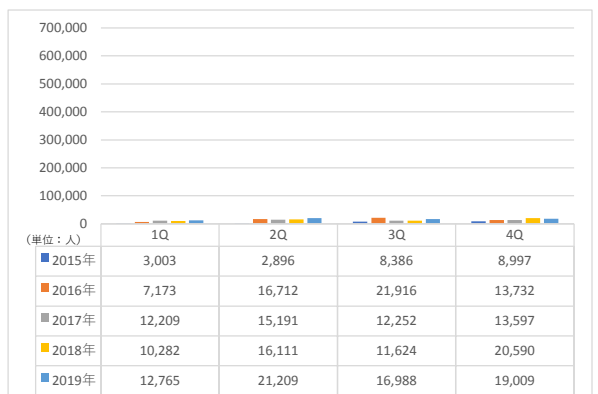
北米



オセアニア



その他



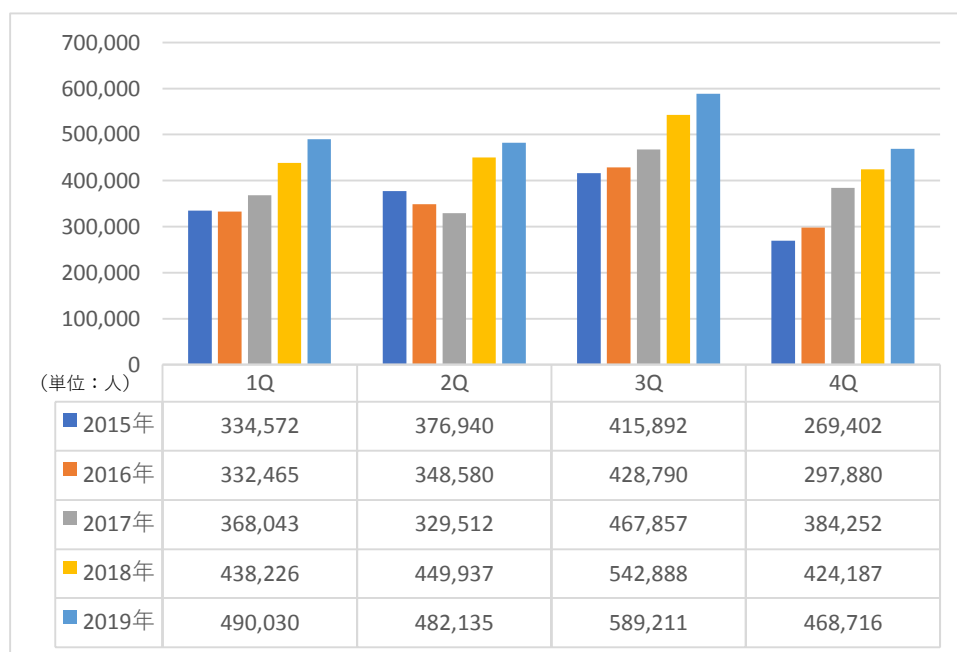
※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

成田空港への入込客数

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

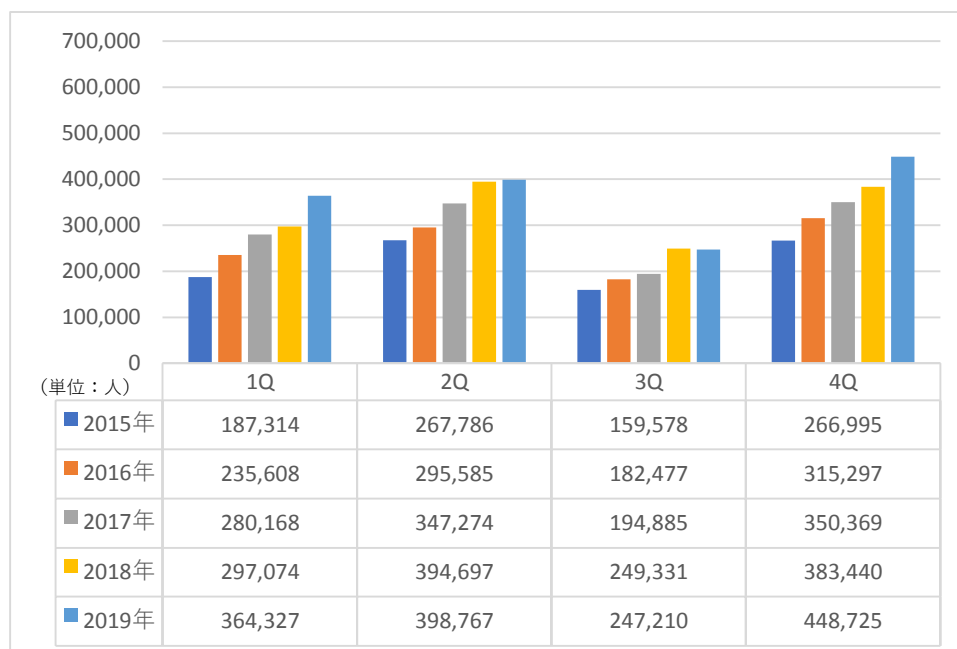
中国

- 中国から成田空港への流動数は、年間を通して増加傾向である。
- 4月-6月の流動数では、2017年までは減少傾向であったが、2018年以降増加している。



ASEAN

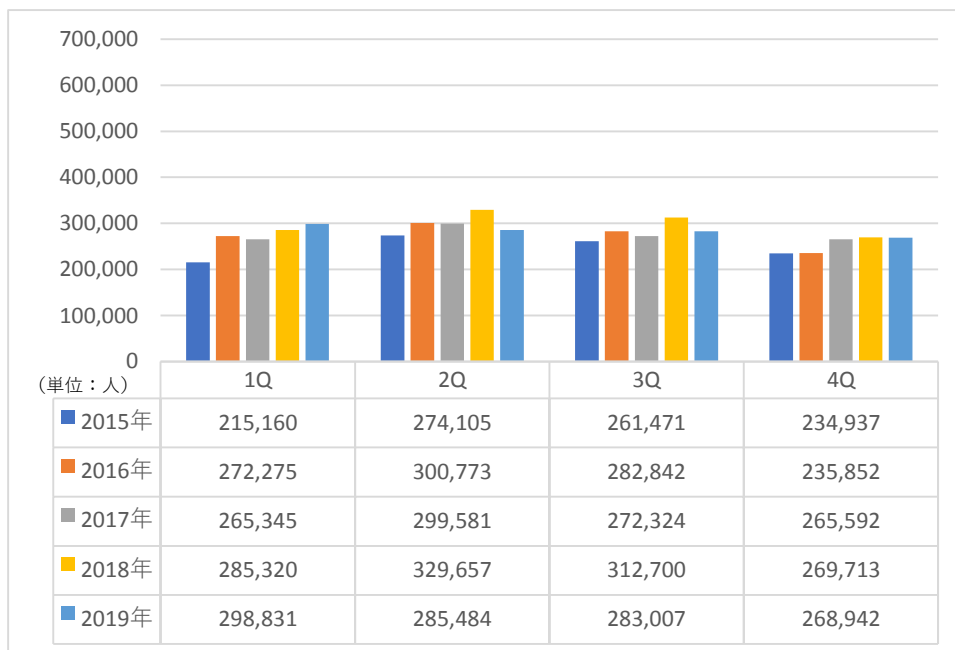
- ASEAN から成田空港への流動数は、年間を通して増加傾向である。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

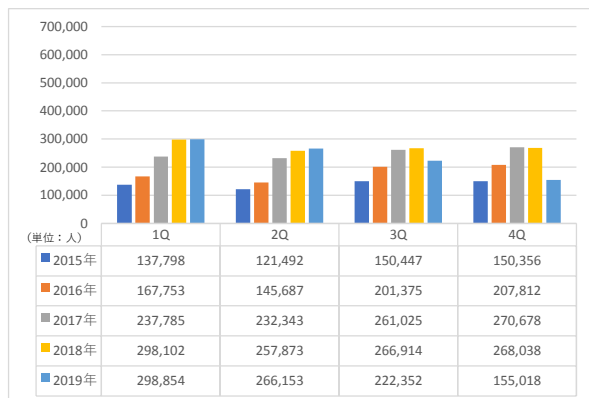
台湾

- 台湾から成田空港への流動数は、1月-3月と10-12月ではやや増加傾向である。

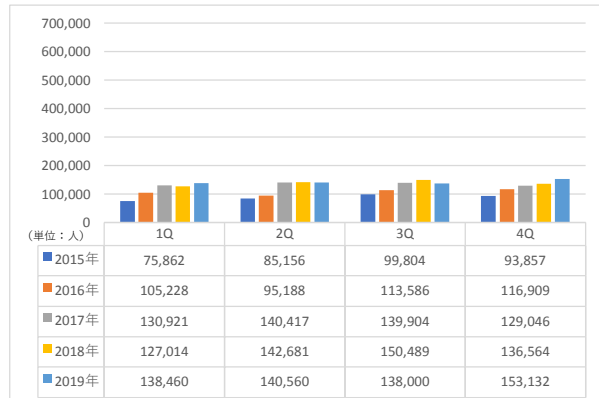


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

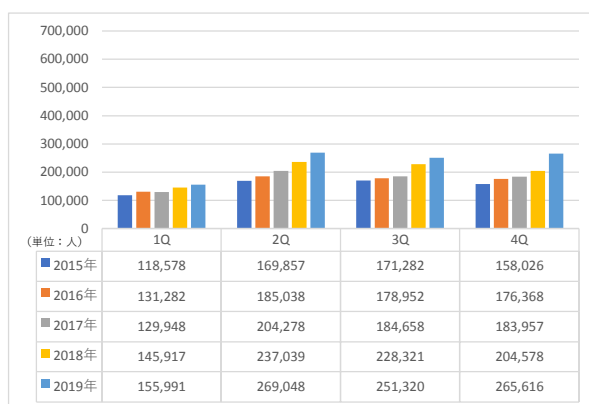
韓国



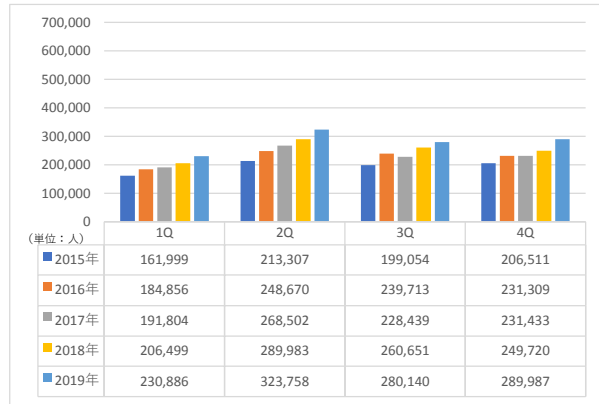
香港



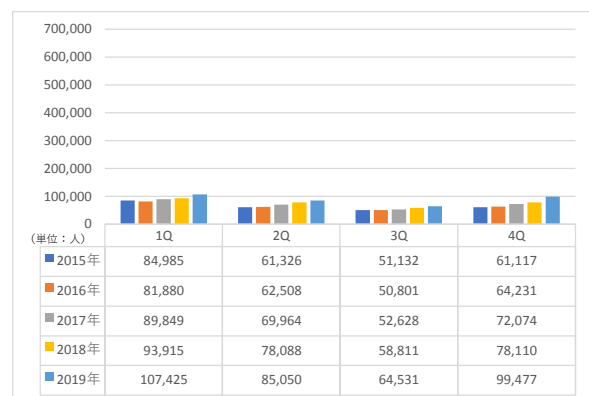
欧州



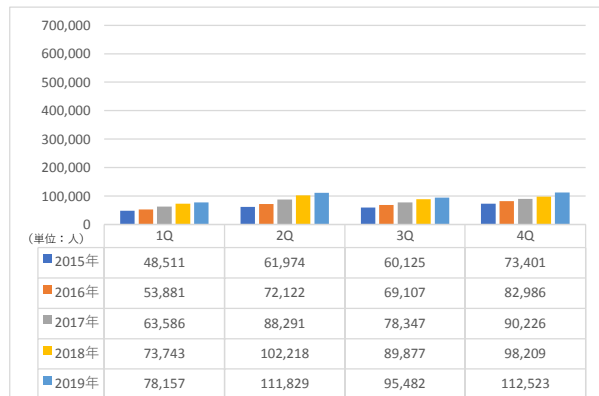
北米



オセアニア



その他



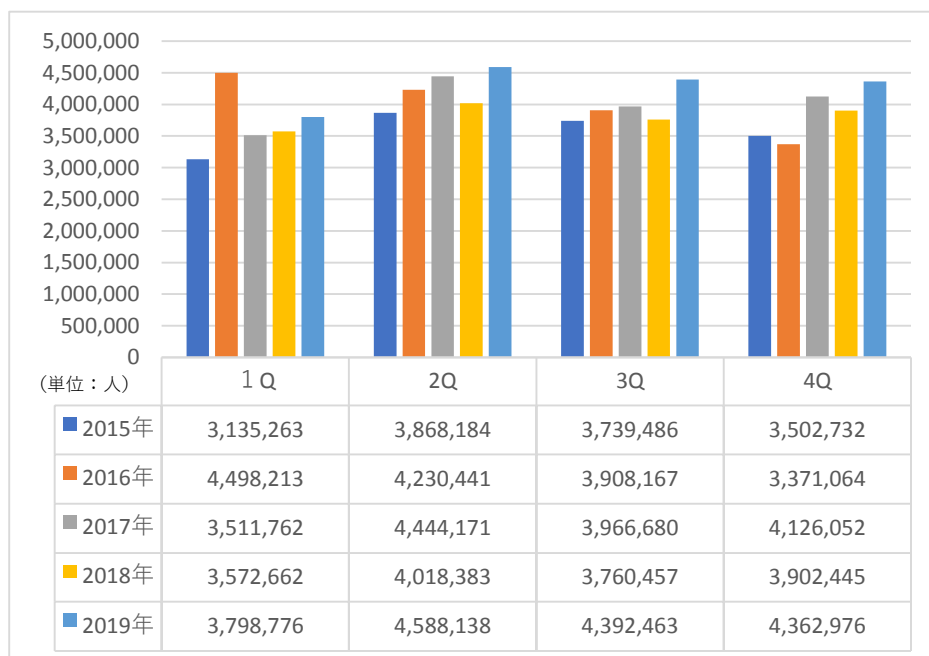
※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

⑦ 東京都

(i) 四半期別入込客数：東京都

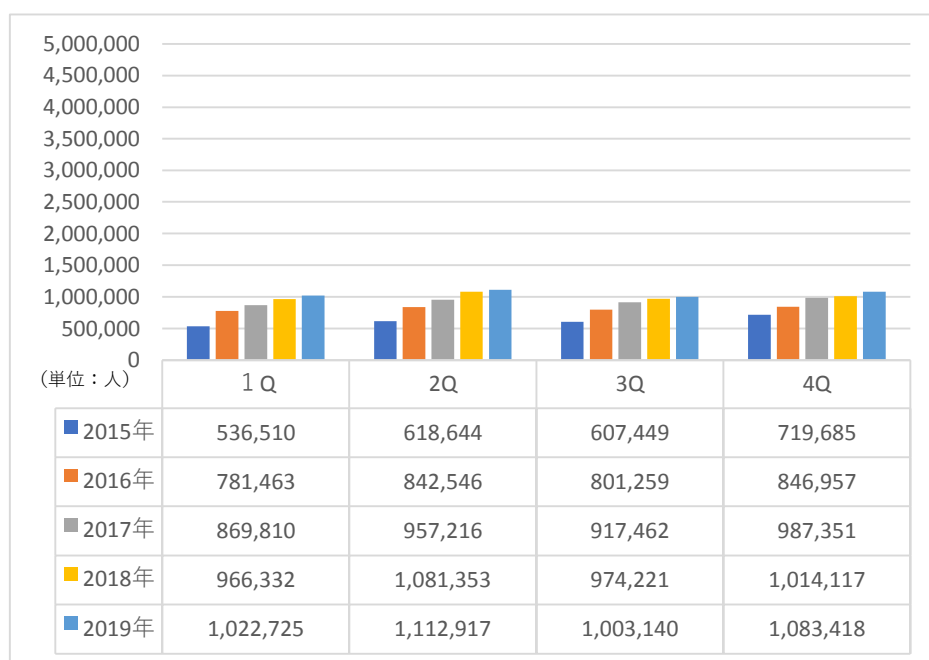
東京都への入込客数（空港除く）

- ・東京都における四半期別流動数では、年間を通してやや増加傾向である。
- ・1月-3月の流動数では、2016年が特に多くなっている。
- ・2019年の流動数は、年間を通して前年より多くなっている。



羽田空港への入込客数

- ・羽田空港における四半期別流動数は、年間を通して増加傾向である。
- ・羽田空港の流動数は、東京都の流動数の4分の1程度となっている。



※ 1 Q(1月-3月)、2 Q(4月-6月)、3 Q(7-9月)、4 Q(10月-12月)

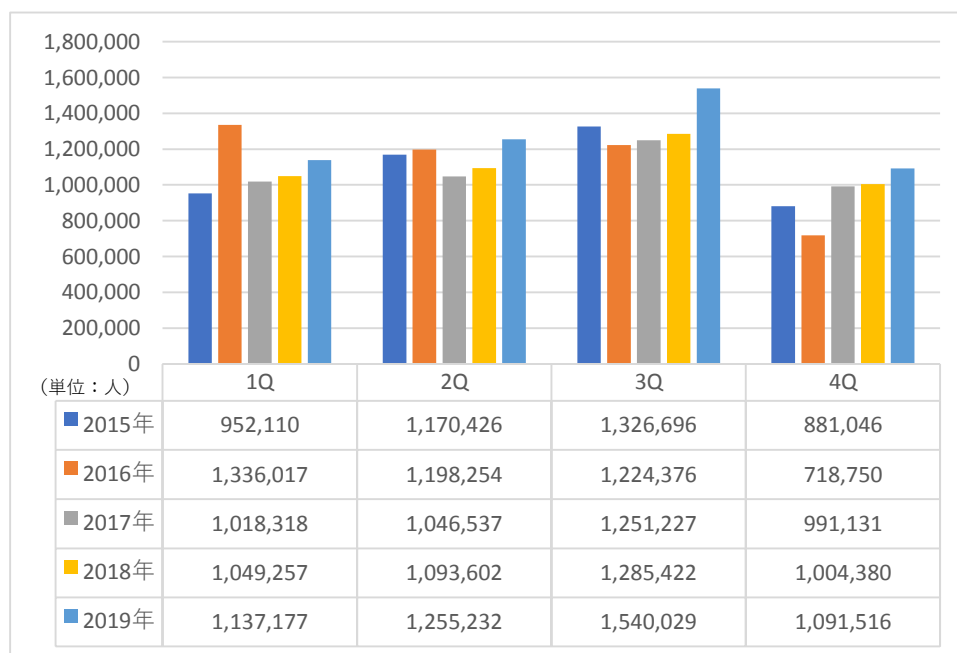
(ii) 国籍別・四半期別入込客数：東京都

東京都への入込客数（空港除く）

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

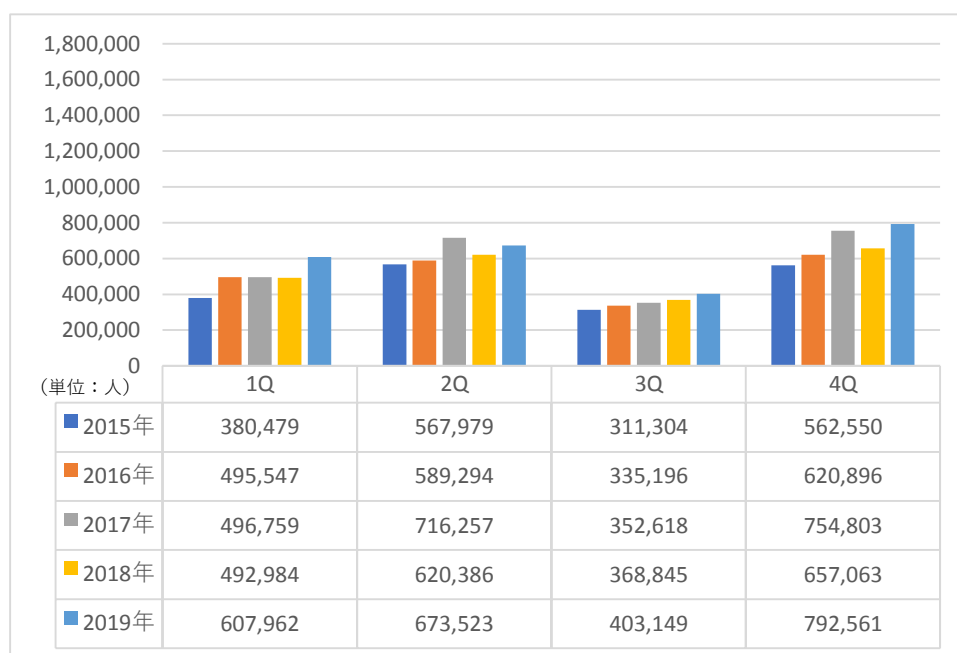
中国

- 東京都への総流動量が最も多い中国からの流動数は、2016 年を除き 7 月-9 月が最も多くなっている。
- 7 月-9 月の流動数では、2019 年が特に多く、150 万人を超えている。



ASEAN

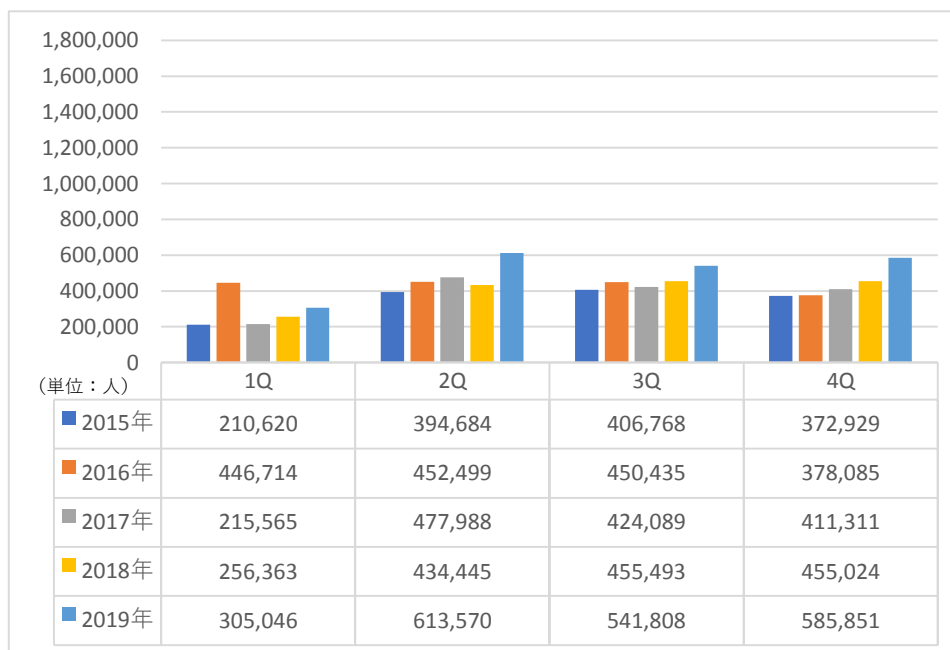
- ASEAN からの流動数では、全体を通して増加傾向である。
- 四半期別流動数は、7 月-9 月が最も少ない。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

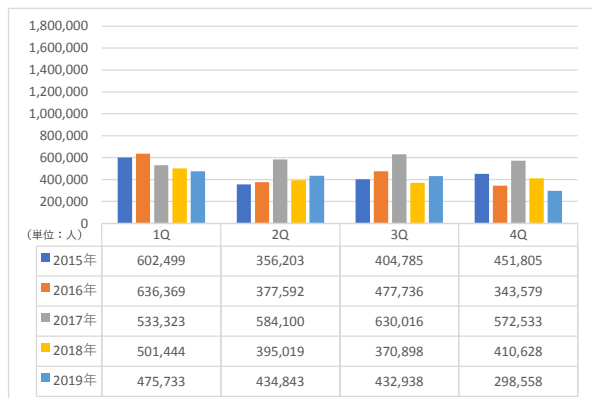
欧州

- 欧州からの流動数は、年間を通してやや増加傾向である。
- 1月-3月の流動数では、2016年が特に多くなっている。

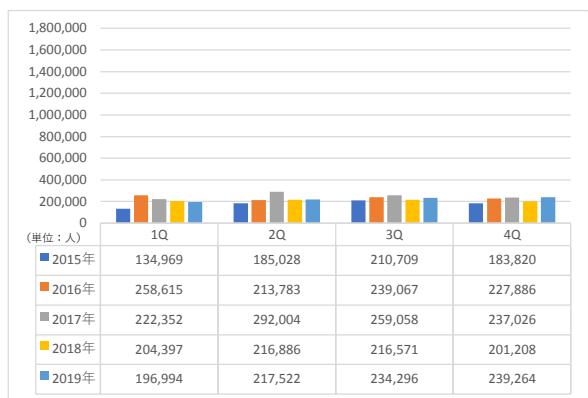


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

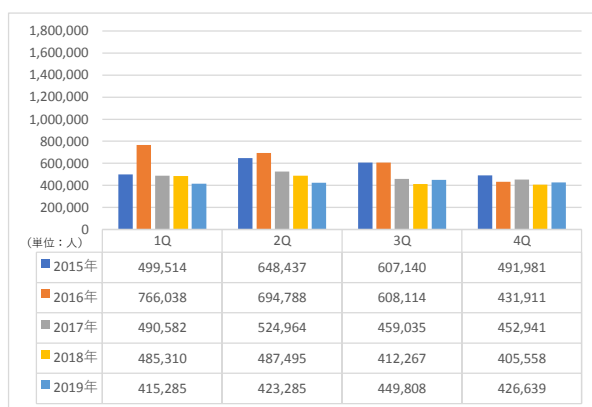
韓国



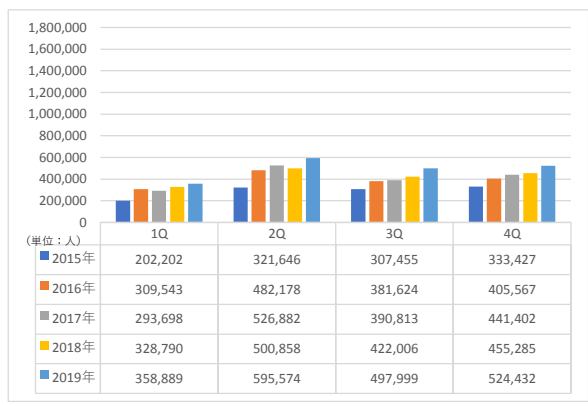
香港



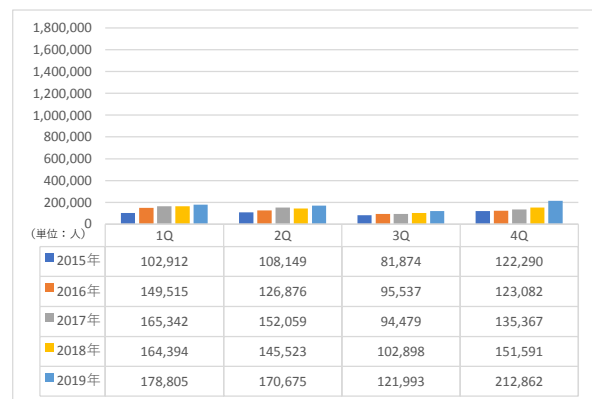
台湾



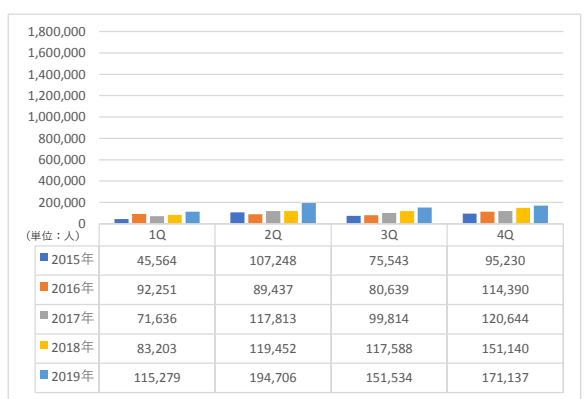
北米



オセアニア



その他



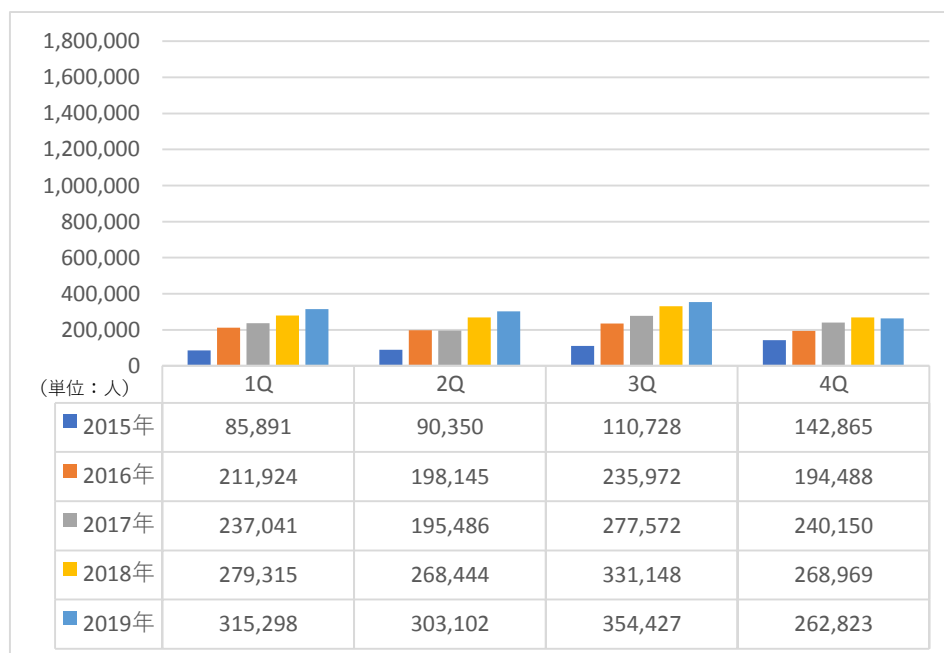
※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

羽田空港への入込客数

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

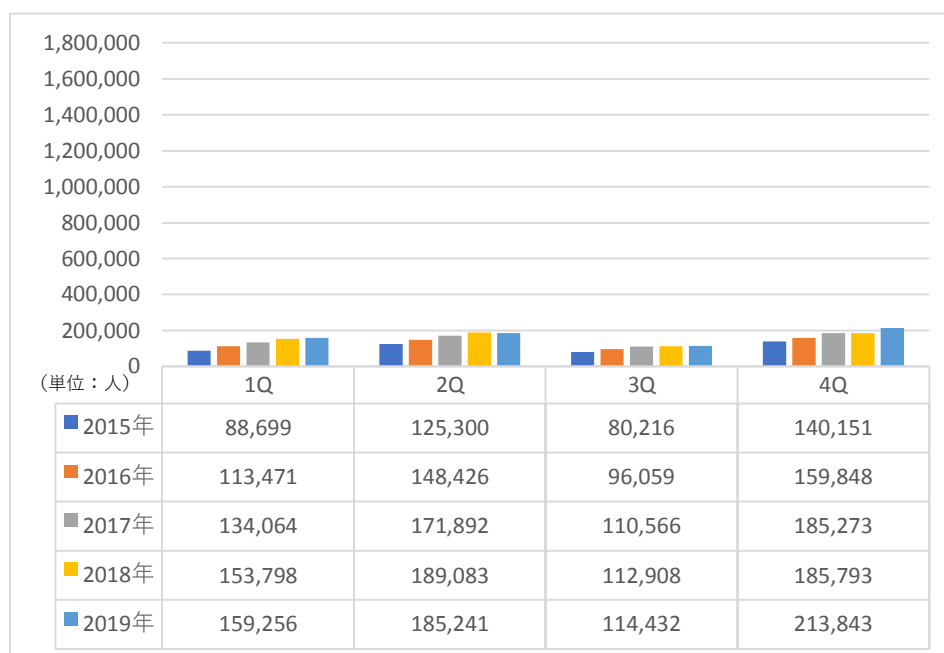
中国

- 東京都への総流動量が最も多い中国から羽田空港への流動数は、年間を通して増加傾向である。



ASEAN

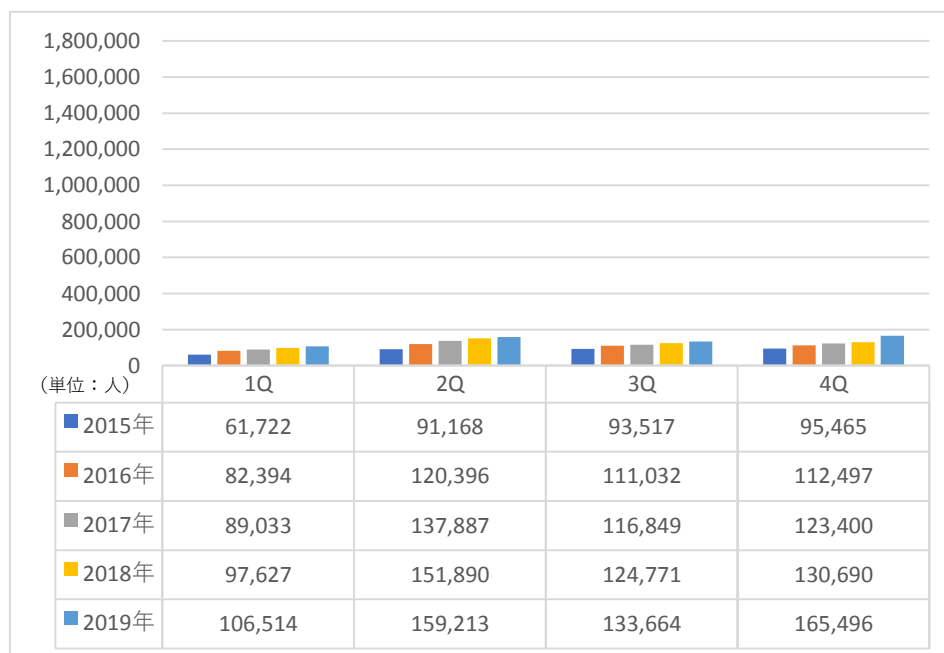
- ASEAN から羽田空港への流動数は、年間を通して増加傾向である。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

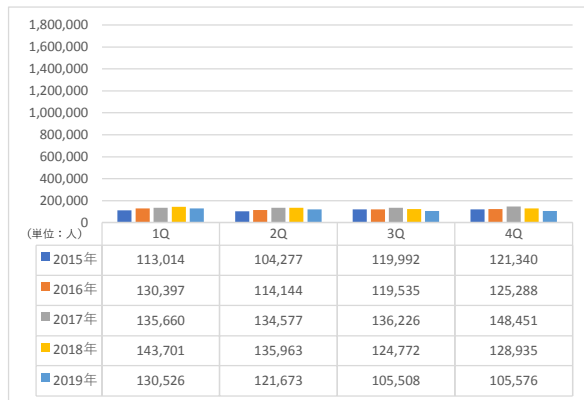
欧州

- ・ 欧州から羽田空港への流動数は、年間を通して増加傾向である。

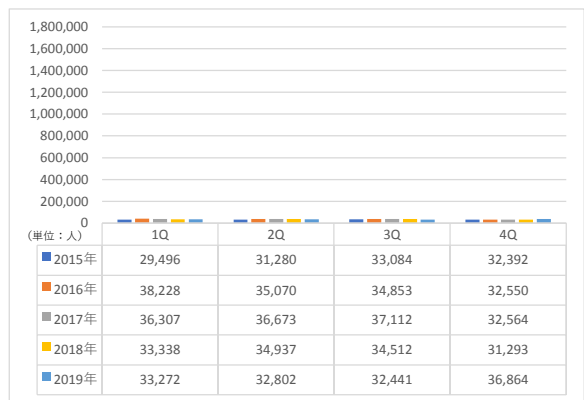


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

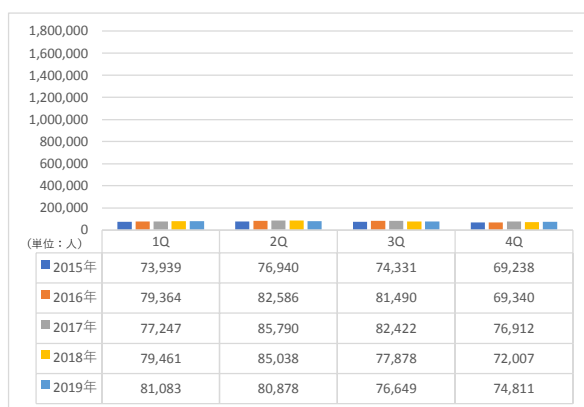
韓国



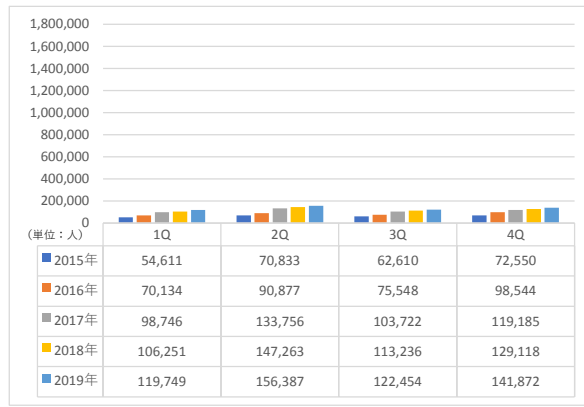
香港



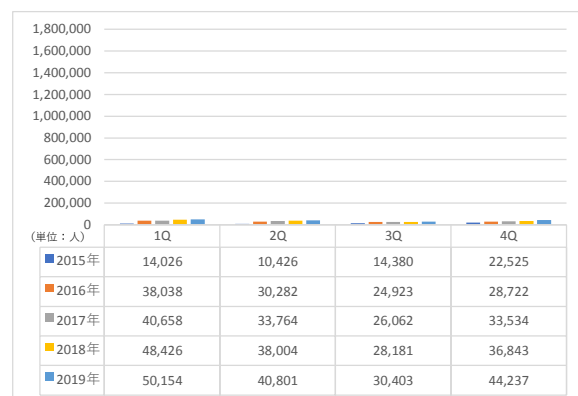
台湾



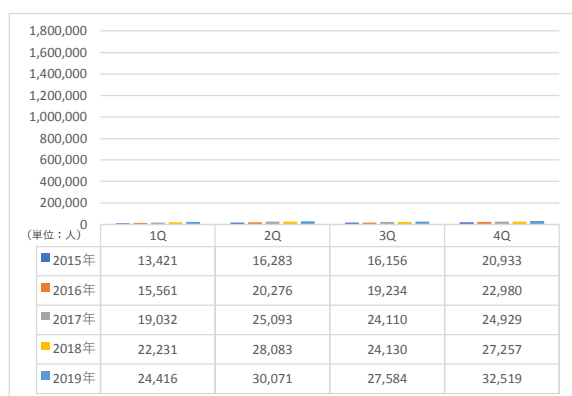
北米



オセアニア



その他

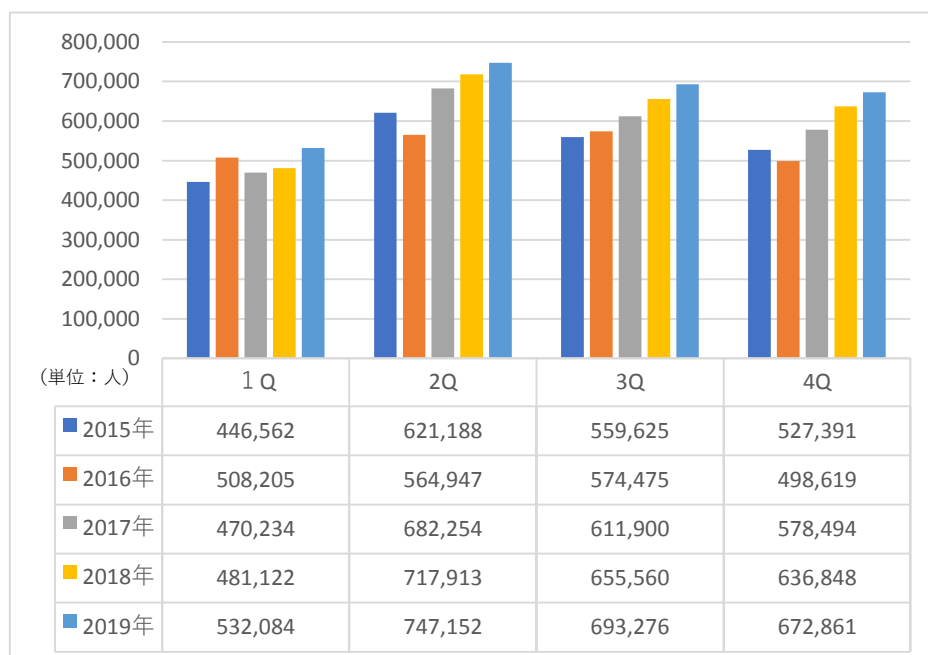


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

⑧ 神奈川県

(i)四半期別入込客数：神奈川県

- 神奈川県における四半期別流動数では、年間を通して増加傾向である。
- 2016 年を除き、4 月-6 月の流動数が最も多くなっている。



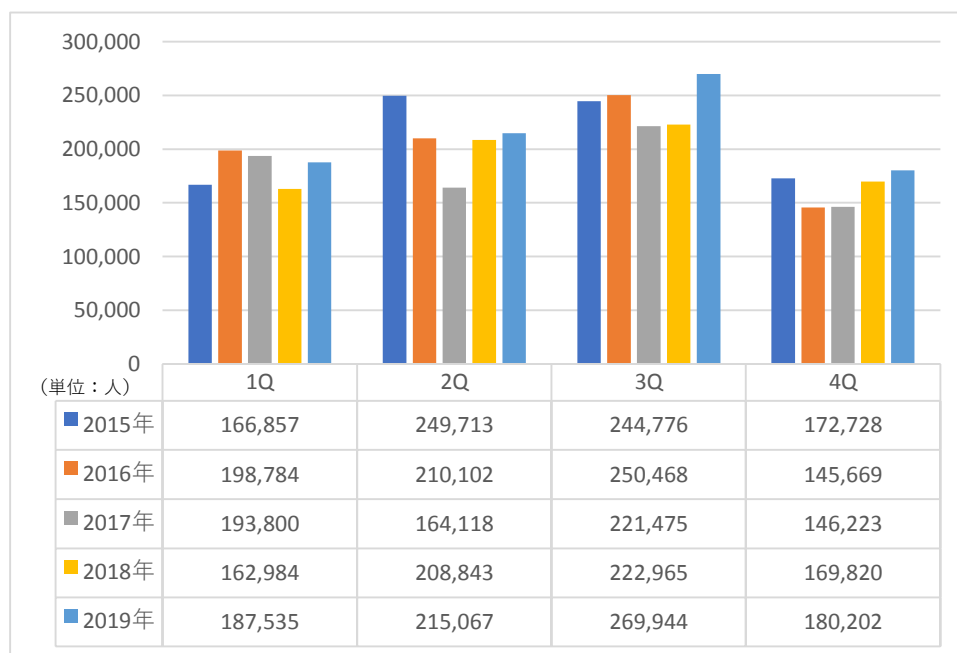
※ 1 Q(1 月-3 月)、2Q(4 月-6 月)、3Q (7-9 月) 、4Q (10 月-12 月)

(ii) 国籍別・四半期別入込客数：神奈川県

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

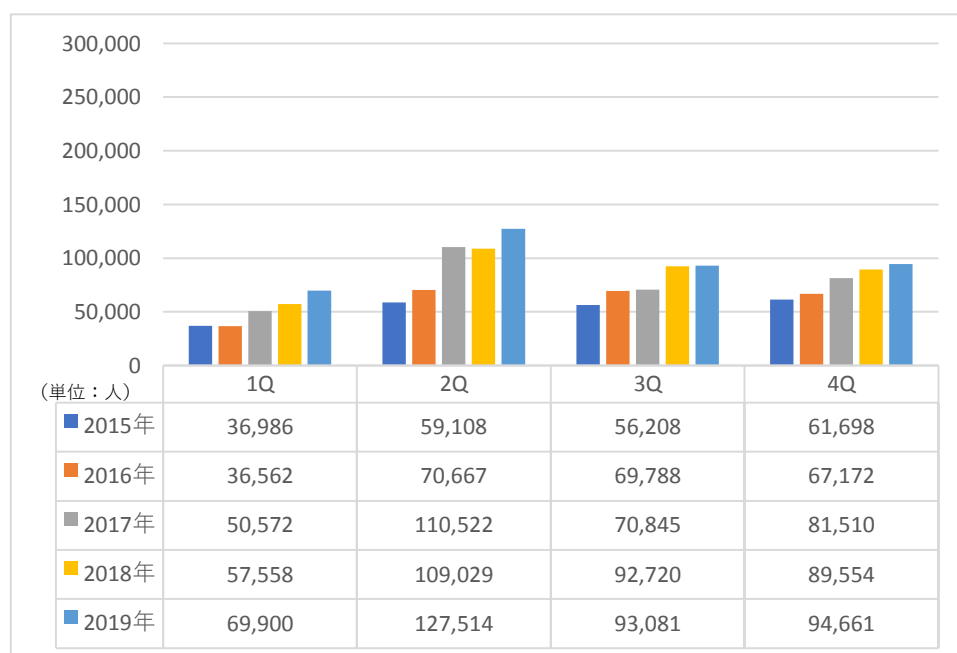
中国

- ・神奈川県への総流動量が最も多い中国からの流動数は、2015年を除き7月-9月が最も多くなっている。
- ・7月-9月の流動数では、2019年が特に多くなっている。



北米

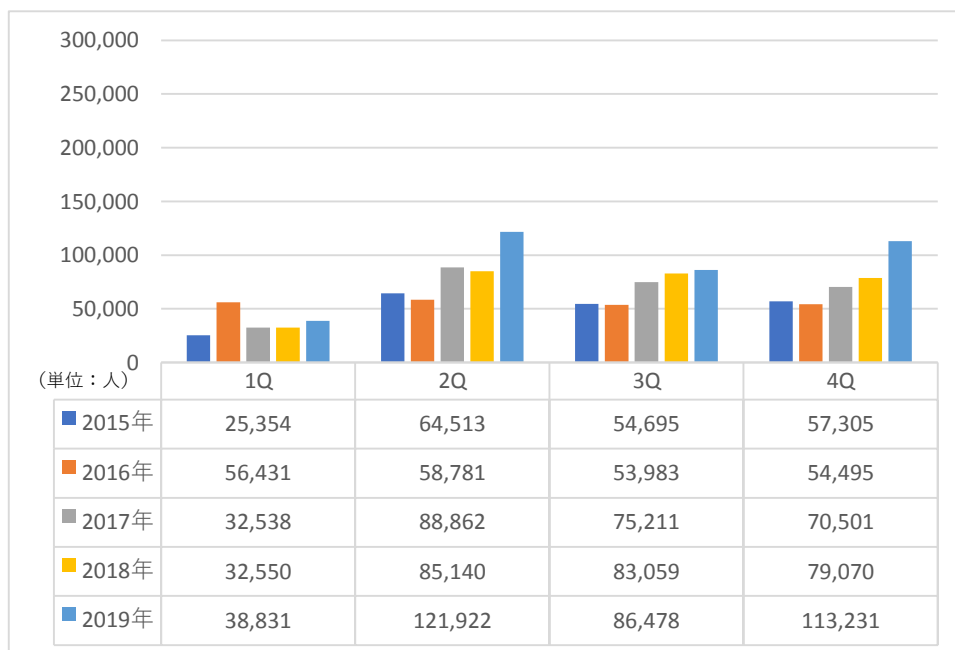
- ・北米からの流動数では、年間を通して増加傾向である。
- ・いずれの年においても、4月-6月の流動数が最も多くなっている。



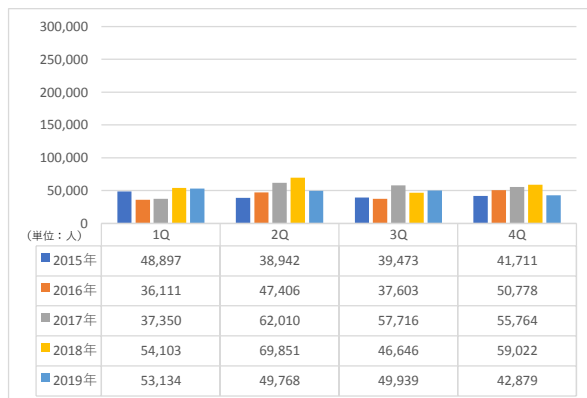
※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

欧州

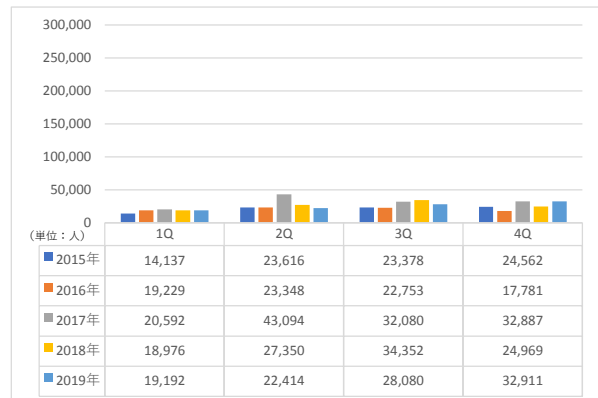
- 欧州からの流動数では、1月-3月を除き増加傾向である。
- いずれの年においても4月-6月が最も多く、2019年は特に多くなっている。



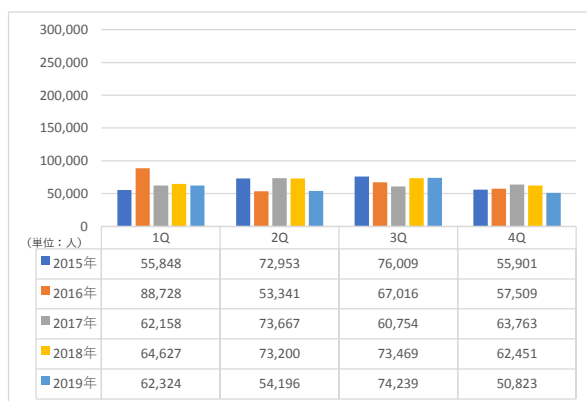
韓国



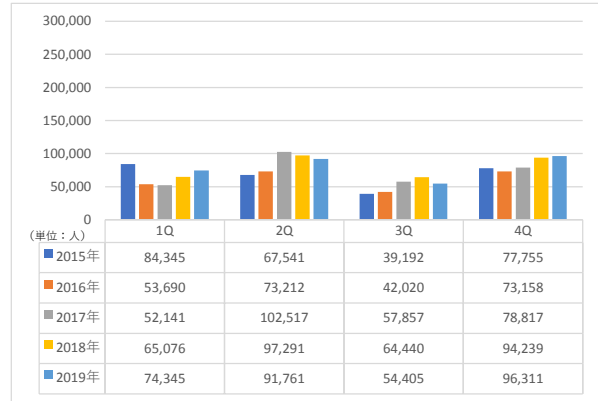
香港



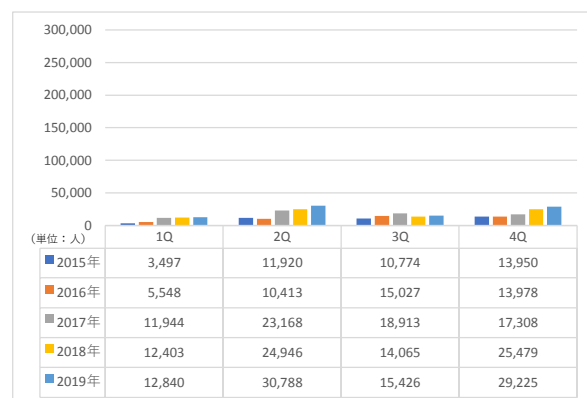
台湾



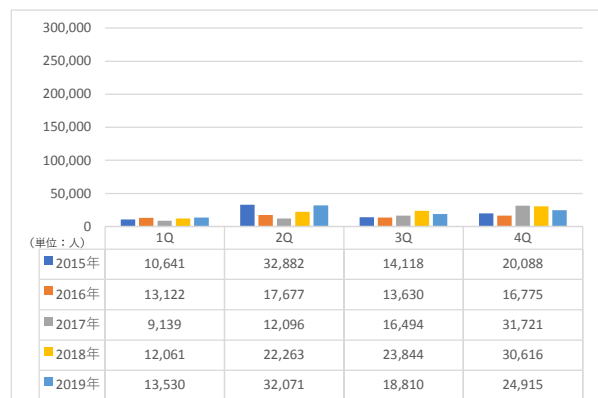
ASEAN



オセアニア



その他



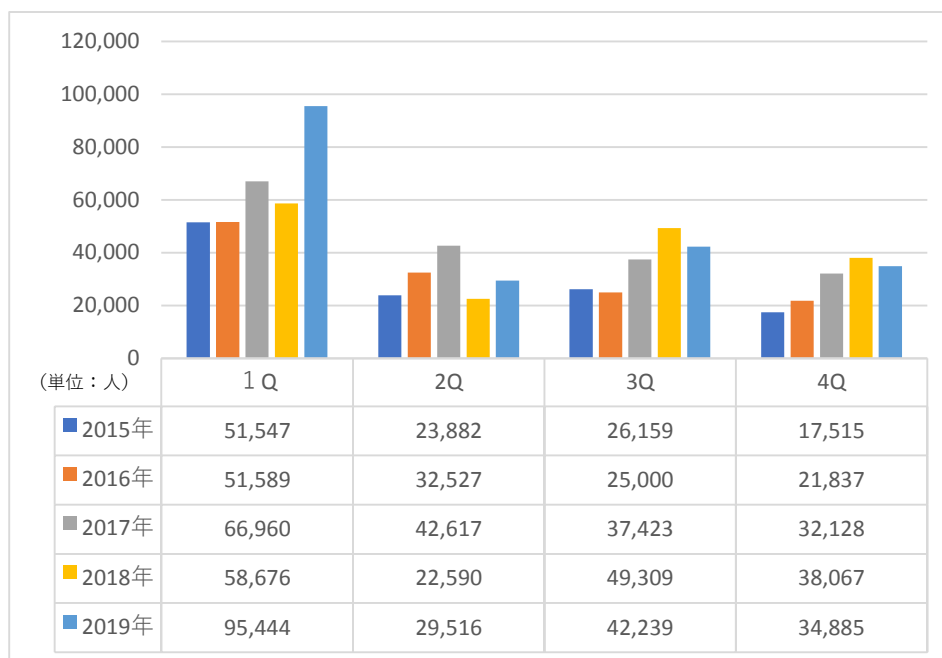
※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

⑨ 新潟県

(i) 四半期別入込客数：新潟県

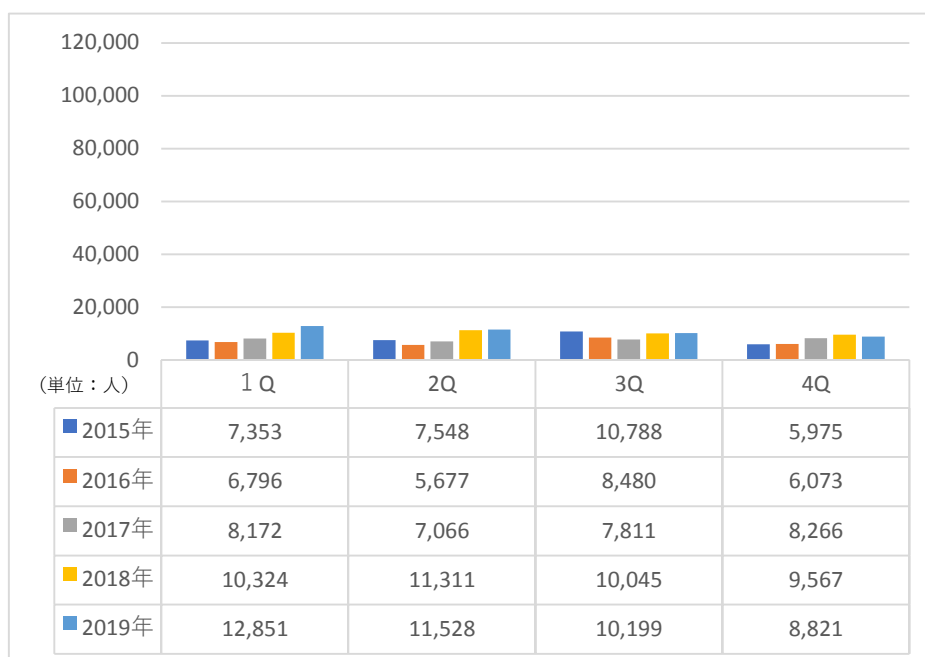
新潟県への入込客数（空港除く）

- 新潟県における四半期別流動数では、いずれの年においても1月-3月が最も多くなっている。
- 4月-6月の流動数では、2018年に大きく減少している。



新潟空港への入込客数

- 新潟空港における四半期別流動数では、1月-3月が増加傾向である。



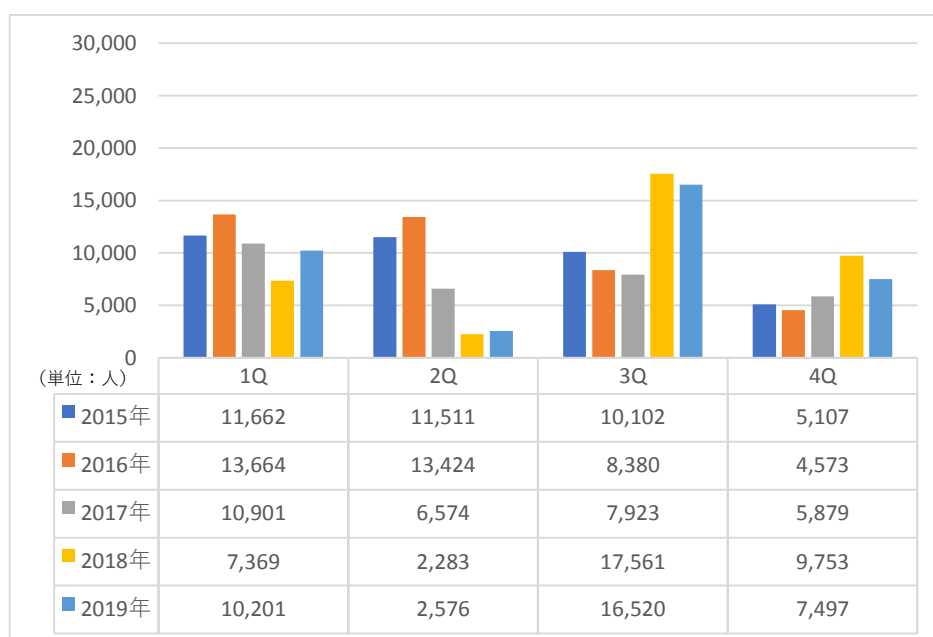
※Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

(ii) 国籍別・四半期別入込客数：新潟県
新潟県への入込客数（空港除く）

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

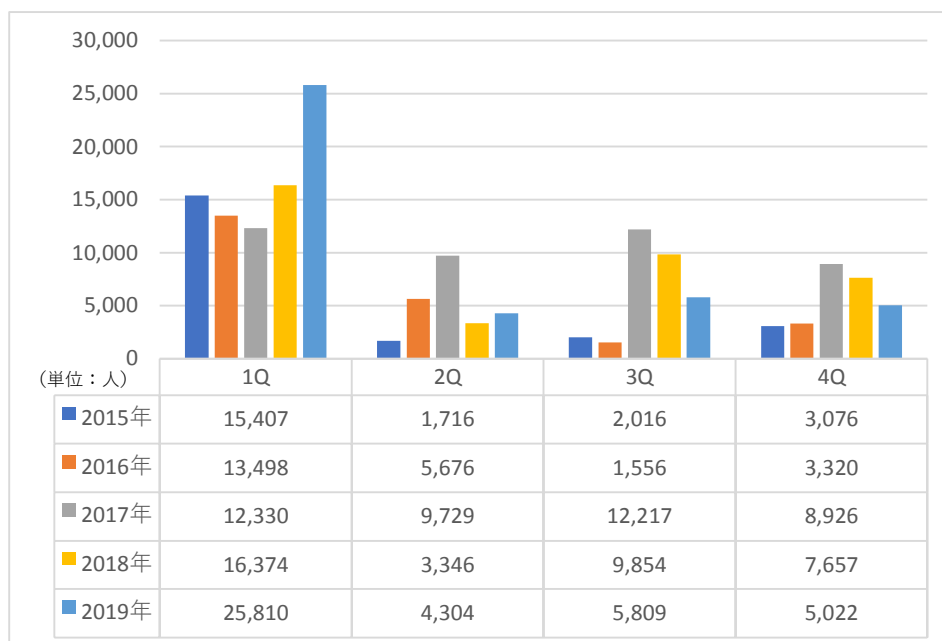
中国

- ・新潟県への総流動量が最も多い中国は、2018年と2019年で7月-9月の流動数が大きく増加している。
- ・2018年と2019年の流動数では、4月-6月と7月-9月で差が激しくなっている。



台湾

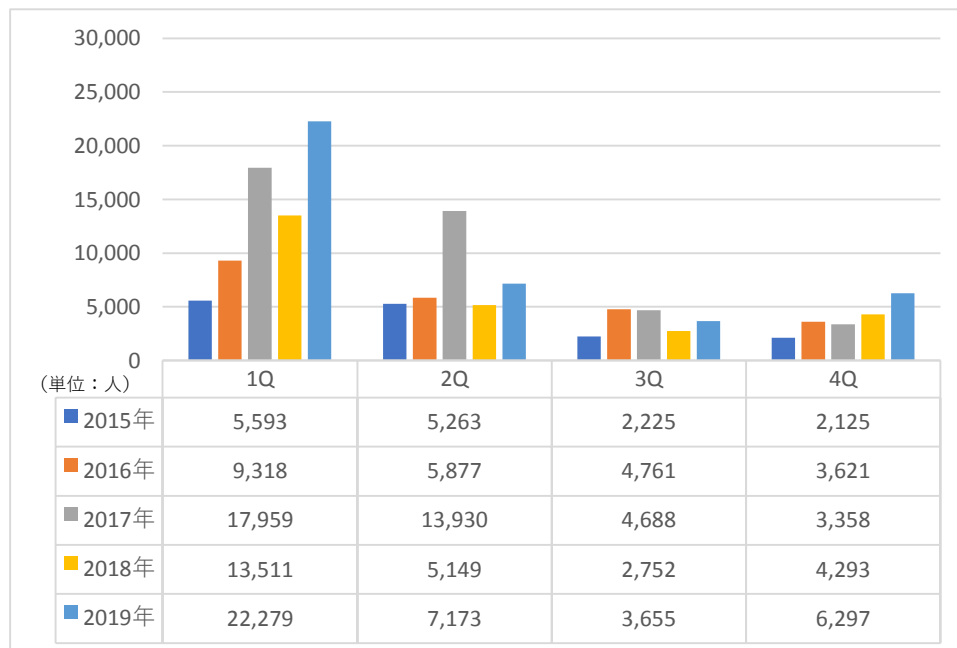
- ・台湾からの流動数では、いずれの年においても1月-3月が最も多くなっている。
- ・1月-3月では2019年の流動数が特に多く、2万5千人を超えている。
- ・2017年の流動数では、年間を通して大きな変化がない。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

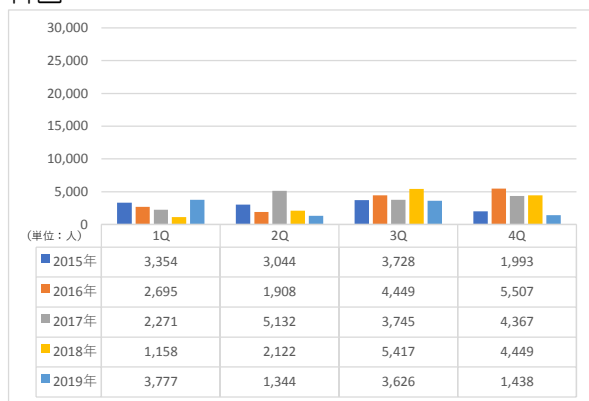
ASEAN

- ASEAN からの流動数では、いずれの年においても 1 月-3 月が最も多くなっている。
- 2019 年の流動数では、年間を通して前年より多くなっている。

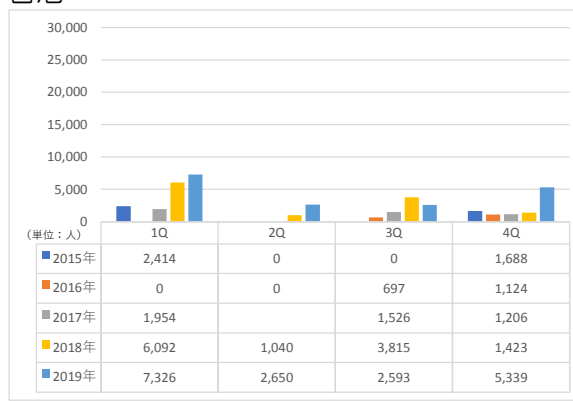


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

韓国

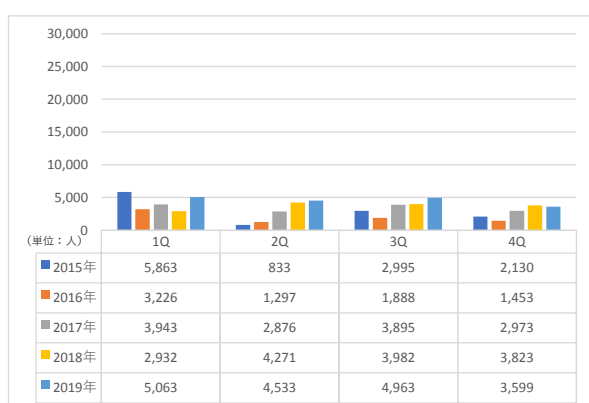


香港

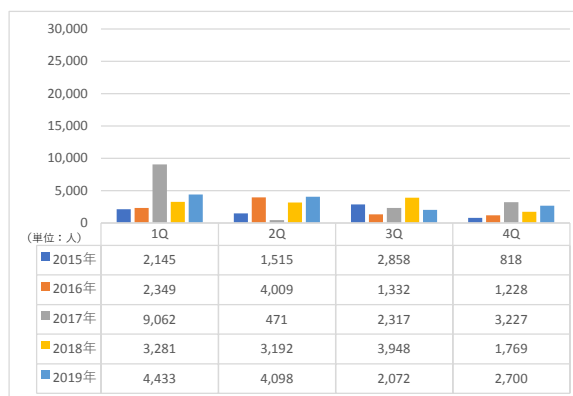


※空白の箇所はサンプル回収なし

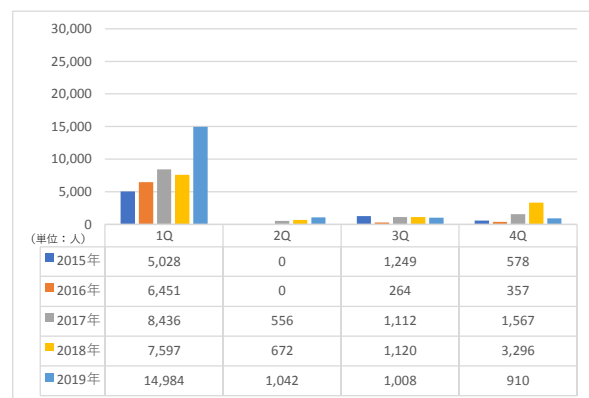
欧州



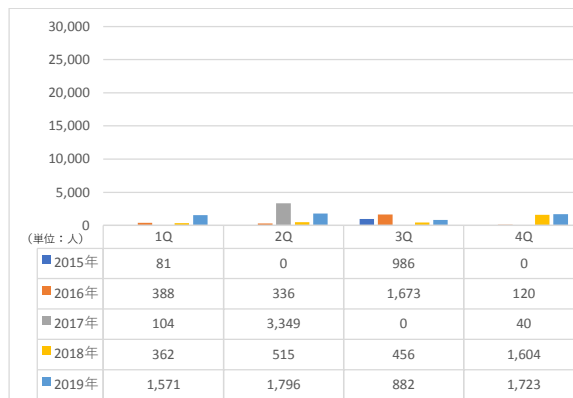
北米



オセアニア



その他



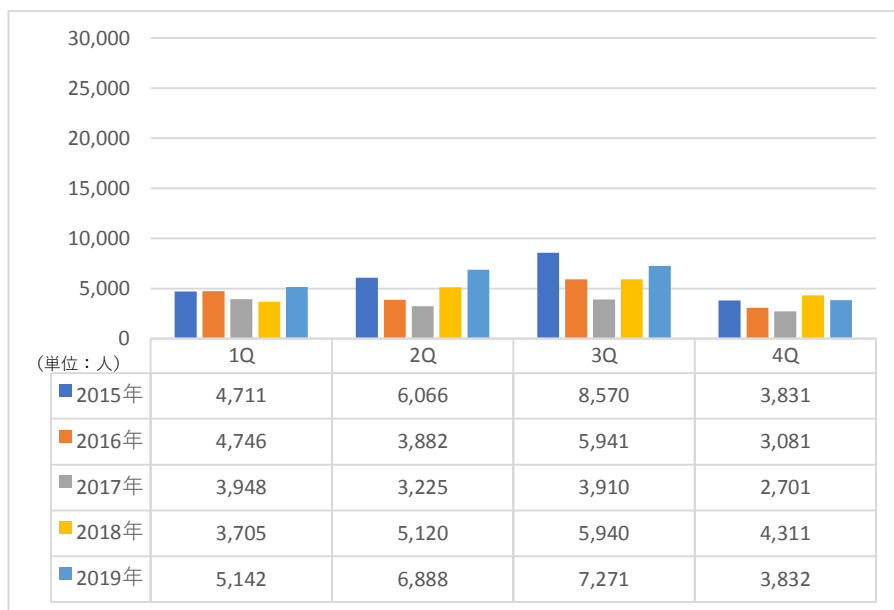
※1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

新潟空港への入込客数

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

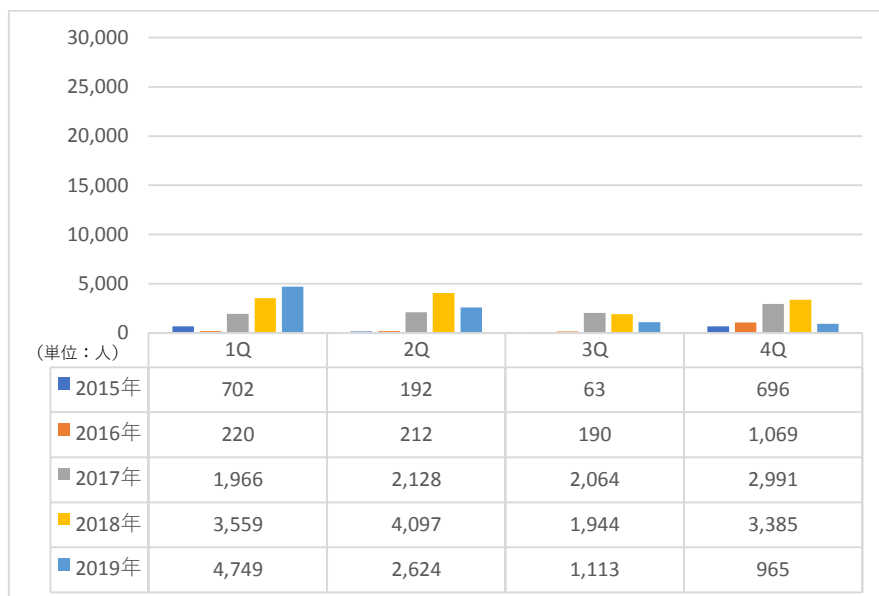
中国

- 新潟県への総流動量が最も多い中国から新潟空港への流動数は、10-12月の流動数が比較的少なくなっている。
- 新潟県への流動数では差が大きかったが、新潟空港への流動数には大きな差は見られない。



台湾

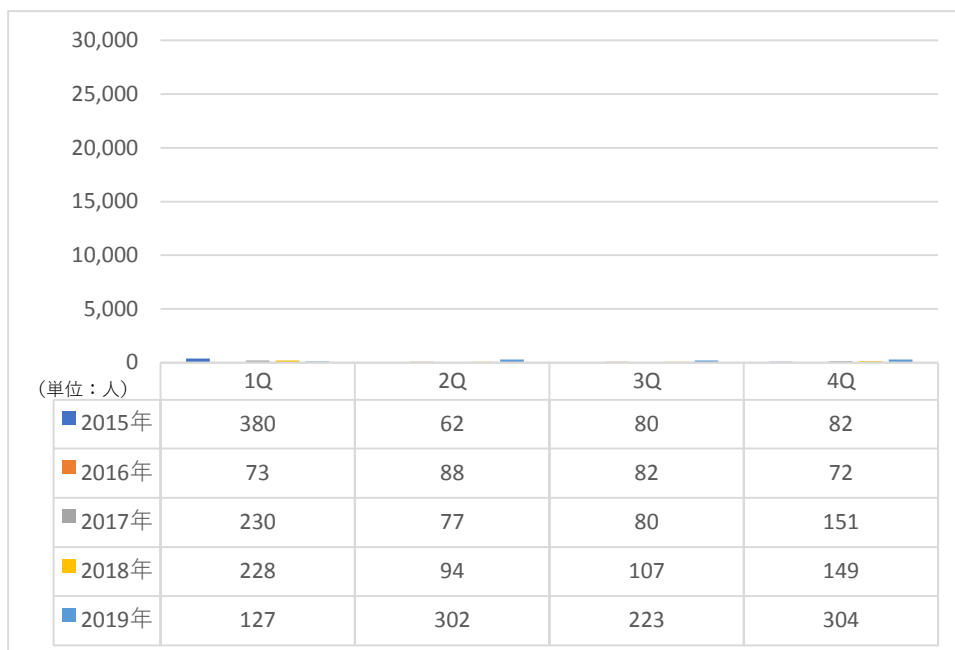
- 台湾からの流動数では、2016年の10-12月から千人を上回るようになっている。
- 1月-3月の流動数は、増加傾向である。



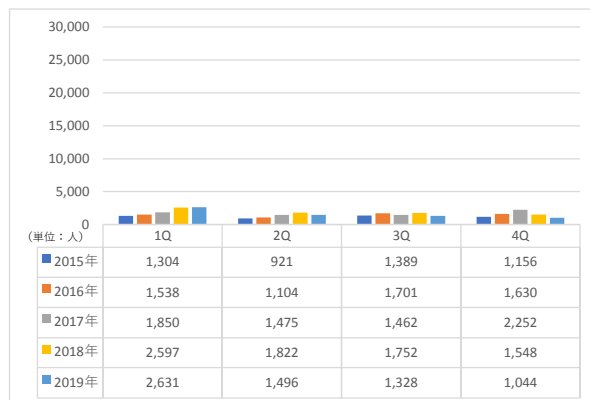
※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

ASEAN

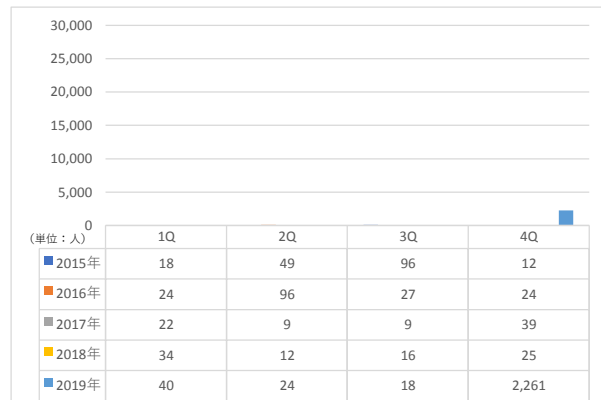
- ASEAN からの流動数は、いずれの年においても年間を通して 5 百人を下回っている。
- ASEAN から新潟空港への流動数は、韓国から新潟空港への流動数より少なくなっている。



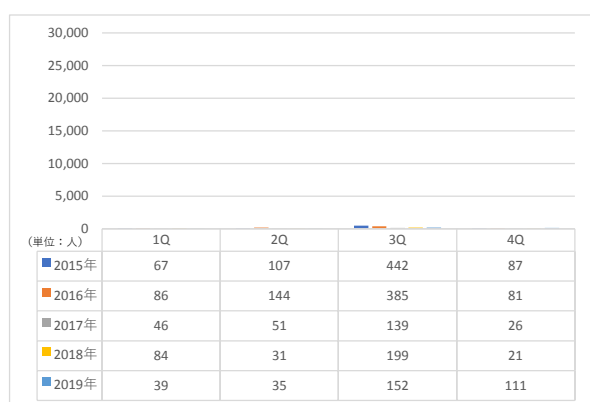
韓国



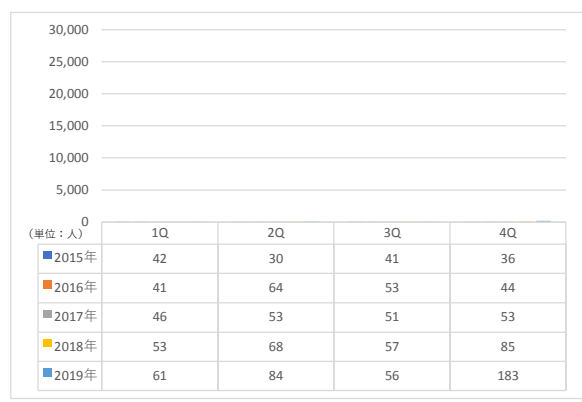
香港



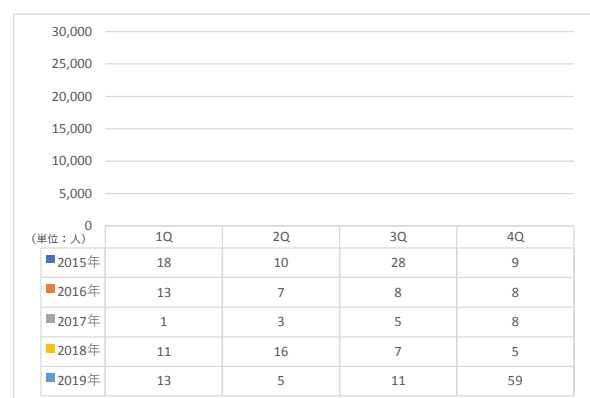
欧州



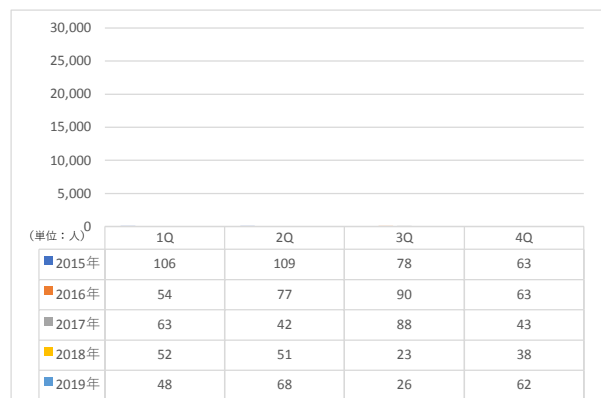
北米



オセアニア



その他

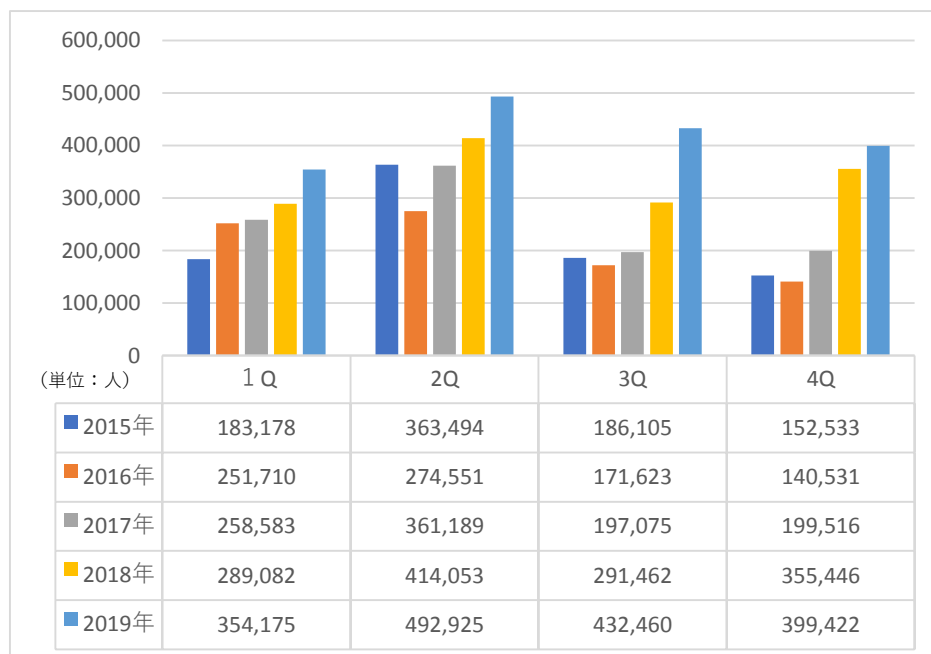


※1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

⑩ 山梨県

(i) 四半期別入込客数：山梨県

- ・ 山梨県における四半期別流動数では、年間を通して増加傾向である。
- ・ 2019 年の流動数では、年間を通して前年より多くなっている。
- ・ いずれの年においても、4 月-6 月の流動数が最も多くなっている。



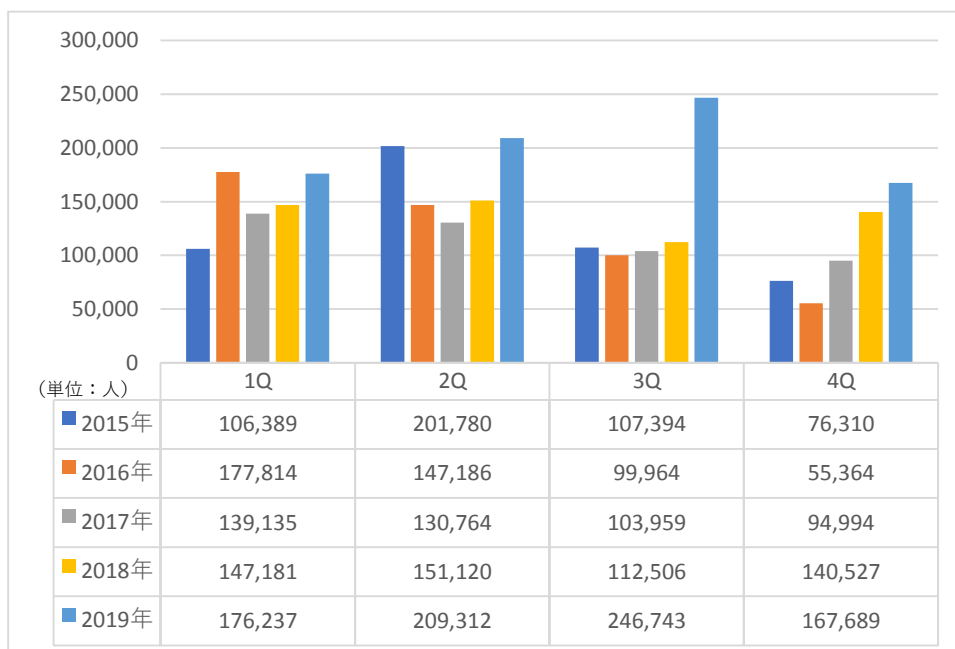
※ 1 Q(1 月-3 月)、2Q(4 月-6 月)、3Q (7-9 月)、4Q (10 月-12 月)

(ii) 国籍別・四半期別入込客数：山梨県

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

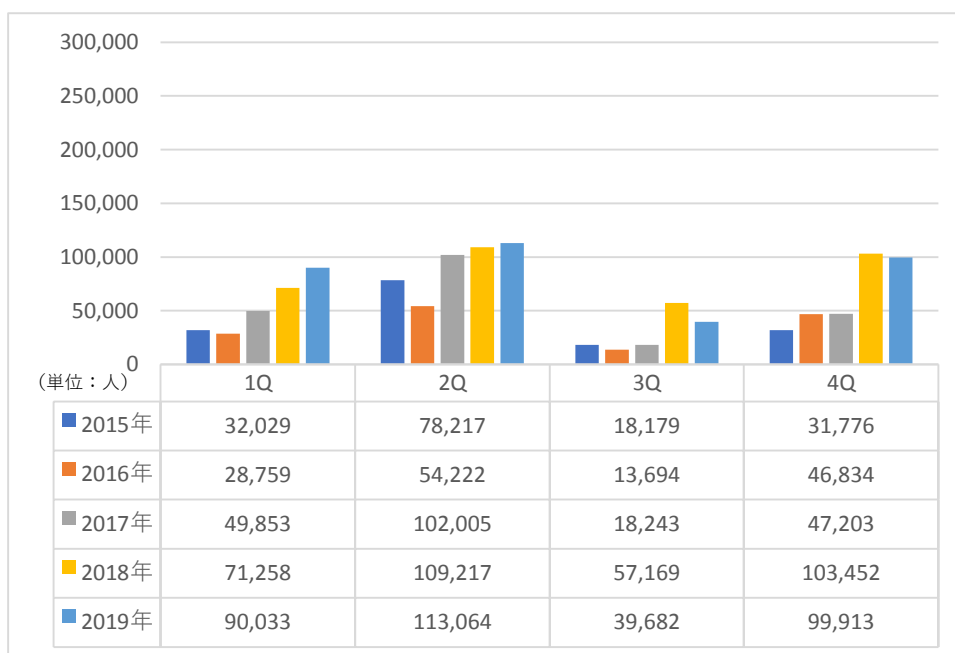
中国

- 山梨県への総流動量が最も多い中国は、2019年の流動数が7月-9月に大きく増加しており、前年の2倍以上となっている。
- 10-12月の流動数では、2016年以降増加傾向となっている。



ASEAN

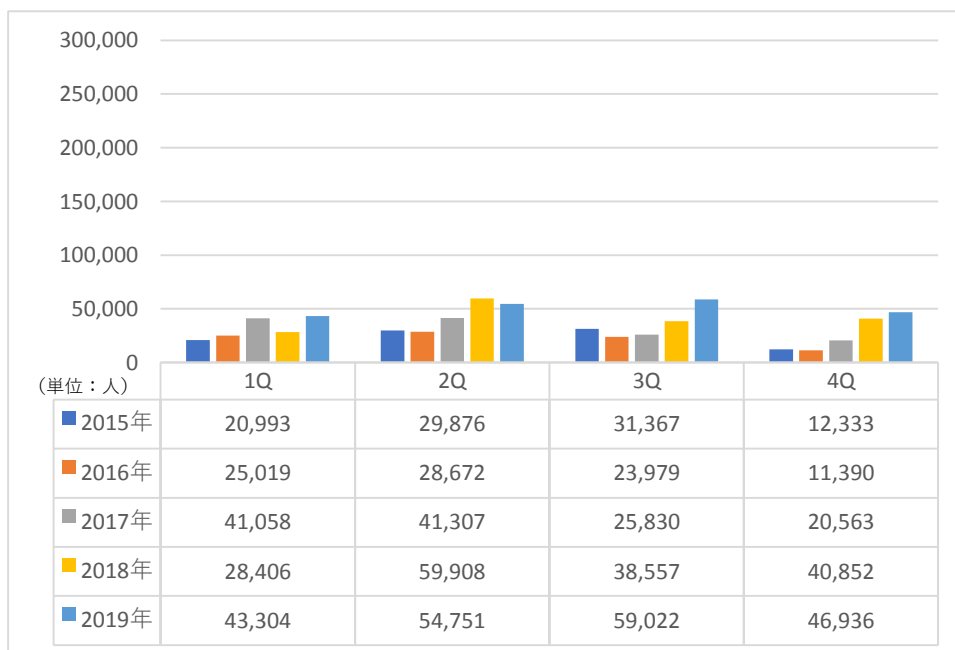
- ASEANからの流動数では、7月-9月を除きやや増加傾向である。
- 7月-9月と10-12月の流動数では、2018年に前年より大きく増加している。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

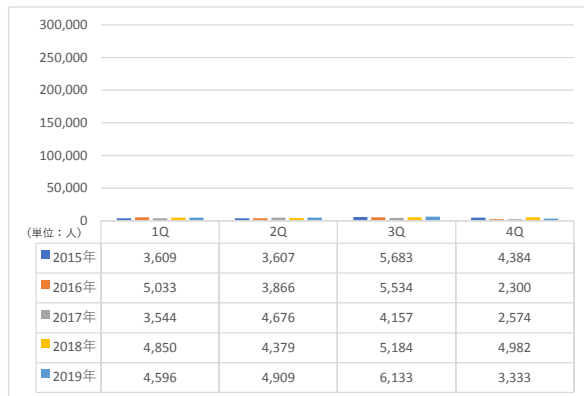
台湾

- 台湾からの流動数では、年間を通してやや増加傾向である。
- 2019年の流動数では、4月-6月のみ前年より少なくなっている。

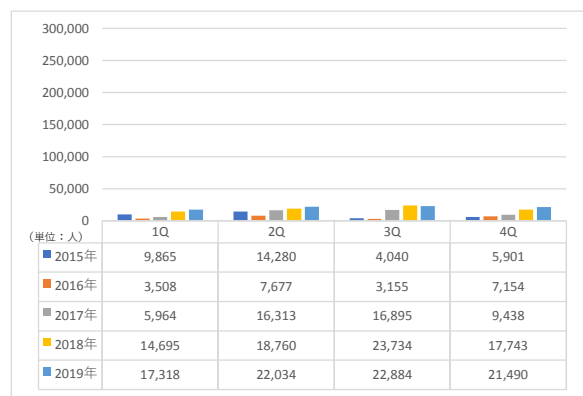


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

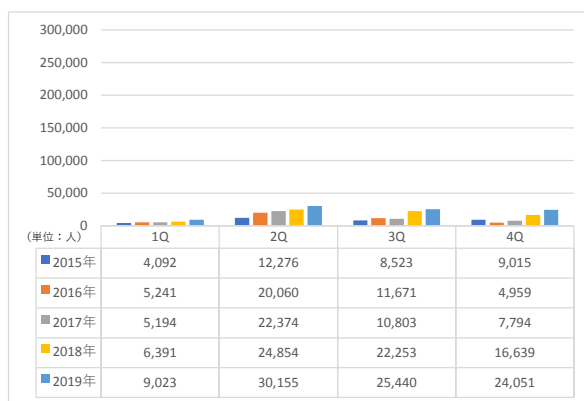
韓国



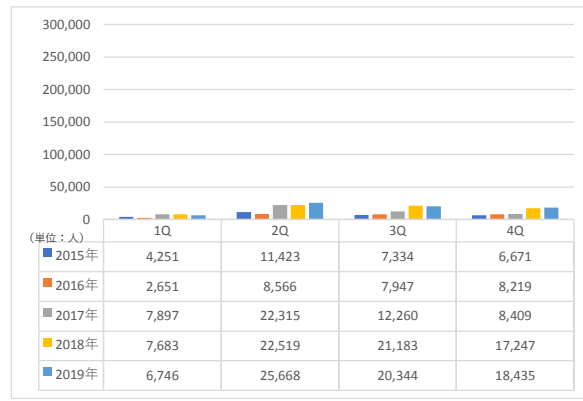
香港



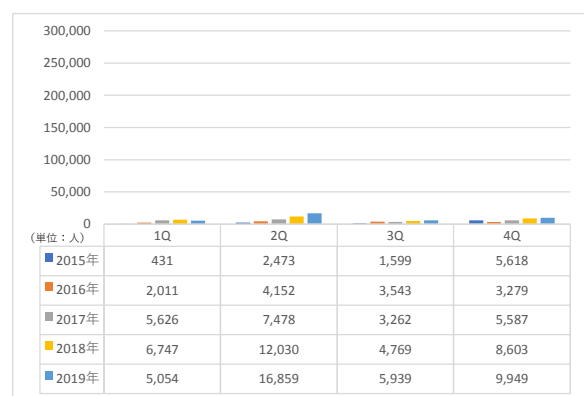
欧州



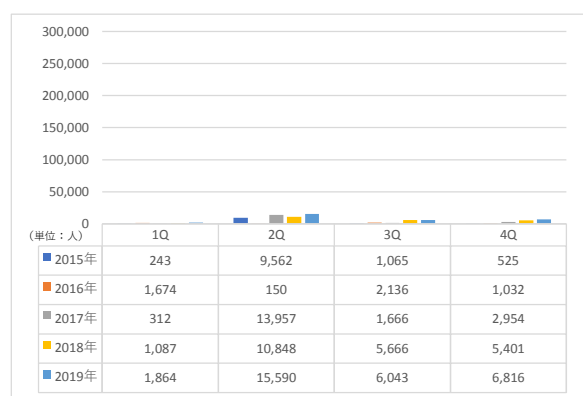
北米



オセアニア



その他

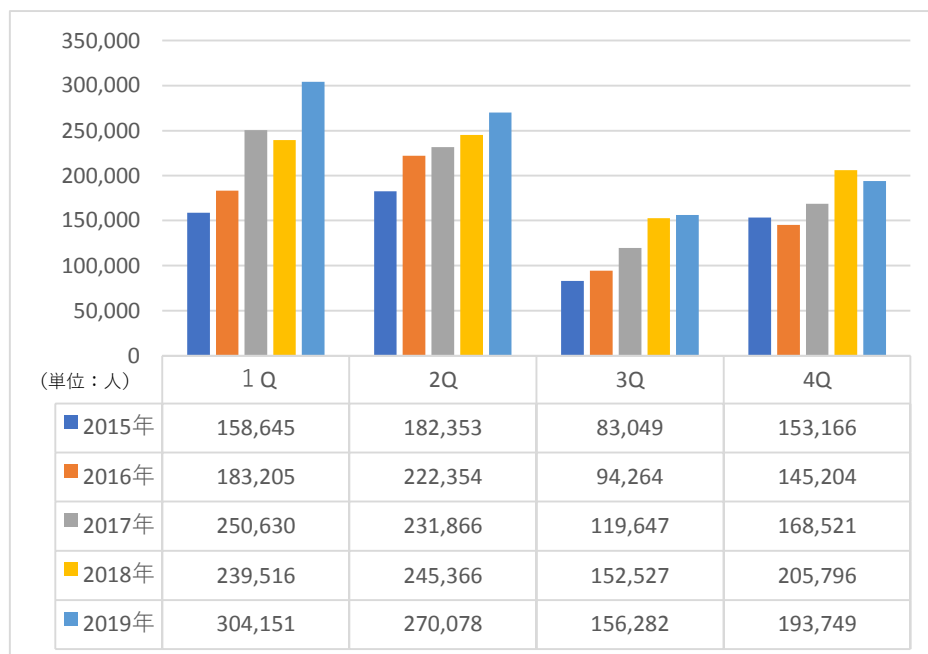


※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

⑪ 長野県

(i) 四半期別入込客数：長野県

- ・長野県における四半期別流動数では、4月-6月が増加傾向である。
- ・2019年の流動数では、1月-3月が特に多く30万人を超えている。
- ・いずれの年においても、7月-9月の流動数が最も少なくなっている。



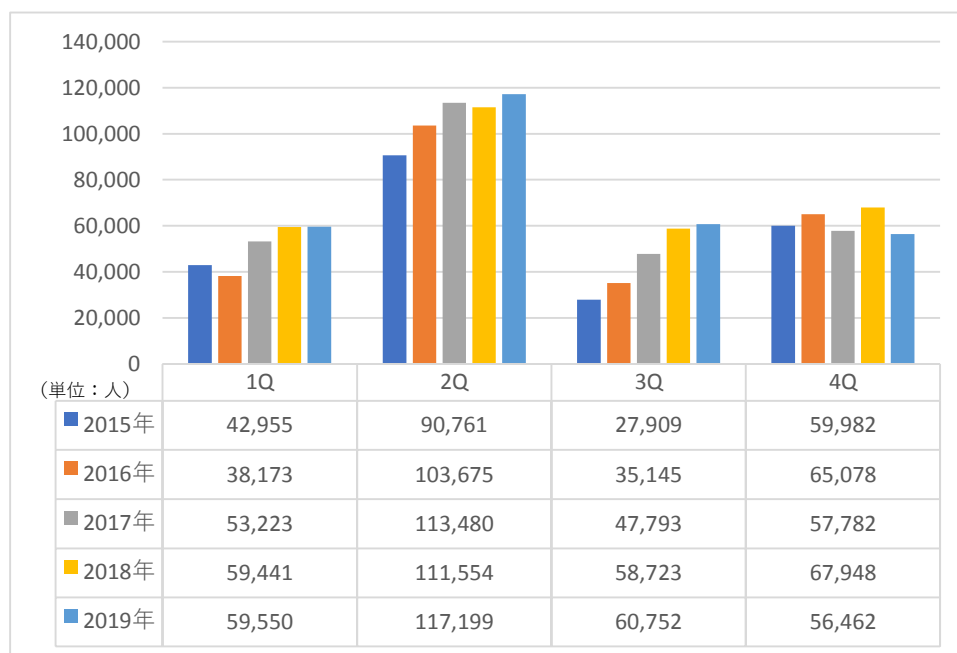
※ 1 Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q (7-9月)、4Q (10月-12月)

(ii) 国籍別・四半期別入込客数：長野県

※ 国籍別総流動の上位3位を記載

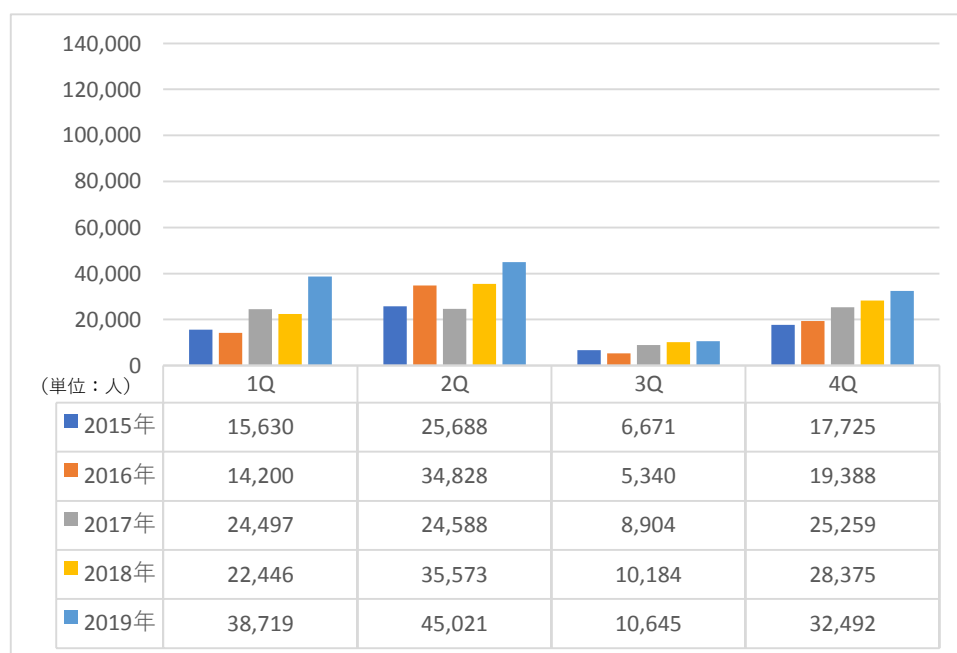
台湾

- 長野県への総流動量が最も多い台湾は、いずれの年においても4月-6月が最も多くなっている。
- 10-12月の流動数を除き、増加傾向となっている。
- 10-12月の流動数では、いずれの年においても大きな変化は見られない。



ASEAN

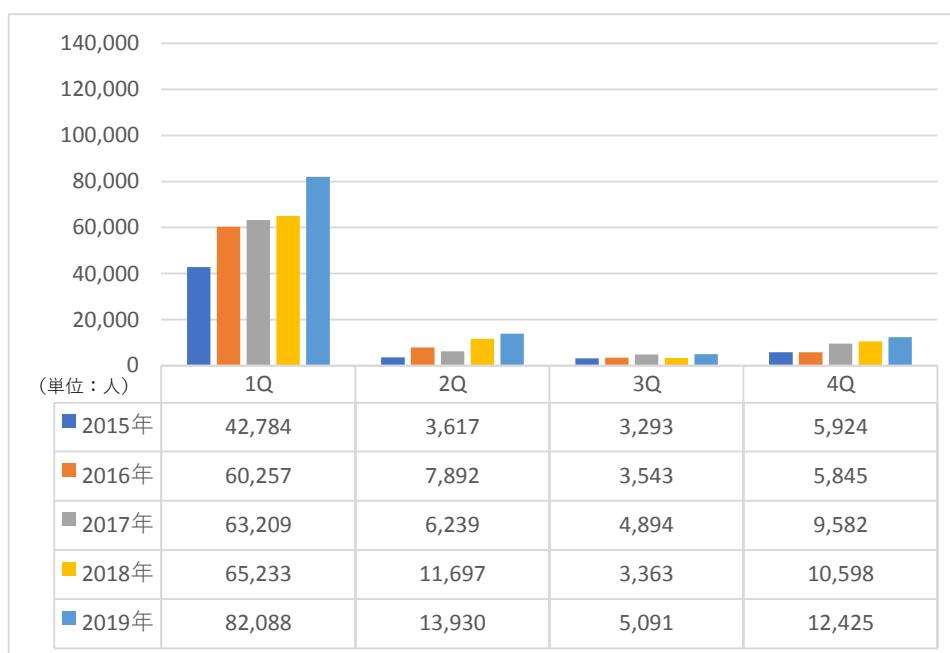
- ASEANからの流動数は、いずれの年においても7月-9月が最も少なくなっている。
- 10-12月の流動数では、やや増加傾向である。



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

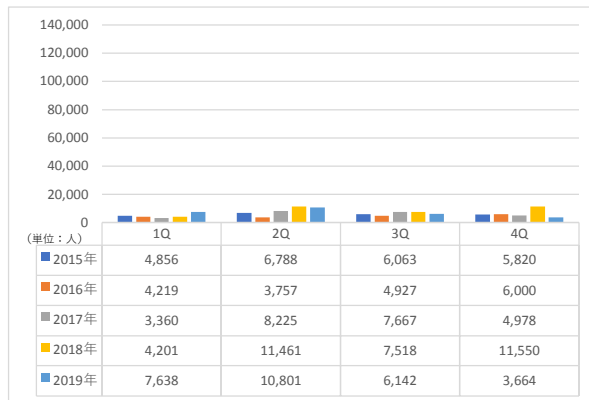
オセアニア

- ・オセアニアからの流動数では、いずれの年においても1月-3月が最も多くなっている。
- ・1月-3月の流動数では、2019年が特に多く、8万人を超えている。
- ・7月-9月の流動数では、いずれの年においても最も少なくなっている。

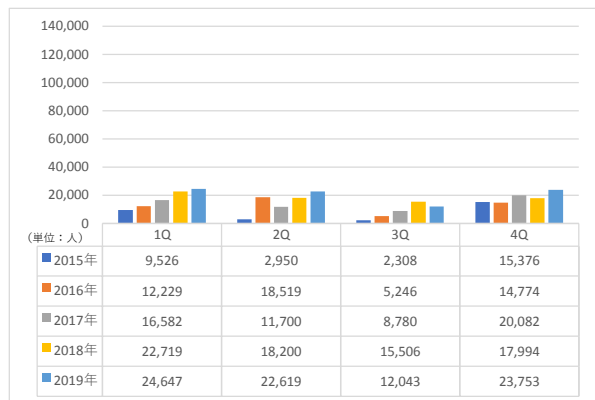


※1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

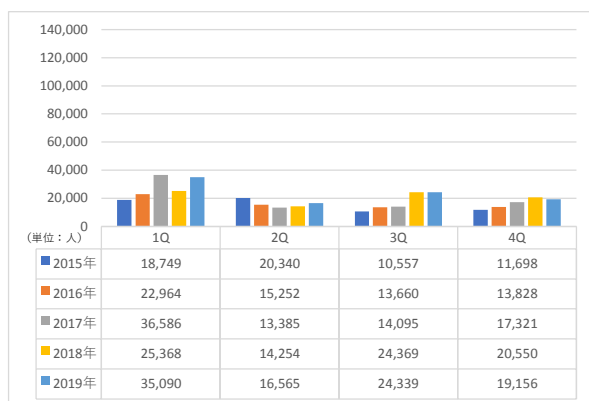
韓国



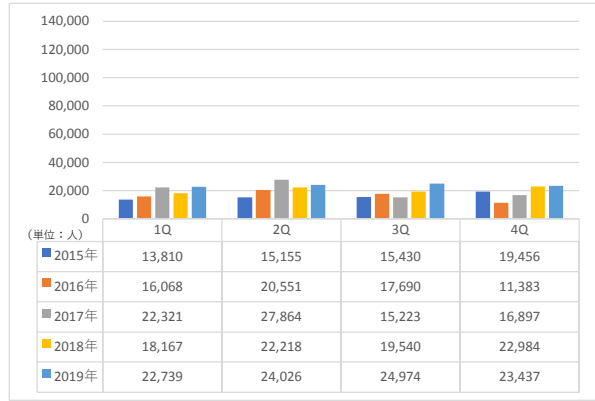
香港



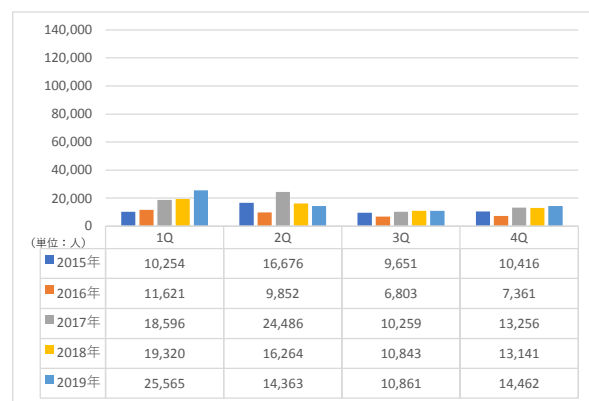
中国



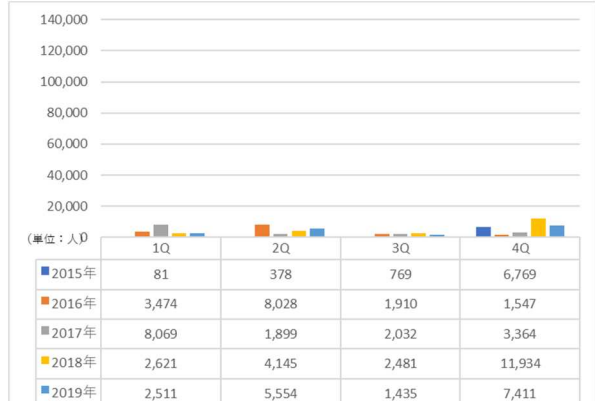
欧州



北米



その他



※ 1Q(1月-3月)、2Q(4月-6月)、3Q(7-9月)、4Q(10月-12月)

2-5 その他（コロナ流行前後移動手段、消費動向、宿泊者数）

2-5-1 新型コロナウイルス流行前後における国内旅行の移動手段についての変化

（1）対象データ

①出典

『旅行・観光消費動向調査』 2019 年、2020 年

第 4 表 旅行種類(2 区分)、宿泊の有無(2 区分)、旅行目的(3 区分)、主目的地(16 区分)・同行者(6 区分)・宿泊施設(11 区分)・最長交通機関(12 区分)・交通機関(12 区分)・宿泊数(8 区分)・旅行形態(2 区分)別 延べ旅行者数

最長交通機関	交通機関
旅行において利用した交通機関のうち、最も長い距離を移動したもの。	旅行において利用した交通機関の種類
【区分】 航空、新幹線、鉄道・モノレール、貸切バス、長距離バス、近郊バス、自家用車、タクシー・ハイヤー、レンタカー・カーシェアリング、バイク・自転車、船舶、その他 海外旅行においても出国前、帰国後に国内で利用した交通機関について調査した。	

『旅行・観光消費動向調査』より

②算出方法

- ・新型コロナウイルス感染拡大前の 2019 年の値と新型コロナウイルス感染拡大後の 2020 年の交通利用の構成比について 2019 年の値と比較を行った。
- ・構成比は旅行者数の値で算出し、利用交通機関の比較を行った。

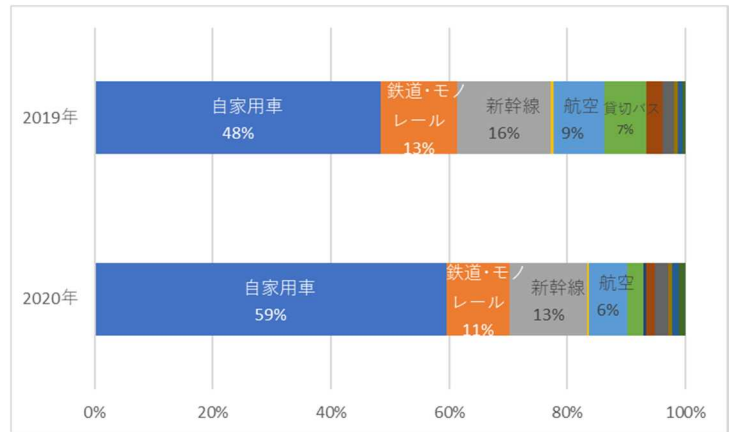
（２）集計結果

「最長交通機関」（①）ならびに「交通機関」（②）について、新型コロナウイルス感染拡大前後（2019年 vs. 2020年）の利用交通機関の構成比を比較した。比較は「全体」と「観光・レクリエーション目的（宿泊）」ごとに算出した。

①最長交通機関における利用の変化

【全体】

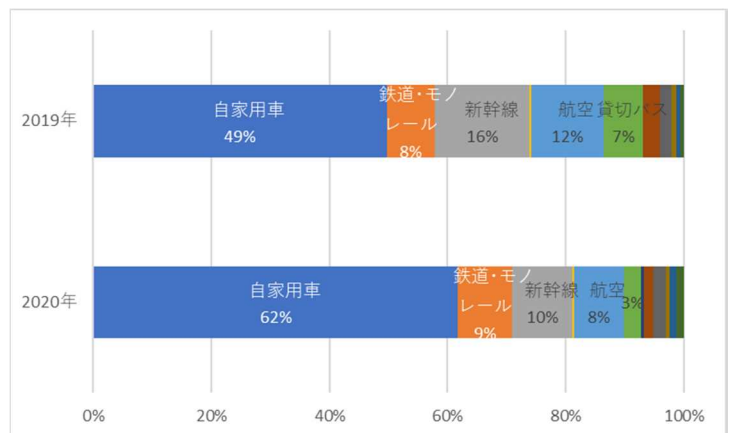
- ・コロナ前と比べ、自家用車の割合が増加し、鉄道関連（鉄道・モノレール、新幹線）の割合が低下していることが示された。



▲国内旅行者における最長交通機関（全体）の
新型コロナ流行前後の交通分担比較

【観光・レクリエーション目的】

- ・コロナ前と比べ、自家用車の割合が増加している。
- ・観光目的に限定した場合、特に新幹線の割合が低下していることが示された。



▲国内旅行者における最長交通機関
（観光・レクリエーション目的）の
新型コロナ流行前後の交通分担比較

【参考：全体＆目的別の割合】

▼国内旅行における最長交通機関毎の利用者数（2019 年）

(千人)

	国内旅行	宿泊旅行				日帰り旅行			
		宿泊旅行	観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務	日帰り旅行	観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務
最長交通機関(実数)	587,103	311,624	171,727	85,696	54,201	275,478	196,347	40,974	38,157
自家用車	48%	43%	49%	47%	18%	54%	58%	65%	19%
鉄道・モノレール	13%	9%	8%	11%	8%	17%	17%	16%	20%
新幹線	16%	21%	16%	21%	37%	10%	4%	12%	38%
近郊バス	0%	0%	0%	0%	#VALUE!	1%	1%	1%	0%
航空	9%	15%	12%	13%	26%	2%	1%	1%	7%
貸切バス	7%	4%	7%	0%	4%	10%	13%	1%	6%
タクシー・ハイヤー	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
長距離バス	3%	3%	3%	4%	3%	2%	2%	2%	4%
レンタカー・カーシェアリング	2%	2%	3%	1%	2%	2%	2%	1%	2%
船舶	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	0%
その他	1%	1%	0%	0%	3%	1%	0%	0%	3%
バイク・自転車	1%	0%	0%	0%	0%	1%	1%	0%	0%

注)％は列毎の割合

▼国内旅行における最長交通機関毎の利用者数（2020 年）

(千人)

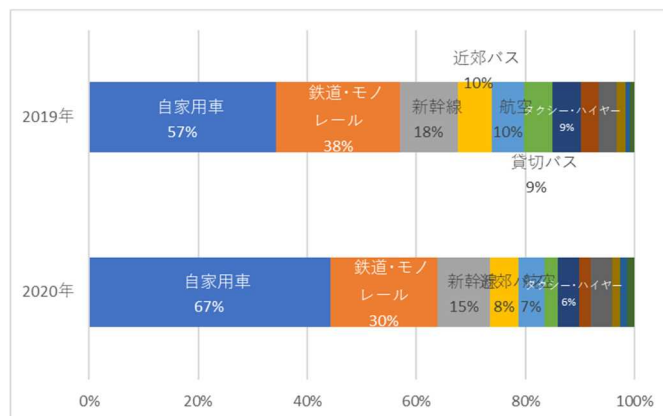
	国内旅行	宿泊旅行				日帰り旅行			
		宿泊旅行	観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務	日帰り旅行	観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務
最長交通機関(実数)	293,408	160,703	91,832	45,998	22,872	132,705	89,369	23,373	19,964
自家用車	59%	55%	62%	57%	22%	65%	69%	77%	30%
鉄道・モノレール	11%	9%	9%	10%	7%	13%	14%	10%	13%
新幹線	13%	17%	10%	17%	41%	9%	3%	9%	33%
近郊バス	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%
航空	6%	10%	8%	10%	20%	2%	0%	1%	8%
貸切バス	3%	2%	3%	0%	2%	4%	6%	0%	1%
タクシー・ハイヤー	0%	0%	0%	1%	1%	0%	0%	0%	1%
長距離バス	2%	2%	2%	2%	1%	1%	2%	1%	1%
レンタカー・カーシェアリング	2%	2%	3%	1%	2%	2%	2%	1%	4%
船舶	1%	1%	1%	1%	1%	0%	0%	0%	1%
その他	1%	1%	0%	0%	4%	1%	0%	0%	8%
バイク・自転車	1%	1%	1%	0%	1%	2%	2%	1%	0%

注)％は列毎の割合

②交通機関

【全体】

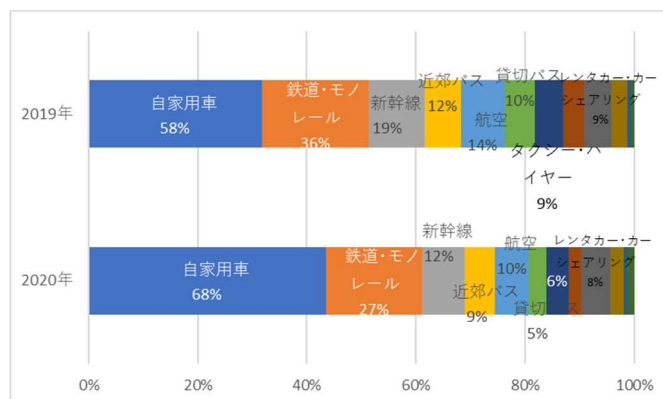
- コロナ前と比べ、自家用車の割合が増加している。
- 観光目的に限定した場合、特に新幹線の割合が低下していることが示された。



▲国内旅行者における交通機関（全体）の新型コロナ流行前後の交通分担比較

【観光・レクリエーション目的】

- コロナ前と比べ、自家用車の割合が増加している。
- 観光目的に限定した場合、特に新幹線の割合が低下していることが示された。



▲国内旅行者における交通機関（観光・レクリエーション目的）の新型コロナ流行前後の交通分担比較

【参考：全体＆全目的別の割合】

▼国内旅行における交通機関毎の利用者数（2019 年）

(千人)

	国内旅行	宿泊旅行				日帰り旅行			
		宿泊旅行	観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務	日帰り旅行	観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務
交通機関(実数)	587,103	311,624	171,727	85,696	54,201	275,478	196,347	40,974	38,157
自家用車	57%	55%	58%	64%	30%	60%	64%	70%	29%
鉄道・モノレール	38%	43%	36%	45%	63%	32%	26%	30%	65%
新幹線	18%	24%	19%	25%	40%	11%	4%	12%	40%
近郊バス	10%	13%	12%	11%	16%	8%	7%	6%	12%
航空	10%	17%	14%	15%	29%	2%	1%	2%	8%
貸切バス	9%	7%	10%	1%	8%	11%	13%	1%	6%
タクシー・ハイヤー	9%	12%	9%	11%	20%	5%	2%	8%	14%
長距離バス	6%	7%	7%	7%	7%	4%	4%	3%	6%
レンタカー・カーシェアリング	5%	8%	9%	4%	9%	2%	2%	1%	4%
船舶	3%	4%	5%	3%	2%	1%	1%	1%	0%
その他	1%	2%	1%	1%	5%	1%	1%	1%	4%
バイク・自転車	1%	1%	1%	1%	1%	2%	2%	1%	1%

注)％は列毎の割合

▼国内旅行における交通機関毎の利用者数（2020 年）

(千人)

	国内旅行	宿泊旅行				日帰り旅行			
		宿泊旅行	観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務	日帰り旅行	観光・レクリエーション	帰省・知人訪問等	出張・業務
交通機関(実数)	293,408	160,703	91,832	45,998	22,872	132,705	89,369	23,373	19,964
自家用車	67%	64%	68%	69%	36%	71%	75%	80%	41%
鉄道・モノレール	30%	35%	27%	36%	60%	24%	20%	20%	44%
新幹線	15%	19%	12%	19%	47%	9%	4%	10%	35%
近郊バス	8%	9%	9%	8%	15%	6%	5%	4%	7%
航空	7%	12%	10%	11%	21%	2%	0%	1%	9%
貸切バス	4%	3%	5%	0%	3%	4%	6%	1%	1%
タクシー・ハイヤー	6%	8%	6%	9%	15%	3%	2%	4%	10%
長距離バス	3%	4%	4%	5%	5%	2%	2%	1%	2%
レンタカー・カーシェアリング	6%	7%	8%	4%	10%	4%	3%	2%	9%
船舶	2%	3%	4%	2%	3%	1%	1%	0%	1%
その他	2%	2%	1%	1%	5%	2%	1%	1%	9%
バイク・自転車	2%	2%	2%	1%	2%	3%	3%	2%	2%

注)％は列毎の割合

2-5-2 都県別の消費動向

(1) 対象データ

①出典

- ・『訪日外国人消費動向調査』2015 年～2019 年

表 3-3 訪問地（都道府県 47 区分および地方運輸局等 10 区分）別 1 人 1 回当たり旅行消費単価

表 6-1 国籍・地域（21 区分）別 都道府県別訪問率

- ・『訪日外客数』2015 年～2019 年

②算出方法

- ・訪日外客数（年間）を都道府県別の訪問率(表 6-1)で乗算し、都県別の訪問者数を算出した。
- ・都県別の訪問者数に対し、「表 3-3 国籍・地域（21 区分）別 都道府県別訪問率」を乗算し、国籍別の消費単価を算出した。
- ・上記の集計を 2015 年～2019 年の 5 カ年で算出した。

(2) 集計結果

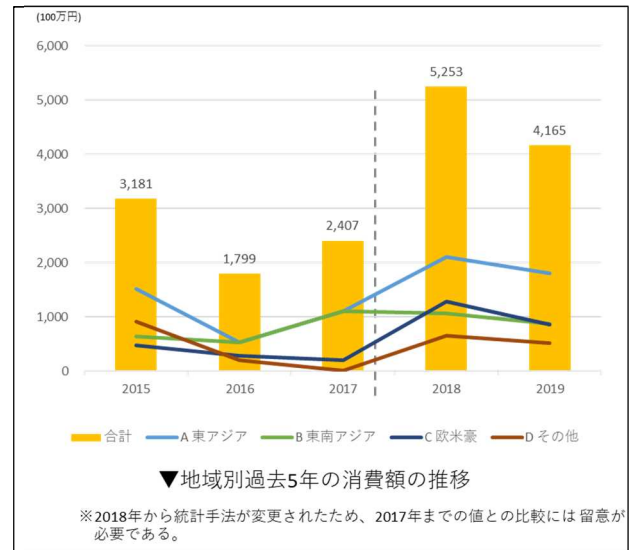
①福島県

【消費額全体】

- 2019年の福島県の消費額全体は約42億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約18億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約7.1億、次いで台湾の約6.8億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年） (単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	43,507	22,503	32,873	49,798	39,879
合計値	3,181	1,799	2,407	5,253	4,165
A 東アジア	1,522	530	1,112	2,106	1,799
韓国	427	154	267	568	276
中国	859	168	201	802	710
台湾	107	164	644	600	677
香港	129	44	-	136	136
B 東南アジア	639	530	1,100	1,069	880
タイ	424	90	764	226	295
シンガポール	55	114	-	50	43
マレーシア	47	21	86	246	9
インドネシア	40	-	-	162	16
フィリピン	74	160	251	324	436
ベトナム	-	145	-	61	80
C 欧米豪	480	281	203	1,290	862
欧州	248	143	62	549	318
英国	109	62	-	253	142
フランス	40	-	29	52	11
ドイツ	83	45	25	182	71
イタリア	-	-	-	-	8
スペイン	-	-	7	-	29
ロシア	16	35	1	62	57
北米	53	84	140	540	308
米国	53	63	100	500	251
カナダ	-	21	40	40	57
オセアニア	178	55	-	202	236
豪州	178	55	-	202	236
D その他	909	198	4	649	516
インド	-	8	-	2	41
その他	909	190	4	647	475

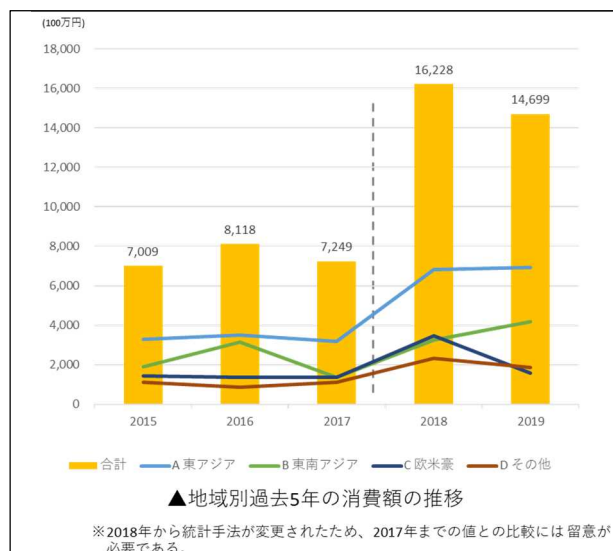
②茨城県

【消費額全体】

- 2019年の茨城県の消費額全体は約147億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約69億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約41億、次いで韓国の約16億円。



▼国籍別の消費額の推移 (2015年 - 2019年)

(単位: 100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	41,430	40,402	39,200	64,317	51,641
合計値	7,009	8,118	7,249	16,228	14,699
A 東アジア	3,296	3,509	3,194	6,825	6,929
韓国	384	409	528	1,480	1,611
中国	2,429	2,311	1,970	3,864	4,076
台湾	483	785	682	1,268	775
香港	-	4	13	213	468
B 東南アジア	1,909	3,159	1,369	3,247	4,176
タイ	1,006	1,045	184	1,691	1,101
シンガポール	34	408	1	77	175
マレーシア	273	137	134	245	571
インドネシア	318	230	224	546	681
フィリピン	112	169	549	633	638
ベトナム	166	1,171	276	54	1,011
C 欧米豪	1,447	1,377	1,378	3,482	1,573
欧州	796	775	651	2,588	840
英国	253	412	169	194	328
フランス	182	69	15	692	90
ドイツ	234	163	287	180	274
イタリア	47	23	112	501	93
スペイン	8	15	31	418	8
ロシア	72	93	38	603	49
北米	534	441	500	748	719
米国	496	392	415	442	679
カナダ	38	49	85	305	40
オセアニア	117	161	227	146	14
豪州	117	161	227	146	14
D その他	1,115	861	1,128	2,338	1,864
インド	45	186	186	378	515
その他	1,070	675	942	1,961	1,349

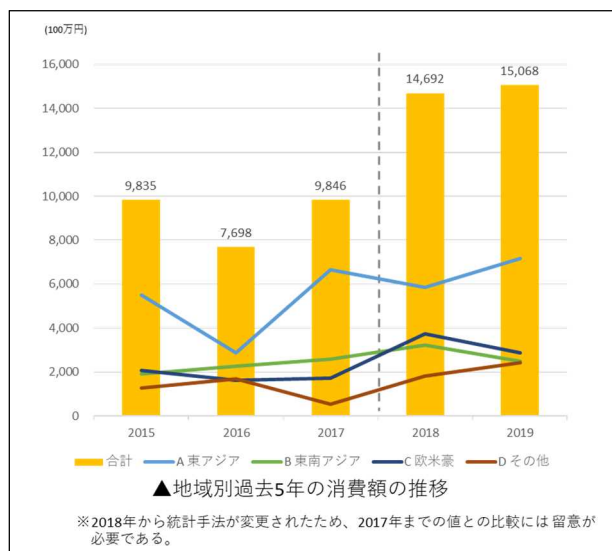
③栃木県

【消費額全体】

- ・ 2019 年の栃木県の消費額全体は約 151 億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約 72 億円であった。

【国籍別消費額】

- ・ 2019 年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約 33 億、次いで台湾の約 20 億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年）

(単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	32,782	21,566	23,946	36,227	36,770
合計値	9,835	7,698	9,846	14,692	15,068
A 東アジア	5,485	2,874	6,658	5,861	7,152
韓国	728	230	579	760	1,153
中国	3,039	1,142	3,470	2,898	3,348
台湾	1,014	1,474	1,800	1,623	1,973
香港	704	27	809	581	679
B 東南アジア	1,903	2,253	2,583	3,226	2,500
タイ	1,300	1,328	682	892	1,140
シンガポール	75	314	-	137	407
マレーシア	116	180	95	402	533
インドネシア	67	84	757	306	112
フィリピン	49	153	87	573	140
ベトナム	295	195	961	915	167
C 欧米豪	2,075	1,611	1,708	3,747	2,864
欧州	1,062	950	810	1,635	1,430
英国	446	246	316	483	199
フランス	163	207	177	465	387
ドイツ	271	249	66	262	549
イタリア	39	115	117	337	51
スペイン	45	95	99	71	142
ロシア	98	38	35	17	102
北米	825	486	632	1,552	1,162
米国	694	375	564	1,267	1,045
カナダ	130	112	68	285	116
オセアニア	189	174	266	560	272
豪州	189	174	266	560	272
D その他	1,278	1,690	526	1,825	2,419
インド	198	237	220	498	216
その他	1,080	1,453	306	1,327	2,203

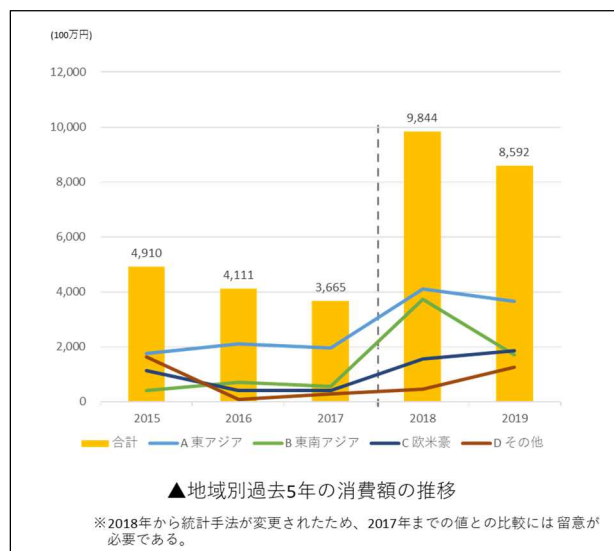
④群馬県

【消費額全体】

- 2019年の群馬県の消費額全体は約86億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約37億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約22億、次いで米国の約6億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年）

(単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	45,711	25,582	28,046	58,692	49,393
合計値	4,910	4,111	3,665	9,844	8,592
A 東アジア	1,754	2,110	1,957	4,111	3,667
韓国	707	327	297	436	425
中国	690	762	946	2,517	2,224
台湾	327	432	480	732	599
香港	30	590	234	425	418
B 東南アジア	416	708	561	3,742	1,704
タイ	138	231	207	290	349
シンガポール	31	5	2	118	255
マレーシア	65	21	51	223	247
インドネシア	37	19	56	463	185
フィリピン	145	190	224	1,395	361
ベトナム	-	243	20	1,253	306
C 欧米豪	1,139	404	414	1,557	1,860
欧州	207	250	162	283	554
英国	116	96	102	8	159
フランス	57	29	-	25	158
ドイツ	34	8	32	37	151
イタリア	-	23	26	77	31
スペイン	-	-	-	106	46
ロシア	-	94	2	31	8
北米	805	139	145	914	807
米国	658	102	122	828	636
カナダ	147	37	24	86	172
オセアニア	126	14	107	359	499
豪州	126	14	107	359	499
D その他	1,644	94	274	463	1,270
インド	4	51	98	169	152
その他	1,640	43	177	294	1,119

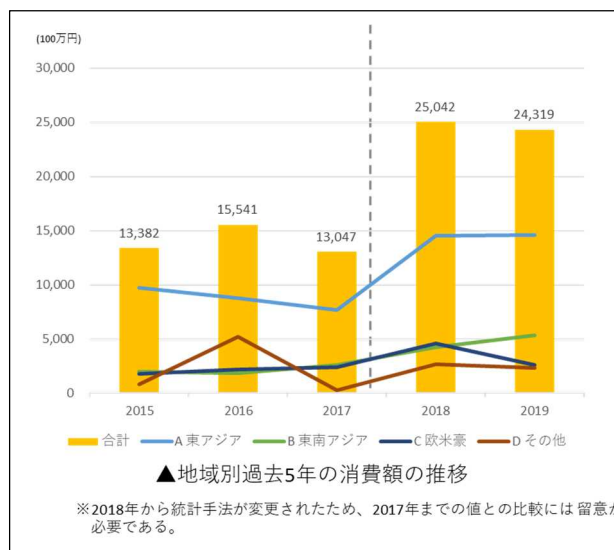
⑤埼玉県

【消費額全体】

- 2019年の埼玉県の消費額全体は約243億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約146億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約85億、次いで台湾の約29億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年）

(単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	48,974	51,030	46,212	80,219	71,811
合計値	13,382	15,541	13,047	25,042	24,319
A 東アジア	9,760	8,804	7,687	14,535	14,596
韓国	1,675	980	1,221	2,170	2,354
中国	7,298	5,489	5,099	10,107	8,539
台湾	715	2,066	1,166	1,775	2,909
香港	72	269	201	483	794
B 東南アジア	1,983	1,840	2,583	4,261	5,330
タイ	790	354	284	791	1,697
シンガポール	34	24	376	150	47
マレーシア	117	251	116	298	296
インドネシア	286	821	221	219	339
フィリピン	185	361	682	845	844
ベトナム	571	29	904	1,958	2,107
C 欧米豪	1,787	2,178	2,412	4,621	2,600
欧州	658	660	1,574	1,939	923
英国	200	137	151	1,033	217
フランス	68	140	710	336	295
ドイツ	183	221	225	222	266
イタリア	13	51	323	221	61
スペイン	119	-	26	1	7
ロシア	75	112	140	126	77
北米	809	1,466	708	2,434	1,216
米国	662	720	576	1,990	898
カナダ	147	746	132	444	318
オセアニア	320	52	130	247	460
豪州	320	52	130	247	460
D その他	807	5,225	240	2,681	2,313
インド	159	389	144	222	725
その他	648	4,836	96	2,459	1,588

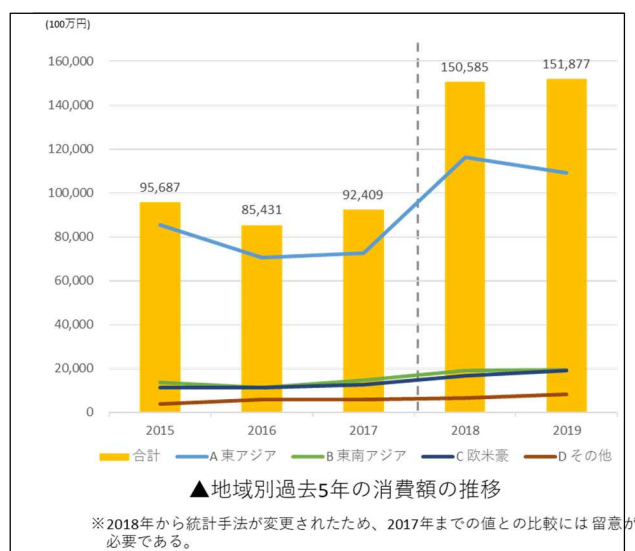
⑥千葉県

【消費額全体】

- 2019年の千葉県の消費額全体は約1,519億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約1,091億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約717億、次いで台湾の約205億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年）

(単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	10,913	8,959	8,946	13,543	13,565
合計値	95,687	85,431	92,409	150,585	151,877
A 東アジア	85,315	70,720	72,642	116,300	109,131
韓国	5,686	5,243	8,378	13,070	9,944
中国	60,843	46,722	44,623	78,548	71,714
台湾	15,130	14,948	15,263	19,712	20,503
香港	3,656	3,807	4,378	4,971	6,970
B 東南アジア	13,652	11,340	14,817	19,236	19,479
タイ	6,824	4,331	5,603	7,665	7,552
シンガポール	1,613	1,737	1,537	2,461	2,087
マレーシア	1,870	1,995	1,661	1,621	2,171
インドネシア	977	1,108	1,358	1,575	1,956
フィリピン	1,160	1,259	1,829	2,301	2,756
ベトナム	1,209	910	2,829	3,613	2,957
C 欧米豪	11,295	11,396	12,794	16,720	18,987
欧州	3,199	3,869	3,257	4,803	5,870
英国	976	676	1,065	1,198	1,239
フランス	505	561	514	694	1,203
ドイツ	584	1,003	337	510	495
イタリア	415	872	533	777	575
スペイン	260	416	255	648	1,462
ロシア	461	342	553	977	898
北米	6,235	6,005	7,626	8,838	10,480
米国	5,275	5,173	6,517	7,654	9,282
カナダ	960	832	1,109	1,184	1,198
オセアニア	1,861	1,521	1,912	3,079	2,637
豪州	1,861	1,521	1,912	3,079	2,637
D その他	3,716	5,878	5,724	6,710	8,304
インド	519	689	640	776	792
その他	3,198	5,189	5,085	5,934	7,512

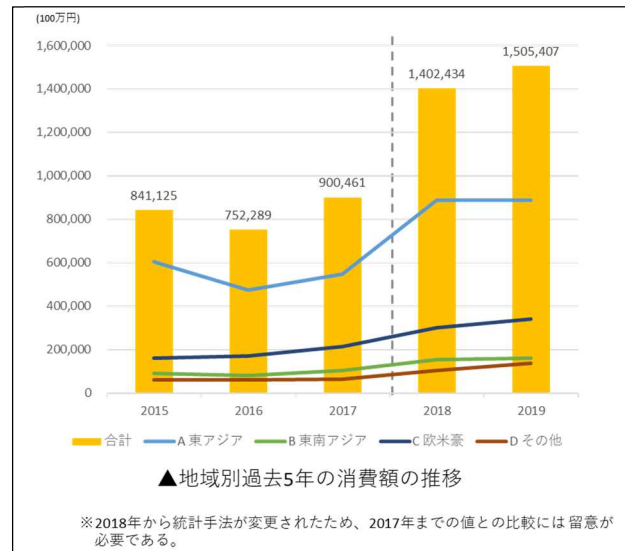
⑦東京都

【消費額全体】

- 2019年の東京都の消費額全体は約1兆5,054億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約8,878億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約5,954億、次いで米国の約1,397億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年）

(単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	81,858	64,952	67,926	98,561	99,959
合計値	841,125	752,289	900,461	1,402,434	1,505,407
A 東アジア	604,923	474,054	548,331	887,555	887,810
韓国	63,896	64,502	85,846	111,293	97,559
中国	395,373	270,102	316,484	580,180	595,390
台湾	98,526	79,270	86,220	116,171	118,680
香港	47,128	60,180	59,781	79,911	76,181
B 東南アジア	91,230	80,714	102,880	152,162	161,409
タイ	31,505	26,631	31,574	42,919	48,675
シンガポール	19,836	17,401	21,778	27,528	31,154
マレーシア	10,892	9,452	7,989	16,199	16,944
インドネシア	8,543	9,080	16,182	22,371	21,476
フィリピン	10,820	11,058	12,672	19,487	20,088
ベトナム	9,634	7,093	12,685	23,658	23,071
C 欧米豪	158,971	169,561	214,236	300,862	340,121
欧州	59,128	60,141	72,295	111,372	121,641
英国	21,090	22,675	26,895	33,515	35,752
フランス	13,386	16,073	15,691	26,857	31,351
ドイツ	8,661	7,658	12,814	19,151	19,286
イタリア	6,020	5,116	6,184	12,051	13,389
スペイン	6,471	5,560	5,991	12,288	10,515
ロシア	3,500	3,058	4,719	7,509	11,349
北米	74,738	82,438	106,390	143,269	170,135
米国	61,878	68,663	86,827	119,248	139,650
カナダ	12,860	13,774	19,563	24,021	30,485
オセアニア	25,105	26,981	35,551	46,221	48,344
豪州	25,105	26,981	35,551	46,221	48,344
D その他	59,451	59,542	64,563	104,659	136,533
インド	6,189	5,419	6,226	12,891	15,209
その他	53,263	54,123	58,337	91,767	121,324

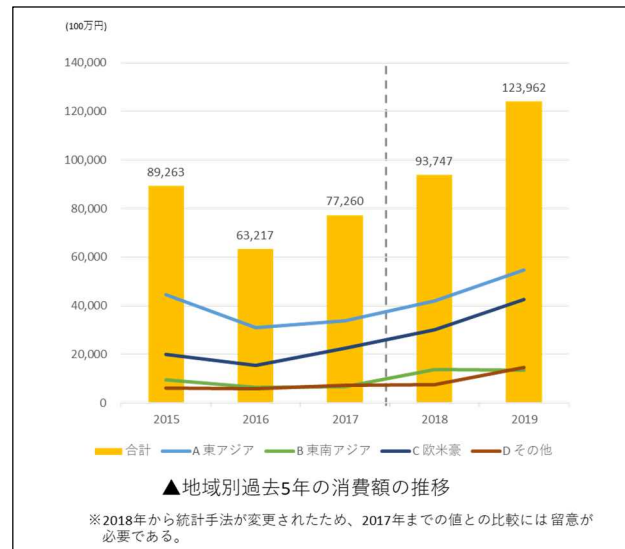
⑧神奈川県

【消費額全体】

- 2019年の神奈川県の消費額全体は約1,240億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約547億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約326億、次いで米国の約239億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年）

(単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	39,907	27,403	31,726	39,987	49,609
合計値	89,263	63,217	77,260	93,747	123,962
A 東アジア	44,610	31,096	33,767	42,086	54,733
韓国	6,473	4,070	5,933	6,732	9,797
中国	28,244	19,657	20,186	22,351	32,642
台湾	6,742	4,966	4,165	9,207	7,302
香港	3,151	2,402	3,483	3,796	4,992
B 東南アジア	9,371	6,416	6,750	13,704	13,365
タイ	2,946	2,092	1,546	3,610	3,830
シンガポール	746	1,050	1,538	1,230	1,653
マレーシア	953	544	805	645	930
インドネシア	520	502	509	2,301	766
フィリピン	1,247	970	958	3,117	1,285
ベトナム	2,959	1,260	1,394	2,800	4,901
C 欧米豪	19,860	15,412	22,513	30,008	42,584
欧州	6,738	4,490	7,227	8,522	15,118
英国	2,130	1,355	2,871	2,602	5,886
フランス	2,228	1,175	2,008	2,293	3,013
ドイツ	1,023	1,198	1,043	1,416	4,185
イタリア	583	243	635	1,106	919
スペイン	393	311	463	858	585
ロシア	380	208	207	248	530
北米	12,079	10,298	13,800	19,495	25,783
米国	10,811	9,111	12,594	17,797	23,940
カナダ	1,269	1,188	1,206	1,699	1,843
オセアニア	1,043	624	1,485	1,992	1,682
豪州	1,043	624	1,485	1,992	1,682
D その他	6,083	5,958	7,215	7,513	14,625
インド	1,914	1,115	1,550	3,038	4,418
その他	4,169	4,843	5,665	4,475	10,207

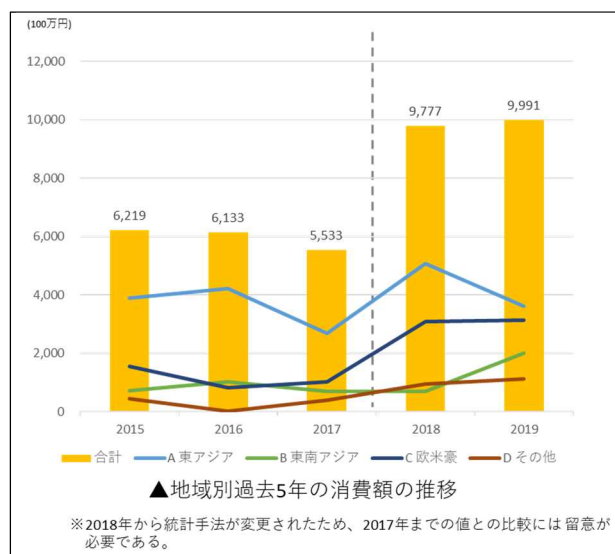
◎新潟県

【消費額全体】

- 2019 年の新潟県の消費額全体は約 100 億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約 36 億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019 年の国籍別の消費額が最も大きい国は台湾の約 14 億、次いで豪州の約 14 億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年）

(単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	43,206	41,422	25,693	60,498	50,430
合計値	6,219	6,133	5,533	9,777	9,991
A 東アジア	3,896	4,231	2,677	5,073	3,612
韓国	465	658	569	457	211
中国	2,544	2,529	694	2,570	1,105
台湾	618	1,011	1,414	1,333	1,417
香港	269	33	-	713	880
B 東南アジア	714	1,037	707	713	2,007
タイ	494	92	40	204	633
シンガポール	-	171	156	64	321
マレーシア	139	466	50	98	359
インドネシア	21	47	360	168	111
フィリピン	60	39	5	173	182
ベトナム	-	223	96	5	401
C 欧米豪	1,566	829	1,023	3,081	3,141
欧州	417	260	261	1,343	1,257
英国	132	98	73	286	737
フランス	12	32	93	201	65
ドイツ	108	47	33	182	94
イタリア	9	-	-	39	38
スペイン	30	-	-	43	26
ロシア	126	82	62	592	297
北米	199	354	348	818	485
米国	100	354	333	695	379
カナダ	98	-	15	123	106
オセアニア	951	215	414	919	1,398
豪州	951	215	414	919	1,398
D その他	459	10	409	825	1,117
インド	2	10	5	-	114
その他	457	35	404	825	1,003

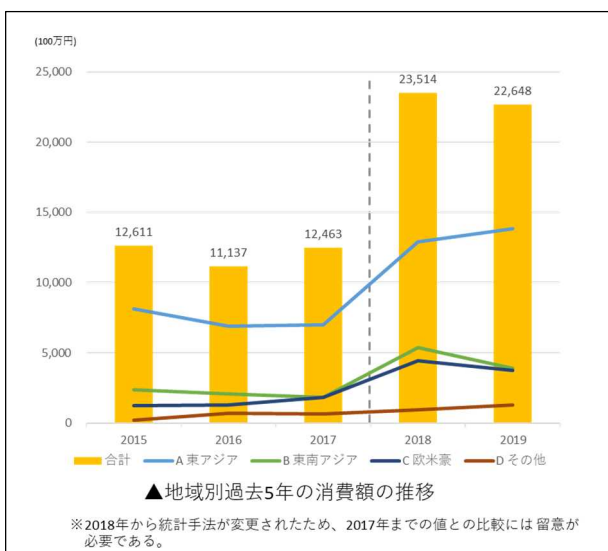
⑩山梨県

【消費額全体】

- 2019年の山梨県の消費額全体は約226億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは東アジアの約139億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は中国の約78億、次いで台湾の約31億円。



▼国籍別の消費額の推移（2015年－2019年）

(単位：100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	10,065	8,442	8,069	16,369	12,814
合計値	12,611	11,137	12,463	23,514	22,648
A 東アジア	8,126	6,916	7,014	12,894	13,847
韓国	400	328	320	707	880
中国	5,485	4,605	4,465	7,129	7,805
台湾	1,519	1,443	1,614	2,949	3,059
香港	722	540	615	2,109	2,104
B 東南アジア	2,390	2,056	1,843	5,354	3,900
タイ	1,424	848	1,164	2,374	1,948
シンガポール	168	563	132	539	669
マレーシア	176	115	128	259	484
インドネシア	87	126	200	387	350
フィリピン	227	114	158	900	228
ベトナム	308	290	61	894	221
C 欧米豪	1,256	1,275	1,846	4,426	3,726
欧州	626	456	518	1,884	1,185
英国	246	166	189	462	257
フランス	182	159	129	563	345
ドイツ	117	42	59	209	257
イタリア	44	44	65	87	142
スペイン	8	23	44	503	47
ロシア	28	24	33	60	137
北米	509	380	906	1,836	1,554
米国	359	270	646	1,392	1,336
カナダ	149	110	260	444	218
オセアニア	121	439	421	706	987
豪州	121	439	421	706	987
D その他	207	698	620	959	1,262
インド	57	22	67	314	171
その他	150	675	553	645	1,091

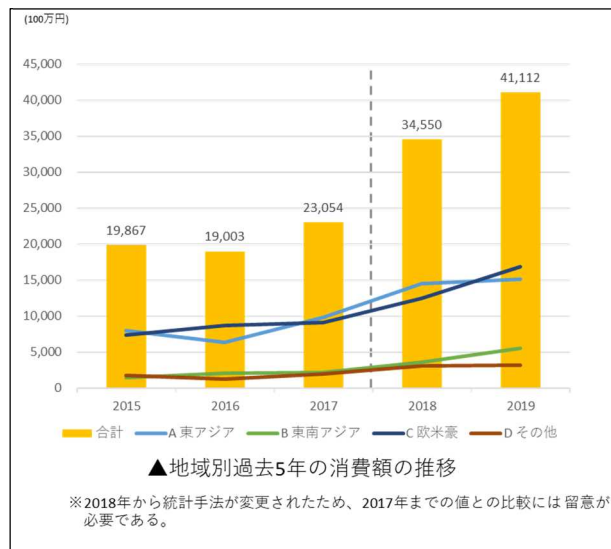
⑪長野県

【消費額全体】

- 2019年の長野県の消費額全体は約411億円となった。エリアで最も消費額が大きいエリアは欧米豪の約168億円であった。

【国籍別消費額】

- 2019年の国籍別の消費額が最も大きい国は豪州の約83億、次いで台湾の約53億円。



▼国籍別の消費額の推移 (2015年－2019年)

(単位: 100万円)

	2015	2016	2017	2018	2019
一人当たりの消費単価(円)	31,102	28,055	28,545	41,332	45,157
合計値	19,867	19,003	23,054	34,550	41,112
A 東アジア	7,965	6,306	9,793	14,544	15,162
韓国	731	531	687	1,353	977
中国	1,741	1,774	2,247	4,816	5,204
台湾	4,439	3,227	4,657	5,302	5,338
香港	1,053	773	2,201	3,074	3,642
B 東南アジア	1,456	2,023	2,160	3,579	5,512
タイ	601	580	755	1,147	2,292
シンガポール	241	433	211	596	1,071
マレーシア	275	158	450	76	343
インドネシア	165	409	128	740	350
フィリピン	106	55	125	429	581
ベトナム	68	389	491	592	874
C 欧米豪	7,324	8,711	9,094	12,487	16,820
欧州	1,561	1,212	1,600	1,917	4,579
英国	864	619	545	833	3,184
フランス	172	233	273	387	303
ドイツ	72	142	286	467	517
イタリア	40	29	160	48	427
スペイン	394	114	213	101	66
ロシア	18	75	123	80	82
北米	1,673	1,615	2,654	2,805	3,945
米国	1,160	1,306	1,776	1,740	2,304
カナダ	513	309	878	1,065	1,641
オセアニア	4,090	5,884	4,841	7,765	8,296
豪州	4,090	5,884	4,841	7,765	8,296
D その他	1,707	1,290	1,967	3,032	3,226
インド	37	48	25	133	40
その他	1,670	1,242	1,942	2,899	3,186

2-5-3 都県別の宿泊客数

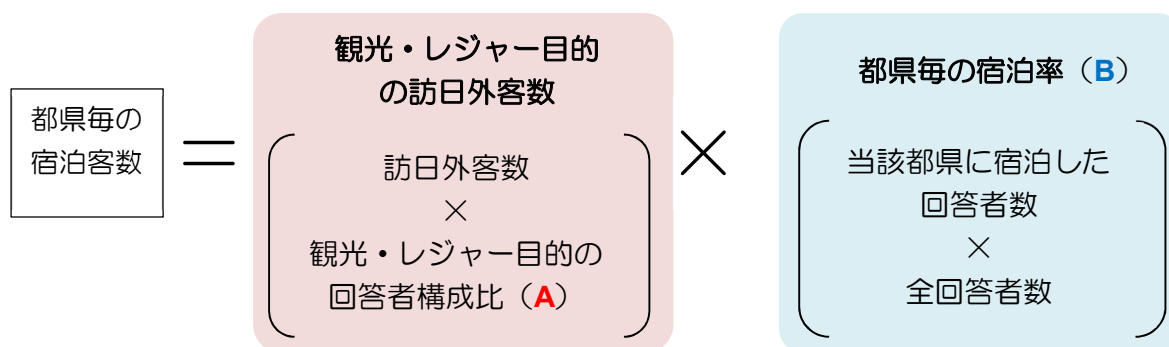
(1) 対象データ

①出典

『訪日外客数』（2015 年～2019 年）

『訪日外国人消費動向調査』（2015 年～2019 年）

②算出方法



※算出方法は 2017 年以前と 2018 年以降で異なります。

・2018 年～

A 観光・レジャー目的の回答者構成比（「訪日外国人消費動向調査」より）

- ・訪日外国人旅行者消費動向調査の地域調査（調査 B1）の回答者数を使用
- ・観光・レジャー目的の回答者数を全回答者数で除して算出

（観光・レジャー目的／全回答者数）

- ・例：2019 年調査 観光・レジャー目的構成比

全回答数（全サンプル数）の参照先

「表 6-1 国籍・地域（21 区分）別 都道府県別訪問率」

⇒全国籍・地域の回答数（107,549）を参照

観光・レジャー目的の参照先

「参考 8 国籍・地域（21 区分）別 都道府県別訪問率 【観光・レジャー目的】」

⇒全国籍・地域の回答者数（83,669）を参照

B 都県別宿泊者率（観光・レジャー目的）の算出

- ・訪日外国人旅行者消費動向調査の地域調査（調査 B1）の回答者数を使用
- ・観光・レジャー目的の各都県の回答者数を全回答者数で除して算出

（都道府県ごとの観光・レジャー目的の宿泊回答者数／観光・レジャー目的の全回答者数）

- ・例：2019 年調査（栃木県の例）

観光・レジャー目的の全回答数の参照先

「参考 8 国籍・地域（21 区分）別 都道府県別訪問率 【観光・レジャー目的】」

⇒全回答数（83,669）を参照

都道府県ごとの観光・レジャー目的の宿泊回答者数の参照先

「参考 15 訪問地（都道府県 47 区分および地方運輸局等 10 区分）別 平均泊数 【観光・レジャー目的】」

⇒栃木県の回答者数（967）を参照

・～2017 年（「訪日外国人消費動向調査」）

A 観光・レジャー目的の回答者構成比（「訪日外国人消費動向調査」より）

- ・『訪日外国人旅行者消費動向調査』の調査結果の回答者数を使用
- ・観光・レジャー目的の回答者数を全回答者数で除して算出
(観光・レジャー目的／全回答者数)

・例：2017 年調査

全回答者数、観光・レジャー目的の参照先

「第 1 表 国籍・地域（21 区分）別 回答者属性および旅行内容」

⇒全体の回答者数（40,213）を参照

⇒主な来訪目的の観光・レジャー回答者数（29,092）を参照

B 都県別宿泊者率（観光・レジャー目的）の算出

- ・『訪日外国人旅行者消費動向調査』の平均泊数の回答者数を使用
- ・観光・レジャー目的の当該都道府県ごとの回答数を全回答数で除して算出
(都道府県ごとの観光・レジャー目的の宿泊回答者数／観光・レジャー目的の全回答者数)

・例：2017 年調査（栃木県を例）

観光・レジャー目的の全回答数の参照先

「第 1 表 国籍・地域（21 区分）別 回答者属性および旅行内容」

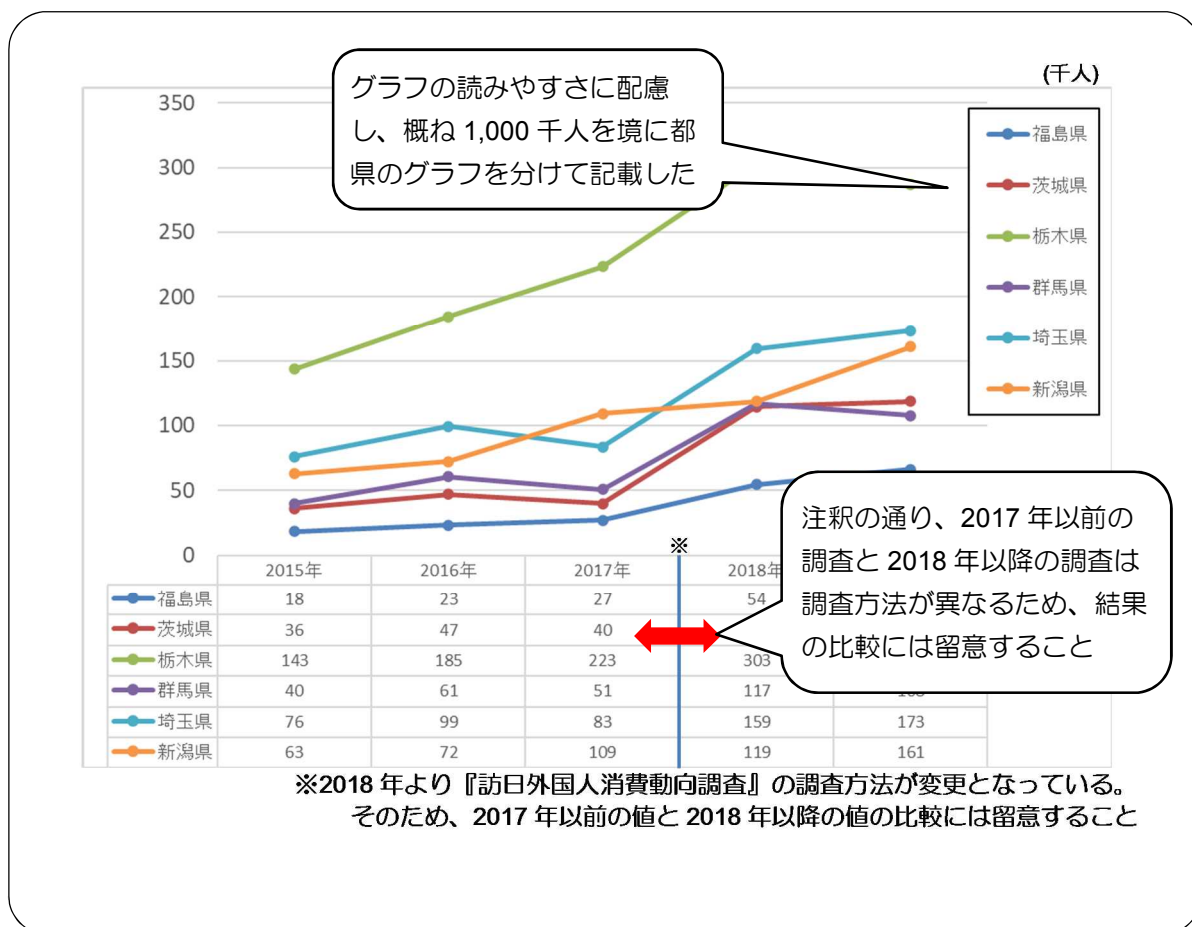
⇒主な来訪目的が観光・レジャー回答者数（29,092）を参照

都道府県ごとの観光・レジャー目的宿泊回答者数の参照先

「第 10 表 訪問地（都道府県 47 区分および地方運輸局等 10 区分）別 平均泊数」

⇒栃木県の観光・レジャー目的回答数（313）

③集計結果の図表について



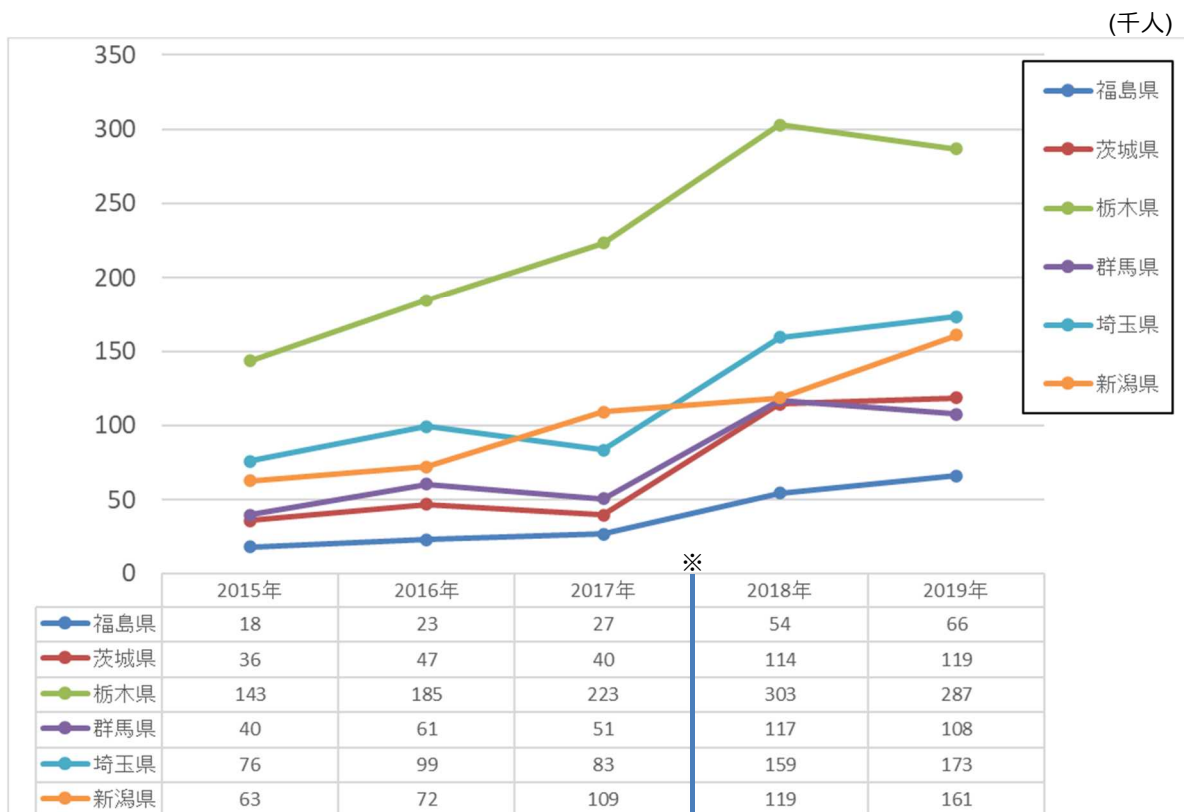
(2) 集計結果

2019 年の全体傾向では、韓国の旅行者は 2019 年 7 月以降に航空便の運休・減便等による影響などがあったものの、埼玉県、東京都、神奈川県などラグビーW 杯の開催地となった都県などで前年よりも増加となった。

以下、2019 年基準で便宜上グラフが見やすくなるようグループを分けて記載した。

①福島県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・新潟県

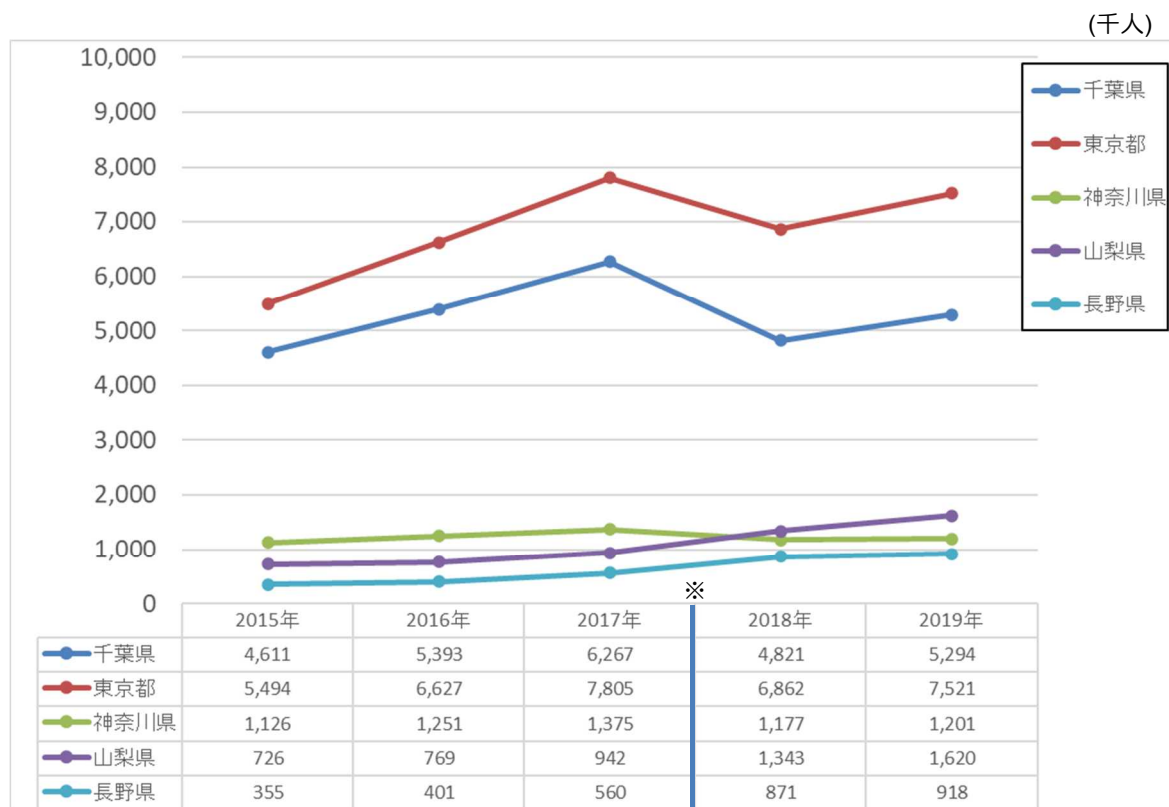
- 2015 年から 5 年間の各 1 都 10 県の宿泊者数は、概ね増加の傾向が続く
- 2019 年の福島県・新潟県は 2018 年よりも 1 割超の増加となった
- 2019 年の茨城県・栃木県・群馬県の宿泊者数は 2018 年から微減となった



※2018 年より『訪日外国人消費動向調査』の調査方法が変更となっている。
そのため、2017 年以前の値と 2018 年以降の値の比較には留意すること

②千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県

- 2015 年から 5 年間の各 1 都 10 県の宿泊者数は、概ね増加の傾向が続く
- 2019 年の山梨県は 2018 年よりも 1 割超の増加となった
- 2019 年の長野県は 2018 年から横ばいとなった



※2018 年より『訪日外国人消費動向調査』の調査方法が変更となっている。
そのため、2017 年以前の値と 2018 年以降の値の比較には留意すること

3. まとめ

(1) 実施結果

- ・調査を通じて、関東広域を訪問する訪日外国人旅行者が利用した移動手段は、主に鉄道が選択されていたことや、各都県で状況が異なる訪日外国人の特性等について、数値を用いて定量的に示すことができた。特に、FF-Data を使った集計では、空港を目的地とした移動と都県を目的地とした移動に分けて集計したことにより、通過客を除いた観光訪問が期待できる訪問客の規模を把握することができた。

(2) 本事業成果の活用

- ・各 DMO とともに自エリアの訪問者数や消費額などの指標の動きは、定点で扱ってきたと考えられる。しかし、他エリアとの比較を持って、自エリアの指標を考察する機会は多くないと推察される。
- ・資金面で課題を抱えている DMO が少なくない現在、マーケティングの実施が困難な団体も少なくないと考えられる。本事業では、既存のオープンデータの活用で、一定の分析ができることを示しており、エリア内の各 DMO が定量的なマーケティングを考えるきっかけとなることが期待される。
- ・具体的な周知として、本事業では、他事業で開催された DMO 意見交換会分科会と連携し、随時集計結果を共有した。その後報告書を公表することによって各地域が現状とその課題について認識することにつなげるきっかけをつくることができた。

(3) 今後の課題

- ・本事業では、関東広域内の各都県について注目をしたが、関東広域エリア全体の推移が他の広域エリアと比べてどのような傾向となっているか、エリア間の比較も、当該エリアのマーケティングを行う上で重要と考えられる。
- ・例えば、新型コロナウイルス感染症拡大以前は、堅調に推移をしてきた訪日外国人旅行者数であったが、特に国内のどの地域への訪問が多かったのかなど、関東広域内での値の増減が持つ意味を国内全体の視点から比較し精査していくことが求められる。
- ・関東広域エリアでの自エリアの状況を把握する指標を決め、指標を定期的に把握する体制（マーケティングの体制）を構築することで、将来的なインバウンド市場の再開に向けた自エリアの現状と今後伸ばしていきたい（維持したい）ターゲットなど明確にし、効率かつ効果的に必要な事業および事業を実施する態勢を支えていくことが重要と考える。

4. 資料編

4-1 FF-DATA の集計について

(1) 都県間流動表の集計

本編該当項目 2-1

【例：千葉県（県＋空港）】

条件：国籍ごとに隣県および東京都から千葉県・成田空港を訪問する旅行者数を集計する。

国籍(9区分)別入国空海港(35区分)都道府県(51区分)出国空海港(35区分)間流動総数													
2019年													
機関	全機関												
国籍	韓国												
(千人/年)													
出発地	到着地					出国空海港			③	①+③	②+③		
	8 茨城	11 埼玉	12 千葉	13 東京	14 神奈川	101 成田(空港)	110 茨城(空港)	111 羽田(空港)				合計	合計(内々含む)
8 茨城	1.4	0.6	3.9	12.0	0.8								
11 埼玉	0.4	3.1	0.8	2.1	18.4								
12 千葉	0.9	2.3	8.5	46.5	5.3	97.5	0.4						
13 東京	3.4	13.0	71.4	336.8		702.2	5.2						
14 神奈川	1.2	1.8	5.2	39.4		2.3	0.7						
101 成田(空港)	10.2	19.2	73.4	740.2	41.3					921.2	921.2		
110 茨城(空港)	1.2			2.8						4.4	4.4		
111 羽田(空港)	1.0	7.9	12.0	365.7						4.4	4.4		
												467.3	
全国籍全機関 1韓国 2台湾 3香港 4中国 5ASEAN 6ヨーロッパ 7北アメリカ 8オセアニア 9その他													

1 出発地側にある隣県および空港の行に

2 到着地の千葉県の列の該当行の値を参照
(本事業では、成田空港→千葉県は同一県内移動なので集計対象外とした)

3 到着地の空港の列の該当行の値を参照

4 シートの国籍ごとに①～③の手順を行う

【例：栃木県（県のみ）】

条件：隣県および東京都から栃木県を訪問する訪日外国人旅行者数を集計する。

国籍(9区分)別入国空海港(35区分)都道府県(51区分)出国空海港(35区分)間流動総数													
2019年													
機関	全機関												
国籍	全国籍												
(千人/年)													
出発地	到着地					出国空海港			③	①+③	②+③		
	7 福島	8 茨城	9 栃木	10 群馬	11 埼玉	13 東京	110 茨城(空港)	111 羽田(空港)				合計	合計(内々含む)
8 茨城	0.1	1.4	0.5			3.9	0.8	1.5	14.4	19.9	21.3		
9 栃木			3.0			3.3	0.3	3.2	10.1	16.1	19.1		
10 群馬			0.3	1.1					5.7	13.1	14.1		
11 埼玉		0.4	0.9	0					2	47.2	50.3		
13 東京	0.7	3.4	4.1	4					5	1,305.2	1,642.0		
110 茨城(空港)		1.2	0.3							4.4	4.4		
111 羽田(空港)	1.3	1.0	2.9	1						467.3	467.3		
⑥ 入国空海港計	3.3	13.1	8.8	6.6						5,917.3	5,917.3		
④+⑥ 合計(内々除く)	5.4	19.9	16.1	13.1	47.2	1,305.2	7.5	463.3	5,917.3	14,806.7	-		
⑤+⑥ 合計(内々含む)	5.4	21.3	19.1	14.1	50.3	1,642.0	7.5	463.3	5,917.3	-	18,339.4		
全国籍全機関 1韓国 2台湾 3香港 4中国 5ASEAN 6ヨーロッパ 7北アメリカ 8オセアニア 9その他													

1 出発地側にある隣県および空港の行に注目

2 到着地の栃木県の列の該当行の値を参照

本編該当項目 2-3、2-4

国籍別・都道府県別の四半期別入込客数を例に説明

- ・公表用データベースのファイルを開くと下表が表示されます。

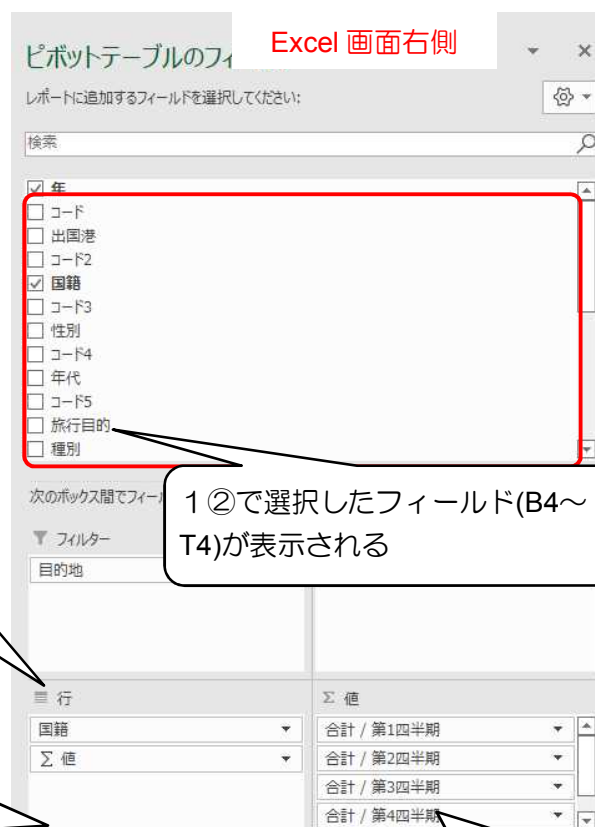
2019年															
出国港		国籍	性別	年代	旅行目的	出発地	目的地		交通機関	訪日外国人活動量(人)					
コード	出国港	コード	性別	年代	種別	コード	種別	コード	交通機関	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年間	
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	4 宮城	03 出国港	101 成田空港	0 全機関		307		30
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	5 秋田	01 訪港間	13 東京	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	8 茨城	03 出国港	101 成田空港	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	9 栃木	01 訪港間	13 東京	0 全機関		211		21
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	10 群馬	01 訪港間	12 千葉	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	11 埼玉	01 訪港間	11 埼玉	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	11 埼玉	01 訪港間	13 東京	0 全機関		211		47
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	11 埼玉	03 出国港	101 成田空港	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	12 千葉	01 訪港間	11 埼玉	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	12 千葉	01 訪港間	12 千葉	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	12 千葉	01 訪港間	13 東京	0 全機関	1299		211	151
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	12 千葉	03 出国港	101 成田空港	0 全機関	2079		1266	334
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	13 東京	01 訪港間	4 宮城	0 全機関		307		30
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	13 東京	01 訪港間	8 茨城	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	13 東京	01 訪港間	9 栃木	0 全機関		211		21
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	13 東京	01 訪港間	10 群馬	0 全機関	260			26
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	13 東京	01 訪港間	12 千葉	0 全機関	2658		1055	391
101	成田空港	1	男性	10	19歳以下	1 観光・レジャー	01 訪港間	13 東京	01 訪港間	13 東京	0 全機関	6237		3797	722

※複数年を集計したい場合

- 1 データ入力がある最終行の下に他
年の値を追加する
- 2 最左列などに1列追加し、各行に
対応する年を入力

③ピボットテーブルの設定

- 新たにシートが追加されます。
- Excel の画面右側に「ピボットテーブルのフィールド」が表示されます。
- 各フィールドを、フィルターや列・行・値に組み合わせることで集計を行います。
- 以下、栃木県の四半期別入込客数の算出を例に説明します。



Excel 画面左側

目的地	列ラベル	2019年	
アフリカ	合計 / 第1四半期	9944	9944
	合計 / 第2四半期	1068	1068
	合計 / 第3四半期	2222	2222
	合計 / 第4四半期	429	429
イタリア	合計 / 第1四半期	538	538
	合計 / 第2四半期	3170	3170
	合計 / 第3四半期	1845	1845
	合計 / 第4四半期	875	875
インド	合計 / 第1四半期	1279	1279
	合計 / 第2四半期	1708	1708
	合計 / 第3四半期	1222	1222
	合計 / 第4四半期	1022	1022
インドネシア			

5 目的地をクリックし、「栃木県」を選択します（これにより、下表に栃木県の値だけが表示）